工学部
学生要覧

TOKYO DENKI UNIVERSITY CATALOG

2014

TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

2014年度　年間行事予定

前期　行事予定

	日	月	火	水	木	金	土	予定
4月			1	2	3	4	5 ①	1 オリエンテーション 2 入学式 3〜4 オリエンテーション 5 授業開始
	6	7 ①	8 ①	9 ①	10 ①	11 ①	12 ②	
	13	14 ②	15 ②	16 ②	17 ②	18 ②	19 ③	
	20	21 ③	22 ③	23 ③	24 ③	25 ③	26 ④	
	27	28 ④	29 ④	30 ④				29 昭和の日【授業実施日】
5月					1 休校	2 休校	3	1〜2 休校日（4/29、7/21分） 3 憲法記念日 4 みどりの日 5 こどもの日 6 こどもの日振替休日 7 休校日（9/15分）
	4	5	6	7 休校	8 ④	9 ④	10 ⑤	
	11	12 ⑤	13 ⑤	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑤	17 ⑥	
	18	19 ⑥	20 ⑥	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24 ⑦	
	25	26 ⑦	27 ⑦	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31 ⑧	
6月	1	2 ⑧	3 ⑧	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7 ⑨	
	8	9 ⑨	10 ⑨	11 ⑨	12 ⑨	13 ⑨	14 ⑩	
	15	16 ⑩	17 ⑩	18 ⑩	19 ⑩	20 ⑩	21 ⑪	
	22	23 ⑪	24 ⑪	25 ⑪	26 ⑪	27 ⑪	28 ⑫	
	29	30 ⑫						
7月			1 ⑫	2 ⑫	3 ⑫	4 ⑫	5 ⑬	
	6	7 ⑬	8 ⑬	9 ⑬	10 ⑬	11 ⑬	12 ⑭	
	13	14 ⑭	15 ⑭	16 ⑭	17 ⑭	18 ⑭	19 ⑮	
	20	21 ⑮	22 ⑮	23 ⑮	24 ⑮	25 ⑮	26 ⑯	21 海の日【授業実施日】 26 特定科目考査日（午前中）
	27	28 ⑯	29 ⑯	30 ⑯	31 ⑯			
8月						1 ⑯	2	1 5限以降教室変更（OC準備） 2〜3 オープンキャンパス 4 特定科目考査日 5〜9/9 夏季休業
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

カレンダーの見方

授業を行わない日

授業を行う日（祝日・休日などでも授業を行う）

① など 各曜日ごとの授業回数

※ 長期休業期間は、集中講義・補講などを実施する場合があります。

※ 予定のため変更の可能性があります。変更の場合は事前に掲示にて周知します。

※ 各学期とも授業は原則最低15回行います。

後期　行事予定

	日	月	火	水	木	金	土	予定
9月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10 休校	11 休校	12 ①	13 ①	10 授業開始（休校日（9/23分）） 11 創立記念日
	14	15 ①	16 ①	17 ①	18 ①	19 ②	20 ②	15 敬老の日【授業実施日】
	21	22 ②	23 ②	24 ②	25 ②	26 ③	27 ③	23 秋分の日【授業実施日】
	28	29 ③	30 ③					
10月				1 ③	2 ③	3 ④	4 ④	
	5	6 ④	7 ④	8 ④	9 ④	10 ⑤	11 ⑤	
	12	13 ⑤	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑤	17 ⑥	18 ⑥	13 体育の日【授業実施日】
	19	20 ⑥	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24 ⑦	25 ⑦	
	26	27 ⑦	28 ⑦	29 休校	30 休校	31		29〜30 休校日（10/13、11/24分） 31〜11/4 旭祭（学園祭）による休講
11月							1	
	2	3	4	5 ⑦	6 ⑦	7 ⑧	8 ⑧	2〜3 旭祭（学園祭） 3 文化の日
	9	10 ⑧	11 ⑧	12 ⑧	13 ⑧	14 ⑨	15 ⑨	
	16	17 ⑨	18 ⑨	19 ⑨	20 ⑨	21 ⑩	22 ⑩	
	23	24 ⑩	25 ⑩	26 ⑩	27 ⑩	28 ⑪	29 ⑪	23 勤労感謝の日 24 勤労感謝の日の振替休日【授業実施日】
	30							
12月		1 ⑪	2 ⑪	3 ⑪	4 ⑪	5 ⑫	6 ⑫	
	7	8 ⑫	9 ⑫	10 ⑫	11 ⑫	12 ⑬	13 ⑬	
	14	15 ⑬	16 ⑬	17 ⑬	18 ⑬	19 ⑭	20 ⑭	
	21	22 ⑭	23	24	25	26	27	22 年内授業終了日 23 天皇誕生日 24〜1/6 冬季休業
	28	29	30	31				
2015 1月					1	2	3	
	4	5	6	7 ⑭	8 ⑭	9 ⑮	10 ⑮	7 授業再開
	11	12	13 ⑭	14 ⑮	15 ⑮	16	17	12 成人の日 16〜18 大学入試センター試験2号館立入禁止
	18	19 ⑮	20 ⑮	21 ⑯	22 ⑯	23 ⑯	24 ⑯	
	25	26 ⑯	27 ⑯	28	29	30	31	28〜30 特定科目考査日 31〜 春季休業
2月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	11 建国記念日
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	28 進級/卒業発表
3月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	18 卒業式 21 春分の日
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

UNIVERSITY CATALOG

学生要覧　2014

【(公財)大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について】

認証評価制度は、2002（平成 14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間（7 年以内）ごとに文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成 16）年に導入されました。

本学は、2009（平成 21）年度に(公財)大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2010（平成 22）年 4 月 1 日～ 2017（平成 29）年 3 月 31 日）されました。

また、2013（平成 25）年 5 月には、本学の教育・研究の現状について、産業界を含む外部者委員による客観的な視点による「外部評価」を受審し、好評価を得られました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

東京電機大学

ＴＤＵプライバシーポリシー
学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集
   個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。
2. 個人情報の利用
   個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。
3. 個人情報の提供
   個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。
4. 個人情報の管理
   個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。
5. 個人情報に関する請求への対応
   個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。
6. 個人情報保護の推進等
   個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

東京電機大学工学部･未来科学部事務部及び学生支援センター
セキュリティポリシー

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センターでは、業務を滞りなく遂行する上で、収集及び知り得る「個人情報」（氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができる情報）について、情報基盤の整備、管理、活用することの責務を認識し、厳重な管理体制のもとで情報資産の管理、保管を行い、情報の機密性、安全性を維持することにより、「個人情報」保護の促進に努めます。

また、本来の目的以外で「個人情報」を第三者等に漏洩することのないよう、「東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター個人情報保護に関するガイドライン」を遵守し、合理的な範囲内でセキュリティの強化に務めます。

以上

個人情報の取り扱い

入学時及び在学中を通じて収集した個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」および「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

⑴ 入学式、卒業式など、本学が主催する行事のため。
⑵ 正課授業および正課外活動のため。
⑶ 学籍（進級・休学・退学・授与）、奨学金業務（申請・受給）、各種証明書発行など、本学における教育・研究活動のため。
⑷ 学生の健康管理、大学祭等の学内行事、クラブその他学生組織の指導・連絡などの学生指導を行うため。
⑸ 学生に対するキャリア・就職支援業務、インターンシップ支援業務、各種施設利用など、本学組織や本学施設の運営業務を行うため。
⑹ 教育・研究のために業務上必要な書類の郵送、電話・メールなどでの連絡のため。
⑺ 学費等の請求、入金処理、督促等に必要な業務を行うため。
⑻ 官公庁等の調査依頼に回答のため。
⑼ 学生本人および保証人に対して、本学ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および一般社団法人東京電機大学校友会から通知および連絡を行うため。
⑽ その他本学の教育・研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
⑾ その他法令に基づく場合。

学生要覧　目次

第１章 新入生の皆さんへ

1　知っておいて欲しいこと…… 3
1- 1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法…… 3
1- 2　学生証…… 4
1- 3　キャンパスへの入退館…… 6
1- 4　出席…… 6
1- 5　通学定期乗車券…… 7
1- 6　交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について…… 8
1- 7　呼出・連絡・照会について…… 9
1- 8　キャンパスルール…… 9
1- 9　トラブルから身を守るために……11
1-10　防犯について……14

第２章 学習活動について

1　授業科目について……17
2　授業について……19
3　履修計画・履修登録……22
4　学力考査……27
5　成績……30
6　進級と留年……32
7　卒業……34
8　前期末卒業……37
学生ポータルサイト「ＤＥＮＤＡＩ－ＵＮＩＰＡ」操作マニュアル ……39
教育目標と理念、履修モデル、授業科目配当表 ……75
共通教育科目 ……75
人間科学科目 ……78
英語科目 ……84
専門教育科目 ……87
電気電子工学科　電気電子システムコース ……87
電気電子工学科　電子光情報コース …… 105
環境化学科 …… 113
機械工学科　機械工学コース …… 121
機械工学科　先端機械コース …… 129
情報通信工学科 …… 137

第３章 資格について

卒業後取得できる主な資格・免許 …… 147
第一級陸上特殊無線技士・第三級海上特殊無線技士 …… 149
電気主任技術者 …… 151
電気工事士（第２種） …… 154
第一級・第二級陸上無線技術士 …… 155
電気通信主任技術者 …… 157

第４章 教職課程について

1　教職課程…… 163
1- 1　教職課程を履修するにあたって…… 163
1- 2　教職課程とは…… 163
1- 3　東京電機大学が養成する教師像について…… 164
1- 4　東京電機大学　教職課程　教員として求められる事項…… 164
1- 5　教職課程　履修カルテ…… 165
1- 6　教職履修カルテについて…… 167
1- 7　取得できる教育職員免許状の種類および教科…… 170
1- 8　教職課程履修手続から免許状交付まで（タイムスケジュール） …… 171
1- 9　履修案内…… 172
1-10　教職課程早わかり表…… 180
1-11　教職課程の履修手続…… 181
1-12　介護等体験の手続（中学校免許取得希望者のみ） …… 181
1-13　教育実習…… 181
1-14　教育職員免許状の申請・交付・証明…… 183
1-15　教職課程担当教員…… 184
介護等体験について …… 185

第 5 章 学生生活について

1　学籍…… 199
2　学費…… 200
3　転学部・転学科…… 201
4　既修得単位の認定…… 202
5　学生生活への助言・相談…… 203
6　留学・海外語学研修…… 204
7　学割証…… 206
8　自転車駐輪場…… 206
9　健康管理…… 207
10　奨学金制度…… 211
11　短期貸付金制度…… 215
12　下宿・貸間の紹介…… 215
13　課外活動…… 215
14　アルバイト…… 216
15　校友会…… 219
STOP!　HARASSMENT…… 221

第 6 章 各種施設について

1　東京千住キャンパス開館時間…… 227
2　厚生施設・運動施設…… 227
3　学生食堂と売店について…… 228
4　総合メディアセンター…… 228

第 7 章 就職・進学について

1　キャリア支援・就職…… 239
2　キャリア支援の主なスケジュール…… 242
3　大学院への進学…… 243
4　科目等履修生…… 244

第 8 章 学則および諸規程

1　東京電機大学学則…… 247
2　東京電機大学工学部規則…… 259
3　東京電機大学工学部第二部規則…… 263
4　東京電機大学工学部第二部社会人コース学生規程…… 266
5　試験に関する細則…… 268
6　学生生活についての規程…… 270
7　学生アドバイザーに関する規程…… 273
8　部室使用に関する内規…… 275
9　特別奨学生規程…… 277
10　東京電機大学学生救済奨学金貸与規程…… 278
11　東京電機大学学生支援奨学金貸与規程…… 280
12　東京電機大学科目等履修生規程…… 282

第 9 章 その他

1　東京電機大学校歌…… 287
2　東京電機大学学生歌…… 288
3　学園の沿革…… 289
4　組織図…… 293
5　教員一覧…… 295
6　事務取扱事項と取扱時間…… 308
7　主な書類の提出先と証明書の申込先…… 310

東京千住キャンパス案内

キャンパス案内 …… 315

東京電機大学の建学の精神

「実学尊重」

1907 年（明治 40 年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げた。

東京電機大学の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949 年（昭和 24 年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽保次郎（にわやすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げた。

東京電機大学の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

東京電機大学は、「実学尊重」を建学の精神に、「技術は人なり」を教育･研究理念に掲げ、「科学技術で社会に貢献する人材の育成」を使命としています。科学技術は、社会が直面している問題を工学的に応用し解決するための手法であり、グローバル化した現代社会の問題を解決するためには、幅広い分野の知識と技術を統合する必要があります。本学は、科学技術の専門知識を有するだけでなく、科学技術の進歩が社会に与える影響や、科学技術と人との関わり方について深く考察できる実践的科学技術者を養成します。

以上の考えに基づき、学位授与の要件は、本学に所定の期間在学し（※）、各学部の教育・研究理念及び人材養成の目的に沿って編成された講義、演習、実験、実習科目等から卒業に必要な単位を修得することとします。

※標準修業年限は 4 年。

東京電機大学の教育課程編成･実施の方針（カリキュラムポリシー）

東京電機大学は、建学の精神「実学尊重」にのっとって、社会の第一線で活躍できる科学技術者の養成を目指しています。そのため、講義ばかりでなく演習、実験、実習などを重視し、身近な科学技術に着目する機会を多く設け、学生が科学技術のおもしろさを体験しながら学問を修得できるように、教育を展開しています。また、講義、演習、実験に加えて、課題解決型学習（※）を取り入れ、解決方法論を身につける教育展開を図っています。

さらに、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、（1）専門科目、（2）急激に進化する科学技術に適応する能力を身につけるための基礎科目、（3）幅広く深い教養及び総合的な判断力と豊かな人間性を育むための一般教養科目、かつ（4）科学技術者としての倫理性を培うことを目的とした科目を数多く配当し、充実した教育課程を編成しています。

今日、大学進学率は上昇傾向にあり、高等教育のユニバーサル化が進み、さらに高等学校段階までの教育内容の変化等により、高校と大学との接続教育が必要になっています。そうした中、本学の教育課程においても、能力別教育を行い、向学心が旺盛な学生の能力を一層引き出すとともに、学力に不安がある学生には補習教育を行い、早期に基礎を固めるなど、多様化教育に対応しています。

以上の考えに基づき、各学部における教育課程を編成し、実施します。

※課題解決型学習：Problem-Based Learning 、Project-Based Learning（略称は「PBL」）

工学部の教育目的と教育目標

【教育目的】

工学部は、本学の建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、現代社会の基幹を構成し将来にわたって必要とされる科学技術分野において、安全で快適な社会の発展に貢献できる優秀な技術者を養成することを目的とする。

【教育目標】

工学部の教育目的を実現するため、学生に以下の知識・能力・姿勢を身に付けさせることを目標とする。

（1）工学に関する基礎知識と基礎技能

（2）「電気電子工学」「環境化学」「機械工学」「情報通信工学」の 4 分野のうち一つの分野についての、より進んだ専門知識と専門技能、およびそれらを活用して様々な課題解決ができる能力

（3）科学技術者として活躍するために必要な社会人としての基本的な素養やキャリア意識、および技術者として必要な倫理観

（4）常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢、および工学分野の技術者に必要なコミュニケーション力とプレゼンテーション力

【教育内容】

①高い専門性を有する科学技術者の育成のため、基礎から応用を学部で学修し、更に大学院修士課程へ連携するカリキュラムを編成し、充実させる。

②共通教育科目では、社会人としての基本的な素養、技術者としての視野を幅広く獲得できる教育課程編成とし、充実させる。

③実社会で活躍できるようにワークショップ科目や実験科目を充実させる。

④課題解決能力を高めることができるカリキュラムを編成し、充実させる。

⑤コミュニケーション・プレゼンテーション能力を修得することができるカリキュラムを編成し、充実させる。

【教育方法】

①基礎学力を確実に身に付けさせるため、少人数教育及び学習サポートセンターによる学習支援を充実・強化する。

②多様化する入学制度のなかで、本学部が担う使命に即応する入学生への対応するための導入教育を充実・強化する。

③応用力を養うための実験・演習・インターンシップ科目について教育方法の充実を図る。

④授業評価アンケートを実施し、授業方法の改善に努める

⑤ GPA（総合的成績評価）を使用することによって、さらに学生の学習意欲を向上させる仕組みを充実・強化する。

工学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【工学部】

本学部は、現代社会の基幹を成す科学技術分野において、過去から現代に至る「知」を継承し、さらに次世代に必要とされる新たな「知」と「技術」を創成し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる幅広い能力を培うことを目的とする。

すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる科学技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者を養成する。

工学部の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学部は、本学部に所定の期間在学し（※）、工学部の教育目標を達成するために開設した各学科の授業科目を履修して所定の単位を修得し、以下の知識、能力、姿勢を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。

（1）工学に関する基礎知識と基礎技能を修得していること。

（2）「電気電子工学」「環境化学」「機械工学」「情報通信工学」の４分野のうち、１つの分野について、より進んだ専門知識と専門技能を持ち、それらを活用してさまざまな課題解決ができること。

（3）科学技術者として活躍するために必要な、社会人としての基本的な素養やキャリア意識、及び技術者として必要な倫理観を身につけていること。

（4）常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持ち、工学分野の技術者に必要なコミュニケーション力とプレゼンテーション力を身につけていること。

※標準修業年限は４年。

工学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学部は、本学部の教育目標を達成するため、「手厚いサポートのある基礎教育」（安心教育）、「充実した実験、実習、ワークショップ」（実力教育）、さらに「幅広い専門科目と卒業研究」（飛躍教育）の３段階で教育課程を編成し、実施します。以下は、学年において特に配慮する方針です。

（1）低学年

低学年では、数学科目、物理科目、英語科目の習熟度別クラスで、基礎学力を固めます。また、厳選した「必修科目」と、工学への学習意欲をかき立てる導入科目を含む「選択科目」を通して、工学の基礎知識と基礎技能をしっかりと修得させます。さらに、社会人としての基本的な素養やキャリア意識、及び技術者として必要な倫理観を身につけさせます。

（2）全学年

全学年を通じて、工学の基礎知識と技能の関連性を重視し、講義で修得した知識の理解を深め、かつ基礎技能を体得できる「実験・実習」を用意します。また、技術者として実社会で活躍できるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を育むために、「ワークショップ」や「キャリア関連科目」等の参加型科目を充実させます。

（3）高学年

高学年では、「電気電子工学」「環境化学」「機械工学」「情報通信工学」の各分野で、現代的なニーズを意識した幅広い専門科目群を用意します。研究者である教授及び准教授との濃密なコミュニケーションを行う卒業研究では、その過程を通じて創造的学習活動を展開し、多分野で課題が解決できる技術者を養成します。また、大学院の先取り科目等も設置し、常に新しい知識と技術の獲得に努める積極的な姿勢を持つ技術者・研究者の養成を目指します。

次世代科学技術を担う皆さんへ

学長　古田　勝久

御入学おめでとうございます。大学を代表して皆様を歓迎します。

東京電機大学は、1907 年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が「技術で社会に貢献する人材を養成し、国を発展させること」を目指し神田に創立した電機学校が母体で、社会が必要とした学問である「実学」を尊重することを建学の精神とされました。東京電機大学は、この学園の使命と建学の精神を受け継ぎ、さらに初代学長の丹羽保次郎先生の名言である「技術は人なり」を教育･研究の理念としています。そして現在、工学部、工学部第二部、未来科学部、理工学部、情報環境学部の 5 学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の 4 研究科（大学院修士課程）および先端科学技術研究科（博士課程（後期））を擁しています。2007 年には学園創立 100 周年を迎え、卒業生は 20 万人以上にのぼり、社会から高い評価を得てきました。

さて、現代は、政治、経済、産業のすべての分野において、科学技術の知識なしには正しい決定の出来ない時代であり、知識自体が価値を持ち、価値を生み出す「知識基盤社会」と言われております。すなわち、科学技術そのものが、現代の「実学」であります。東京電機大学は、この社会を支える科学技術者の養成と、科学技術の知識を生み出す重要な役割を果たしてきました。

これから皆さんは、科学技術の基盤と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献してくださることを期待しております。将来、最新知識と技術を駆使するためには、まず数学のような基礎の勉強を重視してください。大学時代は人生で一番効率良く、新しい知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。科学技術者として社会で活躍するために、自分の専門に関する知識を学ぶと共に、それを応用する能力も身につけてください。専門以外の、いろいろ関連分野にも興味を持ってください。現在社会は、環境、資源、エネルギー等のように、広い分野の知識と技術を統合しなければ解決されない問題に直面しております。

ほとんどの企業が、研究、開発、生産、販売を一つの国の中で行うことがまれになり、国際的に活動する時代となり、科学技術者にも国際的なコミュニケーション能力が要求されるようになっています。科学技術の教育も国際的になっています。専門はもちろんですが、社会では外国語の知識が必要なこともしっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本さらには人類の未来を創ります。将来国際的な技術者として活躍できるように、大学生活を有意義なものにしてください。

工学部で学ぶ皆さんへ

工学部長　藤田　聡

期待に胸を膨らませて本学に入学された新入生の皆さんに心よりお祝いの気持ちを伝えたく思います。おめでとうございます。

私が大学生であったのは 30 年余も前の事ですが、この時期の「桜の花の色」と「春の幸せな空気の匂い」、そしてこれから始まる新生活に向けて社会全体が動き出す「わくわくとした雰囲気」だけは未だに昨日の事のように覚えています。思い返せば、あの時代は幸せな時代でした。二度のオイルショックも終わり、薔薇色の高度成長を社会が享受している頃で、「努力」が「とにかくやる事」と「成果」が「やれば出てくる」と同義な意味として理解できる、とても素直な時代であったわけです。それに比べて皆さんは大変な時代に学生生活を送る訳です。

過去において我が国の目標で、現在はライバルである欧米だけではなく、新興国においても技術開発の新たな形態が盛んに生まれており、我が国の工業は大きな構造的変革を迫られています。今後も日本の優位性を維持していくためには、皆さんは今までにも増して「何か新たな価値を創成する能力」を鍛錬していかなくてはならず、社会もそれを求める時代だと思って間違いありません。つまり、基礎をしっかりと学び、その上で人と違った新しい物を「デザイン」していく能力を育んでください。

2020 年の東京オリンピック開催等の明るいニュースもあるのですが、昨今の社会構造変化に伴う年金問題や国際情勢などといった社会不安や、近い将来発生が予想される首都直下型地震や東海・東南海・南海 3 連動地震などの大規模災害、そして深刻な状況を呈している大気汚染問題・・・、実はあまり明るい話題は無く、辛い未来が待っているのではないかと不安な気持ちになりがちなのではないかと思います。こういう先の見えない時代は、地に脚をつけて、素直な気持ちを大切にして、自分の目標をしっかりと見つけていかないと暮らしていきにくい社会環境だと思います。

「日本は工業生産を糧にして生きている国です」。

こんな素直な考え方をするのがこの複雑怪奇な社会を生き抜くのに一番であると思いますし、それを信じて私は生きています。狭い国土、零に等しい資源、自給できない農業生産…、皆さんは「工学部で学ぶ」というとても良い選択をしたのだと思います。胸を張って学生生活を送ってください。

「工学」は最終的には科学技術を駆使して「物」を創り出し、これが人びとの生活を安全で快適な物へと導くものであると信じます。身の回りを眺めてみてください。自分一人で、ゼロから創り出せる物が何かありますか？ボールペンでも鉛筆でも消しゴムでも、当たり前のように使っている物でさえ、何一つ自分一人でゼロから創り出せる物なんてないのです。次に認識すべき点は、自動車や半導体や航空機はどこかの誰かが作っているのではなく、これは先輩達の努力の成果であり、これからは皆さん達がこれに続いていく事なのだと思います。既に一歩は踏み出されたのです。技術で解決できる問題は皆で解決していきましょう。

4 月、新学年の始まるこの季節に気持ちも新たに、皆で頑張りましょう。

第１章

新入生の皆さんへ

1　知っておいて欲しいこと

1-1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法

みなさんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））で「掲示」します。「掲示」とは、UNIPA に届くメッセージのことです。本文中に記載されている「掲示」とは、主に UNIPA での通知・連絡を指します。

大学は、高校などとは異なりホームルームがありません。学生生活に必要な情報の取得、履修登録、スケジュール管理等は全て自身で行う必要があります。

授業の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回 UNIPA を確認し、見落としや手続き漏れが生じないよう注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPA に関しては、第 2 章で詳しく案内していますので確認してください。



UNIPA 画面

1-2　学生証

(1) 学生証の携帯

学生証は、みなさんが本学の学生であることを証明するものです。学生証は常に携帯し、学内では専用ストラップ付ケースに入れて首から提げて下さい。また、盗難や悪用などされないよう大切に扱ってください。学生証は、東京千住キャンパス内のセキュリティゲートの通過や、授業の出席、発行機での各種証明書発行、図書館での本の貸し出しの際などに必要です。特に、学力考査等を受ける際には必要ですので、注意してください。登校に際し学生証を忘れてないか確認する習慣を身につけてください。

万一、学生証を忘れて登校してしまった場合は 2 号館 1 階受付で学生証忘れカード発行手続きが必要となります。学生証忘れが頻繁に続く場合、何らかの措置をとる場合があります。

学生証の取扱いは、2 号館 3 階学生支援センター（学生厚生担当）で行っています。

(2) 学生証の交付と年度更新

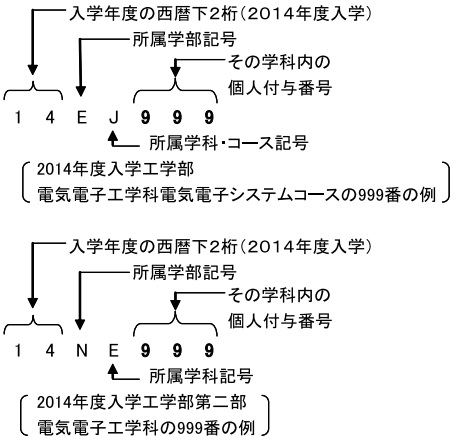
新入生　：　4 月 1 日のオリエンテーションにて交付。

在学生　：　毎年 4 月に学生証の年度更新（裏面シールの交換）を実施致しますので、定められた期間内に必ず学生支援センター（学生厚生担当）にて手続きを行ってください。裏面シール配付時期については、UNIPA にてお知らせ致します。

(3) 学籍番号のしくみ

学生証に記載された 7 桁の数字・記号を学籍番号といいます。

学籍番号のしくみは次の通りです。



学部記号

工学部	E
工学部第二部	N
工学部第二部（2007年度以前の入学者）	K

学科記号

電気電子工学科 電気電子システムコース	J
電気電子工学科 電子光情報コース	H
電気電子工学科（2011年度以前の入学者）	E
環境化学科	S
機械工学科 機械工学コース	K
機械工学科 先端機械コース	F
機械工学科（2011年度以前の入学者）	M
情報通信工学科	C
電気電子工学科	E
機械工学科	M
情報通信工学科	C

(4) 学生証の紛失・汚損

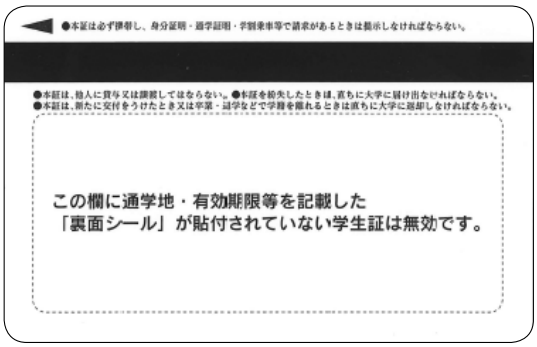
学生証を紛失・汚損した場合は、直ちに学生証再発行の手続きをとってください。

2 号館 3 階の証明書自動発行機で学生証再発行の申請書（2,000 円）を出力し、必要事項を記入の上、学生支援センター（学生厚生担当）へ提出してください。原則として、翌日に交付します。

なお、退学・除籍の場合は、学生証を直ちに返納してください。



〔表面〕



〔裏面〕

通学地	東京都足立区千住旭町5番　03-5284-5340(ダイヤルイン)					有効期限	
現住所						2015.3.31	
通学区間	～					東京電機大学	
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通用期間	発行駅	発行年月日	通用期間	発行駅	大学記載欄
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		

〔裏面シール〕

＊裏面シールが定期券購入時の通学証明書となります（年度毎に交換更新）

1-3　キャンパスへの入退館

東京千住キャンパスでは、地域にも開放されたオープンなキャンパスのため、不正入館者防止に努めています。また災害時などに在館者を確認するため、各号館にセキュリティゲートや入館者リーダーが設けられています。ゲート等通過時は、必ず学生証をかざして入館してください。学生証は専用のストラップに入れ（正規入館者の証として色と形が決まっています）。学内では常に首から提げて携帯してください。（実験時などの特定の場合を除きます）。

入館時・退館時のタッチが必要なセキュリティゲート（在館管理）


セキュリティゲート


ゲートタッチ面

1-4　出席

授業の出席確認は、教室の壁面に備え付けられているカードリーダーに、学生証をタッチして行います。出席タッチの前にセキュリティゲートや入退館リーダのタッチ記録が無いと不正入館としてエラーとなります。授業によっては、授業開始時ならびに授業中など複数回の出席記録を取る場合もあります。なお、カードリーダーの備え付けられていない部屋、授業担当教員の出席確認方法によっては、この限りではありませんので、教員の指示に従ってください。

授業に出席する際にタッチするカードリーダー（出席管理）


教室壁面のタッチ面

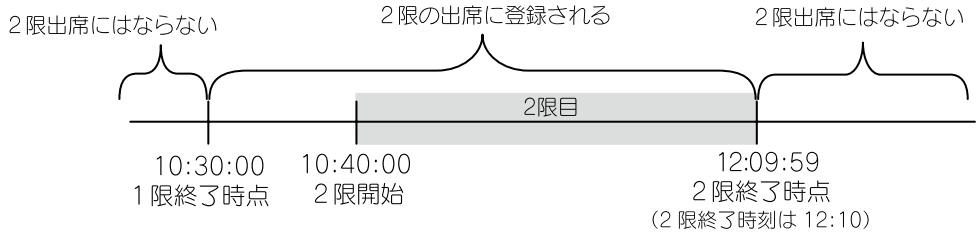
出席管理のためのカードリーダーは、教室内または外の壁面にあります。
優しくタッチするようにしてください。

（タッチの際の注意点）

・タッチする時間について

時限の開始 10 分前から時限終了前までにタッチした場合、その時限に出席したというデータとして認識されます。

＜例：2 限目の授業の場合＞



・正常に読み取れた場合のカードリーダー音について

音が短く聞こえる場合と長く聞こえる場合があります。
この現象はコントローラの負荷状況またはブザーの機械的な条件によるものですが、読み取りには問題ありません。

・正常な読み取り時とエラー時の違いについて

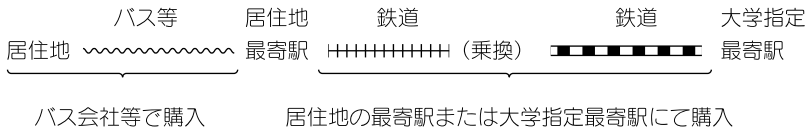
正常に読み取れた場合：OK 音→ピッ、ランプ→緑
エラー時：NG 音→ピーピーピー、ランプ→赤
端末のランプの点滅でも確認できますので、学生証タッチ時には音だけでなく、ランプでも確認するようにしてください。トラブルを避けるためにもご承知おきください。

1-5　通学定期乗車券

学生証の裏面シールに現住所・通学区間を必ず記載してください。

居住地の最寄駅、または大学指定最寄駅の「通学定期乗車券購入申込書」に記入し、学生証を提示して購入してください。

また、住所変更及び住居表示変更の場合は、学生支援センター（学生厚生担当）に変更届け（窓口に有り）を必ず提出してください。



＜参考：大学指定最寄駅＞

○　東京千住キャンパス　6 路線利用可能

●最寄駅　　北千住駅（電大口から徒歩 1 分）
　　Ｊ　Ｒ　　ＪＲ常磐線
　　地下鉄　　東京メトロ日比谷線
　　東京メトロ千代田線
　　東武スカイツリーライン（東武伊勢崎線 - 東京メトロ半蔵門線乗入）
　　つくばエクスプレス
　　京成本線　京成関屋駅（徒歩　7 分）

＊バスも同様ですが、バス会社によっては、学生証のほかに「学生通学証明書」を必要とする場合があります。
その場合には、学生支援センター（学生厚生担当）にて発行しますので申込みをしてください。

1-6　交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

（1）交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏ＪＲ各線および東京千住キャンパス最寄駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

1）午前 6 時において運休の場合は、第 1・2 時限目の授業は休講となります。
2）午前 9 時において運休の場合は、第 3・4・5 時限目の授業は休講となります。
3）午後 3 時において運休の場合は、第 6・7 時限目の授業は休講となります。

※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

（2）台風等による暴風警報が発令された場合

東京 23 区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

1）午前 6 時において暴風警報が発令されている場合は、第 1・2 時限目の授業は休講となります。
2）午前 9 時において暴風警報が発令されている場合は、第 3・4・5 時限目の授業は休講となります。
3）午後 3 時において暴風警報が発令されている場合は、第 6・7 時限目の授業は休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及びポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

（3）その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。

（4）上記の措置を行う場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自確認してください。

1-7　呼出・連絡・照会について

家族・知人などから大学へ電話等で、学生の呼び出しを依頼されることがありますが、呼び出しには応じていません。大学では学生の居場所については明確に把握しかねますので、あらかじめ承知しておいてください。

また、電話等による学生の住所、連絡先、成績などの問合せにも一切応じないことになっています。

1-8　キャンパスルール

●マナー向上について

近年、一般と公共の場所でのマナーについて、社会意識が高まっています。「マナー」とは社会の中で守るべき礼儀・作法であり、人間関係の基本的なつながりを作り上げるために必要なものです。皆さんは、社会の中で立派な大人として扱われる大学生です。

社会の一員としてのマナーを守り、東京電機大学ならびに地域住民の一員として、キャンパス内・キャンパス周辺において、お互いが気持ちよく生活できるよう、心がけてください。

東京千住キャンパスでは、定期的にクリーンプロジェクトを実施しています。皆さんも是非、参加してください。

(1) ゴミは分別してゴミ箱に捨ててください

学内には、可燃ゴミ、不燃ゴミ、かん･びん、ペットボトル、ペットキャップ、弁当ゴミ、カップ麺容器などのゴミ箱が設置されています。ゴミは放置しないで、分別を徹底し、環境への配慮と学内美化の推進に協力してください。

(2) 喫煙は指定場所で行い、吸殻は灰皿へ捨ててください

以下の指定の喫煙場所以外では禁煙です。灰皿の設置されていない場所や歩行中の喫煙は厳禁です。吸殻は必ず灰皿へ捨ててください。健康管理のうえでも喫煙は控えましょう。

なお、足立区の条例により、歩行喫煙（自転車等の運転中も含む）、禁煙特定区域内での喫煙、空き缶・紙くず・吸い殻などのごみのポイ捨ては、禁止行為と定められています。

【喫煙場所】　・1 号館 6 階喫煙室　　・1 号館 6 階ルーフガーデン喫煙スペース
・2 号館 5 階ルーフガーデン喫煙スペース　・2 号館 10 階喫煙スペース
・4 号館 2 階喫煙室

(3) 通学路の通行マナーを守ってください

・道路は複数人で広がって通行しないでください
・路上では大声で騒がないでください
・生活道路、住宅街の通り抜けはやめましょう

(4) 無届けの「掲示」「印刷物の配布」は禁止しています

学内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得ねばなりません。意見、主張などを書いたパンフレット、チラシなどを配布したい場合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に、学生支援センター（学生厚生担当）に届けてください。

また、そのような行為が、不審な団体によって行われているのを見かけた際は、学生支援センター（学生厚生担当）まで連絡してください。

(5) 良識をもって行動しましょう

・授業中の私語、居眠り
・授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用
・カンニング・レポートの丸写し
・大声を出して騒ぐ、落書き
・ゴミ、空カン、タバコの投げ捨て

これらの行動は、クラスメイトのみならず教職員に多大な迷惑をかけ、社会的マナーにも反することですので各々が自分の行動を振り返り、良識のある行動をとってください。

(6) 落し物・忘れ物には気を付けましょう

キャンパス内では落とし物の数が多いにもかかわらず、持ち主に引き取られるものは約半数に過ぎません。これらの落とし物は、学生支援センター（学生厚生担当）で保管していますので、気が付いたときは速やかに申し出てください。また、落とし物を拾ったときにも学生支援センター（学生厚生担当）に届け出てください。教科書など自分の持ち物に記名することを習慣づけ、物を大切にする気持ちを養ってください。

・持ち主が明らかな物　→　大学メールアドレス、携帯電話で本人に連絡
・持ち主不明の物　→　2 号館 3 階事務室内陳列棚で 1 ヶ月間保管後、2 ヶ月間別所で保管後、法に基づき処分。

1-9　トラブルから身を守るために

(1) 飲酒

大学生といえども未成年者は飲酒することができません。サークルやゼミ、友人達とお酒を飲む機会ができると思いますが、毎年、短時間での多量の飲酒（イッキ飲み等）により急性アルコール中毒になり、救急車で病院に運ばれるケースも発生しています。

急性アルコール中毒になると吐き気、言語障害などの症状をおこすだけでなく、意識喪失から死に至る場合もあります。

●未成年の飲酒・飲酒の強要について

未成年が飲酒すること・未成年に飲酒をすすめることはもちろん、それを看過することも重大な違法行為です。また、相手が未成年かどうかに拘らず、飲酒の強要はハラスメントであり、許されないことです。人それぞれ合った酒量とペースがあります。

●万が一、友人が酔いつぶれてしまった場合の介護方法は

- 絶対に一人にしない。
- 衣服を緩めて楽にする。
- 毛布などをかけて、体温の低下を防ぐ。
- 水分補給をする。
- 吐しゃ物による窒息死も多いので、寝ている場合は横向きのまま吐かせること。
- 体温が低い、呼吸が速くて浅い、時々しか呼吸をしないなどの症状の場合、救急車を呼ぶこと。

(2) ドラッグ

薬物を始めるきっかけは、繁華街で誘われて、あるいは友人に勧められてというものが多いようですが、一度くらいならと興味本位で始めると取り返しのつかないことになります。

薬物使用は、薬物依存、急性中毒、心身の後遺障害など、脳と心を蝕む大きな危険をはらんでいます。薬物乱用の害は半永久的に続き、治療を行っても完全には回復しません。大切な人生を棒に振ることのないよう、誘いはきっぱりと断りましょう。

また、麻薬等の違法薬物を使用することは、たとえ一回でも重大な犯罪です。本学は、学生が決して禁止薬物に関わることのないよう強く要請し、このような違法行為に対して厳罰をもって臨みます。

●持っているだけでも罰せられる主な薬物

大麻・MDMA・コカイン・覚せい剤・違法ドラッグ（※脱法ドラッグ）・アヘン・ヘロイン

※法律で所持や使用を禁止されていないが、犯罪に使用されたり、乱用による死亡事故を招くこともあり、その多くは薬事法等で製造、輸入、販売等が禁止されている。

(3) 金融ローン

「学生証だけで低利融資します」と言うこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりではなく、両親や身近かな友達にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などによく相談してください。

(4) インターネット

インターネット上のトラブルが増加し、大学への相談も増えています。誰もが巻き込まれる可能性がありますので、特に以下の点等に注意してください。

●被害者にならないために

個人情報の公開によるトラブル	個人情報の公開は思わぬトラブルを引き起こすことがあります。自分自身の情報であっても、むやみな公開は控えましょう。 実名や年齢、所属など、個人が特定できる情報を公開する場合には、ネット上の言動にいっそう注意してください。脅しや嫌がらせを受けた例があります。
有料サイトの利用	有料サイトは利用規約をよく確認し、料金体系を理解した上で利用してください。また、請求が来たら、支払い義務があるかどうかよく確認しましょう。
ワンクリック詐欺	ＨＰ上のリンクや画像等をクリックしただけで勝手に登録され、利用料金を請求されることがあります。 たとえ IP アドレス等が登録されても、そこから氏名や連絡先などの個人情報が判明することはありません。身に覚えのない請求は原則として無視してください。
フィッシング詐欺	実在のクレジット会社や銀行になりすまして案内メールを送り、暗証番号などを盗み出す手口です。メール本文中のリンクをクリックすると、フィッシングサイトに誘導される危険性があります。電話や公式ＨＰで確認しましょう。

●加害者にならないために

他人の権利侵害	他人の名誉を傷つけるような発言や他人の個人情報の公開は厳に慎んでください。また、自分の公開している情報が他人の著作権や肖像権、プライバシーを侵害していないか注意することも大切です。裁判に発展した例もあります。

(5) 悪徳商法

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、英会話学習用教材の割賦販売、換気扇のフィルター販売などでもトラブルが多発しています。これらは、「海外留学の特典がある」などの甘い誘いや、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額

の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、相手がどのような者かしっかり確認し、その内容について時間をおいて十分に検討したうえで判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

●クーリング・オフ制度

セールスマンの巧みな言葉に乗せられてうっかり契約してしまった時に、申し込みの撤回や契約の解除ができる制度です。

契約した日を含めて、訪問販売（キャッチセールスやアポイントメントセールスを含む）や電話勧誘販売の場合は 8 日以内、マルチ商法の場合は 20 日以内に、内容証明郵便や配達記録（ コピーをとっておくこと）で相手先に解約通知を出してください（当日消印有効）。

・マルチ（連鎖販売取引）商法

「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的、強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となりますので、こうした商法に関与しないよう充分注意してください。

・点検商法

「消防署から点検にきました」などと公的機関の職員の身分をかたり消火器などの商品を売りつける商法です。他に布団、換気扇フィルターなどの点検商法も多発しています。

・アポイントメント商法

「あなたが選ばれました」と言う電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。

・資格取得（士）商法

講座を受けるだけで「○○資格が取れます。」と言う手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。

（6）宗教団体の勧誘

いくつかの宗教団体に関するトラブルが大きな社会問題になっています。洗脳されてさまざまな活動をさせられたり、多額の献金を要求されたりするケースもありますので、貴重な学生生活を無にしないよう十分な注意が必要です。

大学構内で勧誘されたり、勧誘しているところを見かけたりしたときは、至急学生支援センター（学生厚生担当）に連絡してください。

●様々な勧誘方法

①スポーツやボランティアのサークルを装った勧誘

スポーツやボランティアのサークルと偽り、宗教団体であることを隠して勧誘した団体が宗教の話を始めたら要注意です。正当な宗教サークルは名前を詐称しません。

②平和を考える会や自己啓発セミナーを装った勧誘

真面目な会合を装い、勉強会と称してビデオなどで洗脳します。特に拘束時間が長いも

のには注意してください。

③街頭勧誘

「アンケートに答えてください」「手相の勉強をしています」等と誘い、高額な商品の購入をすすめ、団体に引き込もうとします。

1-10　防犯について

図書館や学生ラウンジなど、大学構内で盗難が多発しています。日頃からのちょっとした用心や心構えが盗難防止につながりますので、自分の持ち物の管理には十分注意してください。

(1) 被害に遭わないために

①貴重品は必ず携帯する。
②所持品から目を離さない。
③カードの暗証番号には安易にわかるものを設定しない。
④施錠管理を徹底する。

(2) 被害の事例

・食堂で席取りのためにカバンを置き､財布だけ持って席を離れた時にカバンを盗まれた。
・教室や図書館で机に荷物を置き、ほんの2，3分席をたった間に財布を抜き取られた。
・図書館の閲覧席で、居眠りをしている間に荷物がなくなっていた。
・学生ラウンジに荷物を置いたまま体育館で練習していたら、財布から現金を抜き取られた。
・教室でサークル活動中、廊下に置いていた荷物がなくなった。
・部室や研究室を数分無人にした隙に侵入され、財布を盗まれた。

(3) 盗難に遭った場合

学生支援センター（学生厚生担当）に速やかに連絡してください。被害が現金やカードなどの貴重品の場合は、直ちに交番や銀行等にも届け出てください。また、盗難に遭った物やその一部が拾得物として学生支援センター（学生厚生担当）に届けられていることもありますので確認してください。

なお、学内で不審者を見かけた場合は、学生支援センター（学生厚生担当）または防災センターに連絡してください。

第２章

学習活動について

1　授業科目について

1-1　教育課程

教育課程（以下、カリキュラム）とは、科目の配当や、進級条件･卒業条件を定めたもので、卒業まで変更されることはありません。

2014 年度に入学した学生のカリキュラム　　：2014 年度カリキュラムを適用

2014 年度に 3 年次編入した学生のカリキュラム　：2012 年度カリキュラムを適用

同一学科・学年であっても、カリキュラム年度によっては配当されている科目や単位数、必修・選択区分などが異なる場合があります。詳細は「授業科目配当表」に記載されています。

カリキュラム年度は UNIPA の【個人情報照会】画面で確認できます。

本学部ではカリキュラムを、次のように構成しています。

【カリキュラム】

共通教育科目	人間科学科目
	英語科目
専門教育科目	基礎共通科目
	専門科目
教職に関する科目	

1-2　科目の区分（必修・選択・自由科目）

科目には次の区分があります。

区分	内容
必修科目	単位修得が義務づけられている科目。卒業するためには必ず単位を修得しなければいけない。
選択科目	各人の意思により選択する科目。単位修得の義務はないが、卒業所要単位数に算入される科目。但し、各学科・コースの「進級条件」「卒業条件」「履修モデル」等に留意すること。
自由科目	修得すれば単位は修得できるが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目（主に教職の科目）。

1-3　配当学年

学修が効果的に行われるよう、科目には開講される学年が予め定められています。従って、自分の学年以下に配当された科目を履修することになります。上級学年に配当された科目は特別の場合を除いて履修できません。

1-4　配当期

科目の開講される期間（配当期）により、次のように区分されます。

通年科目	1 年間 30 週にわたって授業が行われる科目
前期科目	前期半年間 15 週にわたって授業が行われる科目
後期科目	後期半年間 15 週にわたって授業が行われる科目
集中科目	夏季・冬季休業中などの一定期間に集中的に授業が行われる科目。集中科目の時間割は決まり次第掲示で発表されます。

1-5　単位数

大学では、各科目の授業形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の 1 単位は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

各科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

科目種別	基準
講義及び演習	15 時間の授業をもって 1 単位
実験・実習・製図及び実技	30 時間の授業をもって 1 単位
卒業研究等	学修の成果を考慮して単位数を定めています。

※必要な学修時間の計算例

授業形態		科目の単位数	必要時間①	授業時間数②	授業時間外に必要な学修時間（週あたり）
講義・演習	半期科目 15時間で1単位	2 単位	45時間×2単位 =90時間	15時間×2単位 =30時間	(①90時間－②30時間) ÷15週⇒4時間
実験・実習等	半期科目 30時間で1単位	2 単位	45時間×2単位 =90時間	30時間×2単位 =60時間	(①90時間－②60時間) ÷15週⇒2時間

1 単位は 45 時間の学修を標準としていますので、授業以外の時間は、自ら授業時間外の学修として行うことになります。

1-6　コマ

本学部では、90 分の授業を「コマ」という単位で表しています。授業科目配当表上コマが 1 となっている場合は、1 週間に 1 時限（90 分）開講していることを意味します。

2　授業について

2-1　学年と学期

授業は一定の期間継続して行われます。期間には､「学年」と「学期」という概念があります。

学　年 :4 月 1 日から翌年 3 月 31 日

学年は次の 2 学期に分けられます。

前学期（前期）:4 月 1 日から 9 月上旬まで

後学期（後期）:9 月上旬から 3 月 31 日まで

但し、必要に応じこの期間を変更することがありますので、その年の学事日程で確認してください。

また、授業日程の年間スケジュールは、毎年掲示で確認してください。授業日数を確保するため、休日・祝祭日等に授業を行う日程を設ける場合があります。

2-2　時限と時間

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9:00 〜 10:30	10:40 〜 12:10	13:10 〜 14:40	14:50 〜 16:20	16:30 〜 18:00	18:10 〜 19:40	19:50 〜 21:20

※工学部・未来科学部の正課授業は 1 限から 5 限、工学部第二部の正課授業は 5 限から 7 限に実施されます。通常とは異なる時限に補講が行われる場合もあります。

※他キャンパスとの遠隔授業等においては､上記とは異なる時間で授業を行うことがあります。

2-3　時間割

(1) 時間割表

各科目は週単位で決められた「時間割」に従って行われます。

時間割は「UNIPA」で確認することが出来ます。操作方法は、UNIPA の説明ページ（第 2 章）を参照してください。

(2) 時間割の変更

曜日・時限などに変更が生じた場合、掲示により周知します。

(3) 注意事項

授業を受ける際は、授業科目配当表、時間割表、シラバス、掲示をよく確認のうえ、間違いのないように受講してください。

2-4　担当教員

担当教員には常勤教員と非常勤教員がいます。非常勤教員は、本学専属の教員ではありませんが、原則として担当科目がある日・時限は大学にいる事になっています。

授業担当教員に用事がある場合は、以下の方法で問い合わせてください。

常勤教員:教員室に直接行ってください。事前にメール等でアポをとることをおすすめします。教員室とメールアドレスについては第 9 章 5 を参照してください。

非常勤教員：講師室（2 号館 3 階）へ行くか、シラバスに記載のメールアドレスにお問い合わせください。

上記に記載の連絡先以外はお答えできません。また、取次ぎにも対応しておりませんので、確認したいことがある場合は、授業終了後に確認するなど、早めの対応を心がけてください。

2-5　クラス編成と授業ガイダンス

同一科目で複数のクラスがある場合、科目によっては受講クラスが指定される（クラス分けされる）ことがあります。特に英語科目や演習科目は複数のクラスが生じますので、受講するクラス（担当教員や曜日など）を間違えないようシラバスや掲示、ガイダンスでの指示を確認してください。

実験・実習・実技・英語等の科目においては、授業開始第一週に授業ガイダンスがおこなわれる場合があります。日程等はシラバスや掲示により周知します。授業ガイダンスに出席しないと、クラス編成の都合上、履修に支障が出る場合もありますので必ず出席してください。

2-6　休講

次の場合、休講とします。休講は原則掲示にて周知します。

（1）授業担当教員にやむを得ない理由が生じた場合
（2）休講の掲示がなく、授業開始時間から 30 分を経過しても授業担当教員がやむを得ない理由で授業を開始できない場合（自然休講と呼びます）
（3）大学の行事を行う場合
（4）交通機関のストライキや自然災害等、不測の事態が生じた場合（第 1 章 1-6 参照）

2-7　補講

授業回数が不足した場合や学修の到達目標を達成していないと教員が判断した場合など、必要に応じて補講を行うことがあります。補講の有無は、原則掲示にて周知します。

2-8　出欠席

授業の出席確認には学生証が必要です（第 1 章　1-4 参照）。忌引、病気・怪我、課外活動などで、やむを得ず欠席した場合は、工学部・未来科学部事務部（以下、事務部）窓口または事務部ホームページで欠席届の用紙を入手し、必要事項を記入の上、診断書等の欠席を証明できる書類を添えて授業担当教員に提出･説明してください。欠席日数が 1 週間を超える場合は、事務部窓口に提出してください。

但し、公欠制度はありません。届出に対して授業担当教員が判断をします。

正当な理由がなく､無届けで､引き続き３カ月以上欠席した学生は除籍対象となります｡また、授業への出席状態が悪く､履修を途中で放棄したと授業担当教員が判断したときは､成績が「－」（放棄）となります。

2-9　レポート

レポートなどの提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと評価を受けられないことになりますので、指定事項（期限や提出場所など）は必ず厳守してください。

2 号館 3 階のレポート BOX に関しては、締切後の提出は受付出来ませんので注意してください。

実験レポートの提出先が実験室の場合は、直接、実験室へお問い合わせください。

2-10　授業アンケート

授業をより良くするために「授業アンケート」を実施し、結果を公開しています。授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。但し、一時的な感情やいい加減な考えではなく、授業での様子を出来るだけ正しく伝えるようにしてください。

アンケート結果は、事務部のホームページ等で公開する予定です。

2-11　e-Campus 科目

東京電機大学の 4 学部（工学部・未来科学部・理工学部・情報環境学部）では、多彩な勉学機会を提供するため、各キャンパスをネットワークシステムで結び、遠隔授業を行っています。遠隔授業を行う科目は別途掲示で確認してください（開講しない場合もあります）。

※他学部他学科に配当されている科目の場合、他学部他学科科目の履修登録が必要です。

※授業時間は原則、実施科目のキャンパスの時間帯で行われます。

授業時間帯はキャンパス毎に異なります。時間割の重複は出来ませんので、履修する際は実施の時間帯に注意して申請してください。

2-12　学習サポートセンター

大学での学修において、基礎学力は非常に重要です。学習サポートセンターでは、基礎学力の向上を支援しています。上級学年で学修する科目の理解力（応用力）を高めると共に、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

教員構成　本学常勤教員・非常勤教員・学習サポートセンター指導員
対象科目　数学・物理・英語
実施形態　①個別指導による学習支援
　　②グループ学習（ミニ講義や補習などの時間割制による講義形式等）。
※各科目の詳細については UNIPA または本学のホームページを参照してください。

実施場所　学習サポートセンター　4 号館 3F　40313 室

3　履修計画・履修登録

3-1　履修計画

本学部では、基礎から応用へと積み重ねて履修していくことができるように、授業科目を順序立てて各年次・学期に配当しています。

そのため下級年次で成績不良のまま上級年次へ進むと、留年や卒業延期になる可能性があります。

進級や卒業には一定の条件が定められていますので、4 年間の学修について、自己責任と自己管理が重要であることを自覚し、次の点を考慮して履修計画を立ててください。

（1）必要な資料を確認する

資料名	内容
学生要覧（本誌）	「各学科の理念」「履修モデル」「授業科目配当表」「進級条件」「卒業条件」などの各種の決まりごとを確認する
時間割表（UNIPA）	授業の開講曜日・時限・担当教員・教室などを確認する
シラバス（UNIPA）	授業の内容、教科書、クラス分け・ガイダンス情報などを確認する
掲示　（UNIPA）	履修登録期間・クラス分け・ガイダンス情報などを確認する

（2）注意点

①卒業までの履修計画を立て、各学期の履修登録をする。

②履修モデル·授業科目配当表·シラバス·初回の授業ガイダンスを参考に履修登録をする。
③必修科目も、自分自身で履修登録をする。
④上級年次になってから単位不足に陥ることのないよう、余裕をもって履修登録をする(履修登録単位数の上限（24 単位 / 半期）に注意する)。
⑤進級条件、卒業条件を満たせるよう、単位修得状況に注意して履修登録をする。

3-2　履修制限

①履修登録時に履修できる単位数は半期に 24 単位までです。
但し、自由科目、集中科目は履修制限には含みません。
②優秀な成績で各学期を終了した学生には、次学期に上限を超えて 4 単位の履修ができる制度があります。
履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準

次の両基準を満たす者に対して、半期 4 単位まで上限単位数を超えての履修を認める。
(1)　前学期に 20 単位以上の履修登録を行い 90% 以上の単位を修得していること。
(2)　GPA が 3.1 以上であること。

4 年間を通し計画的に履修し、内容を充分理解することを目的とし、履修制限が設定されています。履修する際は、この履修制限を超えて履修登録をすることはできませんので、十分注意し、しっかり履修計画を立てるようにしてください。

3-3　履修登録

履修登録は、前期に前期科目・通年科目・集中科目を、後期に後期科目・集中科目を、それぞれ登録します。

履修登録の種類は、主に「UNIPA で申請する科目」「指定用紙で申請する科目」などがありますが、具体的な方法や履修登録期間などの詳細は掲示にて連絡します。必ず期間内に自分で履修登録をするようにしてください。

【履修登録上の主な注意点】

重複受講の禁止	履修する科目が授業時間割上重複するときは、そのうちの 1 科目しか履修できません。必修科目、選択科目を問わず、重複が発生した場合はどちらか 1 つの科目しか登録をすることができません。例外については、「3-5 特別な履修登録」を参照。
変更の禁止	登録・修正期間後の授業科目の変更は認められません。
無届受講	履修登録されていない科目の受講・受験は認められません。学力考査の受験資格の付与や単位の認定もされません。
履修放棄	履修登録した科目を授業期間中に放棄（長期欠席）したり、学力考査を受験しないときは、成績評価は放棄の「ー」となる場合があります。

3-4　再履修

再履修とは、不合格となった授業科目を次年度または次学期以降に、もう一度始めからやり直すことです。

授業担当教員が変更になる場合があります。また、再履修時には配当期が変更されている場合がありますので、履修計画を立てる際には留意してください。

3-5　特別な履修登録

(1) UNIPA で申請するもの

履修の種類と対象	注意点など
他学部他学科科目履修 【全学科共通】	自分の所属学科に配当されていない科目を一定の要件を満たすことにより、履修することができます（他学部他学科科目履修制度）。 【以下の基準を満たす場合、申請可能】 ①自分の所属学科に配当がない（内容の類似する科目もない） ②自分の学年次以下に配当されている科目（上級学年次科目は不可） ③当該科目の人数に余裕がある場合 但し、①工学部第一部（全学科）の科目は申請できません。 ②工学部第二部は、電気電子工学科（NE）、機械工学科（NM）、情報通信工学科（NC）の科目のみ申請可能です。 他学部他学科科目の履修を希望するときは、指定する履修登録期間に履修申請を行ってください。申請した科目の許可・不許可については、後日掲示で発表します。
学科ごとの注意事項① 【電気電子工学科（電気電子システムコース・EJ)】	EJ コースでは、JABEE（日本技術者教育認定機構）プログラムを採用しています。そのため、他の学科・コースとは本制度の運用が異なります。 【他学部他学科科目にて修得した科目の取扱い】 必修科目・選択科目・自由科目のいずれも、それぞれの区分の自由科目として取り扱う。
学科ごとの注意事項② 【EJ 以外の学科・コース】	【他学部他学科科目にて修得した科目の取扱い】 ①必修科目・選択科目は任意に選択し修得した科目の選択科目として取り扱う。 ②自由科目はそれぞれの区分の自由科目として取り扱う。 ③他の大学等で修得した単位とあわせて 60 単位を超えることができません。
学科ごとの注意事項③ 【機械工学科 (機械工学コース・EK)（先端システムコース・EF)】	機械工学科では、学科内他コース生の受講が許可されている科目があります。履修者に余裕がある場合、他コース科目を履修することができます。受講が許可されている科目は機械工学科の授業科目配当表のコース選択欄を参照してください。 【他コース科目にて修得した科目の取扱い】 ①必修科目・選択科目は専門教育科目の選択科目として取り扱う。 ②自由科目は専門教育科目の自由科目として取り扱う。
教職課程科目	詳細は第 4 章教職課程を参照してください。 1 年次前期は履修できません。

(2) 専用用紙で申請するもの

履修の種類と対象	注意点など
重複履修許可願	履修を希望する科目が、授業時間割上、同曜日の同時限に 2 科目以上重複している場合、その一方のみ、履修が許可されます（重複受講の禁止）。しかし、例外として重複履修が認められている科目があり、あらかじめ周知されます。希望者は指定の専用用紙にて履修申請する必要があります。
東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく、学生交流（単位互換）のための履修願	東京理工系大学とは、本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学を指します。この四大学間で、学生交流（単位互換）の履修制度が実施されています。履修できる科目、履修方法、単位の認定、各判定時の科目の扱い等についての詳細は、掲示でお知らせします。
転学部・編入学・転学科・再入学者等の特別履修願	単位認定の関係上、他の学部、学科、上級年次科目履修など、通常外の履修を希望する時は、この申請方法を利用することができます。左記の専用用紙に所定の事項を記入し、事前に担当教員の承認印を得た上で、用紙の提出をしてください。提出締切後、事務部で一括して学科長の承認を受けます。許可・不許可については後日掲示で発表します。
前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願	卒業延期者（3 月末時点）が前期末卒業を希望する場合、左記の願を提出し、受理されることにより通年科目を前期末に評価してもらえることになります。事務部にある専用用紙に必要事項を明記し、事前に担当教員の承認を得た上で、事務部へ提出してください。履修するための条件等の詳細は「8. 前期末卒業」の欄を参照してください。

※履修登録の方法・申請時期等の詳細や修正点などについては、掲示にて周知します。
※「特別な履修登録」の申請を行う場合には、授業担当教員に予め相談してください。

3-6　大学院科目の先取り履修

大学院科目を先取り履修することができます。履修を希望される場合は、掲示により指定された期日までに手続きを行ってください。

(1) 履修対象者

学部 4 年次生（早期卒業を希望する 3 年次生）かつ、以下の条件を満たす者。
前期：A 日程学内推薦入試出願者
後期：A 日程学内推薦入試合格者、B 日程学内推薦入試出願者、前期一般入試出願者

(2) 履修時の注意

① 大学院進学までに履修できる科目の単位数は年間 8 単位です。
② 履修制限（半期に履修登録できる上限単位数）には含みません。
③ 指定された科目以外は履修できません。
④ 希望者数により履修が認められない場合があります。
⑤ 志望先以外の専攻科目は原則として認められません。

（3）単位の認定

合格した科目については、本学大学院の入学をもって自動的に認定されます。入学後の前期末成績通知時に反映されます。単位認定された科目のうち、認定を希望しない科目については、大学院入学後に手続きを行ってください。手続きの方法については掲示でお知らせいたします。

3-7　大学院への進学意思のない学生の大学院科目の先取り履修

学習意欲はあるが大学院に進学意思（希望）のない優秀な 4 年次生（早期卒業を希望する 3 年次生）に対し、本学大学院工学研究科科目の履修を認めています。履修を希望される場合は、掲示により指定された期日までに手続きを行ってください。

（1）本制度の対象者

下記の基準を満たした学生が対象となります。

①半期に 20 単位以上の履修登録を行い 90% 以上の単位を修得していること。

② GPA が 3.1 以上であること。

※「履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準」（第 2 章 3-2 参照）と同じです。
なお、上記の基準は下記の時期の成績をもって判定します。

対象学生	前期履修時の成績判定時期	後期履修時の成績判定時期
4 年次生	3 年次後期	
早期卒業希望の 3 年次生	2 年次後期	3 年次前期

（2）履修時の注意

① 履修制限（半期に履修登録できる上限単位数）には含みません。
② 指定された科目以外は履修できません。
③ 希望者数により履修が認められない場合があります。
④ 履修科目数を制限する場合があります。

（3）単位の認定

修得した科目は卒業所要単位数には含まれません。但し、本学大学院工学研究科へ進学した場合は、「大学院科目の先取り履修」制度（第 2 章 3-6 参照）に準じて運用します。

（4）成績の通知並びに修了書

履修科目が合格となった場合は、「修了書（科目名・単位数・評価を記載）」を 1 度のみ発行します。

※成績通知・成績証明書には、在学中・卒業後も記載されません。

4　学力考査

単位を認定するための材料として学力考査が行われます。学力考査は、筆記試験（学期末・中間・毎回の授業内など）・レポート・平常点の評価などの方法があります。いずれの形態で学力考査を実施するかについては、「学力考査実施要領」にて案内します。「学力考査実施要領」は掲示にて発表します。

4-1　学力考査

（1）受験資格

次の 4 つの条件を原則すべて満たしていなければなりません。但し、休学期間中は学力考査を受けることはできません。

①その科目の履修登録をしていること。
②その科目に常時出席していること。
③その学期までの学費を納入していること。
④通年科目で、前・後期の 2 回学力考査が行われる科目について後期学力考査を受験するには、前期学力考査を受験していること。

（2）実施方法等

学力考査の実施方法は大きく 3 種類に分類できます。具体的には以下の通りです。

①筆記試験

学力考査実施要領発表後、通常の授業中実施日時または特定科目考査日に筆記試験を実施します。

授業によっては、プレゼンなど筆記試験に代わる学力考査を実施することもあります。実施する時期は以下の 2 つに分けられます。

【授業中実施】

通常の授業実施日時に各授業担当教員の裁量で実施します。

【特定科目考査日】

工学部・未来科学部で開講している「微分積分学および演習Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」、「物理学Ⅰ・Ⅱ」および教室を分割する必要があるため授業中に行えなかった科目を実施します。

②レポート

筆記試験の代わりにレポートの作成を学力考査として課します。提出先が「事務部レポートボックスとなっているものは 2 号館 3 階事務部の入り口前に設置のレポートボックスに提出してください。UNIPA やメールでの提出の場合は、提出後に再度、レポートが確実に添付されていたかを確認するようにしてください。

③実施せず

「実験科目」、「製図科目」等、通常のレポートや授業の積み重ねにより成績評価が行われるので、特に日付を定めた学力考査を実施しません。

(3) 学力考査受験上の心得

①学生証の呈示

教室では、必ず学生証を常に机の上、通路側の見やすい場所に呈示してください。万一当日携帯していないときは、2 号館 3 階にある自動証明書発行機より証明書〔仮受験票〕を出力してください。(仮受験票の発行は有料（1,000 円）です。)

②遅刻・退出

特定科目考査日の場合は、学力考査開始から 30 分までは入室が認められます。学力考査開始 40 分後から終了 10 分前までは途中退出が認められます。監督者の指示に従ってください。授業中実施の場合は、全て監督者の判断となります。

③学籍番号・氏名の記入

答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を必ず記入してください。記入のない答案は無効となります。

④監督者の指示

学力考査実施時間中に、監督者の指示に従わない場合、または私語など受験態度不良の場合には退室を命じることがあります。また、筆記用具などの貸借は監督者の許可がなければできません。

⑤不正行為

カンニングなど不正行為をした場合は、「試験に関する細則」が適用され、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとします。また全科目が無効となります（学力考査実施要領発表後に実施された学力考査、レポート等も含む)。

⑥受験棄権

時間途中で受験を中止する場合でも、答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を記入して提出してください（受験した科目の答案用紙は、持ち帰る事はできません。誤って持ち帰った場合でも、不正行為とみなされる場合がありますので注意してください。)。

⑦教室ならびに座席

特定科目考査日の場合は、予め受験教室と座席割が指定されます（UNIPA にて発表)。授業中実施の場合は、受験教室は原則として通常の実施教室ですが、別の教室になる場合があります。必ず学力考査実施要領で受験教室を確認するようにしてください。座席割について指定がある場合は、授業担当教員もしくは事務部から周知いたします。学力考査実施 1 週間前から原則として UNIPA にて周知を行います。

⑧自習室

自習は、各号館のラウンジや総合メディアセンターなどを利用してください。なお、2 号館のラウンジを利用する際は、付近の教室で学力考査を実施している場合がありますので、大きな声で話さないようにしてください。

⑨携帯電話等の取り扱い

授業担当教員の許可がない限り、携帯電話等の外部との通信が可能な機器を使用することは認められていません。計算機や時計としての使用も認められていません。これらの機器は必ず電源を切ると共に、机上に出さないでください。従わない場合には不正行為として扱われます。

4-2　追試験

急病など真に止むを得ない理由で学力考査を欠席した場合は、追試験がおこなわれることがあります。追試験を実施するかどうかは授業担当教員に任されており、追試験願を提出しても追試験が実施されるとは限りません。できる限り指定された日の学力考査を受けてください。追試験を希望する場合は所定の手続きが必要になります。

(1) 追試験願の提出が認められる理由

次の 4 つの場合のみ、証明書類を添付して追試験願を提出することができます。

①本人の病気のため受験が全く不可能な場合。(医師の診断書)

② 2 親等以内の親族の危篤・死亡の場合。(証明する書類)

③交通機関停止等により登校が不可能な場合。(遅延証明書)

④その他、本人の責任でない真に止むを得ない事情がある場合。(理由書)

学力考査時間割の見間違い、寝坊などは止むを得ない理由とは認められません。

但し、就職試験のため学力考査を受けられなかった 4 年次生は、学科長に相談してください。

(2) 手続き

学力考査の受験資格（前記）を満たしており、上記の追試験願を提出できる理由に該当する学生は、学力考査終了日の翌日から数えて 3 日以内（休日を除く）に、上記の証明書類を添えた追試験願を事務部へ提出してください。詳細なスケジュールや実施の可否は掲示でお知らせします。追試験を申請する場合は、1 科目につき 500 円が必要です。実施の可否にかかわらず返金は行いません。

(3) 追試験受験上の心得

受験上の心得は学力考査受験上の心得（第 2 章　4-1(3)）に準じます。

4-3　中間考査

学期の途中で授業担当教員が随時行う学力考査です。

中間考査受験上の心得は学力考査受験上の心得（第 2 章　4-1(3)）に準じます。

5 成　績

授業担当教員が採点し、60 点以上の評点を得たとき合格となり、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から見て「単位認定」、学生側から見て「単位修得（取得）」といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行われます。一旦単位を修得（取得）した授業科目は、履修の終了が認定されたことになるので、再度の履修をすることはできません。

5-1　成績評価基準

成績評価基準		
評価	評点	参考
S	90点～100点	講義・実験・実習内容を十分に理解し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
A	80点～89点	講義・実験・実習内容を理解し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
B	70点～79点	講義・実験・実習内容を知識として身につけ、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。
C	60点～69点	シラバスに記載されている達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識を応用し、より高度な内容に進むためには、十分な自己学習を要する。
D	60点未満	シラバスに記載の達成目標を満たしていない。
－	放 棄	学習を放棄したとみなされた。

5-2　評点と評価

評点は、下記の評価におきかえられ UNIPA の成績通知画面・成績証明書などに表されます。

評価		評点・摘要
成績証明書用	成績通知用	
S	S	90 ～ 100 点
A	A	80 ～ 89 点
B	B	70 ～ 79 点
C	C	60 ～ 69 点
		合格（単位修得）
	D	0 ～ 59 点　　不合格（単位未修得）
	－	放棄（下記の注を参照）
	＊	履修中（現在履修中である状態）
R	R	認定（他大学・短期大学等の単位を認定した場合）

（注）通常の授業への出席状態が悪く授業担当教員が履修を途中で放棄したと判断した場合などは、「－」放棄となる。

5-3　成績の通知

前期の成績通知は 9 月上旬に、後期の成績通知は 3 月上旬に UNIPA にて発表します。事前または同時期に学生アドバイザーとの面談や学科ガイダンスが行われる場合がありますので、日程を掲示にて確認してください。

5-4　成績順位

成績順位の算出には、GPA(Grade Point Average) を用いています。

GPA ＝（単位加重 GP の総和）÷（履修登録単位の総和）

※単位加重 GP の総和＝
（S 評価の単位数) × 4 ＋ (A 評価の単位数) × 3 ＋ (B 評価の単位数) × 2 ＋ (C 評価の単位数) × 1

※単位加重 GP（Grade Point）とは、取得した各科目の評価（S・A・B・C・D）に下記の各科目の評価を指数化するグレートポイントを掛けた数値です。

ポイント	評価	評点（100 点法）
4	S	90 ～ 100
3	A	80 ～ 89
2	B	70 ～ 79
1	C	60 ～ 69
0	D	0 ～ 59
	ー	放　棄

・自由科目は含まない。

・履修中の科目は含まず、成績通知に記載されている、評価が確定した科目を対象とする。

・GPA の値は小数点第 4 位を四捨五入した値とする。

・早期卒業・履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準・大学院への内部進学等の判定で使用する。

6　進級と留年

原則として以下の条件を満たした場合、上級学年次へ進学することになります。

①必要な学費及びその他の費用を納入していること。

②同一学年に合算して 12 ヶ月以上在学すること。ただし、休学期間は在学期間に含まない。

③上級年次に進学するための条件がある場合（第 2 章　6-1、6-3 参照）は、その条件を満たしていること。

※ 3 月の判定時に休学中の者も、①、②、③を満たしていれば上級年次へ進級する事になります。

6-1　1 年次から 2 年次への進級条件

（全学科共通）

必要な学費及びその他の費用を納入しており、休学期間を除き 1 年次に合算して 12 ヶ月以上在学している学生（判定時に休学中の学生も含む）を対象に 1 年次学年末に進級判定が行なわれます。

1 年次から 2 年次に進級するためには、1 年次学年末において、次の条件を満たす必要があります。

（1）進級条件

1 年次終了時に、自由科目を除く修得単位数の合計が 24 単位以上であり、学科の定める必修科目の要修得必修科目数を満たしていることを条件とする。

【学科の定める科目の修得条件（要修得必修科目数）】

学科名	EE 科		ES 科	EM 科		EC 科
	EJ ｺｰｽ	EH ｺｰｽ		EK ｺｰｽ	EF ｺｰｽ	
1 年次までの必修配当科目数	5 科目	4 科目	12 科目	6 科目	5 科目	8 科目
要修得必修科目数	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	5 科目※1

※1．ワークショップ I を含む、5科目

上記の進級条件を満たした者は、2 年次に進級します。

3 年次から 4 年次への進級条件や卒業所要単位数も考慮して、履修登録を行い、十分な単位数を修得するようにしてください。

(2) 留年

進級判定の結果、1 年次に留年となった場合、再び 1 年次をやり直すこととなります。未修得の科目について履修登録を行い、年度末に再度進級判定を受けることとなります。

なお、休学による場合を除き、同一学年に通算して在学できる期間は 4 年です。進級できずに 4 年を超える場合は除籍となります。

6-2　2 年次から 3 年次への進級

2 年次から 3 年次への成績による進級条件はありません。（ただし、前記の学籍及び学費の条件を満たす必要があります。）

成績による進級条件がない場合であっても、後記の 3 年次から 4 年次への進級条件を満たすよう履修計画をたて、確実に学修を進める必要があります。

6-3　3 年次から 4 年次への進級条件

（全学科共通）

必要な学費及びその他の費用を納入しており、休学期間を除き3年次に合算して 12 ヶ月以上在学している学生（判定時に休学中の学生も含む）を対象に3年次学年末に進級判定が行なわれます。

3 年次から 4 年次に進級するためには、3 年次学年末において、次の進級条件を満たす必要があります。

(1) 進級条件

自由科目を除く修得単位数の合計が 104 単位（人間科学科目 10 単位、英語科目 4 単位を含む）以上であり、学科の定める必修科目の要修得必修科目数を満たしていることを条件とする。

【学科の定める科目の修得条件（要修得必修科目数）】

学科名	EE 科		ES 科	EM 科		EC 科
	EJ ｺｰｽ	EH ｺｰｽ		EK ｺｰｽ	EF ｺｰｽ	
3 年次までの必修配当科目数	16 科目	13 科目	24 科目	21 科目	21 科目	15 科目
要修得必修科目数	13 科目	11 科目	19 科目	18 科目	18 科目	13 科目

※ EJ コースにおける JABEE プログラム必修科目の「技術者倫理」は、「要修得必修科目」には加算されません。

(2) 留年

進級判定の結果、3 年次に留年となった場合、再び 3 年次をやり直すこととなります。未修得の科目について履修登録を行い、年度末に再度進級判定を受けることとなります。なお、休学による場合を除き、同一学年に通算して在学できる期間は 4 年です。進級できずに 4 年を超える場合は除籍となります。

7 卒　　業

休学期間を除き 4 年次に合算して 12 ヶ月以上在学している学生で、年度末判定時に休学していない 4 年次生を対象に卒業判定が行われます。本学部を卒業するためには、次のすべての条件をみたすことが必要です。

7-1　卒業条件

①卒業するために必要な単位数（卒業所要単位数）を修得していること。
②自分の所属する学科･コースに配当されている必修科目の単位の全部を修得していること。
③合計 4 年以上（8 年以内）在学していること。
④卒業までに必要な学費及びその他の費用の全額を納入していること。
⑤卒業判定時に休学していないこと。

7-2　区分別卒業所要単位数

(1) 電気電子工学科（電子光情報コース）、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科用

【区分別卒業所要単位数】

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間科学科目	16 単位	技術者教養科目２単位を修得すること
	英語科目	6 単位	
専門教育科目	基礎・共通科目 専門科目	90 単位	
任意に選択し修得した科目		12 単位	
合　計		124 単位	

※自由科目は上記「卒業所要単位」に含まれません。
※任意に選択し修得した科目とは、以下の科目を指します。

①「任意に選択し修得した科目」区分以外の上記の表の区分において、
卒業所要単位を超えて修得した単位
②「任意に選択し修得した科目」となる単位
他学部他学科履修で修得した単位（自由科目を除く）
東京理工系大学による学生交流（単位互換）の履修制度を利用し、修得した単位

（2）電気電子工学科（電気電子システムコース）

【区分別卒業所要単位数】

<table>
<tr><th colspan="2">区分</th><th>区分単位数</th><th colspan="2">学修教育目標に対応する科目区分</th><th>必要最低単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">共通教育科目</td><td rowspan="2">人間科学科目</td><td rowspan="2">16 単位</td><td rowspan="2">(A) 人間科学科目</td><td></td><td>16 単位</td></tr>
<tr><td>(B) 技術者教養（技術者倫理）</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>英語科目</td><td>6 単位</td><td colspan="2">(F) 英語科目</td><td>6 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門教育科目</td><td rowspan="5">基礎・共通科目専門科目</td><td rowspan="5">102 単位
(C,D1,D2,E,F の科目の合計単位数が 102 単位必要)</td><td colspan="2">(C) 工学基礎科目</td><td>32 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(D1) 専門科目</td><td>33 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(D2) 実験科目</td><td>8 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(E) 設計・開発・研究科目</td><td>8 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(F) コミュニケーション科目</td><td>5 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">任意に選択し修得した科目</td><td>－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">合計</td><td>124 単位</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

※「自由科目」は、「卒業所要単位」には含まれません。

※　1 年次入学生と編入学生では、適用されるプログラムが異なります。

①電気電子専修プログラム（JABEE プログラム：1 年次に正規入学した学生）
①の対象者は、上表の「学修教育目標に対応する科目区分」の「必要最低単位数」を満たす必要がある。

②電気電子総合プログラム（総合プログラム：企業委託学生、2 年次以上への編入学生など）
②の対象者は、「区分単位数」条件を満たす必要がある。
詳細は、「工学部履修モデル電気電子工学科プログラム案内」を参照すること。

7-3　卒業研究着手条件

進級条件を満たし 4 年次に進級した学生は卒業研究の着手条件を満たしたことになります（第 2 章 6 参照）。

7-4　卒業見込証明書

進級条件を満たし、4 年次に進級した学生は卒業見込証明書を発行できます。
卒業見込証明書は 4 月上旬より発行します。

卒業見込証明書発行日については、掲示にて周知します。

※休学中は卒業見込証明書が発行されません。必要に応じ、学科に相談してください。

7-5　学位記

本学部を卒業すると、学士（工学）の学位が授与され、卒業時に学位記を授与します。本学の場合、学位記が卒業証書を兼ねますので、いわゆる卒業証書と称するものは授与しません。

一度発行した学位記は再発行しませんので、大切に保管してください。

7-6　卒業延期（4 年次留年）

卒業判定において卒業要件を満たさなかった学生は 4 年次に留年（卒業延期）となります。再び、4 年次をやり直すこととなります。未修得の科目について履修登録を行い、卒業条件を満たすようにしてください。

なお、休学による場合を除き、通算して在学できる期間は 8 年です。卒業できずに 8 年を超える場合は除籍となります（第 8 章 1 参照）。

7-7　３年間での卒業（早期卒業）

大学院への進学を前提としているきわめて成績優秀な学生は、以下の条件により３年間の在学期間で卒業することができます。希望する場合は、学科長に相談してください。

早期卒業の条件は以下の通りです。

①本人が 3 年生終了時に卒業することを希望していること

②在学期間が 3 年あること

③卒業要件および成績基準

- 3 年次までに各学科に配当された必修科目の単位をすべて 3 年次終了時までに修得しているとともに、各学科が定めた早期卒業のための卒業要件を満たし、卒業所要単位 124 単位以上を修得済みであること。
- GPA が 3.4 以上であること。
- 上記の対象となる科目・単位は、工学部で履修し、工学部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。

④学科長および学部長が早期卒業に相応しいと判断した学生

●各学科が特に定めた早期卒業のための卒業要件

（1）2 年次終了時に 85 単位以上を修得し、GPA が 3.4 以上で、早期卒業を希望する学生は、3 年次において卒業研究を履修し、その単位を修得しなければならない。卒業研究の履修にあたっては、学科長の指示に従うものとする。ただし、対象となる科目･単位は、工学部で履修し、工学部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。

（2）3 年前期終了時に、学科長が卒業研究の履修の継続を認めた学生。

（3）4 年次配当の卒業研究以外の必修科目の単位修得については、次のとおりとする。

EE 科 (EJ･EH)…全て修得すること。

EC 科　　…修得しなくとも良い。

ES 科、EM 科 (EK･EF) は、卒業研究以外の必修科目は配当されていません。

●その他

各学科において、3 年前期終了時に学科長が卒業研究の継続を認められないと判断した場合は、卒業研究の履修を中止するか、引き続き履修を認めた場合でも単位認定は 4 年次に行う。

8　前期末卒業（卒業条件を満たさず卒業延期になった学生対象）

8-1　前期末卒業の条件

（1）4 年次に合算して 12 か月以上在学する学生を対象とする。ただし、12 か月以上の在学には、休学期間を含まない。

（2）前記の条件を満たした学生を対象として前期末卒業判定を実施する。判定時に休学中の学生は対象としない。卒業所要単位数など所定の卒業条件を満たしたときは、前期末卒業（9 月 10 日付）となる。

（所定の卒業条件）
卒業条件は、入学した年度に学生に提示している卒業条件を適用する。

8-2　前期末卒業の希望確認（意志確認）の手続きについて

（1）年度末卒業判定が行なわれ卒業延期者が確定した 3 月の成績通知書配布時に、学科長または学生アドバイザーから卒業延期者に対し「前期末卒業制度」が説明されます。卒業延期者は、UNIPA の【個人別情報】に表示されている連絡先に誤りがないか確認してください（後日、前期末卒業に関する連絡を学科から行う場合に使用するため）。

（2）9 月上旬の成績通知書配布時に、「前期末卒業の対象者（前記の卒業条件を満たした者）に対し、前期末卒業の希望確認（意志確認）を行います。卒業時期の確認手続きは以下によります。

（卒業時期の確認手続）時期：9 月上旬

対象学生への卒業時期の意志確認	前期成績が確定後、前期末卒業判定が実施され、判定結果が学科長へ通知されます。その結果を受け、学科長又は学生アドバイザーが、前期末卒業条件を満たした対象者全員に、前期末卒業（9 月 10 日付卒業）とするか、または、翌年 3 月卒業とするかの卒業時期の希望を確認します。
卒業時期の確定	対象学生への意志確認 ①対象学生の意志確認ができ学生が前期末卒業を希望する場合、または、対象学生の意志確認が出来ない（連絡がつかない）場合 ⇒ 9 月 10 日付で卒業となります。 ②対象学生より「翌年 3 月に卒業したい」旨の申請があった場合、定められた期間内に「翌年 3 月に卒業を希望する」旨の申請書（対象学生及び保証人の署名・捺印が必要）を学部長宛に提出する事により、翌年 3 月に卒業時期が変更となります。 ※後期分の学費の支払い義務が発生します。保証人と充分相談し、希望を決定してください。

8-3　前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願

前年度卒業延期者が通年科目を再履修して前期末卒業を希望する場合は、その科目の履修届を提出するだけでなく、「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を必ず提出しなければなりません。（用紙は事務部にあります。）

（手続き）

卒業延期者のうち、通年科目を前年度までに少なくとも 1 年間履修した単位未修得の科目について、前期の履修登録期間中に「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を 1 科目につき 1 部ずつ事務部に提出してください。

①通年科目であれば必修科目・選択科目を問いません（前年度に出席し、試験を受け不合格となった科目に限ります）。

②半期（後期）科目はこの手続きの対象外です。

提出締切後、事務部で一括して学科長の承認を受けます。

修得できた科目の単位は、前期末卒業の可否にかかわらず、修得科目として卒業所要単位数に算入されます。

学生ポータルサイト
「DENDAI − UNIPA」

操作マニュアル

（「シラバス閲覧」「履修登録」
「授業資料のアップ・ダウンロード」「成績確認」等）

2014年4月版

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」

目次

■ 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」
1. 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」について …… 42
2. 「DENDAI − UNIPA」閲覧可能パソコンについて …… 42

■ 「DENDAI − UNIPA」へのアクセス・ログイン
1. 「DENDAI − UNIPA」へのアクセス・ログイン方法 …… 43
2. 「DENDAI − UNIPA」の画面構成 …… 45
3. 注意事項 …… 46

■ 掲示情報の確認
1. 掲示について …… 48

■ シラバスの閲覧
1. オンラインシラバスについて …… 49
2. シラバスの閲覧方法 …… 50
3. 他画面からのシラバス参照 …… 52

■ Ｗｅｂによる履修登録方法
0. 全体の流れ …… 53
1. 「DENDAI − UNIPA」へのログイン …… 54
2. 履修希望科目の選択 …… 55
3. エラーチェック …… 57
4. 履修登録の確定 …… 59
5. 進級・卒業見込判定 …… 60
6. 履修登録科目の確認方法 …… 61
7. 履修登録に関するFAQ …… 62

■ クラスプロファイル
1. クラスプロファイルについて …… 64
2. 授業資料のダウンロード方法 …… 66
3. 授業課題の提出方法 …… 67

■ 出席確認
1. 出席情報の確認について …… 69

■ 成績確認
1. 成績の確認について …… 71

■ その他の主な機能
1. 個人別情報について …… 72
2. メール設定について …… 73
3. 時間割について …… 74

学生ポータルサイト 「DENDAI − UNIPA」

1. 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

本学で学生生活を送るためには必ず使用することになります。

また、個別の学生呼出しなども「DENDAI − UNIPA」上で行いますので、1日に複数回、確認するよう心がけてください。

なお、学生の時間割確認・成績照会・出席情報については、保証人も閲覧できるように、入学時の前期の成績通知までに ID を発行しております。

2.「DENDAI − UNIPA」閲覧可能パソコンについて

「DENDAI − UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコンであれば、学内外を問わず自由に閲覧することができます。

動作環境について

Internet Explorer 7/8/9/10、Mozilla Firefox、Safari 5.1、Chrome のブラウザで動作確認をしています。

※ Mozilla Firefox、Chrome は最新版の利用を推奨します。

本文中に記載の「画面デザイン」や「メニュー（機能）構成」等は今後変更等になる場合があります。

「DENDAI – UNIPA」へのアクセス・ログイン

1.「DENDAI – UNIPA」へのアクセス・ログイン方法

1 **学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセスします。**
https://portal.sa.dendai.ac.jp/

2 **ログイン画面が開きます。**

3 **User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、** ログイン **をクリックします。（図 1）**

※ ログインには本学のネットワークを利用するための ID（学籍番号）およびパスワードが必要です（例：14ee999　※学籍番号の英字部分は小文字で入力してください。）。
※ 新入生への初期パスワードは入学時にお知らせいたします。

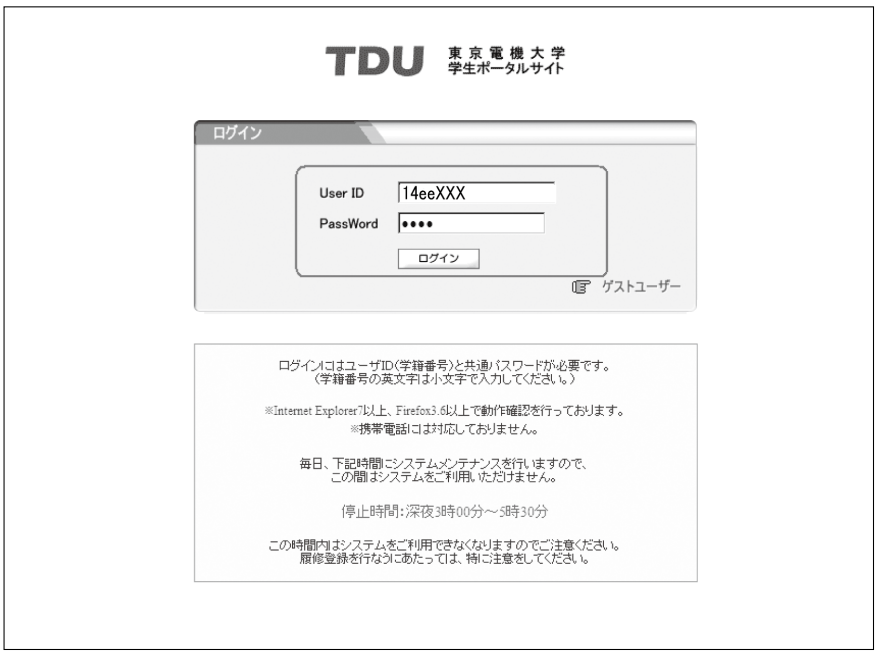


図 1　ログイン画面

4　入力した学籍番号やパスワードに誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されます。（図 2）

正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は総合メディアセンターまたは事務部に申し出てください。

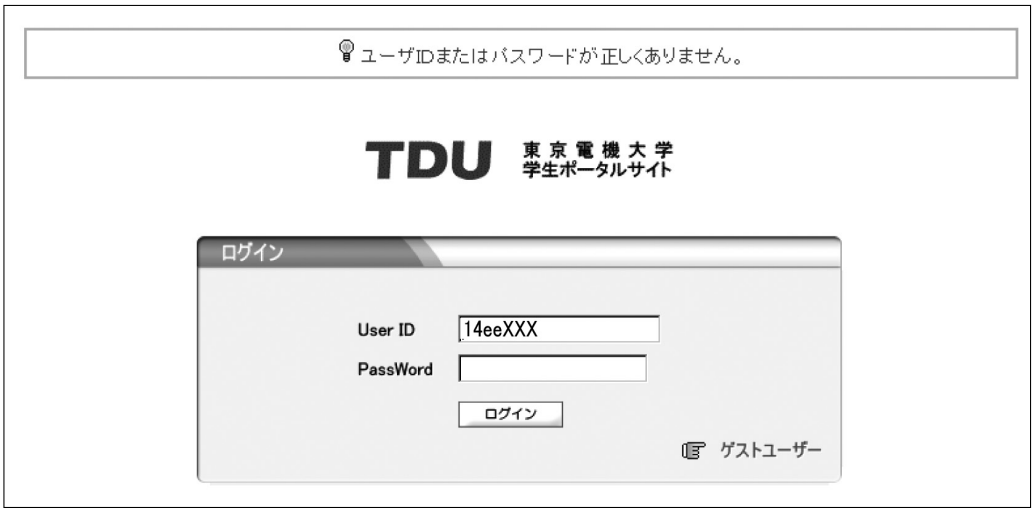


図 2　ログインエラー表示

2.「DENDAI － UNIPA」の画面構成

① メニュー
各種機能のメニューです。項目は変更する場合があります。

② トップページ切り替えタブ
トップページの画面を切り替えることができます。
ポータル お知らせ・スケジュール・授業情報などが表示される画面です。
クラスプロファイル 授業ごとに様々な機能を使用することができます。
マイステップ 自分自身の学習記録を記録することができます。（教職カルテなど）

③ お知らせ
各種掲示情報や学生呼出、授業の休講・補講・教室変更、ガイダンス情報、履修に関する連絡等、大切な情報が表示されます。

④ スケジュール・授業情報
大学側があらかじめ登録した学内のイベント・授業情報等のスケジュールが確認できます。
また、**スケジュール** ボタンから自分の予定を登録することもできます。

⑤ お気に入り
大学側があらかじめ設定したリンクのほか、**編集** ボタンから自分のお気に入りのWeb サイトの登録ができます。



図３ トップページ（ポータル画面）

3. 注意事項

(1) セッションタイムアウト

ログインしてから 30 分間操作がない場合、自動的に接続が切断され、再度ログインが必要になります。履修登録の際は特にご注意ください。



図 4　セッションタイムアウト

(2) システムメンテナンスによる停止

毎日午前 3：00 から 5：30 に、システムメンテナンスを行います。
この時間帯は「DENDAI – UNIPA」を使用することはできません。
その他、臨時メンテナンスを行う場合があります。

(3) 前の画面に戻る

前の画面に戻る場合、必ず「DENDAI – UNIPA」の画面内の 戻る ボタンを使用してください。

画面内に 戻る ボタンがない場合は、画面上部の **ホーム** ボタンや、各種メニュータブから元の機能に戻ってください。

ブラウザの「戻る」機能では、ブラウザによっては「Web ページの有効期限が切れています」などが表示される場合があります。

(4) ポップアップブロック

「DENDAI – UNIPA」では、ポップアップ画面として表示される画面がいくつかあります。操作方法どおりに操作しても次の画面が表示されない場合、ブラウザのポップアップブロック機能が働いている可能性が考えられます。

そのような場合、ポップアップブロック機能を解除する必要があります。お使いのブラウザによって設定方法が異なりますので、ログイン画面下部の「ポップアップブロックについて」を参照してください。



掲示情報の確認

1．掲示について

1．掲示について

東京千住キャンパスでは、学生への連絡を「DENDAI － UNIPA」上で掲示します。掲示には、学生個人宛のもの、該当する学年・学科宛のもの、対象科目を限定したものなどの種類がありますが、全て関係のあるものが配信されますので、一日に複数回「DENDAI － UNIPA」を確認してください。



掲示情報画面

※　各種手続き等の方法や期間などが掲示されますので、毎日必ず確認してください。
※　大学からメールや電話で連絡が届く場合もありますが、原則的には「DENDAI － UNIPA」での掲示にて各種連絡を行います。

シラバスの閲覧

1．オンラインシラバスについて

1．オンラインシラバスについて

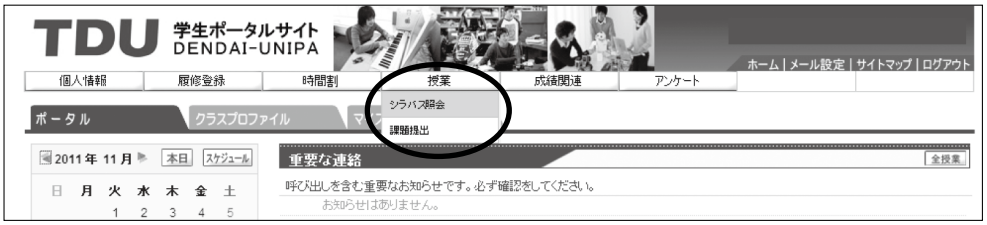
授業担当教員が作成する講義要目（シラバス）は、オンライン（Web）のみから閲覧することができます。

シラバスには、科目名、単位数、担当教員名、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）、クラス分け情報、ガイダンス情報 等が掲載されています。授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するためによく確認してください。授業の進度に応じて、シラバス内容を更新する場合もあるので、常時確認してください。

2. シラバスの閲覧方法

1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセス、ログインします。
https://portal.sa.dendai.ac.jp/

2 画面上部のメニューから 授業 ⇒ シラバス照会 をクリックしてください。



3 シラバス検索画面が開きます。
科目名称／教員氏名／曜日時限／キーワード（シラバスの全文検索ができます）の一部または全部を入力し、検索 をクリックしてください。



※ シラバス検索画面の【学科組織】欄にはログインしている学生の所属が自動的に選択されます。
他学部や大学院のシラバスを検索したい場合などは、【学科組織】欄を変更してから検索してください。

※ うまく検索結果が表示されない場合、【教員氏名】などの語句を全角カタカナで入力することを推奨します（漢字の表記の違いによる検索漏れを回避できます）。

4 検索結果画面に科目が表示されますので、目的の科目名をクリックしてください。

シラバス検索>**検索結果**　戻る

検索条件　開講:2012年度
教員氏名:フジタ サトシ

開講曜日	科目名	教員氏名	開講区分	学年	開講学期	単位数
水3	1102861001 機械系入門	藤田 聡	週間授業		2012前期	2.0単位
水6	11N1281001 振動工学II	藤田 聡	週間授業		2012前期	2.0単位
木3	1102831002 機械・構造物のダイナミクス	藤田 聡	週間授業		2012前期	2.0単位
木3 木4	1104451001 振動学および演習	藤田 聡	隔週偶数週間授業		2012前期	3.0単位
土5	11N2031001 東京電機大学で学ぶ	藤田 聡	週間授業		2012前期	2.0単位
	12M082H012 機械工学グループ輪講I	藤田 聡	集中講義		2012前期 2012後期	2.0単位
	12M085C001 機械工学特別演習II	藤田 聡	集中講義		2012前期	2.0単位
	12M086H012 機械工学特別研究I	藤田 聡	集中講義		2012前期 2012後期	6.0単位
月4	12M1622001 振動工学特論	藤田 聡	週間授業		2012後期	2.0単位
月6 金7	11N1272001 振動工学および演習	藤田 聡	週間授業		2012後期	3.0単位
木3	1102062001 応用振動学	藤田 聡	週間授業		2012後期	2.0単位
木4	1102922002 機械工学輪講	藤田 聡	週間授業		2012後期	2.0単位
	110489C009 卒業研究	藤田 聡	集中講義		2012後期	6.0単位
	11N1403002 卒業研究B	藤田 聡	集中講義		2012後期	6.0単位

14件 |< < 1/1 ページ > >| **1**

5 選択した科目のシラバスが表示されます。

シラバス検索>>検索結果>シラバス照会　戻る　印刷　画面下へ

授業コード	1102062001
授業名	応用振動学
英文名	Application of Vibration
開講年度学期	2012年度 後期
単位数	2.0
主担当教員	藤田 聡
副担当教員	

目的概要	振動学の講義に引続き、線形2自由度系の振動、線形多自由度系の振動、モード解析の基本、能動的制御手法等について講義する。講義では、可能な限り実際の耐震設計の様子や、振動工学の現実への適用例をビデオやOHPを用いて紹介する。また、非線形系の応答解析を含めて、数値計算法についても講義する予定である。

※　クラス分け情報、ガイダンス情報（シラバス下部）に指示が記載されている場合がありますので、学期開始前から履修登録期間の間は、よく確認してください。

3. 他画面からのシラバス参照

オンラインシラバスは、「履修登録画面」「学生時間割画面」「クラスプロファイル」からも参照することができます。科目名をクリックすると、シラバス画面が開きます。

履修登録中／履修登録後に自分の履修予定／履修済の授業内容を確認したい場合は、上記各メニューの画面から閲覧すると便利です。

Web による履修登録方法

0. 全体の流れ

履修登録は、原則として学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」上で行うことになります。履修登録は以下のような手順で行います。

1 「DENDAI − UNIPA」へのログイン

2 履修希望科目の選択

3 エラーチェック

4 履修登録の確定

5 進級見込判定・卒業見込判定

6 履修登録科目の確認方法

7 履修登録に関する FAQ

1.「DENDAI – UNIPA」へのログイン

学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセス、ログインします。

https://portal.sa.dendai.ac.jp/



※ 「DENDAI – UNIPA」は、ログイン後 30 分間操作がないとタイムアウトになり、再度ログインが必要になります。
確定前の履修登録情報が消えてしまう可能性がありますので、あらかじめ紙に履修計画を書くなどしてから履修登録を行ってください。

2. 履修希望科目の選択

1 「履修登録」画面の選択

画面上部のメニューから **履修登録** をクリックします。(図 1)



図 1　メニュー

2 授業時限の選択

編集したい授業時限のコマの中の選択ボタンをクリックします。(図 2)

※集中講義は画面左下の **集中講義** にある選択ボタンから履修できます。



図 2　履修登録画面

3　履修可能科目から科目を選択

「授業の追加」画面に開講科目が表示されますので、履修したい科目にチェックを入れて **確定** をクリックします。（図 3）

※　同じ科目名が複数ある場合は、ガイダンスの指示やシラバスのクラス分け情報、掲示などで教員氏名をよく確認してから選択してください。
※「授業の追加」画面では、科目名をクリックすることでシラバスを確認できます。



図 3　授業の追加画面

4　選択した科目の確認および取消方法

「授業の追加」画面で追加した科目が、履修登録画面に表示されているか確認します。（図 4）

科目を取り消す場合は **削除** をクリックします。

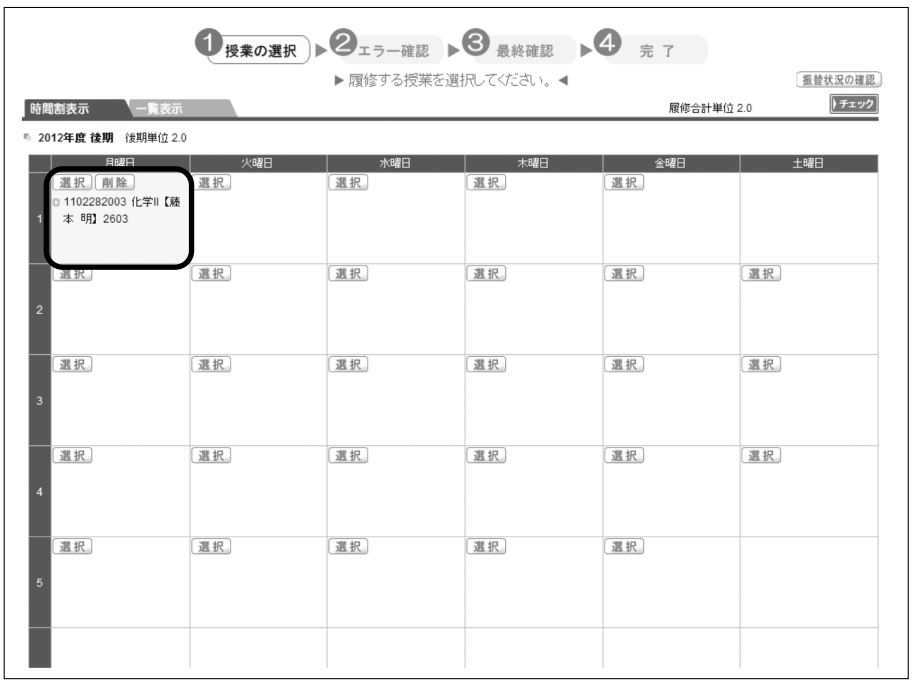


図 4　履修した科目の確認

3. エラーチェック

1　履修希望科目を全て選択したら、チェック ボタンをクリックします。

何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割の曜日時限コマがピンク色に表示されます。（図 5）

2　エラーメッセージが出た場合は、画面上部の［登録内容にエラーがあります］のメッセージをクリックし、「エラー内容の確認」画面でエラー内容を確認の上、修正をしてください。（図 6）

3　エラーがなくなるまでチェックを繰り返します。

※エラー内容について不明な点がある場合は、速やかに事務部に申し出てください。

4　エラーが全てなくなると最終確認に進みます。

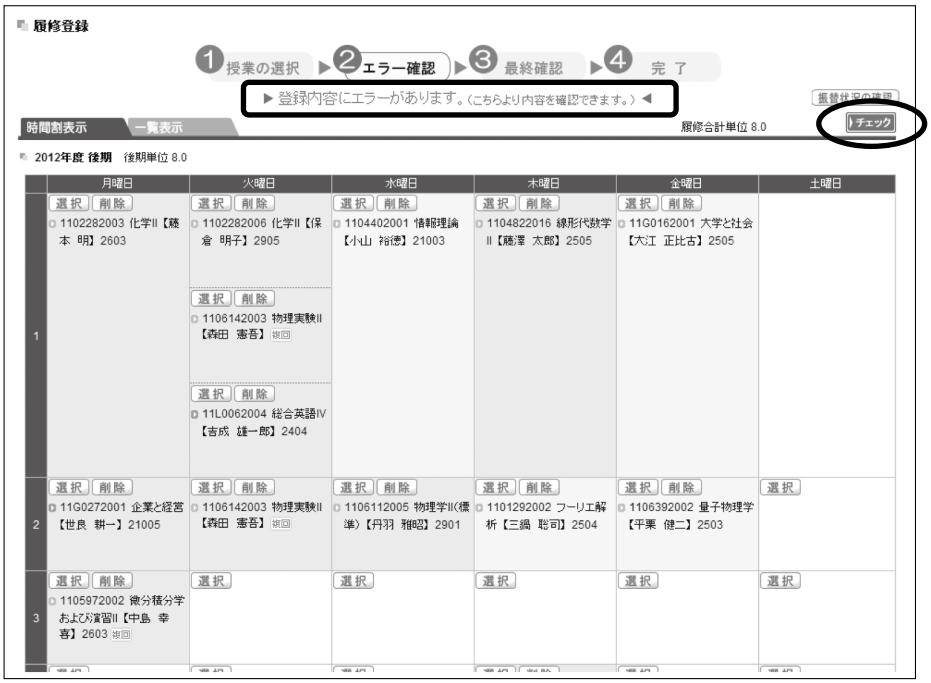


図 5　チェック後の画面（エラーあり）

※　エラーが出ている場合は、登録が未完了です。必ずエラーは修正してください。
※　エラーの修正を試みてもエラーが消えない場合には放置せず、履修登録期間内に事務部まで申し出てください。

主なエラーメッセージの例

【同名科目（または同一科目）を複数履修している場合】

⇒「既修得。」

⇒「科目重複。同じ科目がすでに登録されています。」

⇒「複数回修得不可の科目を複数回履修しています。」

⇒「同じ振替科目を複数履修することは出来ません。」

【同じ曜日時限に履修することが出来ない複数の科目を選択している場合】

⇒「時間割重複。」

【履修上限単位数を超えて履修登録をした場合】

⇒「履修できる単位数は○○単位までとなります。」



エラー内容の確認

閉じる

基本、条件エラー

授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
1102512002	2012年度 後期	金4	回路理論II【西方 正司】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512004	2012年度 後期	火4	回路理論II【飯田 祥二】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512003	2012年度 後期	金4	回路理論II【大内 幹夫】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1104822016	2012年度 後期	木1	線形代数学II【藤澤 太郎】	2.0	既修得。
1106112012	2012年度 後期	金3	物理学II(標準)【桃沢 信幸】	2.0	既修得。
1105972002	2012年度 後期	月3 木4	微分積分学および演習II	4.0	既修得。

制限エラー

制限エラーはありません。

図６ 「エラー内容の確認」画面

4. 履修登録の確定

エラーチェックの結果、エラーがなければ チェック ボタンが 確 定 ボタンに変わり、画面上部には［エラーはありません。］のメッセージが表示されます。（図 7）

履修登録画面に表示されている科目・担当教員氏名に間違いがないかどうか再度確認し、修正したい場合は「授業の選択へ戻る」ボタンを、修正が必要ない場合は 確 定 ボタンをクリックします。



履修を一度確定した後も、履修登録期間内であれば履修内容の変更は可能です。

図 7　チェック後の画面（エラーなし）

※ 「確定」をクリックする前に、登録漏れがないかを確認してください。

5. 進級見込判定・卒業見込判定

1 年～ 3 年次生は［進級見込判定］、4 次生は［卒業見込判定］を行うことができます。

1　画面上部のメニューから 成績関連 → 卒業見込判定 または 進級見込判定 を選択してください。（図 8）

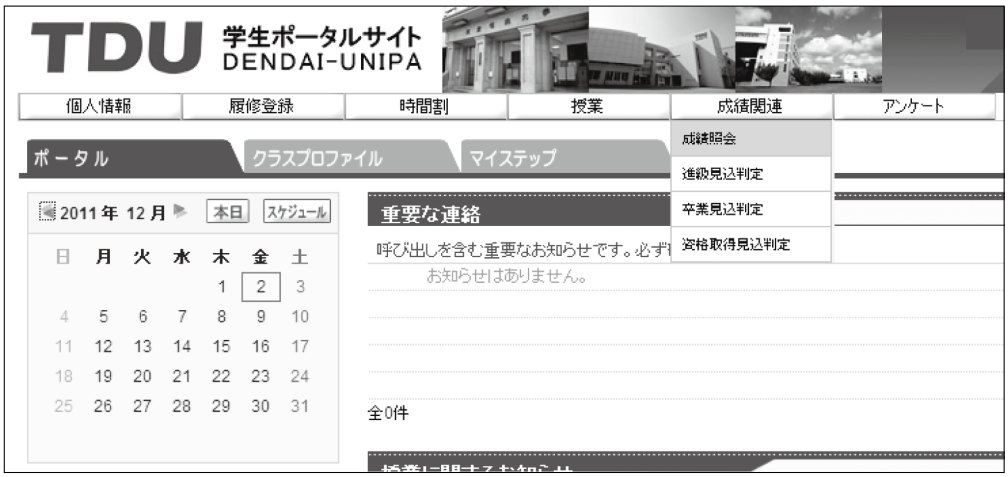
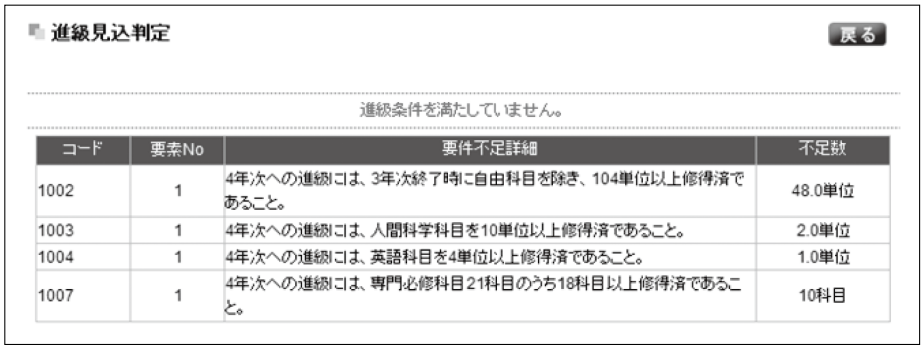


図 8　進級・卒業見込判定選択

2　判定結果が表示されます。（図 9）

単位数や科目数の不足が表示された場合は、不足を補うよう履修計画を立ててください。



コード	要素No	要件不足詳細	不足数
1002	1	4年次への進級には、3年次終了時に自由科目を除き、104単位以上修得済であること。	48.0単位
1003	1	4年次への進級には、人間科学科目を10単位以上修得済であること。	2.0単位
1004	1	4年次への進級には、英語科目を4単位以上修得済であること。	1.0単位
1007	1	4年次への進級には、専門必修科目21科目のうち18科目以上修得済であること。	10科目

図 9　進級見込判定結果

※　進級・卒業見込判定は何度でも行うことができます。履修登録内容を変更するたびに見込判定画面を確認することをお勧めします。
※　判定は、履修登録した科目を全て修得した場合に、各判定の要件を満たすか否かを表示する機能です。

6. 履修登録科目の確認方法

履修登録を確定すると、[履修登録が完了しました。]のメッセージと **時間割の印刷** ボタンが出現します。(図 10)

履修内容の確認のために、必ず「時間割表の印刷」ボタンでプリントアウトを行い、各自保管してください。

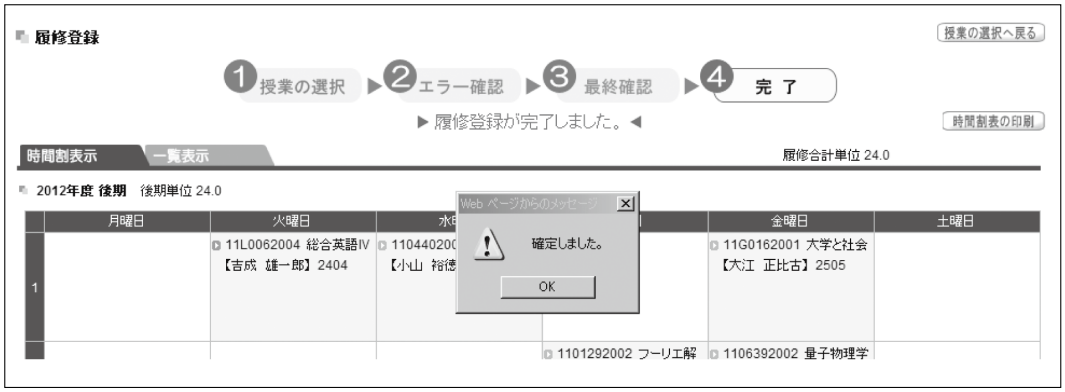


図 10　履修完了画面

※　履修する科目全てについて、科目名・曜日時限・担当教員名、クラス等に誤りがないかを確認してください。履修登録していない科目は採点の対象とならないため、単位を修得することはできません。

7. 履修登録に関する FAQ

Q　携帯電話等から履修登録できますか？
A　動作確認されていません。動作確認済みの環境で履修登録してください。

Q　履修登録できない科目がある。
A　すでに修得している、時間割上重複している、カリキュラム年度が異なる等、さまざまな理由が考えられます。事務部に申し出てください。

Q　何度修正してもエラーメッセージが消えない。
A　そのまま放置せずに、速やかに事務部に申し出てください。

Q　午前 3 時～ 5 時 30 分の間は履修登録期間であっても履修登録ができないのですか？
A　システムメンテナンスを行っていますので、履修登録はできません。

Q　必修科目も履修登録するのか？
A　履修登録を行ってください。ただし、卒業研究などの一部の科目は学科・コースにて登録します。

Q　再履修はどのように履修登録するのか？
A　新規履修と同様に履修登録を行ってください。また授業内・シラバス・掲示などで指示がある場合はそれに従ってください。

Q　履修登録したはずなのに、確認画面に載っていないのはなぜか？
A　履修登録画面で「チェック」または「確定」をクリックしていない可能性があります。「チェック」または「確定」をクリックしないと、選択内容は登録されません。

Q　履修登録後に登録間違いに気がついた
A　一度履修確定した後も、履修登録（履修登録修正）期間内であれば、履修内容の変更は可能です（一部科目を除く）。期間終了後は変更が不可能ですので、ご注意ください。

Q　Ｗｅｂ履修登録中（ログイン中）に履修登録受付終了時間となったが、履修登録は可能なのか？
A　ログイン中であっても、履修登録受付終了時間を過ぎると、履修登録は不可能となります。時間の余裕をもって履修登録をしてください。

Q　授業担当教員が履修登録を許可しているのに、履修登録できない科目がある。
A　事務部に申し出てください。

履修登録用 下書き

※ あらかじめ履修計画を立ててから履修登録を行うことをお勧めします。

【前期】（通年）

時限	月	火	水	木	金	土

集中講義	

【後期】（通年）

時限	月	火	水	木	金	土

集中講義	

クラスプロファイル

1. クラスプロファイルについて

クラスプロファイルは、履修している授業について、授業資料のダウンロードや課題の提出などができる機能です。

教員からの指示等に応じて、クラスプロファイルの各機能を使用してください。

1 「DENDAI-UNIPA」にログインし、トップページから クラスプロファイル をクリックします。

2 画面左の①曜日リストから曜日を選択すると、その曜日に履修している授業科目が表示されます。

［課題管理］に新着情報がある場合は授業名の右に★が表示されます。
科目名をクリックすると、②授業表示欄に表示されます。

3 画面中央の③アプリケーションエリアから、使用したい機能のボタンをクリックします。



※ 履修登録を行っていない授業科目については、クラスプロファイル機能を使用することができませんのでご注意ください。
※ クラスプロファイルの各機能は、追加・削除を行う場合があります。
※ クラスプロファイルの閲覧、データのダウンロードなどは当該科目の学期最終週後に使用できなくなります。必要な資料は各自の環境に保存してください。

2. 授業資料のダウンロード方法

教員が「DENDAI – UNIPA」上にアップロードした授業資料をダウンロードすることができます。（履修登録した学生のみ）

1 **曜日リストから授業を選択し、アプリケーションエリアから 授業資料 をクリックすると、選択した授業の資料が一覧で表示されます。**



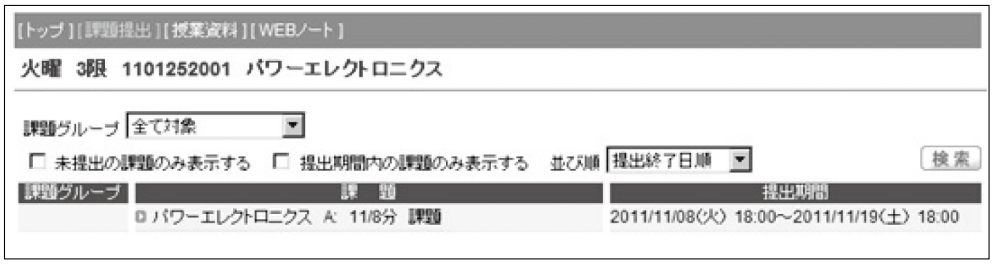
2 **授業資料一覧画面でタイトルをクリックすると、下に詳細情報が表示されます。ファイル名の右の ⬇ をクリックすると資料をダウンロードできます。**



3. 授業課題の提出方法

教員から出された課題を「DENDAI － UNIPA」上で確認・提出することができます。

1 アプリケーションエリアの **課題提出** をクリックすると、選択した授業に課題があれば、課題の一覧が表示されます。



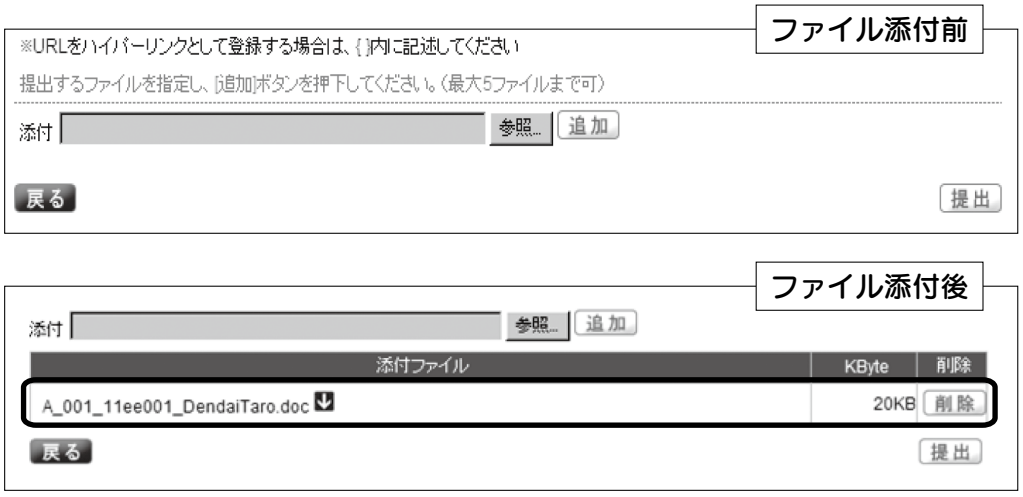
2 課題一覧画面で課題名をクリックすると、次画面に教員の登録した課題の詳細内容が表示されます。教員が添付ファイルを登録した場合は、この画面に表示されます。



3 **「提出」欄では「コメント」もしくは「添付ファイル」で課題の提出を行います。**
添付ファイルで提出する場合は、**参照** をクリックします。

4 **添付するファイルの選択をした後、必ず 追加 をクリックします。 追加 をクリックすると、下に添付したファイル名が表示されます。**

※ 教員が設定した提出可能ファイル数によっては、ファイルを複数添付することも可能です。(1 ファイルにつき 10MB がアップロードできる上限です。)
なお、拡張子のないファイルや、exe 形式のファイルは添付できません。



5 **最後に右下の 提出 をクリックします。**

6 **課題の提出後は、課題一覧画面に提出日時が表示されます。**
必ず提出できているか否か(添付資料がある場合、アップロードされているか否か)を自身で確認してください。

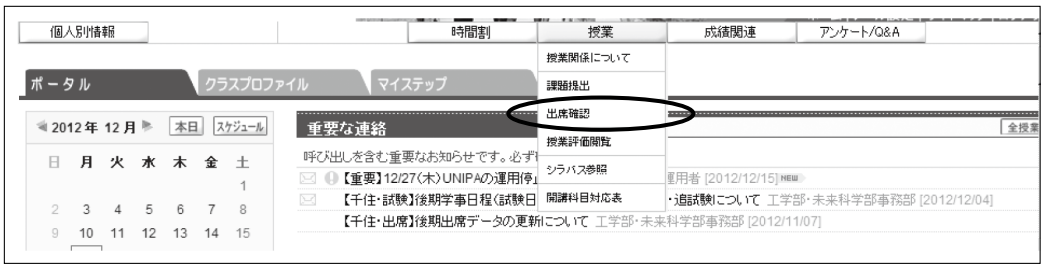
7 **課題によっては、提出後、提出期限内であれば修正することができます。**
その場合は、上記の提出日時をクリックし、課題の修正を行い、再度 **提出** をクリックしてください。

出席確認

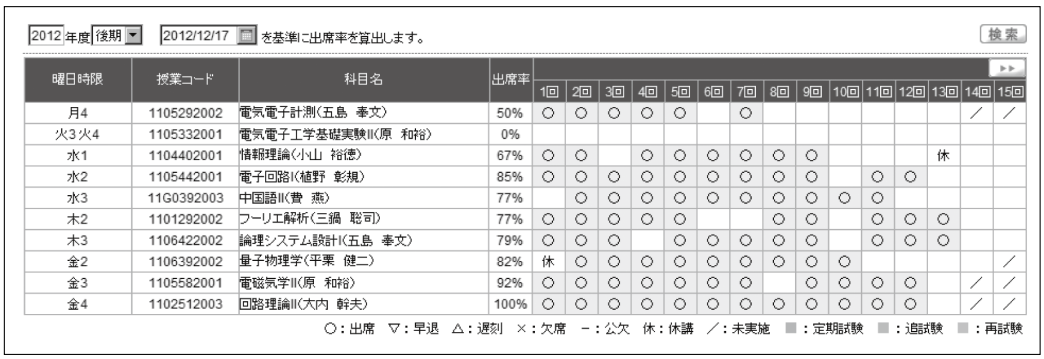
1. 出席情報の確認について

学生証による出席管理が可能な教室で授業を行っている科目については、出席情報を「DENDAI－UNIPA」で確認することが出来ます。出席管理と学生証の操作方法については、第 1 章 1-4 を参照してください。

1　画面上部のメニューから 授業 → 出席確認 をクリックすると、出席状況が表示されます。



2　出席確認画面で、反映されているデータを確認することが出来ます。



曜日時限	授業コード	科目名	出席率	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
月4	1105292002	電気電子計測(五島　奉文)	50%	○	○	○	○	○		○							／	／
火3 火4	1105332001	電気電子工学基礎実験II(原　和裕)	0%															
水1	1104402001	情報理論(小山　裕徳)	67%	○	○		○	○	○	○	○	○				休		
水2	1105442001	電子回路I(植野　彰規)	85%	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
水3	11G0392003	中国語II(費　燕)	77%		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
木2	1101292002	フーリエ解析(三鍋　聡司)	77%	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○		
木3	1106422002	論理システム設計I(五島　奉文)	79%	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○		
金2	1106392002	量子物理学(平栗　健二)	82%	休	○	○	○	○	○	○	○	○	○					／
金3	1105582001	電磁気学II(原　和裕)	92%	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		／	／
金4	1102512003	回路理論II(大内　幹夫)	100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		／	／

出席情報の確認画面

※　出席情報が反映されるのは、履修登録が完了した後です。学期の初めのうちは、出席情報が反映される科目とされない科目があります。出席情報が正確に反映される準備が整った後、掲示にてその旨周知します。それまでは暫定的な情報としてご確認ください。

※　その他、次ページ「よくある質問」を参照してください。

出席確認に関するよくある質問

Q　出席データはいつUNIPAへ反映されますか？
A　原則授業日の翌日午前5時30分にUNIPAへ反映されます。

Q　学生証をタッチしましたが出席になっていないのはなぜですか？
A　①当該授業であると認識できる範囲は、授業開始の10分前から授業終了までです。そのため、授業開始の10分以上前にタッチしてしまうと出席として扱われません。学生証をタッチした時間については、入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム※）より確認できます。
学籍番号と共通パスワードを入力後、メニューの「出席管理」→「あなたの足跡」を選択すると別ウィンドウが開きますので、「読取日」に確認したい日付を設定し、「レポートの表示」をクリックしてください。10分以上前にタッチしてしまったことが確認できた場合は、画面のハードコピーを印刷し授業担当教員に相談してください。
②出欠を厳格に管理されている先生の場合、タッチされた時間や授業態度等を基にUNIPAの出席記録を修正されることがあります。身に覚えがある場合は授業担当教員に質問してください。

Q　連続した授業は最初のコマの部分しか出席が反映されないのですか？
A　はい。その通りです。他方、出席率はコマ数を基準に計算されます。
例えば月曜日3、4限の授業に全て出席した場合の出席率は原則的に「50%」と表示されます。

Q　授業に出席しましたがMARCOシステムにも反映されていません。どうすればよいですか？
A　学生証が正しく認識されなかった可能性がありますので授業担当教員に相談してください。
その際、授業当日のノート、配布物等を事前に用意しておいてください。なお、事務部では出席の確認は行えませんのでご了承ください。

Q　学生証を忘れてしまったのですが、どうすればよいですか？
A　2号館1階の受付にて学生証忘れカードの発行を行ってください。当日はそのカードを使用してください。

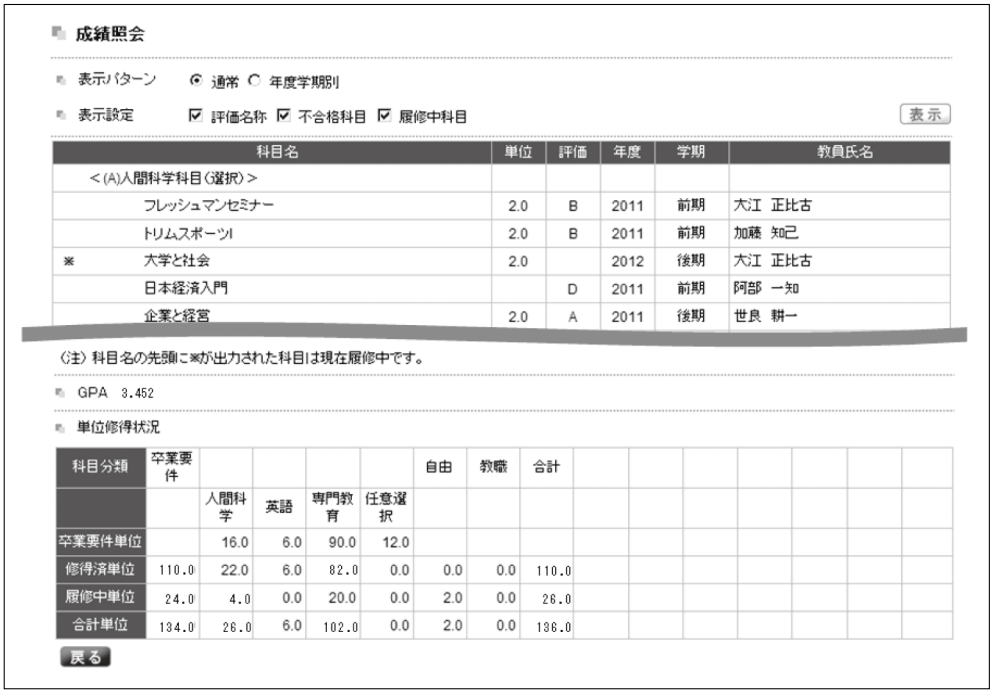
※入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム）
https://marco.ms.dendai.ac.jp/

成績確認

1. 成績の確認について

自分の成績を「DENDAI − UNIPA」で確認することが出来ます。

1　画面上部のメニューから 成績関連 → 成績照会 をクリックすると、成績照会画面が表示されます。



成績照会

表示パターン　◉ 通常　○ 年度学期別

表示設定　☑ 評価名称　☑ 不合格科目　☑ 履修中科目　表示

	科目名	単位	評価	年度	学期	教員氏名
	＜(A)人間科学科目(選択)＞					
	フレッシュマンセミナー	2.0	B	2011	前期	大江　正比古
	トリムスポーツI	2.0	B	2011	前期	加藤　知己
※	大学と社会	2.0		2012	後期	大江　正比古
	日本経済入門		D	2011	前期	阿部　一知
	企業と経営	2.0	A	2011	後期	世良　耕一

(注) 科目名の先頭に※が出力された科目は現在履修中です。

GPA　3.452

単位修得状況

科目分類	卒業要件					自由	教職	合計							
		人間科学	英語	専門教育	任意選択										
卒業要件単位		16.0	6.0	90.0	12.0										
修得済単位	110.0	22.0	6.0	82.0	0.0	0.0	0.0	110.0							
履修中単位	24.0	4.0	0.0	20.0	0.0	2.0	0.0	26.0							
合計単位	134.0	26.0	6.0	102.0	0.0	2.0	0.0	136.0							

戻る

※　「単位修得状況」欄の卒業要件は学部・学科 (コース) により異なります。

その他の主な機能

1. 個人別情報について

自分の個人情報を「DENDAI － UNIPA」で確認することが出来ます。

1　画面上部のメニューから 個人別情報 → 学籍情報照会 をクリックすると、学籍情報照会画面が表示されます。

【主な情報】

・氏名、住所、保証人の連絡先など、個人に関する情報
・学科、学年、カリキュラム年度など、学籍に関する情報
・過去の GPA 値など、学業に関する情報
※項目は追加・削除される場合があります。


学籍情報照会

戻る

学生基本情報

学籍番号	
学生氏名	
カナ氏名	
英語氏名	
旧姓氏名	
旧姓氏名(カナ)	
性別	男性
生年月日	
所属学科組織	大学 E EC
カリキュラム学科組織	E C
学年	3
国籍	日本
異動履歴	進級(2012年04月01日)
就学種別	一般入学生
入学期NO	1
カリキュラム年度	2010
入学年度	2010
入試種別	公募制推薦入試
セメスタ	
入学日付	2010年04月01日
出学日付	
卒業・修了予定年月	2014年03月
修了予定日	
専攻コース種別	履修上限単位数

個人情報照会画面

※　住所や保証人の連絡先など、個人に関する情報が変わった場合は、速やかに学生支援センターに申し出て変更手続きを行ってください。

2. メール設定について

メールアドレスの登録を「DENDAI – UNIPA」で行うことが出来ます。

1　画面上部のメニュー項目の上にある メール設定 をクリックすると、メールアドレスの登録が表示されます。

「受信メールアドレス (PC)」には、大学から付与される学籍番号がついているメールアドレスが設定されています（変更不可）。

このアドレスのほか、「受信メールアドレス (携帯)」の欄にメールアドレスを登録することが可能です（「携帯」とありますが、携帯電話のメールアドレス以外でも登録可）。



メールアドレス設定画面

※　掲示情報は原則として「DENDAI – UNIPA」のみに配信されますが、急を要するものや重要度の高い掲示はメールアドレスにも同時配信されることがあります。

3. 時間割について

時間割情報を「DENDAI － UNIPA」で確認することが出来ます。

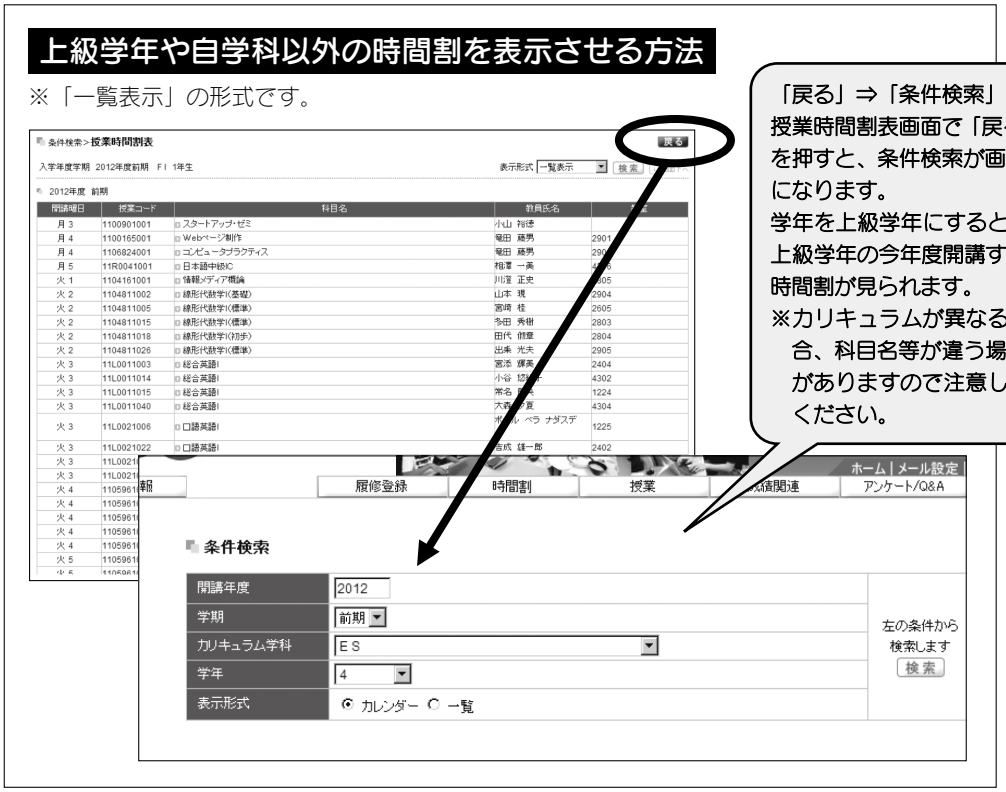
1　画面上部のメニューから 時間割 をクリックすると、時間割メニューが複数表示されます。

時間割は「カレンダー表示」または「一覧表示」で見ることが出来ます。

時間割の種類	表示される内容
学生時間割表	履修登録をした科目が表示される時間割。 履修確定前でも、履修状態にある科目は表示されます。
教員時間割表	教員ごとの時間割表を検索することが出来ます。
授業時間割表	自分のカリキュラム、自分の所属する学年次以下の科目が全て表示されます。

上級学年や自学科以外の時間割を表示させる方法

※「一覧表示」の形式です。



※　時間割を見る際は、授業担当教員名の間違い等がないように注意してください。特に自分の学年以外の科目・他学科の科目などを見る際は、学生要覧の「授業科目配当表」なども確認し間違いのないように気をつけてください。

共通教育科目

【人間科学科目】

・教育課程編成・実施の方針
（カリキュラムポリシー）
・教育目標と理念
・履修モデル
・授業科目配当表

【英語科目】

・教育課程編成・実施の方針
（カリキュラムポリシー）
・教育目標と理念
・履修モデル
・授業科目配当表

【数学科目】

・教育課程編成・実施の方針
（カリキュラムポリシー）

【物理学科目】

・教育課程編成・実施の方針
（カリキュラムポリシー）

【化学科目】

・教育課程編成・実施の方針
（カリキュラムポリシー）

共通教育の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

＜人間科学科目＞

工学部の人間科学科目は、今日の科学技術者に必要な基礎的な能力と幅広い教養を身につける科目です。そのため、7つの科目区分を設け（スキル・キャリア、コミュニケーション、スポーツ・健康、人間理解、社会理解、異文化理解、技術者教養）、学生がバランスよく学習できるように教育課程を編成し、実施します。

＜英語科目＞

工学部の英語科目は、国際人として必要な英語のコミュニケーションの基本を身につけること、及び将来エンジニアとして自分の考えを発表し伝達しようとする積極的態度を涵養することを柱とし、学生によって異なる英語力に対応するために、基幹科目と発展科目を学習できる教育課程を編成し、実施します。

基幹科目では、英語の総合的な能力の涵養を図ります。発展科目では、アカデミックな話す力、聴く力、読む力、書く力など、技能別スキルの向上を図ります。

＜数学科目＞

工学部の数学科目は、科学技術者となるために必要不可欠な基礎的数学を柱として、それぞれの専門分野に関連の深い専門的な数学を学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

＜物理学科目＞

工学部の物理学科目は、理工系専門科目の理解に必要不可欠な質点力学を柱とする基礎物理学を体系的に学べるように、さらに、自然法則の確認と測定技術の修得を目指す実験科目を学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

＜化学科目＞

工学部の化学科目は、専門科目を履修するための基礎となる化学の原理や理論を確実に修得させることを柱とし、（1）実験科目を通じて基礎的な実験技術を習熟させ、（2）創造的なものづくりへの意欲を育み、（3）化学的な知識や見方を身につけさせ、さらに（4）科学技術者として求められる問題解決力、課題探求力、表現力などを涵養するよう、教育課程を編成し、実施します。

人間科学系列の教育目標と理念

本学の理念である「技術は人なり」は、現在の社会において、いよいよ重要な意義を持ち始めている。人間科学系列は、技術者に必要な豊かな教養の修得と基礎的な訓練による「人」としての力の向上を教育の理念とする。まず、学びは、大学で完結するものではなく、むしろ社会に出てからいよいよその必要性が高まるものである。その意味で、大学在学中に、(1)自分で自分を教育することができる能力を習得することがまずは重要となる。その上で、(2)社会における一人の「人」として、自己自身を知って管理し、人々と適切に交流し、場面に応じて的確に判断し行動するために必要な思考能力と知識とを身につけなければならない。特に、(3)「技術」を持つ「人」としてこの社会の中で、自分自身の技術が持つ意義や役割について深く考え、判断し、的確な行動を取ることが出来るために修得すべき幾多の知識とスキルが必要である。人間科学系列では、以上の観点から、それぞれの目的に応じた科目を設置し、それを7つの科目に区分して提供する。

人間科学科目履修モデル

●進級条件と卒業条件

3 年次から 4 年次への進級条件	人間科学科目 10 単位以上を修得していること。
卒業要件	人間科学科目 16 単位以上（科目区分「技術者教養」に含まれる科目 2 単位を含む）を修得していること。

※ 2 年後期までに、履修できる全ての科目（技術者教養科目 1 科目を含む）に合格した場合には、卒業所要単位を修得できる。早期に卒業条件を満たすように、計画的に履修すること。
※「技術者教養」は必ず 1 科目（2 単位）修得すること。なお、「技術者教養」を複数科目修得した場合は、人間科学科目区分の卒業所要単位として認定される。
※ 16 単位を超えて修得した単位は「任意に選択し、修得した科目」の単位に算入される（電気電子システムコース：JABEE は除く）。

●履修上の注意

人間科学科目は、今日の技術者に必要な基礎的な能力と幅広い教養を身につけるため、各自の関心と必要に応じて多様な科目の中から選択して履修することができるようになっている。その利点を活かすため、自らを省みて、自分の得意分野を伸ばすとともに、不足している能力や知識を補い、バランスのとれた教養を身につけることができるように心がける必要がある。科目選択の参考のため、各科目区分の概要とその科目区分に含まれる科目を示す。（次頁参照）

人間科学科目　カリキュラムマップ

科目区分	概要	1年		2年		3年	4年
スキル・キャリア	大学で主体的に学ぶために必要な自己管理能力と学習スキルを身につける。卒業後の職業生活と大学での勉学の関連を意識し、大学で学ぶことの意義を自覚する。	フレッシュマンセミナー 東京電機大学で学ぶ	文章表現法（後）				
コミュニケーション	少人数クラスで、教員や他の受講者と親しく学ぶことにより、学習スキルとコミュニケーション能力を高める。					教養演習（発表の技法）	
スポーツ・健康	スポーツを通じて体力や健康度・生活習慣の向上を図るとともに、科学的根拠に基づいて健康的な生活や身体運動を実践する能力を高める。	健康と生活（前後）、スポーツコンセプト（前後）					
		トリムスポーツI	トリムスポーツII	スポーツ科学演習A（前）、スポーツ科学演習B（後）			
		アウトドアスポーツA（夏期集中）、アウトドアスポーツB（夏期集中）、アウトドアスポーツC（冬期集中）					
人間理解	哲学・心理・歴史・芸術などについて学ぶことにより、人間に関する理解を深める。	哲学入門（前後）、記号論理学（前後）、倫理学入門（前後） 自己心理学セミナー（前後）、人間関係の心理（前後）、認知心理学（前後） 歴史理解の基礎（前後）、芸術（音楽・美術）（前後）、グローバル社会の市民論（前後）					
社会理解	法律・政治・経済・経営・社会・福祉などについて学ぶことにより、社会に関する理解を深める。	法律入門（前後）、日本国憲法（前後）、国際政治の基礎（前後） 日本経済入門（前後）、企業と経営（前後）、企業と社会（前後） 大学と社会（後）、介護福祉論（前後）					
異文化理解	欧米やアジアの文化を日本の文化と比較しながら学び、異文化に関する理解を深める。	アメリカ理解（前）、ヨーロッパ理解（前後）、アジア理解（前後） ドイツ語Ⅰ（前）、ドイツ語Ⅱ（後） 中国語Ⅰ（前）、中国語Ⅱ（後） 比較文化論（前後）、武道と日本人のこころ（前後）					
技術者教養	技術者の実務に深く関わる様々なテーマ（倫理・法律・情報・環境・経営・社会など）について学び、技術者に必要とされる教養を深める。			技術者倫理（前後）、失敗学（前後）、情報倫理（前後） 製造物責任法（前後）、情報化社会と知的財産権（前後）、特許法（前後） 情報とネットワークの経済社会（前後）、科学技術と企業経営（前後） 情報化社会とコミュニケーション（前後）、コンピュータと人間社会（前後）、情報と職業（前後） 地球環境論（前後）、科学技術と現代社会（前後） 科学の社会史（前）、技術の社会史(後)		

注：かっこ内に「前」と書いてある科目は、前期に開講し、「後」と書いてある科目は、後期に開講します。また、「前後」と書いてある科目は、前期と後期に開講します。

2014（平成26)年度カリキュラム
工学部　人間科学科目　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考
共通教育科目	スキル・キャリアコミュニケーション	フレッシュマンセミナー	1	2	選	1	半期(前)	1年次前期のみ開講
		文章表現法	1	2	選	1後234	半期(後)	
		東京電機大学で学ぶ	1	1	選	1	半期(前)	e-Campus科目
		教養演習（発表の技法）	前1後1	2	選	34	通年	集中講義（演習形式）
	スポーツ・健康	健康と生活	1	2	選	全	半期(前/後)	
		スポーツコンセプト	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		トリムスポーツⅠ	2	2	選	1	半期(前)	
		トリムスポーツⅡ	2	2	選	1	半期(後)	
		スポーツ科学演習A	1	2	選	234	半期(前)	
		スポーツ科学演習B	1	2	選	234	半期(後)	
		アウトドアスポーツA	1	1	選	全	半期(後)	夏季集中講義
		アウトドアスポーツB	1	1	選	全	半期(後)	夏季集中講義
		アウトドアスポーツC	1	1	選	全	半期(後)	冬季集中講義
	人間理解	哲学入門	1	2	選	全	半期(前/後)	
		記号論理学	1	2	選	全	半期(前/後)	
		倫理学入門	1	2	選	全	半期(前/後)	
		自己心理学セミナー	1	2	選	全	半期(前/後)	
		人間関係の心理	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		認知心理学	1	2	選	全	半期(前/後)	
		歴史理解の基礎	1	2	選	全	半期(前/後)	
		芸術	1	2	選	全	半期(前/後)	(1)音楽,(2)美術、2年次以降開講
		グローバル社会の市民論	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
	社会理解	法律入門	1	2	選	全	半期(前/後)	
		日本国憲法	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		国際政治の基礎	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		日本経済入門	1	2	選	全	半期(前/後)	月曜2時限e-Campus科目
		企業と経営	1	2	選	全	半期(前/後)	
		企業と社会	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		大学と社会	1	2	選	全	半期(後)	2年次以降開講
		介護福祉論	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
	異文化理解	アメリカ理解	1	2	選	全	半期(前)	2年次以降開講
		ヨーロッパ理解	1	2	選	全	半期(前/後)	
		アジア理解	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		ドイツ語Ⅰ	1	2	選	全	半期(前)	
		ドイツ語Ⅱ	1	2	選	全	半期(後)	
		中国語Ⅰ	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		中国語Ⅱ	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		比較文化論	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講
		武道と日本人のこころ	1	2	選	全	半期(前/後)	2年次以降開講

2014（平成26)年度カリキュラム
工学部　人間科学科目　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考
共通教育科目	技術者教養	技術者倫理	1	2	選	234	半期(前/後)	
		失敗学	1	2	選	234	半期(前/後)	
		情報倫理	1	2	選	234	半期(前/後)	
		製造物責任法	1	2	選	234	半期(前/後)	
		情報化社会と知的財産権	1	2	選	234	半期(前/後)	
		特許法	1	2	選	234	半期(前/後)	
		情報とネットワークの経済社会	1	2	選	234	半期(前/後)	
		科学技術と企業経営	1	2	選	234	半期(前/後)	
		情報化社会とコミュニケーション	1	2	選	234	半期(前/後)	
		コンピュータと人間社会	1	2	選	234	半期(前/後)	
		情報と職業	1	2	選	234	半期(前/後)	
		地球環境論	1	2	選	234	半期(前/後)	
		科学技術と現代社会	1	2	選	234	半期(前/後)	
		科学の社会史	1	2	選	234	半期(前)	
		技術の社会史	1	2	選	234	半期(後)	

技術者教養科目

よき技術者が備えるべき知識や教養を内容とした教養科目。
技術者倫理、関連法規、環境及び人間社会と科学技術の関わり、技術者をめぐる社会科学分野などで構成される。

技術者教養科目の中から選択して最小限1科目（2単位）を履修すること。

7科目区分のバランスよい履修をこころがけること。

英語系列の教育目標と理念

近年、海外の人々との英語によるコミュニケーションは益々身近なものとなってきました。特にエンジニアにとっては、英語を用いて最新情報の収集・発信を行うことは、今や日常的になってきています。グローバル化が進むにつれ、国内外で活躍するエンジニアにとって、より高度な英語力を身に付けることは社会的に求められつつあります。また、社会生活を送り、異文化を理解する上においても英語は必要不可欠なコミュニケーションの手段となっています。これらの社会情勢に即し、英語系列では、まず学生の現在の英語力を診断し、それに基づいた習熟度別の指導体制を採っています。それぞれに求められる知識により基礎を固め、さらには英語の運用能力、すなわち、「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の４技能すべてを社会での実用に足るレベルにまで向上させる教育を行います。更に各スキルを磨くことを希望する学生を対象に、発展的な内容を扱う授業も準備しています。

英語科目履修モデル

卒業所要単位における必要な単位数（英語科目 6 単位）

■英語履修モデルの見方

この履修モデルは、レベル別の履修の例を示したものである。しかし、レベルについては固定的に考えるのではなく、英語力を伸ばし、上のレベルに移行することを目指して学習に取り組むこと。基幹科目（総合英語Ⅰ・Ⅱ、口語英語Ⅰ・Ⅱおよび総合英語Ⅲ・Ⅳ）においては授業もレベル別に行われるが、学年や学期の区切りで英語力の伸長状況により移動もありうる。

対象			英語初級		英語中級		英語上級	
教育・学習目標			英語初級レベルの学生に対して、英語の基礎を習得することを目標とする。 読む、書く、聞く、話すを基礎からバランスよく習得することを目指す。英語の基幹科目（総合英語Ⅰ·Ⅱ、口語英語Ⅰ·Ⅱおよび総合英語Ⅲ·Ⅳ）に専念して履修を進めることを推奨する。特に基礎力の充実が必要な学生は英語基礎演習の履修を推奨する。	単位数	英語中級レベルの学生に対して、英語の基礎力の充実と運用能力の向上を目指す。 英語の基幹科目（総合英語Ⅰ·Ⅱ、口語英語Ⅰ·Ⅱおよび総合英語Ⅲ·Ⅳ）を中心とした履修を推奨するが、興味、学力に応じて、英語演習 A·B の履修が可能である。	単位数	英語上級レベルの学生に対して、英語の４技能の運用能力の向上、および自己表現力の習得を目指す。 英語の基幹科目（総合英語Ⅰ·Ⅱ、口語英語Ⅰ·Ⅱおよび総合英語Ⅲ～Ⅳ）に加えて、英語演習Ａ～Ｄおよび最上級者には英語演習 E·F の履修も推奨する。	単位数
履修推奨科目	1年	前期	総合英語Ⅰ	1	総合英語Ⅰ	1	総合英語Ⅰ	1
			口語英語Ⅰ	1	口語英語Ⅰ	1	口語英語Ⅰ	1
		後期	総合英語Ⅱ	1	総合英語Ⅱ	1	総合英語Ⅱ	1
			口語英語Ⅱ	1	口語英語Ⅱ	1	口語英語Ⅱ	1
	小計			4		4		4
	累計			4		4		4
	2年	前期	総合英語Ⅲ	1	総合英語Ⅲ	1	総合英語Ⅲ	1
			(英語基礎演習Ⅰ)	(1)	(英語演習 A)	(1)	(英語演習 A)	(1)
		後期	総合英語Ⅳ	1	総合英語Ⅳ	1	総合英語Ⅳ	1
			(英語基礎演習Ⅱ)	(1)	(英語演習 B)	(1)	(英語演習 B)	(1)
	小計			2		2～		2～
	累計			6		6～		6～
	3年	前期	(インターネットで学ぶ英語Ⅰ)	(1)	(英語演習 C)	(1)	(英語演習 C)	(1)
					(インターネットで学ぶ英語Ⅰ)	(1)	(インターネットで学ぶ英語Ⅰ)	(1)
		後期	(インターネットで学ぶ英語Ⅱ)	(1)	(英語演習 D)	(1)	(英語演習 D)	(1)
					(インターネットで学ぶ英語Ⅱ)	(1)	(インターネットで学ぶ英語Ⅱ)	(1)
	小計							
	累計							
	4年	前期					(英語演習 E)	(1)
		後期					(英語演習 F)	(1)
	小計							
	総計			6～		6～		6～
合計科目数				6～		6～		6～

注意：

上記以外に「海外英語短期研修」がある。興味と実力に応じて履修計画に含めることが可能である。

2014（平成26)年度カリキュラム
工学部　全学科　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考
共通教育科目	英語科目	総合英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	総合英語Ⅰと口語英語Ⅰは同時に履修登録しなければならない。 習熟度別・複数学科の合併。
		口語英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	
		総合英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	総合英語Ⅱと口語英語Ⅱは同時に履修登録しなければならない。 習熟度別・複数学科の合併。
		口語英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	
		総合英語Ⅲ	1	1	選	2	半期(前)	習熟度別
		総合英語Ⅳ	1	1	選	2	半期(後)	習熟度別
		英語基礎演習Ⅰ	1	1	選	2	半期(前)	履修条件あり
		英語基礎演習Ⅱ	1	1	選	2	半期(後)	履修条件あり
		英語演習A	1	1	選	2	半期(前)	
		英語演習B	1	1	選	2	半期(後)	
		英語演習C	1	1	選	3	半期(前)	
		英語演習D	1	1	選	3	半期(後)	
		英語演習E	1	1	選	4	半期(前)	
		英語演習F	1	1	選	4	半期(後)	
		海外英語短期研修	随時	2	選	全	半期(前/後)	集中講義
		インターネットで学ぶ英語Ⅰ	随時	1	選	34	半期(前)	Web活用ｸﾗｽ /平成26年度開講せず
		インターネットで学ぶ英語Ⅱ	随時	1	選	34	半期(後)	Web活用ｸﾗｽ /平成26年度開講せず

履修上の制限について
1.「総合英語Ⅰ」と「口語英語Ⅰ」は同時に履修しなければならない。(再履修者を除く)
2.「総合英語Ⅱ」と「口語英語Ⅱ」は同時に履修しなければならない。(再履修者を除く)
3.「英語基礎演習Ⅰ」は取得済み英語科目2単位以下、「英語基礎演習Ⅱ」は取得済み英語科目3単位以下である学生が対象。

専門教育科目

【電気電子工学科　電気電子システムコース（EJ)】

- 人材の養成に関する目的
  その他の教育研究上の目的
- 学位授与の方針
  （ディプロマポリシー）
- 教育課程編成・実施の方針
  （カリキュラムポリシー）
- 教育目標と理念
- 履修モデル
- 授業科目配当表

電気電子工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

電気電子工学科は、電気工学と電子工学及びその統合分野と関連分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会の基盤を構成し将来に亘って必要とされる電気電子工学分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

電気電子工学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学部の電気電子工学科は、本学部の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期間在学し（※）、各コースの卒業要件をすべて満たした者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

＜電気電子システムコース＞

(1) 一般教養、外国語（英語）を含めた基礎的なコミュニケーション能力、工学全般に関する広い知識と理解力、工学の電気電子工学分野に関する知識、並びに深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。

(2) エコエネルギー分野、生体情報システム分野、スマートシステム分野、エレクトロデバイス分野などの、より専門的な電気電子工学の分野を修得し、かつ社会に対する技術の責任を自覚する能力（技術者倫理）を身につけること。

※標準修業年限は４年。

電気電子工学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

＜電気電子システムコース＞

電気電子工学科の電気電子システムコースは、学生が卒業後に電気電子工学のいずれの分野に進んだ場合でも、柔軟に対応できる十分な基礎学力を柱として、電気電子工学の分野の基礎、さらに、エコエネルギー分野、生体情報システム分野、スマートシステム分野、エレクトロデバイス分野を系統的かつ専門的に学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

また、英語科目と技術者倫理の学習機会を複数学年において提供します。

電気電子工学科の教育目標と理念

電気電子工学科では、あらゆる産業分野で広く活躍できる技術者を育成し、また社会に貢献できる創造力豊かな電気電子分野の専門技術者の輩出を目指しています。特に、人類の幸福、福祉とは何かについて考える能力と素養の修得を基礎として、将来、電気電子工学の何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる専門の基礎学力を十分に習得したうえで、広範な研究分野の発展に寄与できる広い視野を持ち、さらに、造詣の深い専門分野を有し、かつ外国語を含めたコミュニケーション能力、主体的かつ創造的なデザイン能力とプロジェクト遂行能力などを併せ持つ技術者・研究者の育成を教育目標としています。

電気電子工学科
電気電子システムコース　プログラム案内

電気電子工学科　電気電子システムコース

はじめに

本プログラム案内は、平成 26 年度（2014 年度）新入生向けです。

1. 電気電子システムコースの教育プログラム

電気電子システムコースでは JABEE（日本技術者教育認定機構）により認定されている電気電子専修プログラムと、編入生などを対象とした電気電子総合プログラムという２つの教育プログラムを設置しています。電気電子システムコースの学生は両プログラムの何れかに所属し、各プログラムに設置されているカリキュラムに従って履修する必要があります。ともに、十分な実力を身につけ実務技術者として多彩な分野で活躍する機会を得ることができ、区別なく大学院進学への道が開かれています。

《JABEE（日本技術者教育認定機構）》

JABEE:Japan Accreditation Board for Engineering Education / 1999 年設立、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する非政府団体です。

詳細は JABEE 公式ホームページ :http://www.jabee.org/ を参照してください。

2. 各プログラムの説明

2．1　プログラムの形態

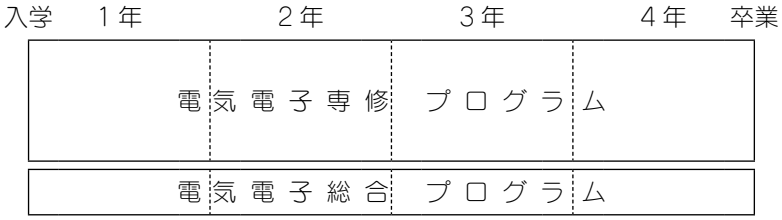
平成 26 年度に１年次から入学した学生は、全員が電気電子専修プログラム（JABEE プログラム）の履修者として登録されます[1]。プログラムは変更できません。

電気電子システムコースに 2 年次から、または 3 年次から編入した学生は、編入学年開始時に電気電子専修プログラムまたは電気電子総合プログラムのいずれかの履修者として登録されます。編入前の単位取得内容やカリキュラムによっては、電気電子専修プログラムに登録できない場合があります。登録後のプログラム変更はできません。

電気電子専修プログラムと電気電子総合プログラムの両プログラムにおいて、配当科目や配当期、試験方法、評価方法、卒業所要単位数に差違はありません。ただし、電気電子専修プログラムでは、プログラム修了要件を満たす単位のすべてが、JABEE 認定の基準に従って計画・実施された科目の修得単位である必要があります。別表 I に記載されている科目のすべてが JABEE 認定の基準に従って計画・実施されています。

[1] 企業委託学生を除く

＜プログラムの形態＞



2．2　電気電子専修プログラム（JABEE プログラム）

JABEE による認定取得を目指すプログラムです。本プログラムを修了すると国際的に通用する専門技術者として、活躍の可能性が広がります。

本プログラムの教育目標は、広範な電気電子工学分野の発展に寄与できる技術者を育成し、もって電気電子工学を通じて社会の発展に貢献できる国際的に通用する専門家を輩出することにあります。1、2 年を中心とする低学年次では、卒業後何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる十分な基礎学力を養成します。高学年次では、学生自ら興味のある分野を選択し、その分野を中心に学習を積み重ねることにより、プログラム修了時に少なくとも一つの専門分野を修得できるようになることが特徴といえます。以下に電気電子専修プログラムの学習・教育目標の概要を示します。

＜学習・教育目標＞

(A) 人間としての教養を身につける

優れた技術者となるための前提条件として、人間としての教養を十分に身につけ、人類の幸福、福祉とは何かについて考える能力と素養を修得する。そのため人間科学科目（別表Ⅰ）より、16 単位以上を履修し、修得する。なお、修得する科目には異文化理解の区分の科目が含まれることが望ましい。

(B) 技術者倫理を修得する

技術の社会に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）を修得して、社会における技術の位置付けや問題点を探求する能力を開発する。そのため、人間科学科目の修得科目（16 単位以上）に技術者倫理（2 単位）を含める必要がある。

(C) 電気電子工学技術者としての基礎を十分に理解する

数学、自然科学、コンピュータなどに関する基礎知識を十分修得する。そのため、工学基礎科目（別表Ⅰおよび別表Ⅱに記載の学習目標 (C) の科目）より必修科目を含み 32 単位以上修得する。そのうち数学科目 (C1) より 6 単位以上、自然科学科目 (C2) より 5 単位以上、コンピュータ基礎科目 (C3) より 4 単位以上、それぞれ修得する。

(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける

(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般の基礎知識を修得

する。そのため、専門科目（別表Ⅰおよび別表Ⅱに記載の学習目標 (D1) の科目）より、少なくとも１つの専門分野について特に推奨科目（〇印）を重点的に修得する。以上の科目から必修科目を含めて合計 33 単位以上修得する。

(D2) 実験を通じて基本的諸現象の理解を深め、実際的な知識を修得するとともに実技能力を高める。そのため、実験科目（別表Ⅰおよび別表Ⅱに記載の学習目標 (D2) の科目）を全て履修し、修得する。

(E) 課題解決能力を高める

問題点の発見や課題解決能力、デザイン能力、プロジェクト遂行能力、ならびに創造的な学習能力を修得する。そのため、設計・開発・研究科目（別表Ⅰおよび別表Ⅱに記載の学習目標 (E) の科目）より卒業研究を含み 8 単位以上履修し、修得する。

(F) コミュニケーション／プレゼンテーション能力を高める

英語によるコミュニケーション基礎能力並びに日本語による論理的な記述力を修得する。またプレゼンテーション能力を十分に修得する。英語による一般的なコミュニケーション基礎能力を得るため、英語科目より 6 単位以上修得する。実験科目（別表Ⅰおよび別表Ⅱに記載の学習目標 (D2) の科目）のリポート作成並びに卒業論文の作成等を通じて日本語による論理的な記述力を十分に修得する。
また、技術的な内容に関する英語によるコミュニケーション基礎能力並びにプレゼンテーション能力を得るため、コミュニケーション科目（別表Ⅰ参照、別表Ⅱに記載の学習目標 (F) の科目）より、必修科目を含めて 5 単位以上履修し、修得する。

＜電気電子専修プログラムの学習時間および修了条件＞

JABEE 認定の条件として、プログラム修了のための学習保証時間（教員の指導のもとに行なった学習時間）が次のように定められています。

> 学習保証時間の総計が 1800 時間以上を有していること。
> その中に、人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の学習 250 時間以上、数学、自然科学、情報技術の学習 250 時間以上、及び専門分野の学習 900 時間以上を含んでいること。

本プログラムを修了するためには、学習・教育目標 (A) － (F) を全て達成するとともに上記の学習保証時間を超えて学習する必要があります。本プログラムの修了条件が本プログラムに登録した学生の卒業条件となります。また、卒業時のプログラム変更はできません。
なお、履修計画は別表Ⅰ（学習・教育目標に対する必要単位数と必ず修得する科目）ならびに別表Ⅱ（分野別推奨履修モデル）、別表Ⅲ（区分別卒業所要単位数）を参考に立ててください。

2．3　電気電子総合プログラム

電気電子総合プログラムは電気電子工学分野の基礎知識を十分に備えた、広範な社会の

ニーズに応えられる技術者を育成するプログラムであり、JABEE プログラムではありません。プログラムへの登録は、企業委託学生は入学時、編入学生は編入時に行ないます。本プログラムの教育目標は、広範な電気電子工学関連分野の発展に寄与できる実務技術者を育成し、もって電気電子工学全般を通じて社会の発展に貢献できる専門家を輩出することにあります。低学年次では、卒業後何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる十分な基礎学力を養成します。高学年次では、学生自ら興味のある分野を選択し、その分野を中心に学習を積み重ねます。プログラム修了時には電気電子工学に関する総合的な学力を修得できることになります。

＜電気電子総合プログラムの修了条件＞

本プログラムを修了するためには別表Ⅰに記載の必修科目を修得し、区分必要単位数を満たすことが条件となります。ただし、編入学時などにおいて単位認定された科目を必要単位数に組み入れることが可能です。なお、履修計画は別表Ⅰ（学習・教育目標に対する必要単位数と必ず修得する科目）ならびに別表Ⅱ（分野別推奨履修モデル）、別表Ⅲ（区分別卒業所要単位数）を参考に立ててください。

別表Ⅰ（2014 年度 1 年次生用）

学習・教育目標に対する必要単位数と必ず修得する科目

下表の単位数を確保し、卒業研究において学生の所属する研究室における学習時間が 450 時間以上になるとき、学習保証時間の総計が最低 1800 時間となります。

●印：必修科目

学習・教育目標	必要単位数			授業科目名	単位数	備考
(A) 人間としての教養を身につける	合計16単位以上	人間科学科目	ｽｷﾙ ｷｬﾘｱ	フレッシュマン・セミナー 文章表現法 東京電機大学で学ぶ	2 2 1	異文化理解の区分の科目が含まれることが望ましい。
			ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	教養演習（発表の技法）	2	
			スポーツ・健康	健康と生活 スポーツコンセプト トリムスポーツⅠ トリムスポーツⅡ スポーツ科学演習Ａ スポーツ科学演習Ｂ アウトドアスポーツＡ アウトドアスポーツＢ アウトドアスポーツＣ	2 2 1 1 1 1 1 1 1	
			人間理解	哲学入門 記号論理学 倫理学入門 自己心理学セミナー 人間関係の心理 認知心理学 歴史理解の基礎 芸術 グローバル社会の市民論	2 2 2 2 2 2 2 2 2	
			社会理解	法律入門 日本国憲法 国際政治の基礎 日本経済入門 企業と経営 企業と社会 大学と社会 介護福祉論	2 2 2 2 2 2 2 2	
			異文化理解	アメリカ理解 ヨーロッパ理解 アジア理解 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 比較文化論 武道と日本人のこころ	2 2 2 2 2 2 2 2 2	

別表Ⅰ（2014 年度 1 年次生用）

学習・教育目標	必要単位数				授業科目名	単位数	備考
(A) 人間としての教養を身につける			技術者教養		失敗学 情報倫理 製造物責任法 情報化社会と知的財産権 特許法 情報とネットワークの経済社会 科学技術と企業経営 情報化社会とコミュニケーション コンピュータと人間社会 情報と職業 地球環境論 科学技術と現代社会 科学の社会史 技術の社会史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
(B) 技術者倫理を修得する					●技術者倫理（2 年～ 4 年）	②	
(C) 電気電子工学技術者としての基礎を十分に理解する	合計32単位以上	工学基礎科目	(C1)数学科目	6単位以上	●微分積分学および演習Ⅰ（1 前） ●線形代数学Ⅰ（1 前） 微分積分学および演習Ⅱ（1 後） 線形代数学Ⅱ（1 後） ベクトル解析（2 前） 微分方程式Ⅰ（2 前） 数値解析学（2 前） フーリエ解析（2 後） 複素解析学（3 前）	④ ② 4 2 2 2 2 2 2	
			(C2)自然科学科目	5単位以上	物理学Ⅰ（1 前） 化学Ⅰ（1 前） 物理実験Ⅰ（1 前） 化学実験Ⅰ（1 前） 物理学基礎演習（1 前） 物理学Ⅱ（1 後） 化学Ⅱ（1 後） 物理実験Ⅱ（1 後） 化学実験Ⅱ（1 後） 量子物理学（2 後）	2 2 1 1 2 2 2 1 1 2	
			(C3)コンピュータ基礎科目	4単位以上	コンピュータ基礎および演習Ⅰ（1 前） コンピュータ基礎および演習Ⅱ（1 後） プログラミング（2 前）	4 4 2	

別表Ⅰ（2014 年度 1 年次生用）

学習・教育目標	必要単位数		授業科目名	単位数	備考
(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける (D1) 専門分野の基礎科目	33単位以上	専門科目	●回路基礎（1 前） ●回路理論および演習Ⅰ（1 後） ●電磁気学および演習Ⅰ（2 前） ●回路理論および演習Ⅱ（2 前） 回路解析基礎（2 前） ●電磁気学および演習Ⅱ（2 後） 過渡現象（2 後） 電気電子計測（2 後） ●電子回路Ⅰ（2 後） ディジタル回路（2 後） 情報理論（2 後） 電磁気学Ⅲ（3 前） 電子回路Ⅱ（3 前） ディジタル信号処理（3 前） 制御工学Ⅰ（3 前） ディジタルシステム（3 前） 電子デバイスⅠ（3・4 前） 電気材料（3・4 前） 電気機器Ⅰ（3・4 前） システム工学（3・4 前） 制御工学Ⅱ（3 後） 高電圧工学（3 後） スマート信号処理（3 後） 電子デバイスⅡ（3・4 後） 電気機器Ⅱ（3・4 後） パワーエレクトロニクス（3・4 後） 電力系統工学Ⅰ（3・4 後） 高周波回路（3・4 後） 医用電子工学（3・4 後） 電気電子キャリア総合演習（3 後） 応用電子回路（3 後） 電気法規（3・4 後） 電力系統工学Ⅱ（4 前） 発電工学（4 前） 集積回路（4 前） 環境とエネルギー（4 後） 電機設計および電気製図（4 後） インターンシップ（3・4 随時）	② ④ ④ ④ 2 ④ 2 2 ② 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2	
(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける (D2) 実験科目	8単位	実験科目	●電気電子工学基礎実験Ⅰ（2 前） ●電気電子工学基礎実験Ⅱ（2 後） ●電気電子工学実験Ⅰ（3 前） ●電気電子工学実験Ⅱ（3 後）	② ② ② ②	
(E) 課題解決能力を高める	8単位以上	設計・開発・研究科目	ワークショップ（1 後） ●卒業研究（4 前後） ●プロジェクトワークショップ（4 前後） 電子回路設計（4 前）	2 ⑥ ① 2	注：卒業研究を修得するためには、450時間以上の学習時間を必要とする。

別表Ⅰ（2014 年度 1 年次生用）

学習・教育目標	必要単位数				授業科目名	単位数	備考
(F) コミュニケーション／プレゼンテーション能力を高める	11単位以上	コミュニケーション・プレゼンテーション科目	英語科目	6単位以上	総合英語Ⅰ（1 前） 口語英語Ⅰ（1 前） 総合英語Ⅱ（1 後） 口語英語Ⅱ（1 後） 総合英語Ⅲ（2 前） 英語演習 A（2 前） 総合英語Ⅳ（2 後） 英語演習 B（2 後） 英語演習 C（3 前） 英語演習 D（3 後） 英語演習 E（4 前） 英語演習 F（4 後） 海外英語短期研修	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	
			コミュニケーション科目	5単位	●技術英語Ⅰ（3 前） ●技術英語Ⅱ（3 後） ●コンピュータプレゼンテーション（3 後） ●電気電子工学リテラシー（1 前）	① ① ② ①	

別表Ⅱ（2014 年度 1 年次生用）

電気電子工学科電気電子システムコース
分野別推奨履修モデル

（※）3、4 年次に開講されます。3 年または 4 年次のどちらかで履修してください。
（通）前後期を通して受講する科目（通年科目）です。
エコエネ：エコエネルギー分野
生体情報：生体情報システム分野
スマート：スマートシステム分野
デバイス：エレクトロデバイス分野

●：必修科目、○：推奨科目、空欄：選択科目

学習・教育目標	(A)　人間としての教養を身につける (B)　技術者倫理を修得する (C)　電気電子工学技術者としての基礎を十分に理解する (D)　電気電子工学専門技術者としての学力を身につける (D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般に亘る基礎知識を修得する (D2) 実験を通じて基本的諸現象の理解を深め、実質的な知識を修得するとともに実技能力を高める (E)　課題解決能力を高める (F)　コミュニケーション／プレゼンテーション能力を向上させる						
配当期	科　目　名	学習目標	単位数	分野別推奨科目			
				エコエネ	生体情報	スマート	デバイス
1 年前期科目	微分積分学および演習 I	C	4	●	●	●	●
	線形代数学 I	C	2	●	●	●	●
	物理学 I	C	2	○	○	○	○
	化学 I	C	2	○	○	○	○
	物理実験 I	C	1	○	○	○	○
	化学実験 I	C	1	○	○	○	○
	電気電子工学リテラシー	F	1	●	●	●	●
	回路基礎	D1	2	●	●	●	●
	コンピュータ基礎および演習 I	C	4	○	○	○	○
1 年後期科目	微分積分学および演習 II	C	4	○	○	○	○
	線形代数学 II	C	2	○	○	○	○
	物理学 II	C	2	○	○	○	○
	化学 II	C	2		○	○	○
	物理実験 II	C	1	○	○	○	○
	化学実験 II	C	1	○	○	○	○
	ワークショップ	E	2	○	○	○	○
	回路理論および演習 I	D1	4	●	●	●	●
	コンピュータ基礎および演習 II	C	4	○	○	○	○
2-4 年	技術者倫理	B	2	●	●	●	●
2 年前期科目	ベクトル解析	C	2	○	○	○	○
	微分方程式 I	C	2	○	○	○	○
	数値解析学	C	2	○	○	○	○
	電磁気学および演習 I	D1	4	●	●	●	●
	回路理論および演習 II	D1	4	●	●	●	●
	回路解析基礎	D1	2	○	○	○	○
	プログラミング	C	2	○	○	○	○
	電気電子工学基礎実験 I	D2	2	●	●	●	●

別表Ⅱ（2014 年度 1 年次生用）

配当期	科目名	学習目標	単位数	分野別推奨科目			
				エコエネ	生体情報	スマート	デバイス
2 年後期科目	フーリエ解析	C	2	○	○	○	○
	電磁気学および演習Ⅱ	D1	4	●	●	●	●
	過渡現象	D1	2	○	○	○	○
	電気電子計測	D1	2	○	○	○	○
	電子回路Ⅰ	D1	2	●	●	●	●
	ディジタル回路	D1	2	○	○	○	○
	量子物理学	C	2				○
	情報理論	D1	2		○	○	
	電気電子工学基礎実験Ⅱ	D2	2	●	●	●	●
3 年前期科目	複素解析学Ⅰ	C	2		○		○
	電磁気学Ⅲ	D1	2			○	○
	電子回路Ⅱ	D1	2	○	○	○	○
	ディジタル信号処理	D1	2	○	○	○	
	制御工学Ⅰ	D1	2	○	○	○	○
	ディジタルシステム	D1	2	○	○	○	
	電子デバイスⅠ（※）	D1	2		○	○	○
	電気材料（※）	D1	2	○			○
	電気機器Ⅰ（※）	D1	2	○	○		
	システム工学（※）	D1	2	○	○	○	
	電気電子工学実験Ⅰ	D2	2	●	●	●	●
	技術英語Ⅰ	F	1	●	●	●	●
3 年後期科目	制御工学Ⅱ	D1	2	○	○	○	○
	高電圧工学	D1	2	○			
	スマート信号処理	D1	2		○	○	
	電子デバイスⅡ（※）	D1	2			○	○
	電気機器Ⅱ（※）	D1	2	○			
	パワーエレクトロニクス（※）	D1	2	○			○
	電力系統工学Ⅰ（※）	D1	2	○			
	高周波回路（※）	D1	2		○	○	○
	医用電子工学（※）	D1	2		○		
	電気電子キャリア総合演習	D1	1	○	○	○	○
	応用電子回路	D1	2		○	○	○
	電気法規（※）	D1	2	○			
	電気電子工学実験Ⅱ	D2	2	●	●	●	●
	コンピュータプレゼンテーション	F	2	●	●	●	●
	技術英語Ⅱ	F	1	●	●	●	●
4 年前期科目	電力系統工学Ⅱ	D1	2	○			
	発電工学	D1	2	○			
	集積回路	D1	2			○	○
	電子回路設計	E	2	○	○	○	○
	プロジェクトワークショップ（通）	E	1	●	●	●	●
	卒業研究（通）	E	6	●	●	●	●
4 年後期科目	環境とエネルギー	D1	2	○			
	電機設計および電気製図	D1	2	○			
	プロジェクトワークショップ（通）	E	1	●	●	●	●
	卒業研究（通）	E	6	●	●	●	●
3・4 年随時	インターンシップ	D1	2				

別表Ⅲ（2014 年度 1 年次生用）

区分別卒業所要単位数

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="4">電気電子工学科　電気電子専修プログラム</td></tr>
<tr><td>区分単位数</td><td colspan="2">学修教育目標に対応する科目区分</td><td>必要最低単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">共通教育科目</td><td rowspan="2">人間科学科目</td><td rowspan="2">16 単位</td><td rowspan="2">(A) 人間科学科目</td><td></td><td>16 単位</td></tr>
<tr><td>(B) 技術者教養（技術者倫理）</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">英語科目</td><td>6 単位</td><td colspan="2">(F) 英語科目</td><td>6 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門教育科目</td><td rowspan="5">基礎・共通科目
専門科目</td><td rowspan="5">102 単位

(C,D1,D2,E,F の科目の合計単位数が 102 単位必要）</td><td colspan="2">(C) 工学基礎科目</td><td>32 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(D1) 専門科目</td><td>33 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(D2) 実験科目</td><td>8 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(E) 設計・開発・研究科目</td><td>8 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">(F) コミュニケーション科目</td><td>5 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">任意に選択し修得した科目</td><td>－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">合計</td><td>124 単位</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

なお、電気電子総合プログラム（編入生等対象）の所要単位数は、区分単位数条件を満たせばよい。

表中の (A) ～ (F) は以下の電気電子工学科の学習・教育目標を表します。

(A)　人間としての教養を身につける

人間の本質や歴史、及び文化、社会とそれに関わる秩序などについてより深く考察することができる。また、国家間の関係、地球上の人々の相互依存関係について理解する。

(B)　技術者倫理を修得する

技術者が社会に対して大きな責任を負っていることを理解し、技術者の倫理について事例を通して考察できるようになる。

(C)　電気電子工学技術者としての基礎を十分に理解する

電気電子工学分野の諸問題を解決するため、数学においては基本的な数学手法（微分積分や線形代数など）の概念および定理の理解、自然科学（物理や化学）においては基本法則を理解し、共に具体的問題の計算ができる。また、プログラミングの基礎を理解する。

(D)　電気電子情報工学専門技術者としての学力を身につける

(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子情報工学全般の基礎知識を修得する

電気電子工学の各専門分野における基礎知識・基本法則を理解し、具体的な計算、解析、プログラミングなどができる。また、それらの知識・技能を駆使して応用できるベースを身につける。

(D2) 実験を通じて基本的諸現象の理解を深め、実際的な知識を習得するとともに実技能力を高める

電気電子工学の基本的事項について実験を通して理解し、かつ測定装置の操作方法、実験の進め方、測定データの妥当性および理論的考察などを理解する。

(E)　課題解決能力を高める

課題に対し、与えられた制約の下で創意工夫（調査、検討、比較、発見など）して解を求めることができる。卒業研究においてはこれに加え、自発的な問題設定と長期にわたる作業を計画的にこなす能力も身につける。プロジェクトワークショップにおいては、さらにチームとして一つの課題に取り組む能力も身につける。

(F)　コミュニケーション / プレゼンテーション能力を高める

日本語においては論理的な記述能力、英語については基礎的なコミュニケーションと専門分野の文献等の読解力を身につける。また、これらを駆使してコンピュータを用いた明解なプレゼンテーションができる。

なお、学習・教育目標の詳細については、入学後、別途配布される資料を見てください。

2014（平成26)年度カリキュラム
工学部　電気電子工学科 電気電子システムコース　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	基礎共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	ｺｰﾄﾞなし
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	基礎クラスのみ補習を4回行う	ｺｰﾄﾞなし
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	ｺｰﾄﾞなし
		ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)		112解析
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		数値解析学	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		112解析
	専門科目	インターンシップ	随時	2	選	34	通年		ｺｰﾄﾞなし
		ワークショップ	2	2	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		電気電子工学リテラシー	1	1	必	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		電磁気学および演習Ⅰ	2	4	必	2	半期(前)		160工業
		電磁気学および演習Ⅱ	2	4	必	2	半期(後)		160工業
		電磁気学Ⅲ	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		回路基礎	1	2	必	1	半期(前)		160工業
		回路理論および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(後)		160工業
		回路理論および演習Ⅱ	2	4	必	2	半期(前)		160工業
		回路解析基礎	1	2	選	2	半期(前)		160工業
		過渡現象	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		電子回路Ⅰ	1	2	必	2	半期(後)		160工業
		電子回路Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		応用電子回路	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		電子回路設計	1	2	選	4	半期(前)	平成26年度開講せず	134情⑤
		電気電子計測	1	2	選	2	半期(後)		131情②
		制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		131情②
		制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)		131情②
		量子物理学	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		電気材料	1	2	選	34	半期(前)		160工業
		電子デバイスⅠ	1	2	選	34	半期(前)		160工業
		電子デバイスⅡ	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	選	1	半期(前)		基礎要件
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		131情②
		プログラミング	1	2	選	2	半期(前)		131情②
		電気機器Ⅰ	1	2	選	34	半期(前)		160工業
		電気機器Ⅱ	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		パワーエレクトロニクス	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		高電圧工学	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		電力系統工学Ⅰ	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		電力系統工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)	平成26年度開講せず	160工業
		発電工学	1	2	選	4	半期(前)	平成26年度開講せず	160工業
		環境とエネルギー	1	2	選	4	半期(後)	平成26年度開講せず	160工業

2014（平成26)年度カリキュラム
工学部　電気電子工学科 電気電子システムコース　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	専門科目	集積回路	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		ディジタル回路	1	2	選	2	半期(後)		132情③
		ディジタル信号処理	1	2	選	3	半期(前)		132情③
		ディジタルシステム	1	2	選	3	半期(前)		132情③
		スマート信号処理	1	2	選	3	半期(後)		132情③
		医用電子工学	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		情報理論	1	2	選	2	半期(後)		133情④
		高周波回路	1	2	選	34	半期(前)		160工業
		システム工学	1	2	選	34	半期(前)		132情③
		電気法規	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		電機設計および電気製図	1	2	選	4	半期(後)	平成26年度開講せず	160工業
		電気電子工学基礎実験Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)		160工業
		電気電子工学基礎実験Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)		160工業
		電気電子工学実験Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)		160工業
		電気電子工学実験Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)		160工業
		電気電子キャリア総合演習	1	1	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		コンピュータプレゼンテーション	1	2	必	3	半期(後)		134情⑤
		技術英語Ⅰ	1	1	必	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		技術英語Ⅱ	1	1	必	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		卒業研究	前3後3	6	必	4	通年	平成26年度開講せず	ｺｰﾄﾞなし
		プロジェクトワークショップ	1	1	必	4	通年	平成26年度開講せず	ｺｰﾄﾞなし
	教職関連科目	職業指導	1	4	自	3	通年		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)		131情②
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)		132情③
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)		133情④
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)		134情⑤
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)		110代数
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	夏期集中講義	114ｺﾝﾋﾟｭ
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)		110代数
		解析学	1	2	自	3	半期(前)		112解析
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)		111幾何
		代数学	1	2	自	2	半期(後)		110代数
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)		111幾何
	数学	微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		112解析
		複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)		112解析
		確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)		113確統
		確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		113確統

専門教育科目

【電気電子工学科　電子光情報コース(EH)】

- 人材の養成に関する目的
  その他の教育研究上の目的
- 学位授与の方針
  (ディプロマポリシー)
- 教育課程編成・実施の方針
  (カリキュラムポリシー)
- 教育目標と理念
- 履修モデル
- 授業科目配当表

電気電子工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

電気電子工学科は、電気工学と電子工学及びその統合分野と関連分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会の基盤を構成し将来に亘って必要とされる電気電子工学分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

電気電子工学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学部の電気電子工学科は、本学部の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期間在学し（※）、各コースの卒業要件をすべて満たした者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

＜電子光情報コース＞

（1）一般教養と語学、工学全般に関する広い知識と理解力、工学の電子・光・情報分野に関する知識、並びに深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。

（2）課題の解決に向けて取り組んだ内容について、背景や目的、方法、結果、結論とともに、文章や図、表、式などを用いて論理的に記述し、論文としてまとめる能力とわかりやすく発表できる能力を身につけること。

※標準修業年限は４年。

電気電子工学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

＜電子光情報コース＞

電気電子工学科の電子光情報コースは、基礎学力を柱として、電気電子工学の分野の基礎を学び、さらに電子、光、情報の分野を系統的かつ専門的に学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

また、実社会で活躍できるようにワークショップ科目や実験科目、課題解決力を高めることができるカリキュラム、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を身につけることができるカリキュラムを編成し、実施します。

電気電子工学科の教育目標と理念

電気電子工学科では、あらゆる産業分野で広く活躍できる技術者を育成し、また社会に貢献できる創造力豊かな電気電子分野の専門技術者の輩出を目指しています。特に、人類の幸福、福祉とは何かについて考える能力と素養の修得を基礎として、将来、電気電子工学の何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる専門の基礎学力を十分に習得したうえで、広範な研究分野の発展に寄与できる広い視野を持ち、さらに、造詣の深い専門分野を有し、かつ外国語を含めたコミュニケーション能力、主体的かつ創造的なデザイン能力とプロジェクト遂行能力などを併せ持つ技術者・研究者の育成を教育目標としています。

電子光情報コース 履修アドバイス

電子・光・情報技術は、極めて範囲が広く、また進歩が速い技術分野です。そこで幅広い基礎をしっかりと身に付けることが肝要です。それにより社会の様々な分野で活躍したり、最先端技術を習得したり、リーダーとしてプロジェクトを率いるための基礎力が完成します。本コースでは、電子・光・情報分野のあらゆる場面で活躍できるジェネラリストを育成するためのカリキュラムを用意しています。以下に履修アドバイスを示しますので、時間割を組む際の参考にしてください。

(1) 1 年次においては、実験系、情報処理、専門基礎科目の全てを履修してください。特に「電子光情報工学入門」は必修ではありませんが、本コースの学問体系を把握することができ、同時に各教員の専門分野がわかりますので、大変重要な科目です。

(2) 2 年次においては、専門基礎科目を極力全て履修してください。特に「光学」は、光関連科目の基礎となる大事な科目ですので、必ず履修してください。

(3) 3 年次配当科目は 4 年次にも履修可能ですが、専門基礎科目は 3 年のうちに極力全て履修してください。また専門共通と技術者基礎科目も優先的に履修してください。特に英語関連科目は就職や将来の国際的活動のためにも積極的に履修してください。

(4) 4 年次は、卒業研究が中心になりますが、光関連の最先端科目もぜひ履修してください。

(5) 工学基礎科目は、本コースの科目の基礎になりますので、なるべく多くの科目を履修することが望まれます。

電子光情報コース　カリキュラム構成

	1年		2年		3年		4年	
工学基礎	●微分積分学および演習Ⅰ	4	ベクトル解析	2	複素解析学Ⅰ	2		
	微分積分学および演習Ⅱ	4	フーリエ解析	2				
	●線形代数学Ⅰ	2	微分方程式Ⅰ	2				
	線形代数学Ⅱ	2	数値解析学	2				
	物理学Ⅰ	2						
	物理学Ⅱ	2						
	化学Ⅰ	2						
	化学Ⅱ	2						
	物理実験Ⅰ	1						
	物理実験Ⅱ	1						
	化学実験Ⅰ	1						
	化学実験Ⅱ	1						
	物理学基礎演習	2						
実験系	ワークショップⅠ	2	●電気電子工学基礎実験	2	●電子光情報工学実験Ⅰ	2		
	ワークショップⅡ	2	●電子光情報工学基礎実験	2	●電子光情報工学実験Ⅱ	2		
					アドバンストワークショップ	1		
情報処理	●コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4	●プログラミングⅠ	2	マイクロプロセッサ応用	2		
	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4	プログラミングⅡ	2				
専門基礎	電子光情報工学入門	2	●電磁気学Ⅰ	2	電磁気学Ⅲ	2		
	●電気回路基礎	2	●電磁気学Ⅱ	2	回路解析	2		
			●電気回路Ⅰ	4	過渡現象	2		
			電気回路Ⅱ	2	電子回路Ⅱ	2		
			●電子回路Ⅰ	2	電子・光材料	2		
			論理回路設計	2	コンピュータアーキテクチャ	2		
			電子計測	2	信号処理	2		
			半導体物理基礎	2	電気電子機器	2		
			量子物理学	2				
			ホームエレクトロニクス	2				
			光学	2				
			情報理論	2				
専門					論理システム設計	2	センサーエレクトロニクス	2
					自動制御	2	光通信工学	2
					電子デバイスⅠ	2	光情報処理	2
					電子デバイスⅡ	2	非線形光学	2
					応用信号処理	2		
					プラズマ工学	2		
					レーザー工学	2		
					ロボット工学	2		
					光エレクトロニクス	2		
					高周波回路	2		
					通信機器	2		
					音響工学	2		
					電磁波工学	2		
					通信法規	2		
					品質管理	2		
就業力					技術英語	2	●プレゼンテーション	4
					ビジネス英語	2		
					電気電子キャリア演習	1		
					インターンシップ	2		

（●は必修科目，数字は単位数）

●卒業研究	6

2014(平成26)年度カリキュラム
工学部　電気電子工学科 電子光情報コース　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	基礎共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	ｺｰﾄﾞなし
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	基礎クラスのみ補習を4回行う	ｺｰﾄﾞなし
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	ｺｰﾄﾞなし
		ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)		112解析
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		数値解析学	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		112解析
	専門科目	インターンシップ	随時	2	選	34	通年		ｺｰﾄﾞなし
		ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		アドバンストワークショップ	2	1	選	3	半期(後)	平成26年度開講せず	ｺｰﾄﾞなし
		電子光情報工学入門	1	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		電気回路基礎	1	2	必	1	半期(後)		160工業
		電磁気学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)		160工業
		電磁気学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)		160工業
		電磁気学Ⅲ	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		電気回路Ⅰ	2	4	必	2	半期(前)		160工業
		電気回路Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		回路解析	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		過渡現象	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		電子回路Ⅰ	1	2	必	2	半期(後)		160工業
		電子回路Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		論理回路設計	1	2	選	2	半期(後)		132情③
		論理システム設計	1	2	選	3	半期(前)		132情③
		電子計測	1	2	選	2	半期(後)		131情②
		自動制御	1	2	選	3	半期(前)		131情②
		半導体物理基礎	1	2	選	2	半期(前)		160工業
		量子物理学	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		電子・光材料	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		電子デバイスⅠ	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		電子デバイスⅡ	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		基礎要件
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		131情②
		プログラミングⅠ	1	2	必	2	半期(前)		131情②
		プログラミングⅡ	1	2	選	2	半期(後)		131情②
		ホームエレクトロニクス	1	2	選	2	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		光学	1	2	選	2	半期(前)	平成26年度開講せず	160工業
		マイクロプロセッサ応用	1	2	選	3	半期(後)		132情③
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)		131情②
		信号処理	1	2	選	3	半期(前)		132情③
		応用信号処理	1	2	選	3	半期(後)	平成26年度開講せず	132情③
		電気電子機器	1	2	選	3	半期(前)		160工業

2014(平成26)年度カリキュラム
工学部　電気電子工学科 電子光情報コース　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	専門科目	プラズマ工学	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		レーザー工学	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		ロボット工学	1	2	選	3	半期(後)		132情③
		光エレクトロニクス	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		情報理論	1	2	選	2	半期(後)		133情④
		高周波回路	1	2	選	34	半期(前)		160工業
		通信機器	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		音響工学	1	2	選	34	半期(後)		134情⑤
		電磁波工学	1	2	選	34	半期(後)		160工業
		センサーエレクトロニクス	1	2	選	4	半期(前)	平成26年度開講せず	160工業
		光通信工学	1	2	選	4	半期(前)	平成26年度開講せず	160工業
		光情報処理	1	2	選	4	半期(後)	平成26年度開講せず	160工業
		非線形光学	1	2	選	4	半期(後)	平成26年度開講せず	160工業
		電気電子工学基礎実験	2	2	必	2	半期(前)		160工業
		電子光情報工学基礎実験	2	2	必	2	半期(後)		160工業
		電子光情報工学実験Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)		160工業
		電子光情報工学実験Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)		160工業
		電気電子キャリア演習	1	1	選	3	半期(後)	平成26年度開講せず	ｺｰﾄﾞなし
		プレゼンテーション	前1後1	4	必	4	通年	平成26年度開講せず	134情⑤
		技術英語	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		ビジネス英語	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		卒業研究	前3後3	6	必	4	通年	平成26年度開講せず	ｺｰﾄﾞなし
		通信法規	1	2	自	34	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		品質管理	1	2	自	34	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
	教職関連科目	職業指導	1	4	自	3	通年		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)		131情②
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)		132情③
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)		133情④
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)		134情⑤
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)		110代数
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	夏期集中講義	114ｺﾝﾋﾟｭ
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)		110代数
		解析学	1	2	自	3	半期(前)		112解析
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)		111幾何
		代数学	1	2	自	2	半期(後)		110代数
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)		111幾何
	数学	微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		112解析
		複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)		112解析
		確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)		113確統
		確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		113確統

専門教育科目

【環境化学科（ES)】

- 人材の養成に関する目的
  その他の教育研究上の目的
- 学位授与の方針
  （ディプロマポリシー）
- 教育課程編成・実施の方針
  （カリキュラムポリシー）
- 教育目標と理念
- 履修モデル
- 授業科目配当表

環境化学科の人材の養成に関する目的 その他の教育研究上の目的

環境化学科は、化学と生物学を基盤とする技術分野に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、安全で快適な持続可能な社会の構築に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる環境化学分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

環境化学科の学位授与の方針 （ディプロマポリシー）

工学部の環境化学科は、本学部の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

（1）一般教養、語学、論理的表現や課題解決のためのコミュニケーション能力、工学全般に関する広い知識と理解力、工学の環境化学分野に関する知識、並びに深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。
（2）環境化学の基礎知識をもとに、「環境科学」「機能性高分子」「生物工学」「環境材料工学」の４分野の１つの分野について、より進んだ専門知識を持ち、活用できる能力と環境にやさしいものづくり（グリーンケミストリー）を実現するための基盤技術を修得すること。

※標準修業年限は４年。

環境化学科の教育課程編成・実施の方針 （カリキュラムポリシー）

工学部の環境化学科は、自然科学の基盤を修得するための「基盤科目」、国際性を身につけるために必要な「外国語科目」、環境化学に関する「基幹科目」を柱として、環境化学の分野の基礎を学ぶ学科です。この３本柱に加え、環境科学、生物工学、機能性高分子化学、環境材料工学の４分野から構成する「基幹科目」を系統的かつ専門的に学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

また、学生が実社会で活躍できるように、自ら学ぶ姿勢やコミュニケーション力及びプレゼンテーション力を身につける科目、将来への展望が明確になるように、キャリアデザインに関する科目「ワークショップ」「環境化学総合演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」を配置します。

環境化学科の教育目標と理念

資源の枯渇や温暖化、世界規模の異常気象、多くの野生生物種の絶滅等、地球環境は、今、危機的な状況に直面している。これまでのような大量生産・大量消費による発展は不可能であり、これからは「持続可能な発展」を目指し、全ての産業において環境を意識した新技術の開発が急務となる。

環境化学科はこのような社会ニーズに応えるべく、環境を意識した化学と生物を基盤とする技術開発で社会に貢献できる人材の育成を目標にしている。

環境問題に対処するには、多くの分野にまたがった知識と技術が必要である。そこで、環境化学科では次の３つの学習分野を用意している。

1）環境問題を全体的に把握、理解し、それを解決するための基礎技術を学ぶ分野（環境と化学）

2）地球に優しいもの作りの知識と技術基盤を学ぶ分野（物づくりと性質）

3）バイオテクノロジーを活用した、環境にやさしい技術開発のための知識と基盤技術を学ぶ分野（バイオテクノロジーの活用）

さらに、学んだことを理解し応用力を向上させるため、実験、演習、ワークショップ、インターンシップ等を幅広く取り入れていることも環境化学科の特徴のひとつである。

一方、複合領域に踏み込んで、実用に貢献できる新分野の創生を視野に入れ、研究開発から実用に至るまでの過程を習得できる実学にも主眼をおいている。

環境化学科履修モデル

学習分野	環境と化学	物づくりと性質	バイオテクノロジーの活用
教育学習目標	地球環境問題に関する基礎的な理解と解決のための技術基盤を修得します.	地球にやさしい新物質材料の開発のための基礎知識と技術基盤を修得します.	バイオテクノロジーを活用した環境にやさしい技術を開発するための基礎知識と基盤技術を修得します.

履修推奨科目

1年次

【専門必修】

環境科学, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 微分積分学および演習Ⅰ, 線形代数学Ⅰ, コンピュータ基礎および演習Ⅰ, 化学実験Ⅰ, 化学実験Ⅱ, 物理実験Ⅰ, 物理実験Ⅱ

24単位

【専門選択】

化学演習Ⅰ, 化学演習Ⅱ, 微積分学および演習Ⅱ, 線形代数学Ⅱ, 物理学基礎演習, コンピュータ基礎および演習Ⅱ

の中から 4単位

1年次専門計 28単位

2年次

【専門必修】

物理化学Ⅰ, 物理化学Ⅱ, 有機化学Ⅰ, 有機化学Ⅱ, 無機・分析化学実験, 物理化学実験, 有機化学実験, 生物化学実験

12単位

【専門選択】

科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
環境分析学	2	環境分析学	2	環境分析学	2
無機化学	2	無機化学	2	無機化学	2
環境と生物	2	環境と生物	2	環境と生物	2
有機化学演習Ⅰ	2	有機化学演習Ⅰ	2	有機化学演習Ⅰ	2
生物化学	2	生物化学	2	生物化学	2
科学情報表現法	2	科学情報表現法	2	科学情報表現法	2
ワークショップ	2	ワークショップ	2	ワークショップ	2
有機化学演習Ⅱ	2	物性物理学	2	生物学	2

生物学, 有機化学演習Ⅱ, 物性物理学, 電磁気学Ⅰ, 電磁気学Ⅱ, 微分方程式Ⅰ, ベクトル解析, フーリエ解析, 数値解析学, 物理学演習

の中から 2単位

2年次専門計 30単位

3年次

【専門必修】

応用無機・分析化学実験, 応用物理化学実験, 応用有機化学実験, 応用生物化学実験

4単位

【専門選択】

環境化学総合演習Ⅰ	2	環境化学総合演習Ⅰ	2	環境化学総合演習Ⅰ	2
環境化学総合演習Ⅱ	2	環境化学総合演習Ⅱ	2	環境化学総合演習Ⅱ	2
環境無機化学	2	環境無機化学	2	環境統計学	2
機器分析	2	機器分析	2	環境無機化学	2
科学論文読解	2	科学論文読解	2	機器分析	2
高分子物性学	2	高分子物性学	2	科学論文読解	2
分子生物学	2	生物物理学	2	微生物学	2
応用微生物学	2	固体物性	2	応用微生物学	2
生物有機化学	2	無機材料工学	2	分子生物学	2
有機合成化学	2	有機合成化学	2	生物物理学	2
高分子合成学	2	高分子合成学	2	生物有機化学	2
コンピューター化学	2	コンピューター化学	2	生体高分子工学	2
物理化学演習	2	物理化学演習	2	有機合成化学	2
高分子錯体化学	2	高分子錯体化学	2	環境適応物質学	2
電気化学	2	電気化学	2	コンピューター化学	2
化学工学	2	化学工学	2	化学工学	2
小計	32	小計	32	小計	32

3年次専門計 36単位

4年次

【専門必修】

卒業研究

6単位

【専門選択】

環境適応物質学	2	環境適応物質学	2	高分子錯体科学	2
高分子材料工学	2	高分子材料工学	2	高分子材料工学	2
光化学	2	光化学	2	光化学	2
無機材料工学	2	薄膜工学	2	無機材料工学	2
小計	8	小計	8	小計	8

4年次専門計 14単位

2014（平成26)年度カリキュラム
工学部　環境化学科　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	基礎共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	ｺｰﾄﾞなし
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	基礎クラスのみ補習を4回行う	ｺｰﾄﾞなし
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
		物理学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		120物理
		化学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		122化学
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		基礎要件
		物理学Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)		120物理
		化学Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)		122化学
		物理実験Ⅰ	1	1	必	1	半期(前)		121物実
		物理実験Ⅱ	1	1	必	1	半期(後)		121物実
		化学実験Ⅰ	1	1	必	1	半期(前)		123化実
		化学実験Ⅱ	1	1	必	1	半期(後)		123化実
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		114ｺﾝﾋﾟｭ
		物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	ｺｰﾄﾞなし
		ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)		112解析
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		数値解析学	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		112解析
	専門科目	電磁気学Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		120物理
		電磁気学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		120物理
		環境科学	1	2	必	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		ワークショップ	2	2	選	2	半期(前)	夏季集中講義	ｺｰﾄﾞなし
		環境化学総合演習Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		環境化学総合演習Ⅱ	1	2	選	34	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年		ｺｰﾄﾞなし
		卒業研究	前3後3	6	必	4	通年		ｺｰﾄﾞなし
	環境化学基礎	有機化学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)		122化学
		有機化学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)		122化学
		物理化学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)		122化学
		物理化学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)		122化学
		生物化学	1	2	選	2	半期(後)		124生物
		無機化学	1	2	選	2	半期(前)		122化学
		電気化学	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		コンピューター化学	1	2	選	3	半期(前)		122化学
		機器分析	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		物性物理学	1	2	選	2	半期(前)		120物理
		化学演習Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		122化学
		化学演習Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		122化学
		物理学演習	1	2	選	2	半期(前)		120物理
		物理化学演習	1	2	選	3	半期(前)		122化学
		有機化学演習Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		122化学
		有機化学演習Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		122化学
		化学工学	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		光化学	1	2	選	34	半期(後)		122化学
		科学論文読解	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		科学情報表現法	1	2	選	2	半期(後)		122化学
		地学	1	2	選	2	半期(後)		126地学

2014（平成26)年度カリキュラム
工学部　環境化学科　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	環境化学	環境と生物	1	2	選	2	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		環境分析学	1	2	選	2	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		環境統計学	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		環境無機化学	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		環境適応物質学	1	2	選	34	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
	生物工学	生物学	1	2	選	2	半期(前)		124生物
		分子生物学	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		微生物学	1	2	選	3	半期(前)		124生物
		応用微生物学	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		生物物理学	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		生物有機化学	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
	機能性高分子	有機合成化学	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		高分子材料工学	1	2	選	34	半期(後)		122化学
		高分子物性学	1	2	選	3	半期(前)		122化学
		高分子合成学	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		生体高分子工学	1	2	選	34	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		高分子錯体化学	1	2	選	34	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
	環境材料工学	固体物性	1	2	選	3	半期(後)		120物理
		無機材料工学	1	2	選	34	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		薄膜工学	1	2	選	34	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		半導体材料工学	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
	実験科目	無機・分析化学実験	1	1	必	2	半期(前)		123化実
		物理化学実験	1	1	必	2	半期(前)		121物実
		有機化学実験	1	1	必	2	半期(後)		123化実
		生物化学実験	1	1	必	2	半期(後)		121物実
		応用有機化学実験	1	1	必	3	半期(前)		123化実
		応用生物化学実験	1	1	必	3	半期(前)		125生実
		応用無機・分析化学実験	1	1	必	3	半期(後)		121物実
		応用物理化学実験	1	1	必	3	半期(後)		121物実
	教職関連科目	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)		110代数
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	夏季集中講義	114ｺﾝﾋﾟｭ
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)		110代数
		解析学	1	2	自	3	半期(前)		112解析
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)		111幾何
		代数学	1	2	自	2	半期(後)		110代数
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)		111幾何
		地球環境科学	1	2	自	2	半期(前)		126地学
		地学実験	2	2	自	4	半期(前)	夏季集中講義	127地実
	数学	微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		112解析
		複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)		112解析
		確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)		113確統
		確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		113確統

専門教育科目

【機械工学科　機械工学コース（EK)】

- 人材の養成に関する目的
  その他の教育研究上の目的
- 学位授与の方針
  （ディプロマポリシー）
- 教育課程編成・実施の方針
  （カリキュラムポリシー）
- 教育目標と理念
- 履修モデル
- 授業科目配当表

機械工学科の人材の養成に関する目的 その他の教育研究上の目的

機械工学科は、機械技術及び機械システムとその周辺分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる機械技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

機械工学科の学位授与の方針 （ディプロマポリシー）

工学部の機械工学科は、本学部の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期間在学し（※）、各コースの卒業要件をすべて満たした者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

＜機械工学コース＞

（1）一般教養、語学とともに、工学全般にわたる広い知識と理解力を有し、さらに、機械工学分野に関する専門知識、並びに深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。

（2）機械工学に対する社会的ニーズに基づき、研究課題の提起と解決への指針を明らかにできる能力、学術的な文書能力、研究発表や議論ができる能力を身につけること。

※標準修業年限は４年。

機械工学科の教育課程編成・実施の方針 （カリキュラムポリシー）

工学部の機械工学科は、コースごとに特色ある教育課程を編成し、実施します。

＜機械工学コース＞

機械工学科の機械工学コースは、数学、物理、化学に対する基礎教育科目を柱として、機械工学分野の基礎教育を展開し、さらに、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、設計・加工学の専門分野を系統的に学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

また、実験、実習、設計及びワークショップにて、機械工学における実践的な能力を身につけさせます。

機械工学科の教育目標と理念

機械工学は、我々が日常的に利用する機器などを、いかに高精度、高効率、高機能に実現するかを学ぶ学問である。これを学ぶ上で最も重要な事項は、基礎科目を十分かつ安全に身につけることであり、本学科では機械工学に関する基礎知識を確実に習得できるカリキュラムを用意している。次に、これらの機器を実現する方法を具体的に習得するために、機械設計製図、機械工作法等の科目が用意されている。さらに、ワークショップ、実験、実習、ＣＡＤなどの実技科目を通して、机上学習の知識を応用・実践できるようになっている。一方、機械も情報化機器と複合されているため、これに対応できるように、コンピュータ、制御、ロボットなどに関する知識の習得もできる。最終学年では卒業研究を通して、未知の事項に挑戦することで、創造力豊かで実践に役立つ応用力などを育成することが教育目標である。

本学科は包含する分野が広いため、「機械工学コース」と「先端機械コース」の２コースに分かれて学習する。主として前者のコースは基盤となる基礎学力の養成に焦点をあて、後者のコースは実用性のある応用力に焦点をあてていることが特徴である。

機械工学科　機械工学コースの教育目標と理念

機械工学は、日常生活や産業で利用する機器・設備などを、いかに高機能・高効率に、かつ安全や環境に配慮して、実現できるかを学ぶ学問である。学ぶ上で最も重要なことは、基礎となる学科目を十分身につけることであり、本コースでは機械工学に関する基礎知識を確実に習得できるカリキュラムを用意している。次に、目指す機器を実現する方法を具体的に習得するために、機械設計製図、機械工作法などの科目を用意している。さらに、ワークショップ、実験、実習、ＣＡＤなどの実技科目を通して、知識の応用・実践を習得する。同時に、機械工学との関わりが比較的新しいコンピュータ、制御、ロボットに関する知識も習得できる。最終学年では卒業研究を通して、４年間の集大成として未知の課題に挑戦する。以上より機械工学の基礎知識に基づき、創造力豊かで実践に役立つ応用力を有する技術者・研究者の育成を教育目標としている。

機械工学科機械工学コースにおける履修の考え方

機械工学は、他の分野に比べ、対象となる分野の範囲が幅広く、学生にとって、全ての科目を完全に習得することは、大変なことであると思う。しかしながら、企業が機械工学科の学生を採用するときに求めるのは、機械工学全般を知るジェネラリストであり、採用後の適性範囲の広さであろう。特に機械工学コースの学生としては、医者がインターン時に全ての分野を学ぶのと同様、できる限り多くの専門科目を幅広く履修しておくことを強く勧める。

大学において履修計画を立てるときの良さは、自らの興味に応じて好きな科目を学べる取捨選択の範囲が、広いことにある。しかしながら、社会から見たときに、現在のカリキュラムにおける必修科目のみを知っていれば機械工学の学士として認められるわけではない。以下を参考に、慎重に履修計画を立てていただきたい。

(1) 材料力学、熱力学、流体力学、機械力学（別名 振動学）の４つの力学は、通称４力とされて、機械工学の最も根幹を成す力学である。これらの科目の後半（例えば材料力学Ⅱ）については選択科目となっているが、履修することが強く望まれる。
中でも最も重要なのが材料力学である。
(2) 機械のメカトロ化、コンピュータ制御が当たり前となった現在では、制御工学も、４力に並ぶほど重要である。
(3) 就職して産業界に出た後の、機械設計や機械加工などのものづくり関連科目の重要性はとても大きい。
(4) 数学や物理は、力学の基礎であり、なるべく多くの科目を習得しておくことが望まれる。
(5) ２年次までに配当されている専門科目については、できる限り全て履修すること。
(6) ３年次以降は、多種多様な分野に応じた専門科目が出てくる。各自が学びたい分野の科目を中心に選択することになるが、学びたい分野の科目以外についても、可能な限り履修することが望まれる。
(7) 工学部の中で、コンピュータを用いた計算を最も多用するのは実は機械工学である。
コンピュータ関連科目、特にプログラミングに関連する科目は重要である。
(8) 先端機械コースに配当されている科目であっても、許可されている科目については、履修者数に余裕のある範囲で履修可能な科目、全く自由に履修可能な科目がある。将来の目標に応じて大いに利用するとよい。

以　上

機械工学科機械工学コース履修モデル

（専門選択科目の選択基準）

◎必ず履修すべき科目、○履修を強く勧める科目、△余裕のある限り履修すべき科目

【1・2年次科目】

学年	期	単位	科目名	選択基準
1	前期	2	化学Ⅰ	○
1	前期	2	ワークショップⅠ	○
1	前期	1	物理実験Ⅰ	◎
1	前期	2	エンジンの科学	○
1	前期	2	機械のしくみ	○
1	前期	1	化学実験Ⅰ	○
1	後期	4	微分積分学および演習Ⅱ	◎
1	後期	2	線形代数学Ⅱ	◎
1	後期	2	ワークショップⅡ	○
1	後期	2	物理学Ⅱ	◎
1	後期	1	物理実験Ⅱ	◎
1	後期	4	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	○
1	後期	2	化学Ⅱ	△
1	後期	2	メカトロニクス概論	○
1	後期	3	工業力学Ⅱおよび演習	◎
1	後期	1	化学実験Ⅱ	△
2	前期	2	コンピュータプログラミングⅠ	○
2	前期	2	材料工学	○
2	後期	2	材料力学Ⅱ	◎
2	後期	2	微分方程式Ⅱ	○
2	後期	2	ベクトルおよびテンソル	○
2	後期	2	フーリエ解析	○
2	後期	2	複素解析学Ⅰ	○
2	後期	2	工業熱力学Ⅱ	◎
2	後期	2	応用振動学	◎
2	後期	2	コンピュータプログラミングⅡ	○

【3・4年次科目】

学年	期	単位	科目名	希望する専門分野別の履修モデル		
				材料と加工	エネルギーと環境	情報と機械システム
3	前期	2	流体の力学Ⅱ	◎	◎	◎
3	前期	2	制御工学Ⅰ	◎	◎	◎
3	前期	2	複素解析学Ⅱ	○	○	○
3	前期	2	確率・統計Ⅰ	○	○	○
3	前期	2	電気工学	△	△	○
3	前期	2	弾塑性学	○	△	△
3	前期	2	機械加工学	○	△	△
3	前期	2	伝熱工学	△	○	△
3	前期	2	熱機関	△	○	△
3	前期	2	計測工学	△	△	○
3	前期	2	計算機援用設計	△	△	○
3	後期	2	電子工学	△	△	○
3	後期	2	数値解析学	○	○	○
3	後期	2	確率・統計Ⅱ	△	△	△
3	後期	2	材料強度学	○	△	△
3	後期	3	加工の力学および演習	○	△	△
3	後期	2	トライボロジー概論	○	△	△
3	後期	2	粘性流体力学	△	○	△
3	後期	2	流体機械	△	○	△
3	後期	2	制御工学Ⅱ	○	○	◎
3	後期	2	ワークショップⅢ	△	△	△
34	通年	2	インターンシップ	△	△	△
4	前期	2	先端材料	○	△	△
4	前期	2	応用物性学	○	△	△
4	前期	2	バイオメカニクス	○	△	△
4	前期	2	数値熱流体力学	△	○	△
4	前期	2	エネルギー変換工学	△	○	△
4	前期	2	ロボット工学	△	△	○
4	前期	2	機械・構造物のダイナミクス	△	△	○
4	後期	2	数値固体力学	○	△	△

2014（平成26）年度カリキュラム
工学部　機械工学科　機械工学コース　授業科目配当表

区分		開講コース	科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	コース選択	教職
専門基礎科目	基礎共通科目		微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ　3コマ		ｺｰﾄﾞなし
			微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)			112解析
			線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	基礎クラスのみ補習を4回行う		ｺｰﾄﾞなし
			線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			110代数
			微分方程式Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)			112解析
			微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			ベクトルおよびテンソル	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			複素解析学Ⅰ	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			複素解析学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)			112解析
			数値解析学	1	2	選	3	半期(後)			112解析
			確率・統計Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)			113確統
			確率・統計Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)			113確統
			物理学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
			物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
			化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
			化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
	コンピュータ	K	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		●	基礎要件
		K	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		●	114ｺﾝﾋﾟｭ
		K	コンピュータプログラミングⅠ	1	2	選	2	半期(前)		●	131情②
		K	コンピュータプログラミングⅡ	1	2	選	2	半期(後)		●	131情②
	専門基礎	K	機械系入門	1	2	必	1	半期(前)		●	160工業
		K	ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		●	ｺｰﾄﾞなし
		K	ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)		●	ｺｰﾄﾞなし
		K	工業力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	1	半期(前)		●	160工業
		K	工業力学Ⅱおよび演習	1.5	3	選	1	半期(後)		●	160工業
		K	エンジンの科学	1	2	選	1	半期(前)		△	160工業
		F	機械のしくみ	1	2	選	1	半期(前)		○	160工業
		K	メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(後)		●	131情②
専門教育科目	材料	K	材料力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		●	160工業
		K	材料力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		●	160工業
		K	材料工学	1	2	選	2	半期(前)		●	160工業
		K	弾塑性学	1	2	選	3	半期(前)		○	160工業
		K	材料強度学	1	2	選	3	半期(後)		○	160工業
		K	先端材料	1	2	選	4	半期(前)		△	160工業
		K	応用物性学	1	2	選	4	半期(前)		△	160工業
		K	バイオメカニクス	1	2	選	4	半期(前)		△	160工業
		K	数値固体力学	1	2	選	4	半期(後)		△	134情⑤
	加工	K	加工学基礎	1	2	必	2	半期(前)		●	160工業
		K	機械加工学	1	2	選	3	半期(前)		○	160工業
		K	加工の力学および演習	1.5	3	選	3	半期(後)		○	160工業
		K	トライボロジー概論	1	2	選	3	半期(後)		○	160工業
	流体	K	流体の力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		●	160工業
		K	流体の力学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)		○	160工業
		K	粘性流体力学	1	2	選	3	半期(後)		○	160工業
		K	流体機械	1	2	選	3	半期(後)		○	160工業
		K	数値熱流体力学	1	2	選	4	半期(前)		△	134情⑤

2014（平成26）年度カリキュラム
工学部　機械工学科　機械工学コース　授業科目配当表

区分		開講コース	科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	コース選択	教職
専門教育科目	熱	K	工業熱力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		●	160工業
		K	工業熱力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		●	160工業
		K	伝熱工学	1	2	選	3	半期(前)		○	160工業
		K	熱機関	1	2	選	3	半期(前)		○	160工業
		K	エネルギー変換工学	1	2	選	4	半期(前)		△	160工業
	振動・制御	K	振動学および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		●	160工業
		K	応用振動学	1	2	選	2	半期(後)		●	160工業
		K	機械・構造物のダイナミクス	1	2	選	4	半期(前)		△	160工業
		K	制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		●	131情②
		K	制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)		●	131情②
		K	ロボット工学	1	2	選	4	半期(前)		△	132情③
		K	計測工学	1	2	選	3	半期(前)		●	131情②
		K	電気工学	1	2	選	3	半期(前)		●	160工業
		K	電子工学	1	2	選	3	半期(後)		●	160工業
	設計	K	機械要素設計および演習	1.5	3	必	2	半期(後)		●	160工業
		K	計算機援用設計	1	2	選	3	半期(前)		○	134情⑤
	実験実習	K	機械工学実験実習Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)		●	160工業
		K	機械工学実験実習Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)		●	160工業
		K	機械工学実験実習Ⅲ	2	2	必	3	半期(前)		●	160工業
		K	機械工学実験実習Ⅳ	2	2	必	3	半期(後)		●	160工業
	製図	K	機械設計製図Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)		●	134情⑤
		K	機械設計製図Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)		●	132情③
		K	機械設計製図Ⅲ	2	2	必	3	半期(前)		●	160工業
	その他	K	品質管理	1	2	自	4	半期(後)		△	ｺｰﾄﾞなし
		K	機械工学輪講	1	2	必	3	半期(後)		●	160工業
		K	ワークショップⅢ	2	2	選	3	半期(後)		●	ｺｰﾄﾞなし
		K	インターンシップ	随時	2	選	34	通年		●	ｺｰﾄﾞなし
		K	卒業研究	前3後3	6	必	4	通年		○	ｺｰﾄﾞなし
	教職関連科目		職業指導	1	4	自	3	通年			160工業
			コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)			131情②
			情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)			132情③
			情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)			133情④
			マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)			134情⑤
			線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)			110代数
			数式処理	1	2	自	2	半期(前)	夏季集中講義		114ｺﾝﾋﾟｭ
			代数学入門	1	2	自	1	半期(後)			110代数
			代数学	1	2	自	2	半期(後)			110代数
			解析学	1	2	自	3	半期(前)			112解析
			幾何学	1	2	自	3	半期(前)			111幾何
			微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)			111幾何

コース選択の記号説明

● 他コースの学生は履修不可
○ 履修者に余裕があれば他コース生履修可
△ コースにかかわらず履修可

専門教育科目

【機械工学科　先端機械コース（EF)】

- 人材の養成に関する目的
  その他の教育研究上の目的
- 学位授与の方針
  （ディプロマポリシー）
- 教育課程編成・実施の方針
  （カリキュラムポリシー）
- 教育目標と理念
- 履修モデル
- 授業科目配当表

機械工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

機械工学科は、機械技術及び機械システムとその周辺分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる機械技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

機械工学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学部の機械工学科は、本学部の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期間在学し（※）、各コースの卒業要件をすべて満たした者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

＜先端機械コース＞

（1）一般教養、語学とともに、従来からの機械工学全般に関する広い知識と理解力を有し、さらに、機械工学における先端的な周辺分野の基礎知識を有し、それを活用した深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。

（2）技術課題解決の目的を明確化し、その目的のために行った検討内容を的確に伝達するとともに、事実に基づく自分の考えを論理的に報告する能力を身につけること。

（3）将来の機械技術革新・先端化に対応できる広い視野を有すること。

※標準修業年限は４年。

機械工学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学部の機械工学科は、コースごとに特色ある教育課程を編成し、実施します。

＜先端機械コース＞

機械工学科の先端機械コースは、機械技術及び機械システムにかかわる基礎と応用を２つの柱として、機械工学の基盤である力学系科目を展開し、さらに、「先端医用工学」「先端自動車工学」「先端精密機械加工」などの先端的な機械工学関連分野を、系統的かつ専門的に学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

このように先端的な技術内容の科目を配置することで、将来にわたる学生の工学技術への興味向上と視野拡大へとつなげていきます。

また、技術課題解決の能力を養うために、「機械のしくみ」から始まって、「ワークショップ系科目」「実験実習系科目」、そして最後は「卒業研究」と、一連の課題探究科目群を配置します。さらに、「コンピュータの基礎および演習」や「機械工学輪講」を配置します。これらの学習によって、学生はプレゼンテーション能力を向上させ、技術成果を発表する経験を積みます。

機械工学科の教育目標と理念

機械工学は、我々が日常的に利用する機器などを、いかに高精度、高効率、高機能に実現するかを学ぶ学問である。これを学ぶ上で最も重要な事項は、基礎科目を十分かつ安全に身につけることであり、本学科では機械工学に関する基礎知識を確実に習得できるカリキュラムを用意している。次に、これらの機器を実現する方法を具体的に習得するために、機械設計製図、機械工作法等の科目が用意されている。さらに、ワークショップ、実験、実習、ＣＡＤなどの実技科目を通して、机上学習の知識を応用・実践できるようになっている。一方、機械も情報化機器と複合されているため、これに対応できるように、コンピュータ、制御、ロボットなどに関する知識の習得もできる。最終学年では卒業研究を通して、未知の事項に挑戦することで、創造力豊かで実践に役立つ応用力などを育成することが教育目標である。

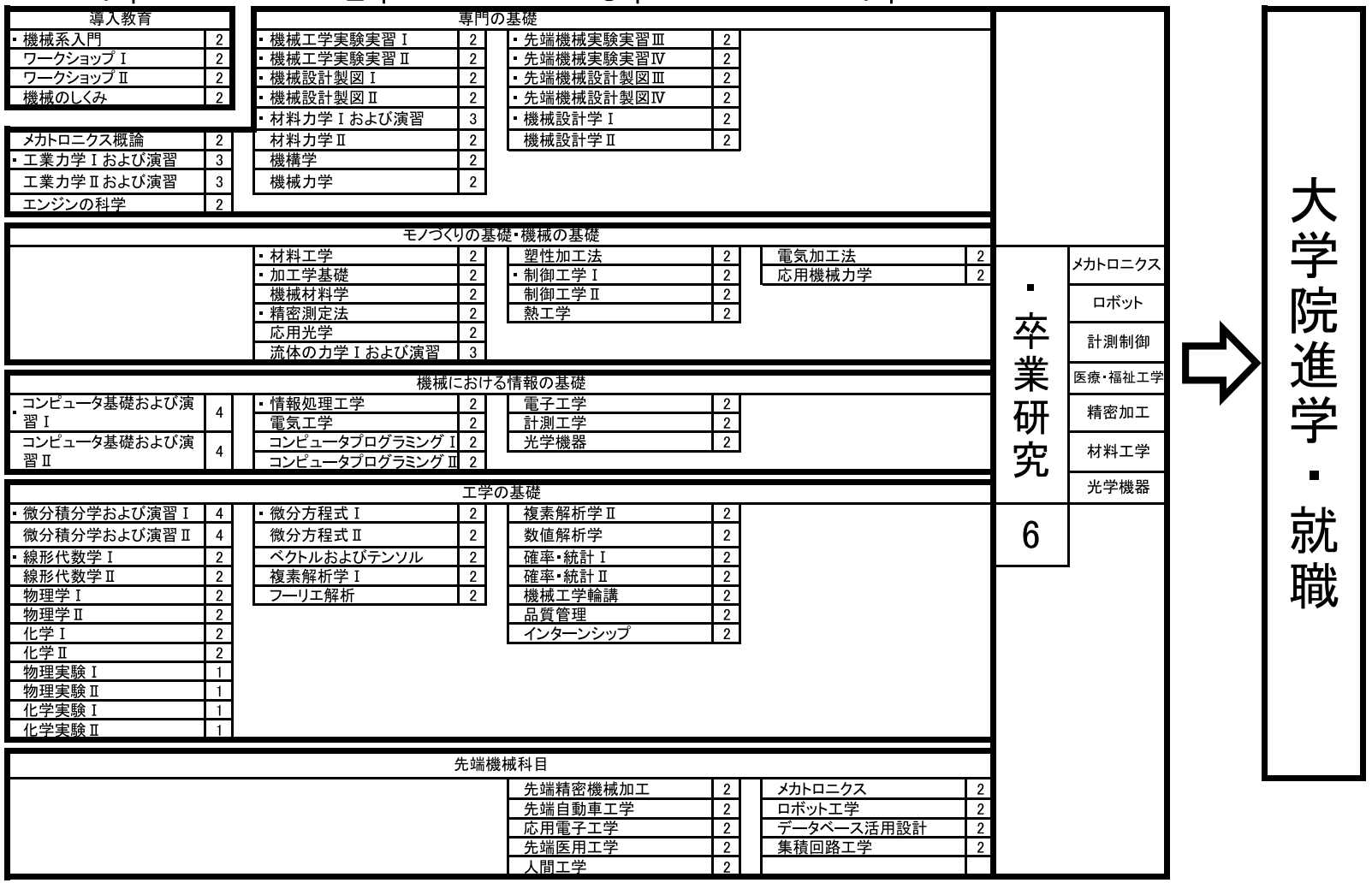
本学科は包含する分野が広いため、「機械工学コース」と「先端機械コース」の２コースに分かれて学習する。主として前者のコースは基盤となる基礎学力の養成に焦点をあて、後者のコースは実用性のある応用力に焦点をあてていることが特徴である。

機械工学科　先端機械コースの教育目標と理念

機械工学は、我々が日常的に利用する機器などをいかに、高精度、高効率、高機能にするかを学ぶ学問である。これらを学ぶためには、まず基礎をしっかりと固め、その後段階的に知識と技術を高めていくことが必要である。そのため、重要な基礎科目には演習を配し、学んだことを自ら経験して確認・習得できる教育体系としている。また、実験、実習科目を充実させて経験学習の強化に努めている。さらに、先端機械コースでは、発展し続ける技術に対応するために、従来の機械工学だけでなく、情報・コンピュータ、電気・電子、光学、医療・福祉、人間工学などの幅広い分野を取り入れた教育研究を実施し、革新的な先端機械の創出にかかわることができる技術者・研究者の育成を教育目標としている。

先端機械コース科目関連表

（・は必修科目）



2014（平成26）年度カリキュラム
工学部　機械工学科　先端機械コース　授業科目配当表

区分		開講コース	科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	コース選択	教職
専門基礎科目	基礎共通科目		微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ　3コマ		ｺｰﾄﾞなし
			微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)			112解析
			線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	基礎クラスのみ補習を4回行う		ｺｰﾄﾞなし
			線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			110代数
			微分方程式Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)			112解析
			微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			ベクトルおよびテンソル	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			複素解析学Ⅰ	1	2	選	2	半期(後)			112解析
			複素解析学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)			112解析
			数値解析学	1	2	選	3	半期(後)			112解析
			確率・統計Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)			113確統
			確率・統計Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)			113確統
			物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
			物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
			物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義		ｺｰﾄﾞなし
			化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
			化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)			ｺｰﾄﾞなし
			化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)			ｺｰﾄﾞなし
	コンピュータ	F	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		●	基礎要件
		F	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		●	114ｺﾝﾋﾟｭ
		F	コンピュータプログラミングⅠ	1	2	選	2	半期(前)		●	131情②
		F	コンピュータプログラミングⅡ	1	2	選	2	半期(後)		●	131情②
	専門基礎	F	機械系入門	1	2	必	1	半期(前)		●	160工業
		F	ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		●	ｺｰﾄﾞなし
		F	ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)		●	ｺｰﾄﾞなし
		F	工業力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	1	半期(前)		●	160工業
		F	工業力学Ⅱおよび演習	1.5	3	選	1	半期(後)		●	160工業
		K	エンジンの科学	1	2	選	1	半期(前)		△	160工業
		F	機械のしくみ	1	2	選	1	半期(前)		○	160工業
		F	メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(後)		●	131情②
専門科目	情報	F	情報処理工学	1	2	必	2	半期(後)		●	131情②
	材料	F	材料力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		●	160工業
		F	材料力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		●	160工業
		F	材料工学	1	2	必	2	半期(前)		●	160工業
		F	機械材料学	1	2	選	2	半期(後)		○	160工業
専門科目	加工	F	加工学基礎	1	2	必	2	半期(前)		●	160工業
		F	塑性加工法	1	2	選	3	半期(前)		○	160工業
		F	先端精密機械加工	1	2	選	3	半期(後)		●	160工業
		F	電気加工法	1	2	選	4	半期(前)		△	160工業
	流体	F	流体の力学Ⅰおよび演習	1.5	3	選	2	半期(前)		●	160工業
	熱	F	熱工学	1	2	選	3	半期(前)		●	160工業

2014（平成26）年度カリキュラム
工学部　機械工学科　先端機械コース　授業科目配当表

区分		開講コース	科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	コース選択	教職
専門科目	制御・計測・電気	F	制御工学Ⅰ	1	2	必	3	半期(前)		●	131情②
		F	制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)		●	131情②
		F	ロボット工学	1	2	選	4	半期(前)		△	132情③
		F	精密測定法	1	2	必	2	半期(後)		●	160工業
		F	計測工学	1	2	選	3	半期(前)		●	131情②
		F	電気工学	1	2	選	2	半期(後)		●	160工業
		F	先端自動車工学	1	2	選	3	半期(前)	夏期集中講義を含む	○	160工業
		F	電子工学	1	2	選	3	半期(前)		●	160工業
		F	先端医用工学	1	2	選	3	半期(前)		●	160工業
		F	応用電子工学	1	2	選	3	半期(後)		●	160工業
		F	集積回路工学	1	2	選	4	半期(前)		○	ｺｰﾄﾞなし
		F	メカトロニクス	1	2	選	4	半期(前)		○	ｺｰﾄﾞなし
	光学	F	応用光学	1	2	選	2	半期(後)		○	160工業
		F	光学機器	1	2	選	3	半期(前)		○	160工業
	設計	F	機構学	1	2	選	2	半期(前)		○	160工業
		F	機械力学	1	2	選	2	半期(後)		●	160工業
		F	機械設計学Ⅰ	1	2	必	3	半期(前)		●	160工業
		F	機械設計学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)		●	160工業
		F	人間工学	1	2	選	3	半期(後)		△	160工業
		F	データベース活用設計	1	2	選	4	半期(前)		●	132情③
		F	応用機械力学	1	2	選	4	半期(前)		○	ｺｰﾄﾞなし
	実験実習	F	機械工学実験実習Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)		●	160工業
		F	機械工学実験実習Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)		●	160工業
		F	先端機械実験実習Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)		●	160工業
		F	先端機械実験実習Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)		●	160工業
	製図	F	機械設計製図Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)		●	134情⑤
		F	機械設計製図Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)		●	132情③
		F	先端機械設計製図Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)		●	160工業
		F	先端機械設計製図Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)		●	134情⑤
	その他	F	品質管理	1	2	自	34	半期(後)	3，4年同時開講	△	ｺｰﾄﾞなし
		F	機械工学輪講	1	2	選	3	半期(後)		●	160工業
		F	インターンシップ	随時	2	選	34	通年		●	ｺｰﾄﾞなし
		F	卒業研究	前3後3	6	必	4	通年		○	ｺｰﾄﾞなし
専門教育科目	教職関連科目		職業指導	1	4	自	3	通年			160工業
			コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)			131情②
			情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)			132情③
			情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)			133情④
			マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)			134情⑤
			線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)			110代数
			数式処理	1	2	自	2	半期(前)	夏期集中講義		114ｺﾝﾋﾟｭ
			代数学入門	1	2	自	1	半期(後)			110代数
			代数学	1	2	自	2	半期(後)			110代数
			解析学	1	2	自	3	半期(前)			112解析
			幾何学	1	2	自	3	半期(前)			111幾何
			微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)			111幾何

コース選択の記号説明

● 他コースの学生は履修不可
○ 履修者に余裕があれば他コース生履修可
△ コースにかかわらず履修可

専門教育科目

【情報通信工学科（EC)】

- 人材の養成に関する目的
  その他の教育研究上の目的
- 学位授与の方針
  （ディプロマポリシー）
- 教育課程編成・実施の方針
  （カリキュラムポリシー）
- 教育目標と理念
- 履修モデル
- 授業科目配当表

情報通信工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

情報通信工学科は、情報・コンピュータ技術と通信・ネットワーク技術の両分野に関する基礎から応用までの知識と技術を広く総合的に有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる情報通信技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

情報通信工学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学部の情報通信工学科は、本学部の学位授与方針をもとに、本学科に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

（1）一般教養、語学、並びに工学全般に関する広い知識と理解力、工学の情報通信工学における「情報・コンピュータ技術」と「通信・メディア処理技術」の両分野に関する知識、かつ深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。
（2）自発性、問題解決能力や実践力、新技術に柔軟に対応し受容するための実践的な適応力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、マネジメント力など、情報通信分野の専門技術者・研究者として自立できる能力と社会性を備える基盤を築いていること。

※標準修業年限は４年。

情報通信工学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学部の情報通信工学科は、基礎学力を柱とし、情報通信工学分野の基礎を学び、さらに、情報通信システム、マルチメディア処理、コンピュータネットワーク、コンピュータ応用技術の各分野を系統的かつ専門的に学習できるように、教育課程を編成し、実施します。

また、多岐にわたる情報通信工学分野の応用科目を多数用意し、各自の興味に沿った自由度の高い学習を可能とするとともに、常に科目の見直しを行い、時代に即した知識や技術が修得できるようにします。

さらに、演習、実験、実習を重視し、すべての年次でコンピュータ関連科目及び講義科目と連携した実験科目を配し、基礎力、実践力、思考力、豊かな想像力を確実に養成しつつ、学習意欲の高い学生の実力と個性を伸ばす教育プログラムを提供します。

情報通信工学科の教育目標と理念

情報通信技術（ＩＣＴ）は 21 世紀の世界を担う次世代の情報化社会を構築するために中心的な役割を果たすものであり、情報・コンピュータ技術と通信・ネットワーク技術の両分野の知識を広く総合的に習得した人材が産業界から強く求められている。こうした社会的要請に応えるべく、情報通信工学科では情報通信の主分野、すなわち情報通信システム、コンピュータネットワーク、コンピュータ応用技術、そしてマルチメディア処理の各分野を有機的に統合してとらえた教育を行い、広範な基礎知識や基礎技術力に加えて応用力と洞察力、そして技術者として自立できる社会性を兼ね備えた実践的な情報通信技術者・研究者を育成することを教育理念としている。情報通信分野の専門技術者としての幅広い知識の上に確固たる技術分野を有する人材育成を目標とし、自発性、問題解決能力や実践力、そして新技術に柔軟に対応し受容するための基礎学力と適応力の涵養を目指している。建学の精神の下で、講義科目と連携した実験科目を配置するなど、実験・実習を重視し、強い実践力と思考力、そして豊かな想像力を確実に養成しつつ、学習意欲の高い学生の実力と個性を伸ばす教育プログラムも提供する。

情報通信工学科 履修モデル（参考）

注意　これらは履修計画をおこなう上での参考モデルです。情報通信工学科では広範な分野の知識や技術の習得を教育目標としており、以下のモデルにとらわれずに複数の分野にわたって科目を履修することを推奨します。

基本分野		情報通信システム		情報ネットワーク		マルチメディア処理		コンピュータ応用	
分野の概要		携帯電話、光ファイバなどのさまざまな情報通信システムの原理や基本技術とその応用	単位数	インターネットをはじめとする情報ネットワークの原理や基本技術とその応用	単位数	音声、画像、テキストなどを含むマルチメディア情報の処理に関する基本技術とその応用	単位数	人工知能、ロボット制御などの高度なコンピュータ応用技術に関する基本技術とその応用	単位数
1年	前期	微分積分学および演習Ⅰ	④	微分積分学および演習Ⅰ	④	微分積分学および演習Ⅰ	④	微分積分学および演習Ⅰ	④
		線形代数学Ⅰ	②	線形代数学Ⅰ	②	線形代数学Ⅰ	②	線形代数学Ⅰ	②
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	④	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	④	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	④	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	④
		ワークショップⅠ	②	ワークショップⅠ	②	ワークショップⅠ	②	ワークショップⅠ	②
		情報通信メディア基礎	②	情報通信メディア基礎	②	情報通信メディア基礎	②	情報通信メディア基礎	②
		物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2
	後期	電気回路基礎および演習	②	電気回路基礎および演習	②	電気回路基礎および演習	③	電気回路基礎および演習	③
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	④	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	④	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	④	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	④
		ワークショップⅡ	②	ワークショップⅡ	②	ワークショップⅡ	②	ワークショップⅡ	②
		微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4
		線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2
		情報通信数学A(離散数学)	2	情報通信数学A(離散数学)	2	情報通信数学A(離散数学)	2	情報通信数学A(離散数学)	2
		信号理論	2	信号理論	2	信号理論	2		
	小計	13 科目 34 単位		13 科目 34 単位		13 科目 35 単位		12 科目 33 単位	
2年	前期	電磁気学基礎および演習	③	電磁気学基礎および演習	③	電磁気学基礎および演習	③	電磁気学基礎および演習	③
		電子回路基礎	②	電子回路基礎	②	電子回路基礎	②	電子回路基礎	②
		論理回路および論理設計	②	論理回路および論理設計	②	論理回路および論理設計	②	論理回路および論理設計	②
		情報通信基礎実験(通年)	④	情報通信基礎実験(通年)	④	情報通信基礎実験(通年)	④	情報通信基礎実験(通年)	④
		基礎プログラミングおよび演習	③	基礎プログラミングおよび演習	③	基礎プログラミングおよび演習	③	基礎プログラミングおよび演習	③
		情報通信数学B	2	情報通信数学B	2	情報通信数学B	2	情報通信数学B	2
		信号システム解析	2	信号システム解析	2	信号システム解析	2	微分方程式Ⅰ	2
		微分方程式Ⅰ	2	インターネットプログラミング	2	インターネットプログラミング	2	インターネットプログラミング	2
	後期	データ構造とアルゴリズムⅠ	②	データ構造とアルゴリズムⅠ	②	データ構造とアルゴリズムⅠ	②	データ構造とアルゴリズムⅠ	②
		情報通信数学C	2	情報通信数学C	2	情報通信数学C	2	情報通信数学C	2
		電子回路応用	2	通信理論基礎	2	通信理論基礎	2	通信理論基礎	2
		応用物理学	2	ディジタル信号処理	2	ディジタル信号処理	2		
		電磁気学応用	2	ディジタル回路	2				
		通信理論基礎	2						
		ディジタル信号処理	2						
		ディジタル回路	2						
	小計	16 科目 36 単位		13 科目 28 単位		12 科目 28 単位		11 科目 26 単位	
3年	前期	情報通信工学実験(通年)	④	情報通信工学実験(通年)	④	情報通信工学実験(通年)	④	情報通信工学実験(通年)	④
		グループスタディⅠ	2	グループスタディⅠ	2	グループスタディⅠ	2	グループスタディⅠ	2
		情報通信デバイス	2	通信システム	2	通信システム	2	メディアと信号処理	2
		通信システム	2	コンピュータアーキテクチャ	2	メディアと信号処理	2	計測制御工学	2
		計測制御工学	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	コンピュータアーキテクチャ	2
		高周波の基礎	2	ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	3	ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	3	データ構造とアルゴリズムⅡ	2
		情報ネットワーク	2	情報ネットワーク	2	情報ネットワーク	2	ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	3
								情報ネットワーク	2
	後期	グループスタディⅡ	2	グループスタディⅡ	2	グループスタディⅡ	2	グループスタディⅡ	2
		通信ネットワーク	2	通信ネットワーク	2	音声･音響情報処理	2	音声･音響情報処理	2
		通信法規	2	データベース	2	画像処理工学	2	画像処理工学	2
				通信法規	2	データベース	2	データ解析	2
				ネットワークセキュリティと暗号	2	ネットワークセキュリティと暗号	2	データベース	2
	小計	10 科目 22 単位		12 科目 27 単位		12 科目 27 単位		14 科目 32 単位	
4年	前期	卒業研究(通年)	⑥	卒業研究(通年)	⑥	卒業研究(通年)	⑥	卒業研究(通年)	⑥
		情報通信プロジェクト(通年)	③	情報通信プロジェクト(通年)	③	情報通信プロジェクト(通年)	③	情報通信プロジェクト(通年)	③
		ワイヤレスシステム工学	2	マルチメディア通信工学	2	マルチメディア通信工学	2	マルチメディア通信工学	2
		光通信工学	2			コンピュータグラフィクス	2	コンピュータグラフィクス	2
	後期								
	小計	4 科目 13 単位		3 科目 11 単位		4 科目 13 単位		4 科目 13 単位	

総 計	43 科目 105 単位	41 科目 100 単位	41 科目 103 単位	41 科目 104 単位

・単位数の○記号は必修科目。また、名称の長い科目は一部省略した表現になっています。
・複素数について十分に学んでいないか、または理解不足の学生は、1年前期開講の「複素数基礎」を履修することを強く推奨します。
・3年後期には学習意欲の高い学生のために「特別プログラミング演習」と少人数選抜式の「マイコン基礎および実習」が用意されています。

2014（平成26）年度カリキュラム
工学部　情報通信工学科　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	基礎共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	ｺｰﾄﾞなし
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	基礎クラスのみ補習を4回行う	ｺｰﾄﾞなし
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	ｺｰﾄﾞなし
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		基礎要件
		ワークショップⅠ	2	2	必	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年		ｺｰﾄﾞなし
		情報通信メディア基礎	1	2	必	1	半期(前)		133情④
		複素数基礎	1	2	選	1	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		112解析
		情報通信数学A（離散数学）	1	2	選	1	半期(後)		114ｺﾝﾋﾟｭ
		情報通信数学B（確率論と情報理論）	1	2	選	2	半期(前)		113確統
		情報通信数学C（代数と符号理論）	1	2	選	2	半期(後)		110代数
		電気回路基礎および演習	1.5	3	必	1	半期(後)		160工業
		電磁気学基礎および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		160工業
		電子回路基礎	1	2	必	2	半期(前)		160工業
		信号理論	1	2	選	1	半期(後)		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	必	1	半期(後)		114ｺﾝﾋﾟｭ
		通信法規	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		ビジネス論	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		グループスタディⅠ	1	2	選	3	半期(前)		ｺｰﾄﾞなし
		グループスタディⅡ	1	2	選	3	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		卒業研究	前3後3	6	必	4	通年		ｺｰﾄﾞなし
	実験等	ワークショップⅡ	2	2	必	1	半期(後)		ｺｰﾄﾞなし
		情報通信基礎実験	2	4	必	2	通年		160工業
		情報通信工学実験	2	4	必	3	通年		131情②
		情報通信プロジェクト	前2後1	3	必	4	通年		132情③
	通信・メディア処理	電子回路応用	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		応用物理学	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		情報通信デバイス	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		電磁気学応用	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		高周波の基礎	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		ワイヤレスシステム工学	1	2	選	4	半期(前)		160工業
		通信理論基礎	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		通信システム	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		通信ネットワーク	1	2	選	3	半期(後)		160工業
		光通信工学	1	2	選	4	半期(前)		160工業
		信号システム解析	1	2	選	2	半期(前)		160工業
		ディジタル信号処理	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		メディアと信号処理	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		音声・音響情報工学	1	2	選	3	半期(後)		134情⑤
		画像処理工学	1	2	選	3	半期(後)		134情⑤
		マルチメディア通信工学	1	2	選	4	半期(前)		134情⑤
		コンピュータグラフィクス	1	2	選	4	半期(前)		134情⑤
		計測制御工学	1	2	選	3	半期(前)		160工業

2014（平成26）年度カリキュラム
工学部　情報通信工学科　授業科目配当表

区分		科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	教職
専門教育科目	コンピュータ	論理回路および論理設計	1	2	必	2	半期(前)		160工業
		ディジタル回路	1	2	選	2	半期(後)		160工業
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)		160工業
		マイコン基礎および実習	2	3	選	3	半期(後)		131情②
		基礎プログラミングおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		160工業
		データ構造とアルゴリズムⅠ	1	2	必	2	半期(後)		131情②
		データ構造とアルゴリズムⅡ	1	2	選	3	半期(前)		131情②
		特別プログラミング演習	1	2	選	3	半期(後)		131情②
		インターネットプログラミング	1	2	選	2	半期(前)		132情③
		オブジェクト指向プログラミングおよび演習	1.5	3	選	3	半期(前)		131情②
		情報ネットワーク	1	2	選	3	半期(前)		133情④
		ネットワークセキュリティと暗号	1	2	選	3	半期(後)		133情④
		データ解析	1	2	選	3	半期(後)		132情③
		データベース	1	2	選	3	半期(後)		132情③
		情報処理・通信技術基礎	1	2	自	2	半期(後)		160工業
	教職関連科目	職業指導	1	4	自	3	通年		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)		131情②
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)		132情③
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)		133情④
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)		134情⑤
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)		110代数
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)		114ｺﾝﾋﾟｭ
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)		110代数
		解析学	1	2	自	3	半期(前)		112解析
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)		111幾何
		代数学	1	2	自	2	半期(後)		110代数
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)		111幾何
		確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)		113確統
		確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		113確統
		複素解析学Ⅰ	1	2	自	3	半期(前)		112解析
		複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)		112解析
		微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		112解析

第３章
資格について

卒業後取得できる主な資格・免許
（受験資格、筆記試験免除、国家試験科目の一部免除）

該当学科において、在学中に所定の単位を取得することによって、資格が取得できるもの、及び試験免除等となる主な資格・免許は次のとおりです。

◎　卒業することにより得られる資格

資格・免許	該当学科	取得条件	取扱い機関
技術士補	電気電子工学科 （電気電子システムコース）	電気電子工学科の電気電子専修プログラム（JABEE プログラム）修了者	(公社)日本技術士会技術士試験センター

◎　所定の科目・単位を修得することにより得られる資格（取扱機関：東京都の場合）

資格・免許	該当学科	取得条件	取扱い機関
高等学校教諭 １種免許状 中学校教諭 １種免許状	各学科	教職課程の頁参照	東京都教育庁
劇物毒物取扱い 責任者	環境化学科	化学に関する科目を 28 単位以上取得。（個人に与えられる資格ではなく、劇物毒物資格責任者の職についた場合に使用できる資格である。）	東京都福祉保健局健康安全室薬務課薬事免許係
第一級陸上 特殊無線技士 第三級海上 特殊無線技士	電気電子工学科 （電子光情報コース） 情報通信工学科	所定の授業科目を修得し卒業した者。本人が関東総合無線通信局航空海上課に申請することによって免許が得られる。 （特殊無線技士の頁参照）	関東総合通信局無線通信部 航空海上課

◎　所定の科目・単位を修得し卒業後、一定の実務を経た者が筆記試験免除となる資格
（取扱機関：東京都の場合）

資格・免許	該当学科	取得条件	取扱い機関
電気主任技術者 第一種 第二種 第三種	電気電子工学科 （電気電子システムコース）	所定の科目を修得した者は筆記試験・技能試験のうち、筆記試験が免除される。 （電気主任技術者の頁参照）	経済産業省原子力安全・保安関東東北産業保安監督部 電力安全課
電気工事士 第二種		所定の科目を修得した者は筆記試験・技能試験のうち、筆記試験が免除される。 （電気工事士の頁参照）	関東総合通信局情報通信部 電気通信事業部

◎　所定の科目を修得した卒業後、国家試験の一部免除となる資格（取扱機関：東京都の場合）

資格・免許	該当学科	取得条件	取扱い機関
第一級 陸上無線技術士 第二級 陸上無線技術士	電気電子工学科 （電子光情報コース）	所定の科目を修得したものは、試験科目中の「無線工学の基礎」が免除される。ただし、卒業の日から３年以内に限られる。 （陸上無線技術士の頁参照）	関東総合通信局航空海上課
電気通信 主任技術者	電気電子工学科 （電子光情報コース） 情報通信工学科	所定の科目を修得したものは、試験科目中の「電気通信システム１科目」の試験が免除される。 （電気通信主任技術者の頁参照）	関東総合通信局情報通信部 電気通信事業部

◎　卒業後、一定の実務を経た者が取得ができる資格（取扱機関：東京都の場合）

資格・免許	該当学科	取得条件	取扱い機関
ボイラータービン主任技術者 第一種 第二種	機械工学科 （但し、「熱機関」を修得のこと）	所定の経験を経た者は資格の交付を受けることができる。	経済産業省原子力安全・保安関東東北産業保安監督部 電力安全課
ボイラー技士 特級 一級		ボイラーに関する学科を修め下記の実務経験を有する者は、受験資格がある。 ［特級］　２年以上の実地修習 ［１級］　１年以上の実地修習	関東安全衛生技術センター

◎　卒業後、受験資格が得られる資格（取扱機関：東京都の場合）

資格・免許	該当学科	取得条件	取扱い機関
建設機械 施工技士 １級	電気電子工学科 機械工学科	大学で、機械・電気に関する学科を卒業し、３年以上の実務経験（そのうち１年は指導監督的実務経験）を経ると受験資格が得られる。	（一社）日本建設機械化協会
危険物 取扱責任者 甲種	環境化学科	大学等において化学に関する学科等を卒業し受験資格が得られる。（卒業証明書の提出）	関東安全衛生技術センター
	電気電子工学科 機械工学科 情報通信工学科	大学等において化学に関する科目を 15 単位以上修得し受験資格が得られる。（成績証明書の提出）	
弁理士	全学科	特になし	特許庁総務部秘書課弁理士課
公害防止管理者	全学科	特になし	（一社）産業環境管理協会公害防止管理者試験センター
技術士補	全学科 （但し、電気電子工学科（電気電子システムコース）は除く）	特になし	（公社）日本技術士会技術士試験センター

※注１　（公社）：公益社団法人、（一社）：一般社団法人の略
※注２　最新情報は各取扱機関へお問い合わせください

第一級陸上特殊無線技士・第三級海上特殊無線技士

業務内容

第一級陸上特殊無線技士

電気通信事業者・電力会社・放送事業社・公共機関などで利用されるマイクロ波の多重無線設備の操作や第二級・第三級陸上特殊無線技士の操作範囲であるタクシー、トラックなどの陸上移動関係の通信を行う無線局の操作に必要な免許です。

第三級海上特殊無線技士

沿岸漁業用の小型漁船、モーターボートなどのレジャー船舶に開設した船舶局の操作に必要です。

資格の種類と操作範囲　（無線従事者の操作の範囲等を定める政令から抜粋）

資格の種類	操作範囲
第一級陸上特殊無線技士	一、陸上の無線局の空中線電力 500 ワット以下の多重無線設備（多重通信を行うことができる無線設備でテレビジョンとして使用するものを含む。）で 30 メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの技術操作 二、前号に掲げる操作以外の操作で第二級陸上特殊無線技士の操作の範囲に属するもの
第三級海上特殊無線技士	一、船舶に施設する空中線電力 5 ワット以下の無線電話（船舶地球局及び航空局の無線電話であるものを除く。）で 25010 キロヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの国内通信のための通信操作及びその無線電話（多重無線設備であるものを除く。）の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作 二、船舶局及び船舶のための無線航行局の空中線電力 5 キロワット以下のレーダーの外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作

資格取得のための要件

電気電子工学科または情報通信工学科在学中に、次の表の科目区分ごとに必要な科目を修得して卒業した後、自分の住所を所轄する電気通信監理局に、履修内容を証明することで資格が得られます。

第一級陸上特殊無線技士及び第三級海上特殊無線技士を免許申請する場合は、最寄りの総合通信局となります。

＊関東総合通信局　無線通信部　航空海上課
〒 102 － 8795
東京都千代田区九段南 1 － 2 － 1（九段第 3 合同庁舎）
電話：03 － 6238 － 1749
URL:http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/

第一級陸上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目

電気電子工学科　電子光情報コース　2014（平成 26）年度カリキュラム適用者

区分	授業科目名
無線機器学その他無線機器に関する科目	通信機器
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学
電子計測その他無線測定に関する科目	電子計測 高周波回路
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

情報通信工学科　2014（平成 26）年度カリキュラム適用者

区分	授業科目名
無線機器学その他無線機器に関する科目	ワイヤレスシステム工学 マルチメディア通信工学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	高周波の基礎
電子計測その他無線測定に関する科目	計測制御工学
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

第三級海上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目

電気電子工学科　電子光情報コース　2014（平成 26）年度カリキュラム適用者

区分	授業科目名
無線機器学その他無線機器に関する科目	通信機器
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

情報通信工学科　2014（平成 26）年度カリキュラム適用者

区分	授業科目名
無線機器学その他無線機器に関する科目	ワイヤレスシステム工学 マルチメディア通信工学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	高周波の基礎
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

電気主任技術者

事業用電気工作物を設置する者は、事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督をさせるため、経済産業省令で定めるところにより、主任技術者免状の交付を受けている者のうちから、主任技術者を選任しなければならない。

主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督の職務を誠実に行わなければならない。」（電気事業法第 43 条第 1 項及び第 4 項抜粋）

免状の種類（電気主任技術者の項抜粋）

次の 3 種類があり、それぞれ保安の監督ができる範囲が定められています。

免状の種類	保安の監督をすることができる範囲
第 1 種電気主任技術者	事業用電気工作物の工事、維持および運用
第 2 種電気主任技術者	電圧十七万ボルト未満の事業用電気工作物の工事、維持及び運用
第 3 種電気主任技術者	電圧五万ボルト未満の事業用電気工作物（出力五千キロワット以上の発電所を除く）の工事、維持及び運用

（電気事業法第 44 条・同法施行規則 56 条）

学歴または資格、および実務経験による免状取得

電気電子工学科電気電子システムコース在学中に、A表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得し、卒業後に、B表の実務経験を有すれば、免状の種類に応じて、申請により電気主任技術者免状が取得できます。

A表　必要単位数および授業科目

電気電子工学科電気電子システムコース

2014（平成 26）年度カリキュラム適用者　　●印は本学必修科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	配当単位数	備考
1. 電気・電子工学等の基礎	17 単位以上	●電磁気学および演習Ⅰ ●電磁気学および演習Ⅱ 電磁気学Ⅲ ●回路理論および演習Ⅰ ●回路理論および演習Ⅱ 回路解析基礎 過渡現象	4 4 2 4 4 2 2	
		電気電子計測	2	必ず修得すること
		電子デバイスⅠ 電子デバイスⅡ ●電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ ディジタル回路	2 2 2 2 2	
2. 発電、変電、送電、配電、電気材料等（電力科目）	7 単位以上	発電工学	2	必ず修得すること
		電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ	2 2	いずれか 1 科目は修得すること
		電気材料 高電圧工学	2 2	いずれか 1 科目は修得すること
		環境とエネルギー	2	
3. 電気・電子機器、自動制御、電気エネルギーの利用および情報伝送・処理等（機械科目）	10 単位以上	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ	2 2	いずれか 1 科目は修得すること
		パワーエレクトロニクス	2	必ず修得すること
		制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ	2 2	いずれか 1 科目は修得すること
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4 4	
4. 電気法規・電気施設管理	1 単位以上	電気法規	2	必ず修得すること
実験・実習	6 単位以上	●電気電子工学基礎実験Ⅰ ●電気電子工学基礎実験Ⅱ ●電気電子工学実験Ⅰ ●電気電子工学実験Ⅱ	2 2 2 2	
設計・製図	2 単位以上	電機設計および電気製図	2	必ず修得すること
計	43 単位以上		76	

注意事項

1．原則として在学中に修得したものに限ります。

2．単位不足についての対応は以下のとおりです。

①卒業後 3 年以内であれば科目等履修生制度で補充することができますが、A表の科目区分ごとに 1 科目のみです。

②国家試験の電気主任技術者試験（第一次試験）に合格することにより、不足単位を補うことができますが、以下の点に留意してください。（卒業後 4 年以降も有効です）

・受験できる科目は「法規」を含む2科目までとされ、試験科目はA表の科目区分の 2.（電力科目）、3.（機械科目）に限られています。

3．科目区分ごとの「必要単位数」は省令上の「必要最低限の単位数」ですから、相当数上まわる単位数を修得しておいてください。

B表　実務経験（学歴による区分→大学若しくはこれと同等以の教育機関の項抜粋）

免状の種類	実務の経験	
	実務の内容	経験年数
第 1 種 電気主任技術者	電圧 5 万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の 2 分の 1 と卒業後の経験年数との和が 5 年以上
第 2 種 電気主任技術者	電圧 1 万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の 2 分の 1 と卒業後の経験年数との和が 3 年以上
第 3 種 電気主任技術者	電圧 500 ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の 2 分の 1 と卒業後の経験年数との和が 1 年以上

電気主任技術者免状を取得しようとする場合は、最寄りの産業保安監督部、電力安全課（那覇産業保安監督事務所は、保安監督課）が窓口です。

■注意

1．電気主任技術者用の単位取得証明書は工学部・未来科学部事務部で発行しますが、通常の単位取得証明書は使用できません。
経済産業省の定めた様式がありますので必ず「電気主任技術者用単位取得証明書」を申し込んでください。

2．国家試験関係は下記に問合わせてください。
（一財）電気技術者試験センター（http://www.shiken.or.jp/）
〒 104 － 8584　中央区八丁堀 2 － 9 － 1　秀和東八重洲ビル 8 階
TEL. 03 － 3552 － 7691

電気工事士（第２種）

電気工事士

ビル、工場、商店、一般住宅などの電気設備の安全を守るために 600 ボルト以下で受電する工事を行う資格です。

筆記試験免除のために必要な修得科目

在学中に、科目ブロックごとの授業科目の一つを修得して、卒業した人が対象となります。

電気電子工学科　電気電子システムコース　2014（平成 26）年度カリキュラム適用者

●印は本学学科（コース）必修科目

科目ブロック	該当授業科目
(1) 電気理論	●電磁気学および演習Ⅰ ●電磁気学および演習Ⅱ ●回路理論および演習Ⅰ ●回路理論および演習Ⅱ 回路解析基礎
(2) 電気計測	電気電子計測
(3) 電気機器	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ パワーエレクトロニクス
(4) 電気材料	電気材料
(5) 送配電	電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ
(6) 製図	電機設計および電気製図
(7) 電気法規	電気法規

試験についての問合せ

（一財）電気技術者試験センター（http://www.shiken.or.jp/）
〒 104 － 8584　中央区八丁堀 2 － 9 － 1　秀和東八重洲ビル 8 階
TEL. 03 － 3552 － 7691

第一級・第二級陸上無線技術士

陸上無線技術士

電波法に定められる放送局などの全ての無線設備の技術操作及び設備管理を行うことができる技術者です。

資格の種類と操作範囲（本学が認定されている資格のみ抜粋）

（電波法第 40 条・無線従事者の操作の範囲等を定める政令から抜粋）

資格の種類	操作範囲
第一級陸上無線技術士	無線設備の技術操作
第二級陸上無線技術士	次に掲げる無線設備の技術操作 (1) 空中線電力 2 キロワット以下の無線設備（テレビジョン放送局の無線設備を除く） (2) テレビジョン放送局の空中線電力 500 ワット以下の無線設備 (3) レーダーで (1) に掲げるもの以外のもの (4) (1) および (3) に掲げる無線設備以外の無線航行局の無線設備 960 メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するもの

国家試験科目の一部免除

電気電子工学科電子光情報コース在学中に、次ページ表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得して卒業すれば、第一級および第二級陸上無線技術士国家試験の試験科目「無線工学の基礎」が免除されます。ただし、卒業の日から 3 年以内に限られます。（無線従事者規則第 7 条）

「無線工学の基礎」免除のために必要な修得科目・単位数

電気電子工学科電子光情報コース
2014（平成 26）年度カリキュラム適用者　　●印は本学必修科目

認定基準に定められた科目（必要時間数）		電気電子工学科対応科目（単位数）		時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数学（210）	●線形代数学Ⅰ	2	30	必修科目を含めて210時間分を修得すること
		線形代数学Ⅱ	2	30	
		●微分積分学および演習Ⅰ	4	60	
		微分積分学および演習Ⅱ	4	60	
		ベクトル解析	2	30	
		フーリエ解析	2	30	
	物理（105）	物理学Ⅰ	2	30	必ず修得すること
		物理学Ⅱ	2	30	
		半導体物理基礎	2	30	
		量子物理学	2	30	
	電磁気学（120）	●電磁気学Ⅰ	2	30	同上
		●電磁気学Ⅱ	2	30	
		電磁気学Ⅲ	2	30	
		プラズマ工学	2	30	
	電気回路（120）	●電気回路Ⅰ	4	60	同上
		回路解析	2	30	
		過渡現象	2	30	
	半導体及び電子管並びに電子回路の基礎（90）	電子デバイスⅠ	2	30	同上
		●電子回路Ⅰ	2	30	
		電子回路Ⅱ	2	30	
	電磁気測定（180）	電子計測	2	30	必修科目の修得で可
		●電気電子工学基礎実験	2	60	
		●電子光情報工学基礎実験	2	60	
		●電子光情報工学実験Ⅰ	2	60	

国家試験

年２回（7 月・1 月）に行なわれ、詳しいことは、官報に公示されます。
「財団法人日本無線協会」によって実施されます。試験申請書など必要な手続や質問等については、下記に問い合わせください。

㈶日本無線協会本部（http://www.nichimu.or.jp/）
〒 104 － 0053　中央区晴海 3 丁目 3 － 3
TEL．03 － 3533 － 6022

電気通信主任技術者

電気通信主任技術者は、事業用電気通信設備の工事・維持及び運用に関する事項を監督する資格者をいいます。事業の規模、範囲等により必要とされる資格者証の種類が異なります。（電気通信事業法第 45 条）

資格者証の種類と監督の範囲　（電気通信主任技術者規則第６条抜粋）

資格者証の種類	監督の範囲
伝送交換主任技術者	電気通信事業法第四十一条第一項及び第二項の電気通信事業の用に供する伝送交換設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用
線路主任技術者	電気通信事業法第四十一条第一項及び第二項の電気通信事業の用に供する線路設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用

国家試験科目の一部免除

電気電子工学科電子光情報コースまたは情報通信工学科在学中に、次ページの表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得すれば、在学中でも国家試験受験の際に試験科目のうち１科目（電気通信システム）が免除されます。

国家試験実施

試験申請の手続および受験については、受験希望地を担当する財団法人日本データ通信協会に問合わせてください。

（一財）日本データ通信協会電気通信国家試験センター
（http://www.shiken.dekyo.or.jp/）
〒 170 － 8585　豊島区巣鴨 2 － 11 － 1　巣鴨室町ビル 6 階
TEL. 03 － 5907 － 6556

「電気通信システム」免除のために必要な修得科目・単位数

電気電子工学科　電子光情報コース　2014（平成 26）年度カリキュラム適用者

●印は本学必修科目

認定基準に定められた科目（必要時間数）		電気電子工学科対応科目（単位数）		時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数学（60）	●微分積分学および演習Ⅰ 微分積分学および演習Ⅱ ●線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	4 4 2 2	60 60 30 30	
	物理学（60）	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 半導体物理基礎 量子物理学	2 2 2 2	30 30 30 30	
	電磁気学（60）	●電磁気学Ⅰ ●電磁気学Ⅱ 電磁気学Ⅲ	2 2 2	30 30 30	
	電気回路（60）	●電気回路Ⅰ 回路解析	4 2	60 30	
	電子回路（60）	●電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ	2 2	30 30	
	ディジタル回路（30）	論理回路設計	2	30	必ず修得すること
	情報工学（30）	情報理論	2	30	必ず修得すること
	電気計測（60）	電子計測 ●電気電子工学基礎実験 ●電子光情報工学基礎実験	2 2 2	30 60 60	
専門教育科目	伝送線路工学（30） 交換工学（30） 電気通信システム（30）	高周波回路 ※通信システム 通信機器 ※通信ネットワーク 光通信工学	2 2 2 2 2	30 30 30 30 30	左記の科目の中から区分ごとに 30 時間分を修得すること

※印は情報通信工学科の科目です。この科目を履修する場合は履修登録期間中に「他学部他学科科目履修」の手続きが必要です。

情報通信工学科　2014（平成 26）年度カリキュラム適用者　　●印は本学必修科目

認定基準に定められた科目（必要時間数）		電気電子工学科対応科目（単位数）		時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数学（60）	●微分積分学および演習Ⅰ	4	60	
		微分積分学および演習Ⅱ	4	60	
	物理学（60）	物理学Ⅰ	2	30	必ず修得すること
		応用物理学	2	30	
	電磁気学（60）	●電磁気学基礎および演習	3	45	
		電磁気学応用	2	30	
		高周波の基礎	2	30	
	電気回路（60）	●電気回路基礎および演習	3	45	必ず修得すること
		信号システム解析	2	30	
	電子回路（60）	●電子回路基礎	2	30	必ず修得すること
		電子回路応用	2	30	
	ディジタル回路（30）	ディジタル回路	2	30	
		●論理回路および論理設計	2	30	
	情報工学（30）	情報通信数学 B（確率論と情報理論）	2	30	必ず修得すること
	電気計測（60）	●情報通信基礎実験	4	120	
		●情報通信工学実験	4	120	
専門教育科目	伝送線路工学（30） 交換工学（30） 電気通信システム（30）	通信システム	2	30	左記の科目の中から区分ごとに 30 時間分を修得すること
		通信ネットワーク	2	30	
		マルチメディア通信工学	2	30	
		通信理論基礎	2	30	

第４章

教職課程について

1　教職課程

1-1　教職課程を履修するにあたって

教師になることを前提として教員免許状を取得しようという人のためにおかれているのが教職課程です。

教師という仕事は、いろいろな仕事の中でも、もっとも人間そのものと向き合う機会の多い職業のひとつです。無論、数学や理科、あるいは情報や工業関係の専門知識を中心とした深い学識が要求されます。しかしそれだけでは必ずしも充分ではなく、人間、とくに成長期にある若い人々に対する的確な理解と豊かな愛情が要求されます。それは教師の仕事が教室内での教科指導に限られるものではないことを考えれば、容易に理解されるでしょう。

そして、このことは、それだけ教師の仕事が非常に難しいものであり、知性と愛情さらには簡単にはくじけない強い意思が要求されるものであることを意味しますが、それはまた同時に、優れて人間的な深い喜びを得る機会の多い、やりがいのある素晴らしい仕事であることをも意味します。学生諸君がこのような、創造的で魅力にあふれた職業につくための基礎を培うところが教職課程なのです。

教職に関する科目や、教科に関する科目を真摯に受講することが、皆さんを中学校や高等学校の教壇へと導くことでしょう。そして、その学習の過程で自分の教職への適性を充分に検討し、また確認することができるでしょう。

1-2　教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるよう設置された課程です。
教職課程の履修希望者には、教員としての適格性、教職関係科目を充分に修得する能力、将来教職に就く意思が要求されますので、いいかげんな気持ちでは教職課程を修めるのは難しいといえます。

教職課程を修めようとする者は、本学部に設置された一般教養科目および各学科で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。

＊中学校の教職免許状を取得する条件として「介護等体験」が義務付けられています。介護等体験については、該当箇所を参考にしてください。また、本学部においては「介護等体験」の事前指導の一環として人間科学科目「介護福祉論」を開講しています。教職免許状取得希望の人は、2 年次に履修をしてください。又、事前事後指導として「介護等体験特論」（3 年次）も履修してください。
＊その他の、教職課程に関する詳しいガイダンスを後期のはじめ（9 月）に行います。また、教職課程に関する掲示は、基本的に DENDAI-UNIPA を参考にしてください。ただし、中期的（数ヶ月間）に注意が必要な事項および対象者が不特定な事項（ボランティアの募集）などに関しては、2 号館 3 階の工学部・未来科学部事務部前にある掲示スペースの教職課程掲示板も併用しますので、そちらも週に一度は、チェックするようにしてください。教職課程科目の講義要目はオンラインシラバスで見ることが出来ます。

1-3　東京電機大学が養成する教師像について

東京電機大学は、建学の精神である「実学尊重」と、教育･研究理念である「技術は人なり」を掲げ、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を使命としています。この精神のもとに東京電機大学では、以下の力量を備えた教師を養成します。

教師として必要な資質である、①学校教育に対する多角的理解力、②教育に対する使命感や責任感、教育的愛情、③社会性や対人関係形成能力、④生徒理解や学級経営力、⑤教科内容等の高度な指導力　を備えた教師を養成します。

また、東京電機大学卒業の教師として、科学技術の実学的価値や面白さを教えることのできる教師、科学技術を支える高い倫理観を持った「学び続ける教師」を養成します。

1-4　東京電機大学　教職課程　教員として求められる事項

教員として求められる事項	具体的項目
①学校教育に対する多角的理解	教育の思想・歴史的理解① -1
	学校教育の制度的、法的理解① -2
	学校の役割と機能　① -3
	教育の現状・時事的課題　① -4
	教育課程の意義と編成方法の理解① -5
②使命感や責任感、教育的愛情等	教師の使命と役割　② -1
	教師の職務内容の理解　② -2
	受容・共感的態度の育成② -3
	障害のある生徒への理解と配慮② -4
	教育実践に関する責任感・判断力② -5
③社会性や対人関係能力	家庭・地域社会との連携に関する理解　③ -1
	教師として必要な資質（公平さと寛容）　③ -2
	自己理解と他者理解③ -3
	社会人として必要な資質・能力　③ -4
	子どもの発達に応じたコミュニケーション　③ -5
	生徒の個性・適性を生かした指導法③ -6
④生徒理解や学級経営等	生徒の心理・発達の理解④ -1
	学習の仕組みと動機付け④ -2
	学校教育における教育相談の位置づけ④ -3
	教育相談の実際と支援方法　④ -4
	教育現場における諸問題と心理学的活用④ -5
	望ましい集団作り・学級経営の理解④ -6
⑤教科内容等の指導力	学習指導要領の理解　⑤ -1
	教科の目標・方法　⑤ -2
	教科の内容・教材　⑤ -3
	年間・本日（学習指導案）作成の能力⑤ -4
	教育方法に関する様々な知識の獲得　⑤ -5
	様々な学習形態と評価方法の理解⑤ -6

1-5　教職課程　履修カルテ

＊　単位取得した学生は、各科目の自己評価項目の学習を振り返って、自己評価欄に各項目ごとにA（よく理解できた）B（ある程度理解できた）C（あまり理解できていない）という自己評価を記入して下さい。学生自己診断欄には○良い点と△課題をそれぞれ記入して下さい。

学籍番号：　　氏名：

	科目名	担当者名	履修年度	評価	学生自己評価項目	自己評価	学生自己診断（良い点・課題）	担当者確認	担当による特記事項
第二欄	教職入門				学校の役割と機能　①−3		○		
					教師の使命と役割　②−1				
					教師の職務内容の理解　②−2		△		
					教師として必要な資質（公平さと寛容）　③−2				
第三欄	教育学概論				教育の思想・歴史的理解　①−1		○		
					教育の現状・時事的課題　①−4				
					教師の使命と役割　②−1		△		
					家庭・地域社会との連携に関する理解　③−1				
	教育心理学				障害のある生徒への理解と配慮　②−4		○		
					子どもの発達に応じたコミュニケーション　③−5				
					生徒の心理・発達の理解　④−1				
					学習の仕組みと動機付け　④−2		△		
					教育現場における諸問題と心理学的活用④−5				
	教育社会学				学校教育の制度的、法的理解　①−2		○		
					学校の役割と機能　①−3				
					教育の現状・時事的課題　①−4		△		
					家庭・地域社会との連携に関する理解　③−1				
第四欄上	教育課程論				教育課程の意義と編成方法の理解　①−5		○		
					学習指導要領の理解　⑤−1				
					教育方法に関する様々な知識の獲得　⑤−5		△		
					様々な学習形態と評価方法の理解　⑤−6				
	教育の方法と技術				教科の目標・方法　⑤−2		○		
					教科の内容・教材　⑤−3				
					年間・本日（学習指導案）作成の能力⑤−4		△		
					教育方法に関する様々な知識の獲得　⑤−5				
	特別活動論				学習指導要領の理解　⑤−1		○		
					学校の役割と機能　①−3				
					教育の現状・時事的課題　①−4		△		
					望ましい集団作り・学級経営の理解　④−6				
	道徳教育論				教育の思想・歴史的理解　①−1		○		
					教師として必要な資質（公平さと寛容）　③−2				
					社会人として必要な資質・能力　③−4				
					学習指導要領の理解　⑤−1		△		
					様々な学習形態と評価方法の理解　⑤−6				
	数学科教育法				学習指導要領の理解　⑤−1		○		
					教科の目標・方法　⑤−2				
					教科の内容・教材　⑤−3		△		
					年間・本日（学習指導案）作成の能力　⑤−4				
	理科教育法				学習指導要領の理解　⑤−1		○		
					教科の目標・方法　⑤−2				
					教科の内容・教材　⑤−3		△		
					年間・本日（学習指導案）作成の能力　⑤−4				
	情報科教育法				学習指導要領の理解　⑤−1		○		
					教科の目標・方法　⑤−2				
					教科の内容・教材　⑤−3		△		
					年間・本日（学習指導案）作成の能力　⑤−4				
	工業科教育法				学習指導要領の理解　⑤−1		○		
					教科の目標・方法　⑤−2				
					教科の内容・教材　⑤−3		△		
					年間・本日（学習指導案）作成の能力　⑤−4				

第四欄上	数学科指導法				学習指導要領の理解　⑤−1		○		
					教科の目標・方法　⑤−2				
					教科の内容・教材　⑤−3		△		
					年間・本日（学習指導案）作成の能力　⑤−4				
	理科指導法				学習指導要領の理解　⑤−1		○		
					教科の目標・方法　⑤−2				
					教科の内容・教材　⑤−3		△		
					年間・本日（学習指導案）作成の能力　⑤−4				
第四欄下	生徒・進路指導論				学校の役割と機能　①−3		○		
					家庭・地域社会との連携に関する理解　③−1				
					自己理解と他者理解③−3				
					子どもの発達に応じたコミュニケーション　③−5		△		
					生徒の個性・適性を生かした指導法　③−6				
	教育相談				受容・共感的態度の育成　②−3		○		
					家庭・地域社会との連携に関する理解　③−1				
					子どもの発達に応じたコミュニケーション　③−5				
					学校教育における教育相談の位置づけ　④−3		△		
					教育相談の実際と支援方法　④−4				
					教育現場における諸問題と心理学的活用　④−5				
第五欄	教育実習セミナー				教育実践に関する責任感・判断力　②−5		○		
					教師として必要な資質（公平さと寛容）　③−2				
					社会人として必要な資質・能力　③−4				
					教科の内容・教材　⑤−3		△		
					教育方法に関する様々な知識の獲得　⑤−5				
	教育実習Ⅰ				教師の使命と役割　②−１		○		
					教師の職務内容の理解　②−2				
					教育実践に関する責任感・判断力②−5				
					教師として必要な資質（公平さと寛容）　③−2				
					自己理解と他者理解　③−3				
					社会人として必要な資質・能力　③−4		△		
					生徒の個性・適性を生かした指導法　③−6				
					教科の内容・教材　⑤−3				
					教育方法に関する様々な知識の獲得　⑤−5				
	教育実習Ⅱ				教師の使命と役割　②−１		○		
					教師の職務内容の理解　②−2				
					教育実践に関する責任感・判断力　②−5				
					教師として必要な資質（公平さと寛容）　③−2				
					自己理解と他者理解　③−3				
					社会人として必要な資質・能力　③−4		△		
					生徒の個性・適性を生かした指導法　③−6				
					教科の内容・教材　⑤−3				
					教育方法に関する様々な知識の獲得　⑤−5				

教科又は教職に関する科目	介護福祉論				受容・共感的態度の育成　②−3		○		
					障害のある生徒への理解と配慮　②−4				
					社会人として必要な資質・能力　③−4		△		
					子どもの発達に応じたコミュニケーション　③−5				
	介護等体験特論				学校教育の制度的、法的理解　①−2		○		
					教師の使命と役割　②−１				
					教育実践に関する責任感・判断力　②−5				
					教師として必要な資質（公平さと寛容）　③−2				
					自己理解と他者理解　③−3		△		
					社会人として必要な資質・能力　③−4				
					子どもの発達に応じたコミュニケーション　③−5				
					生徒の個性・適性を生かした指導法　③−6				

1-6　教職履修カルテについて

教育職員免許法の改定により、2010（平成 22）年度以降の大学入学者で教職課程を履修する学生については、4 年次の必修科目『教職実践演習』の設置と、教職課程での学習の履歴とその学びを振り返る『教職履修カルテ』（以下、履修カルテと記載）の作成が義務付けられています。

東京電機大学　工学部、未来科学部、工学部第二部においては、この履修カルテの記載は、学生ポータルサイトである UNIPA 上のマイステップで、学期ごとの成績発表の後の一定期間において入力する方式を取っています。

履修カルテは以下の4つのステップに分かれています。この4つのステップは、皆さんで作成してもらい、履修し単位修得した科目に併せて、学期ごとに適宜カルテを入力します。

この履修カルテは、教職課程での学習の履歴を学生自身が管理し、それを振り返ることによって、教師として必要な資質や能力、知識や技能をより確実に身に付けてもらうためのツールとして、活用が期待されているものです。教職課程の履修学生は、履修カルテの意味を理解した上で、簡潔かつ誠実に履修カルテを記載してください。

カルテの区分	授業科目名
教職カルテ 1 （第二欄・第三欄）	教職入門（教職概論）、教育学概論（教育原理）、 教育心理学、教育社会学
教職カルテ 2 （第四欄上）	教育課程論、特別活動論、教育の方法と技術、 教科教育法（各自によって異なる）、 教科指導法（各自によって異なる）
教職カルテ 3 （第四欄下・第五欄・または科目）	道徳教育論（道徳教育の研究）、教育相談、 生徒・進路指導論、教育実習セミナー・Ⅰ・Ⅱ、 介護福祉論、介護等体験特論
教職カルテ 4 （学びの足跡とポートフォリオ）	各学年において学びの足跡を記載してください。

1.「マイステップ」を使用するための準備

① UNIPA にログインする

UNIPA にログインし、【マイステップ】タブをクリックします。

② 新規作成するステップを選択する



自分に割り当てられている「ステップ」が表示されます。

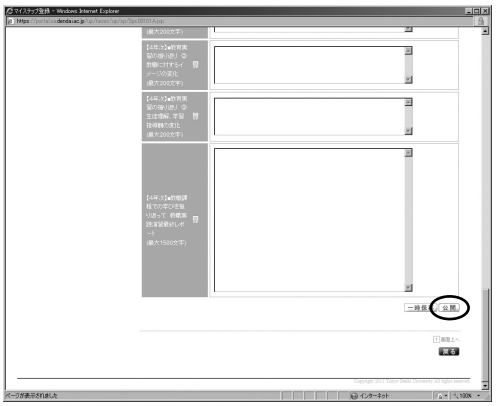
最初に、【教職カルテ 4（学び ..(0)】をクリックしてください。

③ 新規ボタンを選択する



左図のような画面が表示されますので、「新規」ボタンをクリックします。

④ 公開ボタンを選択する



左図のようなステップが表示されます。何も入力せずに「公開」ボタンをクリックします。
※ここでは、「一時保存」をクリックしないでください。

②の画面に戻り、同様の操作で、
・【教職カルテ３（第四欄下 ..(0)】
・【教職カルテ２（第四欄 ..(0)】
・【教職カルテ１（第二欄 ..(0)】
の順番でステップを作成してください。

⑤ ステップの表示順が正しいかの確認をする



②の画面で、「一覧を見る」をクリックします。
上記の手順で作成した場合は、左図のように上からステップ 1、2、3、4 の順番で表示されます。

1、2、3、4 の順番で表示されていない場合は、ステップをクリックし、下部にある「編集」⇒「削除」を選択し再度②の操作からやり直してください。
※ステップは、「公開」ボタンを押された日付順（降順）に表示されます。（最新のステップが上に表示されます）

2.「マイステップ」を編集する

上記⑤の画面でステップを選択し、下部にある「編集」ボタンをクリックすると入力することができます。入力が終わりましたら、「公開」ボタンをクリックしてください。教員が入力内容を確認することができます。入力が途中の場合は、「一時保存」ボタンをクリックしてください。教員が入力内容を確認することはできません。

注１）評価を入力する際は、メニューの【成績関連】⇒【成績照会】をクリックし、該当する科目の評価欄より確認してください。

＜教職に関する科目＞				
教職概論	2.0	B	2010	前期



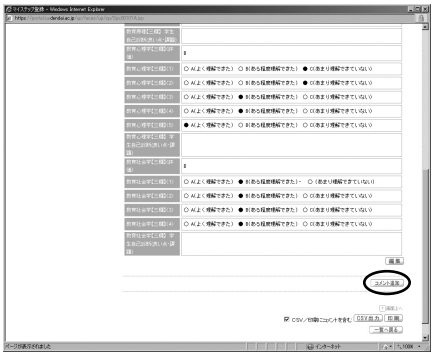
注２）アイコンにマウスを重ねるとガイドライン（学生自己評価項目や記入するタイミング）が左図のようにポップアップで表示されますので内容を確認してください。

3. 教員からのコメントを確認する



【マイステップ】タブをクリックすると教員からのコメント一覧が表示されます。タイトルをクリックすると、コメントの詳細を確認することができます。

4. コメントを入力する



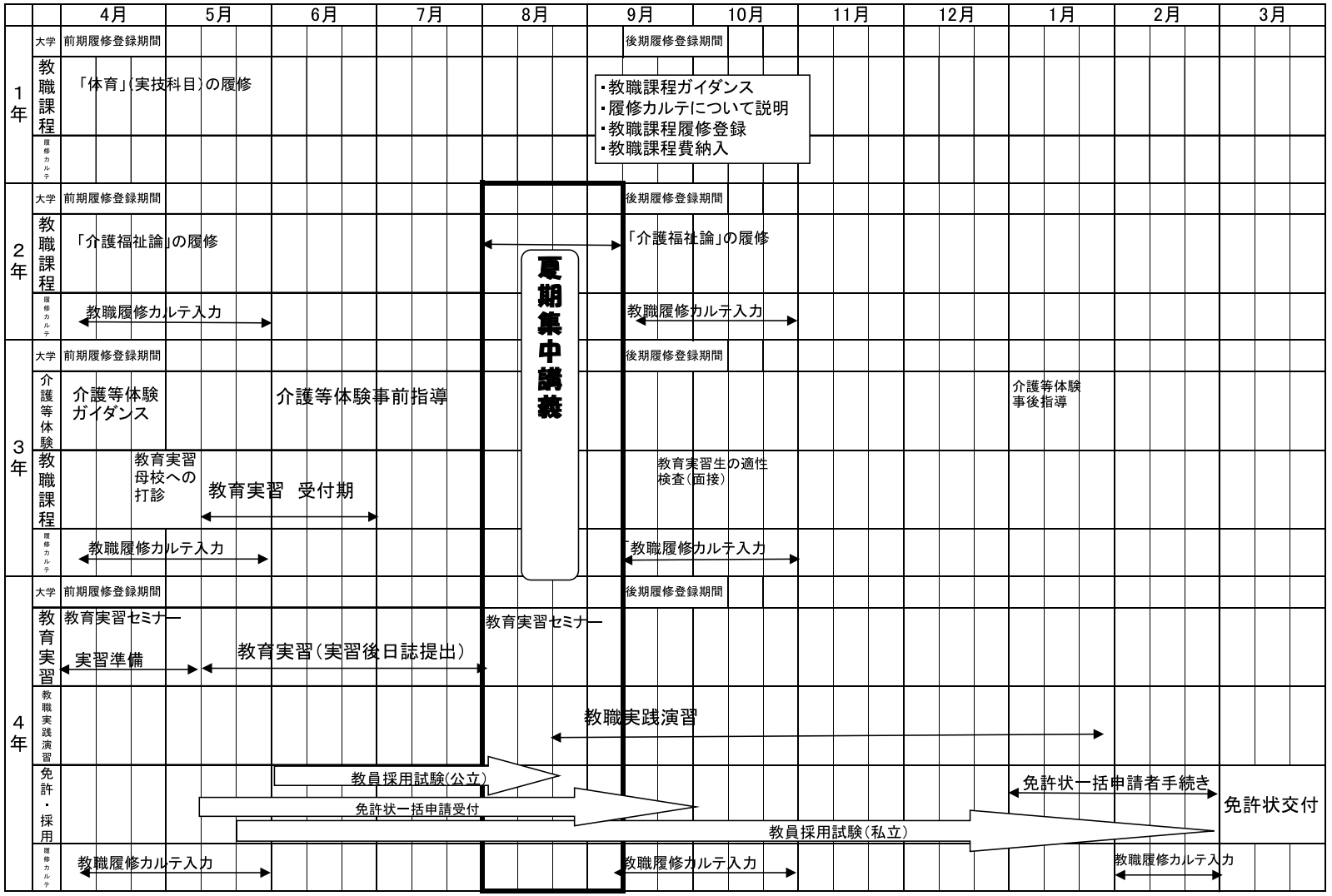
上記⑤の画面でステップを選択し、下部にある「コメント追加」ボタンをクリックすると、コメントを作成することができます。入力後は「確定」ボタンをクリックしてください。コメント確定後の編集や削除も行うことができます。

※入力されたコメントは教員も内容を確認できます。

1-7　取得できる教育職員免許状の種類および教科

免許状の種類	教科	取得できる該当学科
高等学校教諭１種免許状	数学	全学科
	情報	全学科　（ＥＳ科を除く）
	工業	全学科　（ＥＳ科を除く）
	理科	環境化学科
中学校教諭１種免許状	数学	全学科
	理科	環境化学科

1-8　教職課程履修手続から免許状交付まで（タイムスケジュール）



1-9　履修案内

①免許状取得資格・必要単位数

教育職員免許状を取得しようとする人は、免許状の種類に応じ、次の表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

〔2008（平成 20）年度以降の入学生用〕

免許状の種類	基礎資格	要修得単位数		
		共通教育科目	教職に関する科目	教科に関する科目
高等学校教諭１種免許状	学士の称号を有すること	日本国憲法　2 体育※1　2 外国語　2 情報※2　2	27	数学　32 情報　32 工業　32 理科　32
中学校教諭１種免許状	学士の称号を有すること	日本国憲法　2 体育※1　2 外国語　2 情報※2　2	35	数学　24 理科　24

＊人間科学科目の倫理学入門または哲学を修得することが望ましい。

※１　「体育」とは、実技科目（トリムスポーツ、スポーツ科学演習、アウトドアスポーツ）を指す。

※２　共通教育科目「情報」の科目一覧

学部	学科	科目名
工　学　部	全学科	コンピュータ基礎および演習Ⅰ

編入学の場合、専門教育科目で「R」で表示された科目は、教育職員免許状を取得しようとするとき、教科に関する科目の単位には 20 単位までしか算入できません（ただし、課程認定を受けていない大学、短大から編入した学生に限る）。

R 認定を希望せず再履修を行うものは、その旨を 4 月末日までに工学部・未来科学部事務部へ申し出てください。

②教職に関する科目

1年次生後期から履修することができます。

次表に掲げる授業科目のうちから、免許状に応じて単位数を修得しなければなりません。

〔2011（平成 23）年度以降の入学生用〕

免許法上の区分			最低修得単位	授業科目名	単位数	備考
第二欄	教育の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） 進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門	2	中学・高校免許必須科目
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育学概論	2	中学・高校免許必須科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程を含む。）		教育心理学	2	中学・高校免許必須科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学	2	中学・高校免許必須科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学 12 高校 6	教育課程論	2	中学・高校免許必須科目
		特別稼動の指導法		特別活動論	1	中学・高校免許必須科目
		教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育の方法と技術	2	中学・高校免許必須科目
		各教科の指導法		数学科教育法 工業科教育法 情報科教育法 理科教育法	4	中学・高校免許必須科目 免許教科に応じて履修
				数学科指導法 理科指導法	4	中学校免許必須科目
		道徳の指導法		道徳教育論	2	中学校免許必須科目
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）	4	教育相談	2	中学・高校免許必須科目
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	中学・高校免許必須科目
		進路指導の理論及び方法				
第五欄	教育実習		中学 5 高校 3	教育実習セミナー	2	中学・高校免許必須科目
				教育実習Ⅰ	2	中学・高校免許必須科目
				教育実習Ⅱ	2	中学校免許必須科目
第六欄	教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	2	中学・高校免許必須科目

③教科又は教職に関する科目

中学校免許取得希望者は介護等体験を行うため、次の科目を２年次生から履修してください。

科　目　名	単位数	配　当　期	
介護福祉論	2	2～4年	前期・後期
介護等体験特論	2	3年	通年

＊高等学校１種免許状「工業」を取得する場合の臨時措置

高等学校教諭１種免許状「工業」を取得する場合は、当分の間、教職に関する科目の単位の全部または一部を、工業の教科に関する科目の単位で替えられることになっています（教育職員免許法附則 111 項）。したがって、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、前ページ記載の共通教育科目（4 科目）を修得し、かつ工業の教科に関する科目の「職業指導：4 単位」を含め 59 単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。

しかし、教職に関する科目は教員となるための基本的な科目であり、この措置に頼ることなく、少なくとも教職入門（教職概論）、教育学概論（教育原理）、教育心理学、工業科教育法については修得しておくことが必要と思われます。

また、同じ免許状を取得するにしても、教職に関する科目を修得しているといないとでは、教職についた場合はもちろんのこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異が出てくることがあります。こうした点からも、教職に関する科目が重要な科目であることを充分に認識して、できるだけ修得するよう心がけてください。

④教科に関する科目

教科に関する科目は、自学科で開講されている科目を取得することが原則です。しかし、自学科で開講されていない他学科の科目を履修し、単位を満たすことも一部できます。その場合、以下の条件（法的な制約）を考慮する必要があります。

ⅰ　網掛け科目（各教科の教育分野（枠組み）での指定必修科目）は、必ず自学科の科目を履修しなければなりません。

ⅱ　各教科の教育分野（枠組み）の半数以下の領域での科目のみが、教科に関する科目として申請可能です。

基本的に、教科に関する科目は、自学科に配当されている科目を履修してください。

尚、時間割などの都合上、どうしても他学科履修を希望するものは、科目担当者の承認を受けた上で、他学科履修願い（教職用①）を提出し、書類及び面談によって審査した上で、履修が許可される場合があります。

2014(平成26)年度入学生用
工学部　全学科教職課程　授業科目配当表

区分	免許法上の区分	科目名	必選自	単位	配当年	配当期1	コマ	担当者	備考	教職コード
教職に関する科目	第二欄	教職入門	自	2	1	半期(後)	1	広石　英記	中学・高校免許必修科目	320
	第三欄	教育学概論	自	2	2	半期(前)	1	広石　英記	中学・高校免許必修科目	330
		教育心理学	自	2	1	半期(後)	1	金築　智美	中学・高校免許必修科目	331
		教育社会学	自	2	2	半期(前)	1	大江　正比古	中学・高校免許必修科目・集中講義	332
	第四欄上	教育課程論	自	2	3	半期(前)	1	広石　英記	中学・高校免許必修科目	341
		特別活動論	自	1	3	半期(前)	1	神谷　純子	中学・高校免許必修科目・集中講義	342
		教育の方法と技術	自	2	3	半期(後)	1	黒沢　学	中学・高校免許必修科目	343
		工業科教育法	自	4	3	通年	1	梅田　政勝	工業免許状必修科目	344
		数学科教育法	自	4	2	通年	1	佐藤　茂人	数学免許状必修科目	345
		理科教育法	自	4	2	通年	1	小原　政敏	理科免許状必修科目ES科のみ	346
		情報科教育法	自	4	3	通年	1	黒沢　学	情報免許状必修科目(夏期集中＋後期授業)	347
		数学科指導法	自	4	3	通年	1	入江　博、桑田孝泰	中学・高校免許必修科目(前期授業＋夏期集中)	348
		理科指導法	自	4	3	通年	1	小原　政敏	中学・高校免許必修科目・ES科のみ	349
		道徳教育論	自	2	3	半期(前)	1	広石　英記	中学校免許必修科目・集中講義	350
	第四欄下	教育相談	自	2	2	半期(前)	1	金築智美、今野紀子	中学・高校免許必修科目・集中講義	351
		生徒・進路指導論	自	2	2	半期(後)	1	新井　誠	中学・高校免許必修科目	352
	第五欄	教育実習セミナー	自	2	4	通年	0.5	広石、大江、黒沢	中学・高校免許必修科目	361
		教育実習Ⅰ	自	2	4	通年	1	広石、大江、黒沢	中学・高校免許必修科目	362
		教育実習Ⅱ	自	2	4	通年	1	広石、大江、黒沢	中学校免許必修科目	363
	第六欄	教職実践演習(中・高)	自	2	4	半期(後)	1	広石、大江、黒沢	中学・高校免許必修科目・集中講義	370
教科又は教職に関する科目		介護福祉論	選	2	2	半期(前/後)	1	加藤　英池子	中学校免許状修得時には必修である。	
		介護等体験特論	自	2	3	通年	0.5	広石　英記	中学校免許状修得時には必修である。	
教科に関する科目		職業指導	自	4	3	通年	1	有田　禮二	工業免許状必修科目	160工業
		情報と職業	選	2	234	半期(前/後)	1	有田　禮二	情報免許状必修科目	135情⑥
		情報化社会とコミュニケーション	選	2	234	半期(前/後)	1	本郷　均	情報免許状科目	130情①
		情報化社会と知的財産権	選	2	234	半期(前/後)	1	飯塚　道夫	情報免許状必修科目	130情①
		情報倫理	選	2	234	半期(前/後)	1	會田　和弘	情報免許状科目	130情①

付記:

1.「介護福祉論」「介護等体験特論」および介護等体験は中学校免許状修得時には必修である。
2.上記科目を履修するには、教職課程履修手続きが必要である。

〔数学〕

工学部　2014（平成 26）年度入学生用　全学科

免許状の種類・教科	免許法施行規則に定める科目群［教職コード］	最低修得単位数	該当科目　（　）内は単位数	
中学校および高校1種・数学	代数学［110 代数］	1	全学科	代数学入門 (2)、線形代数学Ⅱ (2)、線形代数学Ⅲ (2)、代数学 (2)
			ＥＣ	基礎情報数学Ｃ（代数と符号理論）(2)
	幾何学［111 幾何］	1	全学科	幾何学 (2)、微分幾何学 (2)
	解析学［112 解析］	1	全学科	微分積分学および演習Ⅱ (4)、解析学 (2)、微分方程式Ⅰ (2)、微分方程式Ⅱ (2)、複素解析学Ⅰ (2)、複素解析学Ⅱ (2)
			EJ,EH	ベクトル解析 (2)、フーリエ解析 (2)、数値解析学 (2)
			ＥＳ	ベクトル解析 (2)、フーリエ解析 (2)、数値解析学 (2)
			EK,EF	ベクトルおよびテンソル (2)、フーリエ解析 (2)、数値解析学 (2)
	確率論、統計学［113 確統］	1	全学科	確率・統計Ⅰ (2)、確率・統計Ⅱ (2)
			ＥＣ	情報通信数学Ｂ（確率論と情報理論）(2)
	コンピュータ［114 ｺﾝﾋﾟｭ］	1	EJ,EH	数式処理 (2)
			ＥＳ	数式処理 (2)、コンピュータ基礎および演習Ⅱ (4)
			EK,EF	数式処理 (2)、コンピュータ基礎および演習Ⅱ (4)
			ＥＣ	コンピュータ基礎および演習Ⅱ (4)、情報通信数学Ａ（離散数学）(2)、数式処理 (2)
網掛け部分の科目を必ず履修し中学校は合計 24 単位以上、高等学科は合計 32 単位以上取得すること。（注：網掛け科目は包括的内容を含む科目）				

〔情報〕

工学部　2014（平成 26）年度入学生用　電気電子工学科・機械工学科・情報通信工学科・情報の免許状を取得するために必要な最低修得単位数（高校 1 種）

免許法施行規則に定める科目群［教職コード］	最低修得単位数	該当科目	（　）内は単位数
情報社会及び情報倫理［130 情①］	1	全学科	情報化社会と知的財産権 (2)、情報化社会とコミュニケーション (2)、情報倫理 (2)
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ及び情報処理（実習を含む）［131 情②］	1	EJ,EH	コンピュータ基礎および演習Ⅲ (2)、電気電子計測 (2)、制御工学Ⅰ (2)、制御工学Ⅱ (2)、コンピュータ基礎および演習Ⅱ (4)、プログラミングⅠ (2)、プログラミングⅡ (2)、コンピュータアーキテクチャ (2)、プログラミング (2)、電子計測 (2)、自動制御 (2)
		EK･EF	コンピュータ基礎および演習Ⅲ (2)、メカトロニクス概論 (2)、情報処理工学 (2)、コンピュータプログラミングⅠ (2)、コンピュータプログラミングⅡ (2)、制御工学Ⅰ (2)、制御工学Ⅱ (2)、計測工学 (2)
		EC	情報通信工学実験 (4)、マイコン基礎および演習 (3)、特別プログラミング演習 (2)、データ構造とアルゴリズムⅠ (4)、データ構造とアルゴリズムⅡ (2)、オブジェクト指向プログラミングおよび演習 (3)、コンピュータ基礎および演習Ⅲ (2)
情報システム（実習を含む）［132 情③］	1	EJ,EH	情報システムの基礎および演習 (2)、システム工学 (2)、論理回路設計 (2)、論理システム設計 (2)、マイクロプロセッサ応用 (2)、信号処理 (2)、応用信号処理 (2)、ロボット工学 (2)、ディジタル回路 (2)、ディジタル信号処理 (2)、ディジタルシステム (2)、スマート信号処理 (2)
		EK･EF	情報システムの基礎および演習 (2)、ロボット工学 (2)、データベース活用設計 (2)、機械設計製図Ⅱ (2)
		EC	情報通信プロジェクト (3)、インターネットプログラミング (2)、データ解析 (2)、データベース (2)、情報システムの基礎および演習 (2)
情報通信ネットワーク（実習を含む）［133 情④］	1	EJ,EH	情報通信ネットワークの基礎および演習 (2)、情報理論 (2)
		EK･EF	情報通信ネットワークの基礎および演習 (2)
		EC	情報通信メディア基礎 (2)、情報ネットワーク (2)、ネットワークセキュリティと暗号 (2)、情報通信ネットワークの基礎および演習 (2)
ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ表現及び技術（実習を含む）［134 情⑤］	1	EJ,EH	マルチメディア表現技術の基礎および演習 (2)、音響工学 (2)、電子回路設計 (2)、プレゼンテーション (2)、コンピュータプレゼンテーション (2)
		EK･EF	マルチメディア表現技術の基礎および演習 (2)、数値固体力学 (2)、数値熱流体力学 (2)、計算機援用設計 (2)、機械設計製図Ⅰ (2)、先端機械設計製図Ⅱ (2)
		ＥＣ	マルチメディア通信工学 (2)、音声・音響情報工学 (2)、画像処理工学 (2)、コンピュータグラフィクス (2)、マルチメディア表現技術の基礎および演習 (2)
情報と職業［135 情⑥］	1	全学科	情報と職業 (2)
網掛け部分の科目を必ず履修し合計 32 単位以上取得のこと。注：網掛け科目は包括的内容を含む科目			

〔理科〕

工学部　2014（平成 26）年度入学生用　環境化学科

免許状の種類・教科	免許法施行規則に定める科目群［教職コード］	最低修得単位数	該当科目　（　）内は単位数
中学校1種・理科	物理学［120 物理］	1	物理学Ⅰ (2)、物理学Ⅱ (2)、電磁気学Ⅰ (2)、電磁気学Ⅱ (2)、物性物理学 (2)、物理学演習 (2)、固体物性 (2)
	物理学実験（コンピュータ活用を含む）［121 物実］	1	物理実験Ⅰ (1)、物理実験Ⅱ (1)、応用無機・分析化学実験 (1)、応用物理化学実験 (1)、物理化学実験 (1)、生物化学実験 (1)
	化学［122 化学］	1	化学Ⅰ (2)、化学Ⅱ (2)、物理化学Ⅰ (2)、物理化学Ⅱ (2)、有機化学Ⅰ (2)、有機化学Ⅱ (2)、無機化学 (2)、光化学 (2)、コンピューター化学 (2)、物理化学演習 (2)、科学情報表現法 (2)、高分子材料工学 (2)、高分子物性学 (2)、化学演習Ⅰ (2)、化学演習Ⅱ (2)、有機化学演習Ⅰ (2)、有機化学演習Ⅱ (2)
	化学実験（コンピュータ活用を含む）［123 化実］	1	化学実験Ⅰ (1)、化学実験Ⅱ (1)、無機・分析化学実験 (1)、有機化学実験 (1)、応用有機化学実験 (1)
	生物学［124 生物］	1	生物学 (2)、生物化学 (2)、微生物学 (2)
	生物学実験（コンピュータ活用を含む）［125 生実］	1	応用生物化学実験 (1)
	地学［126 地学］	1	地学 (2)、地球環境科学 (2)
	地学実験（コンピュータ活用を含む）［127 地実］	1	地学実験 (2)
網掛け部分の科目を必ず履修し合計 24 単位以上取得すること。 （注：網掛け科目は包括的内容を含む科目）			

免許状の種類·教科	免許法施行規則に定める科目群［教職コード］	最低修得単位数	該当科目　（　）内は単位数
高等学校1種·理科	物理学［120 物理］	1	物理学Ⅰ(2)、物理学Ⅱ(2)、電磁気学Ⅰ(2)、電磁気学Ⅱ(2)、物性物理学(2)、物理学演習(2)、固体物性(2)
	化学［122 化学］	1	化学Ⅰ(2)、化学Ⅱ(2)、物理化学Ⅰ(2)、物理化学Ⅱ(2)、有機化学Ⅰ(2)、有機化学Ⅱ(2)、無機化学(2)、光化学(2)、コンピューター化学(2)、物理化学演習(2)、科学情報表現法(2)、高分子材料工学(2)、高分子物性学(2)、化学演習Ⅰ(2)、化学演習Ⅱ(2)、有機化学演習Ⅰ(2)、有機化学演習Ⅱ(2)
	生物学［124 生物］	1	生物学(2)、生物化学(2)、微生物学(2)
	地学［126 地学］	1	地学(2)、地球環境科学(2)
	物理学実験（コンピュータ活用を含む） 化学実験（コンピュータ活用を含む） 生物学実験（コンピュータ活用を含む） 地学実験（コンピュータ活用を含む） ［121 物実］ ［123 化実］ ［125 生実］ ［127 地実］	1	物理実験Ⅰ(1)、物理実験Ⅱ(1)、応用無機·分析化学実験(1)、応用物理化学実験(1)、物理化学実験(1)、生物化学実験(1)、化学実験Ⅰ(1)、化学実験Ⅱ(1)、無機·分析化学実験(1)、有機化学実験(1)、応用有機化学実験(1)、応用生物化学実験(1)、地学実験(2)
網掛け部分の科目を必ず履修し合計32単位以上取得すること。 （注：網掛け科目は包括的内容を含む科目）			

〔工業〕

工学部　2014（平成26）年度入学生用　全学科

免許状の種類·教科	免許法施行規則に定める科目群［教職コード］	最低修得単位数	該当科目　（　）内は単位数
高校1種·工業	工業の関係科目［160 工業］	1	科目配当表の教職コード欄参照
	職業指導［160 工業］	1	職業指導（4）
	網掛け部分の科目を必ず履修し合計32単位以上取得のこと。 （注：網掛け科目は包括的内容を含む科目）		

1-10　教職課程早わかり表

正しく教職課程を履修しましょう！【教職課程履修科目単位数早わかり】

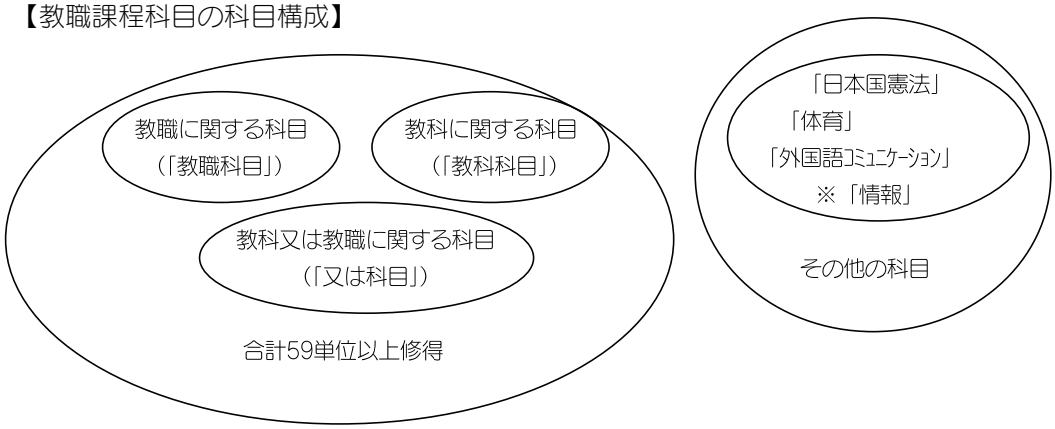
①必要な免許は何ですか？

…自分の取得する免許をきめましょう。

自分の所属する学部・学科・学年で取得できる免許状の種類については、この要項のそれぞれの頁に記載してあります。

②履修登録をしましょう。

【教職課程科目の科目構成】



①「教職科目」必修＋「教科科目」必修＝ 59 単位以上の場合

…「又は科目」を履修しなくても免許修得可能です。

「教職及び教科に関する科目」学部別一覧表の指示に従って科目を履修してください。

②「教職科目」必修＋「教科科目」必修＝ 59 単位以下の場合

…「又は科目」を含めて、59 単位になるように科目を履修することで、免許修得可能です。

履修計画を立てましょう【教員免許状取得までの道のり】

学年	「教職科目」修得単位数	「教科科目」修得単位数	「又は科目」修得単位数	合計修得単位数	その他の科目	各年次必要事項
1	単位	単位	単位	単位	「日本国憲法」「体育」「外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」※「情報」2 年次までに取得	教職課程履修登録
2	単位	単位	単位	単位		「介護福祉論」単位取得
3	単位	単位	単位	単位	・「介護等体験」（中学校教員免許状取得希望者のみ） ・教育実習正式内諾 ・「介護等体験特論」取得	
4	単位	単位	単位	単位	・「教育実習」　・教員免許状一括申請	
合計	単位	単位	単位	単位	←教科・教職の必修科目はすべて取得できましたか？ 59 単位以上ですか？	※すべての項目をクリアできれば、教員免許状が取得できます。

1-11　教職課程の履修手続

教職課程履修願　用紙（工学部・未来科学部事務部で配布）の提出と履修届は、正規の授業科目と同時に行う。

↓

教職課程履修費（10,000 円）の納入（指定期日に納入）。

↓

教職課程履修券の発行。

1-12　介護等体験の手続（中学校免許取得希望者のみ）

詳しくは、「参考資料：介護等体験」のページを参照してください。

介護等体験希望受付（3 年次 4 月）

↓

介護等体験費　指定期日に 10,000 円納入。（都道府県によって若干異なる）

1-13　教育実習

教育実習は、4 年次生のとき、中学校または高等学校において 3 ～ 4 週間以上（高等学校免許状のみの学生は 2 週間以上）にわたって教育活動（教壇実習および生徒指導）に参加することによっておこなわれます。但し高等学校教諭 1 種免許状「工業」を前記の臨時措置により取得しようとする場合にかぎり、必ずしも教育実習をおこなう必要はありません。

（1）教育実習Ⅰ・Ⅱ履修の条件

①４年次生で、1 年次生から教職課程を履修し、原則として教職入門（教職概論）・教育学概論（教育原理）・教育心理学・教育実習セミナー・教育実習をする教科に係わる教科教育法の単位を修得していること。

②教育免許状取得見込み確実で教職に就く意思があること。

③伝染の恐れのある疾病若しくは教育実習を行なう上で妨げとなる機能上の欠陥又は精神障害がないこと。

④学校の正常な教育活動を妨げないこと。（②から④は、「東京都公立学校教育実習取扱要綱」による。）

⑤教育実習校は原則として、自分の出身中学、高等学校と交渉し内諾を得る事の出来る者。

⑥教育実習校の内諾を得た者全てが教育実習を許可されるわけではありません。3 年次の後期に学業成績、教職課程履修状況、単位取得状況などを調査し、必要があると判断された者は、「教育実習生の適性検査」（面接）を実施します。実習生としての適正に欠けると判断された者には、**教育実習の中止を勧告します。**

(2) 教育実習校について

都内公立学校の実習受入れ数は非常に少なく、東京電機大学高等学校の受入れ数も制限があるので、下記の個人交渉校で実習するように努めてください。

・個人交渉校

自分の出身高等学校など縁故のある都内私立学校または他府県公立・私立校で、個人交渉により実習を認められた学校。実習日時・教科が内定したら工学部・未来科学部事務部へ連絡してください。その連絡に基づいて本学部で作成する教育実習依頼状などを、実習校の校長に提出しなければなりません。

【教育実習校（母校）の内諾について】

＊教職課程履修者の3年生で、次年度教育実習を行うものは、3年次前期（6月中）までに教育実習の内諾を母校にてもらい、その旨を工学部・未来科学部事務部まで連絡してください。

＊内諾の依頼を母校に行う際には、事前に電話連絡を行い、先方の指定の日時に学校を訪問すること。その際に、教職志望者としての服装・言動に十分注意してください。

＊尚、中学免許の場合には3週間から4週間の実習が必要となりますので、その件も合わせて母校（基本的に中学校、高校どちらでも可）に相談するようにしてください。

＊報告のない者の教育実習は、基本的に行えませんので必ず報告するようにしてください。

(3) 教育実習の手続

教育実習校内諾の報告。（3年次前期）

↓

教育実習費（実費を納入）（4年次前期）

↓

下記の書類を用意（工学部・未来科学部事務部で用意。実習生が実習校へ携行）。

1）誓約書（東京都公立校で実習する場合）
2）身体に関する証明書（東京都公立校で実習する場合）
3）教育実習評価表
4）教育実習終了証明
5）教育実習日誌（実習生各自で用意すること）
6）出勤簿

(4) 教育実習上の注意

実習期間中は、将来教壇に立つのに恥ずかしくない実習をする。

教育実習が終了したらすみやかに、3）教育実習評価表、4）教育実習終了証明、5）教育実習日誌を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。また実習後、実習生は実習校へ礼状を欠かすことのないよう十分留意してください。

教育実習および介護等体験によって通常の授業を欠席する場合には、工学部・未来科学

部事務部に設置してある専用の欠席届（P.195 参照）に教職課程担当教員の承印を受けた上で、科目ごとに授業担当教員へ事前に提出してください。

1-14　教育職員免許状の申請・交付・証明

教育職員免許状の授与権者は各都道府県の教育委員会ですが（教育職員免許法第５条第６項）、その授与申請には次の二つの方法があります。

（1）個人申請

卒業後（4 月中旬以降）、個人で直接、居住地の都道府県教育委員会で免許状の交付を受ける方法です。

（2）一括申請

授与申請は上記の個人申請が原則ですが、卒業式当日に免許状交付を必要とする人については、工学部・未来科学部事務部でその事務を代行し、東京都教育委員会に一括申請をおこないます。

・一括申請の場合の手続と免許状の交付

1）4 年次生の 5 月に一括申請希望届を受付け、1 月末に宣誓書に署名・捺印をして、手数料を添えて指定日の期日に工学部・未来科学部事務部へ提出してください。
2）これに基づき、東京都教育委員会による一括審査がおこなわれます。但し、授与願の記入不備等で不可となった場合は、卒業後の個人申請となりますから、注意して手続きしてください。
3）一括審査に合格した人に対しては、卒業式当日に免許状を交付します。その際、印鑑と教職課程履修券を持参してください。

（3）免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験する際必要となる免許状取得見込証明書は、現在履修中の授業科目も取得見込として工学部・未来科学部事務部で発行します。

（4）免許状取得証明書

卒業後、免許状取得証明書が必要になったときは、東京都教育委員会へ請求することができますが、免許状の再発行はおこなわれません。

（5）大学院で取得できる「専修免許状」について

大学院では、自分の所属する専攻学科の「教科に関する科目」を 24 単位以上修得し課程を終了すれば専攻ごとに認定された教科の「専修免許状」が取得できます。
そのためには、学部において「1 種免許状」を取得するか、またはそれに必要な科目・単位を修得していることが必要です。

・取得できる免許状

＜工学研究科＞

専　　攻	取得できる免許状の種類および教科
電気電子工学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」、「情報」
物質工学専攻	高等学校教諭専修免許状「理科」 中学校教諭専修免許状「理科」
機械工学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報通信工学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」、「情報」

＜未来科学研究科＞

専　　攻	取得できる免許状の種類および教科
建築学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報メディア学専攻	高等学校教諭専修免許状「情報」
ロボット・メカトロニクス学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」

1-15　教職課程担当教員

	氏　　名	館	階	研究室
教授	大江　正比古	4号館	9	40915B
※教授	広石　英記	4号館	9	40912B
准教授	黒沢　　学	4号館	9	40914B
准教授	金築　智美	4号館	9	40915A

※印教員：教職課程主任

介護等体験については「社会福祉法人 東京都社会福祉協議会」の説明資料を引用しました。

1　介護等体験について

1-1　本事業の趣旨

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係わる教育職員免許法の特例に関する法律」（平成 9 年法律 90 号）により義務づけられた「教員が個人の尊厳および社会連体の理念に関する認識を深めることの重要性と教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る」観点から、社会福祉施設等における介護等の体験をすることを目的とします。

1-2　施行及び適用

平成 10 年 4 月 1 日から施行、平成 10 年度の大学等入学者から適用します。

1-3　本事業の対象学生

原則として、都内に在所する大学（4 年制･短期）および教員養成機関に所属する学生（科目等履修生含む）で、小学校および中学校の教諭の普通免許状取得希望者。4 年制大学については、原則 2 年生以上を対象とします。

ただし、帰省先を有する学生は、原則として帰省先で体験をすることをお願いします。

1-4　本事業の対象施設及び受入れ調整窓口

特別養護老人ホーム、児童養護施設、障害者施設等で、先の法律第 90 号に定められた社会福祉施設について、社会福祉法人東京都社会福祉協議会が受入れ調整を行います（＊なお、東京都立盲学校、ろう学校および養護学校については、東京都教育委員会が受入れ調整を行います）。

1-5　介護等体験の期間・時間

原則として、社会福祉施設等 5 日間、特殊教育諸学校 2 日間、計 7 日以上とします。また、社会福祉施設体験は同一施設に日中通所で行い、時間は概ね 1 日 5 ～ 6 時間とします。なお、時間帯については、社会福祉施設により異なります。

1-6　介護等体験の内容（例）

この事業は、対象学生が、施設の利用者との交流や共同作業をとおして利用者の生活にふ

れ、また職員の活動の中から対人援助の実際、人権尊重や関係形成の重要性を感じ、社会福祉の目的や施設の役割等について理解を深めることを目的としています。そのため体験の内容は、下記に示した基礎的、入門的な活動が中心となります。具体的な内容は、受け入れる施設が用意したプログラムにより異なります。

< 例示 >
①施設利用者との交流（話し相手）、学習活動や就労支援活動の補助
②施設が実施する行事、サークル活動等の施設業務の補助
③施設利用者の介護、介助、保育、養育の補助
④掃除、洗濯、おむつたたみ等の日常業務の補助
⑤ボランティアが行う活動への参加
⑥その他、施設が用意した活動への参加

1-7　体験に係わる費用

①体験の所要費用（1日 2,000 円× 5 日）は学校で一括して取扱います。
②施設における昼食費（当該施設で調理する給食を食べる場合）は、別途、施設で実費をお支払いください（一食 350 ～ 500 円程度）。
③交通費は自己負担となります。

2　介護等体験における留意事項

社会福祉施設では、近年、福祉系大学や専門学校等の学生の福祉実習の受入れ、公務員を対象とした研修、一般市民を対象にしたボランティア体験事業等の増加により、職員の受入れ業務が大幅に増えています。しかし、実習やボランティアの受入れを担当する専任の職員は、先に示した社会福祉施設職員の配置基準では考えられておらず、大部分の施設では職員が他の業務と兼務でこの任にあたっているのが現状です。

こうした厳しい状況の中、本事業のために、社会福祉施設では職員と時間を割いて対応しますので、貴重な社会経験（ヒューマンサービス）の一つとして、積極的な姿勢で参加をしてください。また、社会福祉施設は、利用者にとっては「生活の場」であり、一方、施設職員にとっては、「労働の場」（職場）であることを理解し、謙虚な姿勢でそして、自分なりの課題を持って体験にのぞんでください。

2-1　介護等体験で何を学ぶか

教師になるのに「何で社会福祉施設で体験をしなければならないのだろう？」と思ってい

る人も多くいると思います。しかし､「学校」も「社会福祉施設」も人間を対象としたヒューマンサービスの実践現場であること、その対象となる人は、様々な生活課題を抱えている場合があること、サービスの担い手は、その課題の解決も含め、サービス利用者の自立や成長、自己決定を促す援助をしなければならないことなど、多くの共通する内容を持っていると考えられます。また、そこで働く者は「人権感覚」が強く求められ、地域社会の様々な人とも協力しあって、豊かな社会を作っていく努力をしていく必要があります。

以上の考えを踏まえて、以下のような学習の目標を設定してみてはどうでしょうか。

【学習の目的】

○人間への理解を深める（例えば、人の考え方や価値観の多様性、自立と成長に必要なこと、利用者が抱えている社会的不利（ハンディキャップ）の理解など）

○ヒューマンサービスを業とする仕事の重要性について理解を深める（人とのコミュニケーションの方法や援助の姿勢・方法等を学ぶ）

○一人ひとりの人生の尊さや人権についての理解を深める

2-2　体験をする前にすること

○社会福祉施設とはどういうところか（社会福祉施設の目的・役割・機能、利用者の状況、職員の仕事など）概要を理解する。

○前年度、体験した先輩に話を聞く場を設けたり、感想文等のファイルが整備されていれば、それを参考に読んでみる。

○体験日、時間帯の確認をする（体験日、体験時間は、個々の施設によって異なります）。

○持ち物、服装の確認をする（施設が指定する持ち物や着替えの服装、筆記用具、体験証明書等）。健康診断書や検便について、事前提出を求められている場合は、体験期日前に必ず施設へ送付すること。施設に通う服装は、身ぎれいで相手に好感の持たれる社会人に相応しい服装に努める。

○交通経路の確認をする（施設までの交通経路等をよく確認してください。特に、郊外にある施設は、バスの本数などが限られる場合がありますので、時刻表など必ず確認してください。また、道順等不安な場合は下見をすることをお勧めします。）

○施設から事前資料（施設概要や体験の注意事項）を渡されている場合は、よく読んで、当日かならず持参する。

○前日は充分な休養をとり体調を整え、早めに就寝する。

2-3　体験初日に注意すること

○道に迷うこともあるので、初日は余裕をもって家を出る。施設には時間ぎりぎりで到着するのではなく、指定された時間の最低 15 分前には着くように心掛ける。

○施設の事務所（大抵は入口近くにある）にまず立ち寄り、介護等体験事業で来た東京電機

大学の○○であることを伝える。（＊施設には様々な人々が来所します）
○施設でのオリエンテーション内容をよく聴く。必要事項はすべてメモをとる。疑問点があれば、その場で質問する。
○施設の中の部屋の配置や備品の置場等を確認する。
○職員や利用者に自己紹介しながら、関係づくりの一歩を始める。

2-4　活動中に注意すること

2-4-1　活動全般に関して

○決定している体験日、体験時間を守る。（病気等止むを得ない場合を除く）
○当日、遅刻しそうな場合や病気等で休む場合は、かならず施設へ連絡する。また、代替え日が必要な場合は、学校に連絡し、施設と調整を図る。
○挨拶や返事は積極的にする（おはようございます･ありがとうございます･こんにちは･はい、わかりました・さようなら・失礼します・申しわけございません等）。
挨拶はコミュニケーションの第一歩。挨拶等によって相手（利用者や職員）の持つ印象も大きく変わるので注意する。
○社会福祉施設は「生活の場」であることを常に念頭に置いて、行動する。
○社会福祉施設の方針や約束ごとを守り、指導職員（担当職員）の指示によって活動する。
○車いす等の扱いや介護については、その方法をきちんと学んでから対応する。
○貴重品等を持ち込まない（多額の金額や高価な物、なくなると困る物）。
○行き帰りの途中、飲食や喫煙をしながら歩いたり、大声で人と話すなどは慎しむ。
○任された仕事は責任をもって行い、終了後は担当職員に必ず報告する。

2-4-2　利用者との関係で

○利用者の人格、人権を第一に考え行動する。
○個々の利用者の考えや暮らしを尊重する。
○利用者との良好な関係づくりに努める。（そのためにも挨拶は大切）
○利用者には、「さん」付けで呼ぶなど、言葉づかいには注意する。また、大人の障害者や高齢者を子供扱いしない。
○利用者のプライバシーには配慮する。（体験中に知りえたプライバシーにかかわることがらを、他の者に話したり、外部に漏らさない）
○金銭や物品の授受は行わない。
○利用者の感情や生活を乱すことはしないこと。例えば、一時的な感情で、個人的に親密な関係になったり（自分の連絡先を教えたり）、継続的な関わりが見通せない中で、安易や約束（例 体験時間外に利用者と合う、○○へ連れていってあげるなど）をするなどはしない。

2-4-3　職員との関係で

○介護等体験事業の担当職員（いない場合は施設長や現場のリーダー的職員）に、その日行うことや日課について確認する。
○わからないことや判断できないことは、必ず職員に聞いて対応する。
○体験中は、各業務を担当している職員の指示に従う。

2-4-4　ボランティアとの関係で

○ボランティアの業務を尊重する（ボランティアはあらかじめ決まった業務を行っています）。
○ボランティアと協調して業務に取り組む。
○基本的には職員の指示を仰ぐ（ボランティアは最終的な責任を負えません）。

2-4-5　他の体験者との関係で

○体験者同志（学校の友人同志）でのお喋り等に夢中になり、任された業務等を放棄することがないようにする。
○他校の学生とのトラブルは起こさない。

2-4-6　健康・衛生面での注意事項

○健康管理には注意すること。
○持病や障害があり、体験上の配慮が必要な場合は事前に申し出る。
○体験中に身体の具合が悪くなった場合は無理をせず早めに職員に言う。
○身だしなみには注意する（特に不精髭、長い爪、作業の邪魔になる髪形、過度な化粧や香水、作業の邪魔になる装飾品等）。
○うがいや手洗い等、衛生面で注意する（病気を持ち込まない、持ち出さない）。

2-4-7　事故が起きた場合の対応

○事故があった場合には、社会福祉施設の職員および学校の担当者にただちに連絡し、指示を仰ぐ。
＊なお、事故に備えた保険に関しては、学校で掛けている保険がある場合は、それを確認しておく。

2-5　最終日に注意すること

○施設で体験の振り返り（反省会）の機会がある場合には、率直な感想を述べる。
○施設利用者や職員に本日で体験が終了する旨伝え、謝意を伝える。

2-6　活動後に関して

○施設より体験記録や感想文等の提出を求められる場合がある。また、そうでない場合でも

何らかの方法で、体験で学んだこと、感想などを施設に提出するよう努める。
○他の施設で体験した友人や担当教職員との意見の交換の場を持つ。
○体験した施設でボランティア活動を始めたい場合は、当該の施設職員に相談する。

他の施設やその他のボランティア活動を始めたい場合は、社会福祉協議会等が運営する区市町村のボランティア・センターや東京ボランティア・市民活動センターに相談する。

◆社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター
〒162－0823　新宿区神楽河岸1－1　セントラルプラザ10階
ＴＥＬ：03－3235－1171
（日曜日・祝祭日・年末年始休み／月～金9：00－20：00　土9：00－17：00）

＊以上は一般的な留意事項です。あとは社会福祉施設で行われるオリエンテーションを踏まえて、それぞれの社会福祉施設の運営方針に従ってください。

皆さんの体験は、自分ひとりの体験ではありません。皆さんは、東京電機大学という看板を背負って体験をすることとなります。皆さんの体験に取り組む姿勢や内容が、次年度以降の学校と社会福祉施設の関係を作っていきます。後輩へ良いバトンタッチができるよう前向きに取り組みましょう！！

参 考

【介護等体験申込書】

※の欄は記入しないこと

〔取得希望免許〕（○をつける）

中学校：数学・理科

高　校：数学・理科・工業・情報

学科＿＿＿＿＿＿学籍番号＿＿＿＿＿＿氏名（ふりがな）＿＿＿＿＿＿＿＿（男・女）

本籍＿＿＿＿＿＿都・道・府・県　生年月日＿＿＿＿年　月　日

現住所：〒

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿電話（自宅）：　－　－

携帯電話：

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：

体験中の連絡先（上記と異なる場合のみ記入）

〒

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿電話：　－　－

〔希望体験施設に関する資料・社会福祉協議会関係（5日間）〕

体験不能日程（資料の日程表の番号で記入し、理由も付記のこと「バイト」等は無視します）：

番号：	1	2・3・4・5・6	21・22・24・25・26・27		
理由：	前期定期試験	夏期集中講義	後期定期試験		

施設振り分けの資料となります。自己PRを記入してください。

「介護福祉論」単位取得確認欄	賠償責任保険料納入確認欄	体験実習費用納入確認欄	身体検査実施確認欄

※〔事務部記載欄〕

〔決定体験校に関する資料・都教育委員会関係（2日間）〕

体験校：都内　特別支援学校

体験期間：平成26年度

〔決定体験校に関する資料・社会福祉協議会関係（5日間）〕

体験施設校：

体験期間：

参 考

平成 26 年度　体験週一覧

【記入上の注意】

下記の 35 週のうちで、派遣（体験）できない日を含む週番号（1 ～ 35 番）を選び、様式①－ 1 及び様式①－ 2 にご記入（入力）ください。

例 1（学生全体の不可能週）：1 月 14 日から 1 月 20 日がテスト期間で学生全員が体験できない場合は№ 25 と№ 26 を様式①－ 1 に記入し提出してください。また、様式①－ 2 については、WEB を通じアップロードしてください。

例 2（学生個人の不可能週）：「10 月 11 日は就職面接予定日のため体験できない」等の学生個人の都合は、学生の不可能週（様式①－ 2）を№ 11 とし、WEB を通じアップロードしてください。

この週番号をご記入（入力）ください。

№	受け入れ（体験）期間
1	平成 26 年　7 月 28 日 ～ 8 月 3 日
2	平成 26 年　8 月 4 日 ～ 8 月 10 日
3	平成 26 年　8 月 11 日 ～ 8 月 17 日
4	平成 26 年　8 月 18 日 ～ 8 月 24 日
5	平成 26 年　8 月 25 日 ～ 8 月 31 日
6	平成 26 年　9 月 1 日 ～ 9 月 7 日
7	平成 26 年　9 月 8 日 ～ 9 月 14 日
8	平成 26 年　9 月 15 日 ～ 9 月 21 日
9	平成 26 年　9 月 22 日 ～ 9 月 28 日
10	平成 26 年　9 月 29 日 ～ 10 月 5 日
11	平成 26 年　10 月 6 日 ～ 10 月 12 日
12	平成 26 年　10 月 13 日 ～ 10 月 19 日
13	平成 26 年　10 月 20 日 ～ 10 月 26 日
14	平成 26 年　10 月 27 日 ～ 11 月 2 日
15	平成 26 年　11 月 3 日 ～ 11 月 9 日
16	平成 26 年　11 月 10 日 ～ 11 月 16 日
17	平成 26 年　11 月 17 日 ～ 11 月 23 日
18	平成 26 年　11 月 24 日 ～ 11 月 30 日
19	平成 26 年　12 月 1 日 ～ 12 月 7 日
20	平成 26 年　12 月 8 日 ～ 12 月 14 日
21	平成 26 年　12 月 15 日 ～ 12 月 21 日
22	平成 26 年　12 月 22 日 ～ 12 月 28 日
23	平成 26.27 年　12 月 29 日 ～ 1 月 4 日
24	平成 27 年　1 月 5 日 ～ 1 月 11 日
25	平成 27 年　1 月 12 日 ～ 1 月 18 日
26	平成 27 年　1 月 19 日 ～ 1 月 25 日
27	平成 27 年　1 月 26 日 ～ 2 月 1 日
28	平成 27 年　2 月 2 日 ～ 2 月 8 日
29	平成 27 年　2 月 9 日 ～ 2 月 15 日
30	平成 27 年　2 月 16 日 ～ 2 月 22 日
31	平成 27 年　2 月 23 日 ～ 3 月 1 日
32	平成 27 年　3 月 2 日 ～ 3 月 8 日
33	平成 27 年　3 月 9 日 ～ 3 月 15 日
34	平成 27 年　3 月 16 日 ～ 3 月 22 日
35	平成 27 年　3 月 23 日 ～ 3 月 29 日

参 考

2 日間の介護等体験受入校一覧 < 東京都公立特別支援学校　合計 58 校 >

※平成 25 年度の設置校を掲載した（平成 25 年 4 月 1 日現在）。

都立視覚障害特別支援学校　<3 校 >

番号	学　　校　　名
盲 1	文京盲学校
盲 2	葛飾盲学校
盲 3	八王子盲学校

都立聴覚障害特別支援学校　<4 校 >

番号	学　　校　　名
ろう 1	葛飾ろう学校
ろう 2	大塚ろう学校
ろう 3	中央ろう学校
ろう 4	立川ろう学校

都立肢体不自由特別支援学校　<10 校 >

番号	学　　校　　名
肢 1	光明特別支援学校
肢 2	江戸川特別支援学校
肢 3	小平特別支援学校
肢 4	北特別支援学校
肢 5	城南特別支援学校
肢 6	城北特別支援学校
肢 7	村山特別支援学校
肢 8	八王子東特別支援学校
肢 9	大泉特別支援学校
肢 10	墨東特別支援学校

都立病弱特別支援学校　<1 校 >

番号	学　　校　　名
病 1	久留米特別支援学校

都立視・知併置特別支援学校　<1 校 >

番号	学　　校　　名
視・知 1	久我山青光学園

都立知・肢併置特別支援学校　<7 校 >

番号	学　　校　　名
知・肢 1	町田の丘学園
知・肢 2	あきる野学園
知・肢 3	多摩桜の丘学園
知・肢 4	永福学園
知・肢 5	青峰学園
知・肢 6	府中けやきの森学園
知・肢 7	志村学園

都立知的障害特別支援学校　<29 校 >

番号	学　　校　　名
知 1	青鳥特別支援学校
知 2	王子特別支援学校
知 3	王子第二特別支援学校
知 4	八王子特別支援学校
知 5	しいの木特別支援学校
知 6	七生特別支援学校
知 7	小岩特別支援学校
知 8	高島特別支援学校
知 9	矢口特別支援学校
知 10	羽村特別支援学校
知 11	調布特別支援学校
知 12	小金井特別支援学校
知 13	水元特別支援学校
知 14	墨田特別支援学校
知 15	江東特別支援学校
知 16	中野特別支援学校
知 17	足立特別支援学校
知 18	清瀬特別支援学校
知 19	葛飾特別支援学校
知 20	港特別支援学校
知 21	石神井特別支援学校
知 22	白鷺特別支援学校
知 23	板橋特別支援学校
知 24	田無特別支援学校
知 25	南花畑特別支援学校
知 26	田園調布特別支援学校
知 27	南大沢学園
知 28	品川特別支援学校
知 29	練馬特別支援学校

都立知・病併置特別支援学校　<1 校 >

番号	学　　校　　名
知・病 1	武蔵台学園

区立養護学校
（肢体不自由 :1 校、知的障害 :1 校）　<2 校 >

番号	学　　校　　名
地区 4	新宿区立新宿養護学校 (肢)
地区 15	杉並区立済美養護学校（知）

参考

証　明　書

本籍地
氏　　名
生年月日　　年　　月　　日

上記の者は、下記のとおり本施設において、小学校および中学校の教諭の普通免許状授に係る教育職員免許法の特例等に関する法律第２条に規定する介護等の体験を行ったことを証明する。

記

期　　間	学校名または施設名及び住所	体験の概要	学校または施設の長の名及び公印
年　月　日～ 年　月　日 (　　日間)			
年　月　日～ 年　月　日 (　　日間)			
年　月　日～ 年　月　日 (　　日間)			
年　月　日～ 年　月　日 (　　日間)			
年　月　日～ 年　月　日 (　　日間)			

備考１「期間」の欄には、複数の期間にわたる場合には期間毎に記入すること。
　　２「体験の概要」の欄には、「高齢者介護等」「知的障害者の介護等」等の区分を記入すること。

参 考

平成　　年　　月　　日

教職課程履修者 ｛教育実習・介護等体験｝ 欠席届

＿＿＿＿＿＿＿＿先生

＿＿＿＿＿＿＿＿部

＿＿＿＿＿＿＿＿学科

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿印

私は｛教育実習・介護等体験｝のため、下記により＿＿＿＿＿＿＿＿の授業を欠席いたします。

記

期　　間：　＿＿＿＿月＿＿＿＿日　～　＿＿＿＿月＿＿＿＿日

実習校名：

体験施設名：　＿＿＿＿＿＿＿＿

よろしくご配慮の程、お願い申し上げます。

教職課程担当教員氏名：

＿＿＿＿＿＿＿＿印

（注：この用紙は必要に応じて、コピーして使用すること。）

第５章

学生生活について

1　学　　籍

学生の皆さんは、入学により本学の学生としての身分を取得し、卒業により失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。入学後、諸般の事情により退学や休学の許可を得なければならない時には、学生支援センター（学生厚生担当）で次のような手続をしてください。（いずれも所定の願用紙を使用してください。）

（1）休学

傷病その他の理由で引き続き 3 ヶ月以上出席できないときは、休学願を提出し許可を受けてください。傷病による場合は、医師の診断書が必要です。

休学できる期間は許可を受けた年度に限ります。また、休学の申請期間は学期途中から休学する場合でも半期ごと（6 ヶ月）ですが、前期の申請時期のみ通年（前期と後期）での休学申請も可能です。なお、特別な事情があると認められた場合は、再休学を許可することがありますが、その場合は再度手続きが必要です。休学期間は在学年数に算入されません。休学は合計 3 年間まで許可することがあります。

また、休学期間中は在籍料の納入が必要です。（半期 60,000 円）ただし前期休学または通年休学は 4 月末日、後期休学は 10 月末日までに願を提出する必要がありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）にお問い合わせください。

※手続きを進めるにあたり、学生アドバイザーとの面談および学科長決裁が必要です。

（2）復学

休学の理由が消滅したときには、復学願を提出し許可を受けてください。傷病等により休学していた場合は、医師の診断書が必要となります。復学時期は原則として学期の始めとなります。休学して復学する場合、当該学年の正規進級学年次生の学費が適用され、それを納入しなければ復学できません（詳細な手続きは休学満了の時期に通知いたします）。

（3）退学

傷病その他の理由により退学しようとするときは、退学願（学生証添付）を提出し、許可を受けてください。退学の期日は原則として学期末（前期：9 月 10 日、後期：3 月 31 日）となります。退学願を提出するためには、退学を希望する学期末までの学費を納入していることが必要です。退学を希望する学期末を経過した場合には、次の学期末での退学扱いとなりますが、前年度末（3 月 31 日）付退学は 4 月末日、前期末（9 月 10 日）付退学は 10 月末日までに願を提出すれば期日を遡って退学とする場合もありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）までお問い合わせください。

※手続きを進めるにあたり、学生アドバイザーとの面談および学科長決裁が必要です。

（4）除籍

次のいずれかに該当する者は除籍されます。

①最長在学年数（8 年）を超えた者（編入学・再入学の学生は別途の定めとなります）。
②同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級できない者。
③休学期間を超えてなお復学しない者。
④正当な理由がなく、無届けで、ひき続き 3 ヵ月以上欠席した者。
⑤前期分学費を 7 月末日までに、後期分学費を 1 月末日までに納入しない者。
※退学・除籍となった方については、一定の要件で再入学できる制度があります。

2 学　　費

（1）納入期限（平成 26 年度）及び学費振込用紙の発送時期

学部・年次		納入期限		学費振込用紙の発送
		前学期	後学期	
工学部	新入生	（入学手続時に前学期分学費は納入済）	10 月末日	後学期分の振込用紙を 7 月上旬に発送。
	新入生以外	4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分（前・後学期の 2 枚）を発送。
工学部第二部	新入生	6 月 10 日 ［単位従量額のみ］ （入学手続時に前学期分単位従量額以外の学費は納入済）	11 月 10 日	履修単位確定後に発送。 前学期 :5 月下旬頃 （単位従量額のみ） 後学期 :10 月下旬頃
	新入生以外	6 月 10 日	11 月 10 日	履修単位確定後に発送。 前学期 :5 月下旬頃 後学期 :10 月下旬頃

※納入期限が金融機関の休日にあたる場合は翌営業日

（2）納入方法

本学所定の「学費等振込用紙」を用いて銀行から振り込んでください。前学期と後学期の年２回払いです。ご事情によりＡＴＭやネットバンキングを使用される場合は、学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確に入力してお振り込みください。

（3）「学費等振込用紙」について

① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。
② 保証人住所及び氏名は、学生支援センター（学生厚生担当）に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は学生支援センター（学生厚生担当）にてお手続きください。
③ 保証人以外の宛先を希望される場合は、経理部（会計担当）にてお手続きください。
④ 紛失された場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをおとりください。

※上記③及び④は、電子メールでのお手続きも可能です。
⇒経理部（会計担当）メールアドレス：gakuhi@jim.dendai.ac.jp

（4）学費延納

① 特別な理由により学費を納期限内に納入できず延納を希望される場合は、納期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。
② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由の記入が必要です。納期限日までに提出できるよう準備してください。用紙は学生支援センター（学生厚生担当）にて配付します。
③ 延納が許可される期間は、前学期は 6 月末日、後学期は 12 月末日迄です。

（5）その他

① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は学則により除籍となります。
② 留年者の学費は当該学年の正規学年次生と同額となります。
③ 休学の場合は半期 6 万円の在籍料がかかります。

学費に関する情報はホームページにて確認できます。
http://web.dendai.ac.jp/campuslife/expenses/

3 転学部・転学科

（1）転学部

転学部とは工学部から工学部第二部あるいは未来科学部・理工学部・情報環境学部へ移ることをいいます。工学部第二部への転学部は経済的な理由がある場合に限ります（成績不良等の場合は許可になりません）。次年度から転学部を希望する学生は、11 月末までに、学生支援センター（学生厚生担当）に申し出てください。一定の条件を満たし、また定員に余裕がある場合に選考の上許可することがあります。

（2）転学科

転学科とは、工学部の他の学科に移ることをいいます。

工学部生が、次年度から転学科を希望する場合は、11 月末までに、学生支援センター（学生厚生担当）に申し出てください。正当な理由と定員に余裕がある場合に選考の上許可することがあります。

（3）単位の認定

転学部・転学科をされる場合は、既修得単位は以下のように認定します。

① 工学部第二部へ転学部

・認定方法…科目対応にて認定します。
・評価…「S・A・B・C」にて評価します。
・その他注意事項…対応科目がない場合は、他学部他学科科目として認定します。

② 未来科学部へ転学部
・認定方法…原則科目対応にて認定しますが、科目によっては学科の判断により、包括認定とする場合もあります。
・評価…転学部先の学科で開講する授業を履修し修得した場合は原則「RS・RA・RB・RC」にて評価します（ただし、転学部先の学科の判断により「RN」にて評価されることがあります）。それ以外は「RN」にて評価します。
・その他注意事項…対応科目がない場合は、認定されないことがあります。

③ 工学部他学科へ転学科
・認定方法…科目対応にて認定します。
・評価…科目対応の場合「S・A・B・C」にて評価します。
・その他注意事項…対応科目がない場合は、認定されないことがあります。

④ 理工学部・情報環境学部へ転学部
・各学部の事務部までご相談ください。

4 既修得単位の認定

(1) 編入学

編入学者（学士編入学者を含む）に対しては以下の通り認定します。
共通教育科目…包括認定（評価は「R」とします）
専門教育科目…科目対応にて認定（評価は「R」とします）

※「R」で表示された科目は、教育職員免許状を取得しようとするとき、教科に関する科目の単位には 20 単位までしか参入されないので、認定を希望しない学生はその旨を事務部へ申し出てください（ただし、教職課程認定を受けていない大学、短大から編入学した学生の場合）。
※電気電子工学科　電気電子システムコースにおいては、「技術者倫理」を科目対応にて認定する場合があります。
※高等専門学校での科目は原則として 4・5 年次の科目に限ります。

(2) 再入学

再入学者に対しては、共通教育科目・専門教育科目ともに科目対応にて認定します。評価は「S・A・B・C」とします。

(3) 新入学

本学に入学する前に大学または短期大学において修得した授業科目の単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち教授会が教育上有益と認めたものは、入学した後の本学部において修得したものとして（編入学・転入学等の場合を除く）60 単位を限度に単位を認定されることがあります。

新入学者の既修得単位については、以下の通り認定します。

共通教育科目…包括認定（評価は「R」とします）

専門教育科目…科目対応にて認定（評価は「R」とします）

既修得単位認定希望者は、指定された期日までに、前に在学した大学または短期大学の成績証明書及び当該大学の講義要目を添付して事務部へ願い出てください。

5　学生生活への助言・相談

学生生活の中で、教員と接して個人的に指導を受けることは非常に大切なことです。本学では学生と教員の交流には特に留意して、学生アドバイザーと学生相談室の二つの指導・助言制度を設けています。

(1) 学生アドバイザー制度

専任教員が学生アドバイザーとなり、生活や身上について個人的な相談相手となり、適切な指導・助言をする制度です。

たとえば

先生と親しく話がしたい。

勉学上のアドバイスがほしい。

履修方法や授業科目の選択などについて迷っている。

学業成績のことで心配がある。

将来の進路や方針を考えたい。

家計が苦しく、勉学が続けられない。

など、どのようなことでも相談して、有意義な学生生活を送ってください。

学生アドバイザーの一覧は、毎年４月中旬に UNIPA に公開します。

(2) 学生相談室

カウンセリングセンターとして、学生のあらゆる悩みごとについて相談を受け付けています。

学生相談室は、あらゆる相談に応じ、問題の解決に協力し適切な指針を与えることを目的としています。相談員には専門家があたり、相談の内容については個人の秘密が厳守されています。

たとえば
学校が面白くない。
もっと充実した学生生活を送りたい。
今と違った生き方があるのではないかと迷っている。
誰とも自由につきあえるようになりたい。
自分の性格について知りたい。
自信がなく、なんとなく不安がある。
他人とうまくゆかない。
人とうまく話ができない。
など、どのような相談でもかまいません。

(3) こころとからだのサポート 24

電話等により 24 時間年中無休で、相談を受付けています。

6 留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3 週間程度の語学研修から 1 年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等も含めて計画的に検討するようにしてください。

(1) 留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば、「海外短期英語研修」の単位として認定されます。

1）コロラド大学ボールダー校（米国）：8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃
2）シドニー大学（オーストラリア） ：3 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃

②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。

1）韓国語研修：大邱大学（韓国）にて、8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃
2）中国語研修：中原大学（台湾）にて、3 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃
3）インドネシア研修：ヌサンタラマルチメディア大学（インドネシア）にて、3 月に実施（約 2 週間）、募集は 10 月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

＊本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないので注意すること。

(2) 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できるので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、TOEFL（Test of English as a Foreign Language）の受験とそのスコアカードが必要です。留学先により基準となる点数があり、それを満たすためには通常半年から 1 年の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科および工学部・未来科学部事務部の履修指導を受けてください。

(3) 国際センターについて

国際センター（千住キャンパス 2 号館 3 階　9 時～ 17 時）

「国際センター」では TDU の特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、あるときは留学生の日常的な相談相手として、またあるときは日本人学生の海外留学のお手伝い役として、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ（千住キャンパス 1 号館 4 階　10 時～ 17 時）

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。また、留学生による語学講座（中国語・韓国語）も開催しています。

7　学割証（学生旅客運賃割引証）

(1) 学割証の使用用途（発行条件）

帰省・正課教育・課外活動・就職活動・修学見学等で、遠距離へ乗り物で移動する場合で、乗車区間が片道 100 ｋm以上ある場合に、学割証が利用できます。

(2) 学割証の申込方法

2 号館 3 階の証明書自動発行機にて取得してください。

(3) 学割証利用上の注意

①学割証の使用は、記名本人以外は使用不可（不正使用をすると追徴金が科せられ以後、発行停止になります。）
②必ず学生証を携帯してください。
③学割証の有効期間は発行日から 3 ヵ月間です。

(4) 団体旅行

学生団体運賃割引制度は、学生と引率教職員同行で利用できます。
（人数の条件・割引率は、鉄道会社によって異なります）
利用の際は、「学外活動願」とともに「団体旅行申込書」（駅・旅行会社にあり）に必要事項を記入し、学生支援センター（学生厚生担当）に提出してください。

8　自転車駐輪場

本学では、公共交通機関以外を用いての通学は原則禁止しています。特に、バイク、自動車による通学は一切禁止していますので充分留意してください。ただし、駐輪場利用許可者の自転車通学は許可制により認めています。

(1) 自転車駐輪場

利用希望者は、学生支援センター長の許可を経て、利用料金（年間 10,000 円･半期 6,000 円）を納入し、駐輪場を使用できます。
募集説明会および安全運転講習会は、4 月と 9 月に実施しています＜学生支援センター（学生厚生担当）開催＞
説明会の日程は UNIPA 等で連絡しますのでご注意ください。

【駐輪場利用許可条件】
1. 原則として自宅から東京千住キャンパスまでの距離が徒歩 12 分（1,000 m）以上で

徒歩 60 分（4,800 m）以内（googleMap ルート計算基準）この条件外の希望者は理由書を添付

2. 規程違反した場合には資格を失うことを誓約する
3. 卒業・退学・除籍者は利用資格を失う
4. 年度途中で駐輪場の利用をやめる場合も、納付済みの利用料金は原則として返金しない
5. 学生支援センター長は無登録自転車を、撤去・処分することができる

万一、自転車駐輪場使用許可を受けた学生以外で、車両通学を続ける学生がいた場合は、学則上の処分（退学・停学・訓告）をおこないますので十分注意してください。

また、駐輪場内での盗難等につきましては、利用者の自己責任で管理して下さい。特に、着脱可能な部品については充分にご注意ください。

なお、身体障害者手帳を持つ学生等については、別途願い出により特別に許可することがありますので、学生支援センター（学生厚生担当）へ問い合わせてください。

※不法駐輪、駐車の車両等は場合により撤去することがあります。

9　健康管理

充実した学生生活をおくるには、健康が第一に挙げられます。特に若い人たちは、自己の体力を過信して、限界を超えた不規則な生活が元で健康を害する事がありがちです。食事･睡眠･運動のバランスの取れた規則的な生活で、自己管理に努めてください。

(1) 学生相談

学生相談室では、進路、単位などの学業上の問題、不眠、無気力などの精神的な問題、家族、友人とのトラブルなど様々な悩みについて、臨床心理士の資格をもったカウンセラーが相談に応じています。一人で考えても、解決が見つからない時は、抱え込まずに、気軽に相談室を利用してください。相談内容に関しては、担当者以外にもれることはありません。

場所は、2 号館 3 階、健康相談室の隣です。

開室時間　月曜～金曜

（曜日によって担当者､開室時間は違います。HP､パンフレットなどで確認してください。）

予約は電話、あるいは、メールで受け付けています。

電話番号 03 - 5284 - 5346

メールアドレス ko-gakuso@cck.dendai.ac.jp

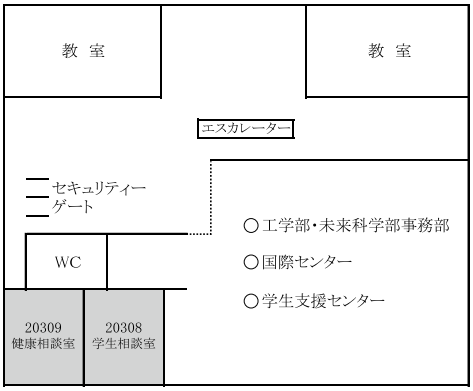
※学生やその保証人を対象として、外部機関を利用した、「電話相談サービス」も利用できます。詳細は、別配布のパンフレット等をご参照ください。

(2) 健康相談

授業中や課外活動中など学内で気分が悪くなったり、思わぬケガをした時は、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもとに看護師資格をもった職員がそれぞれの応急の処置にあたっています。また、必要時、近隣の医療機関を紹介いたします。

また、平常の健康相談にも応じています。身長計、体重計のほか自動血圧計や体脂肪計等も設置して、自由に利用できますので、お気軽に来室してください。

〈2号館3階〉



＊事務室自動ドア入口から入って奥

(3) 健康保険証について

一部の健康保険証は、ひとり１枚のカードになっています。携帯しやすくなると、便利な反面、紛失しやすくなりますので、注意してください。

一家に１枚しか保険証が発行されていない場合、親元を離れて生活を始める学生は、急な受診に備えて、「遠隔地被扶養者健康保険証」を用意してください。必要書類（手続き）等は加入している健康保険の発行者に問い合わせてください。

(4) 健康診断

①定期健康診断

毎年春に、全学生を対象とした定期健康診断を実施しています。これは法に基づいたもので、学校が集団生活の場である事と、疾病の予防、早期発見を目的としています。受診しない場合、就職や進学、アルバイト等で健康診断証明書を必要とした時に発行されない他、体育実技の授業、英語短期研修、その他の実習等の参加にも影響します。必ず受診してください。

〔定期健康診断実施項目〕

①胸部Ｘ線間接撮影、②身体計測（身長、体重、視力）
③内科診察、④尿検査、⑤血圧（一部の学生）

②その他の健康診断

クラブ検診：体育系のクラブに所属して、練習や大会・合宿等に参加する学生（４年生やマネージャーも含む）を対象に実施します。詳しい日時はクラブの代表を通じて連絡しますので、必ず受診してください。

＜実施項目＞　問診、血圧測定、心電図検査

③健康診断証明書

学生証を用いて、証明書自動発行機にて発行されます。

料金：1 通 200 円

(5) 保険制度

①学生教育研究災害傷害保険（学研災）

「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）は、正課および課外活動中または通学途中などに発生した傷害事故を補償する制度です。

入学手続時に修業年限分の保険料を納入し、全員が加入者です。この保険の窓口は学生支援センター（学生厚生担当）です。学内外を問わず、事故にあったときは、必ず連絡してください。

なお、留年等により、正規の修業年限を超えた場合は、再加入の手続が必要となります。必ず学生支援センター（学生厚生担当）にて手続を行って下さい。（＊入学時配布「学生教育研究災害傷害保険のしおり」参照）

●保険金の種類・金額

	保険金額 ＼ 担保範囲	死　亡	後遺障害	医　療	入院（日額）
学研災 2,000 万円コース	正課中 学校行事中	2,000 万円	120 万円～ 3,000 万円	0.3 万～ 30 万円	4,000 円
	上記以外で学校施設内にいる間	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	3 万円～ 30 万円	
	学校施設外での課外活動中	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	3 万円～ 30 万円	
通学特約	「通学中」「学校施設等と相互間の移動中」	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	0.6 万～ 30 万円	

（注）1）医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療日数に応じて異なります。

2）正課・学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が、1 日目から支払われます。また、上記以外の学校施設内にいる間の事故、課外活動中の事故は、実治療日数が 14 日以上、移動中の事故は、実治療日数が 4 日以上の場合に支払われます。

◎保険料・保険期間（学生教育研究災害傷害保険＋通学中等傷害危険担保特約）

保険期間	保険料適用区分	
	昼間部	夜間部
1 年間	1,000 円	450 円
2 年間	1,750 円	750 円
3 年間	2,600 円	1,100 円
4 年間	3,300 円	1,400 円

（注）1）保険期間は所定の修業年限です。
2）保険期間の切れた者（留年･休学者）は、保険料を納入し再加入してください。
3）詳細は、学生教育研究災害傷害保険のしおり参照のこと。

②学研災付帯賠償責任保険（学研賠）

学外機関での研究期間中、正課、学校行事中、およびその往復で、偶然に他人へケガや、財物の損壊したことにより被る法律上の損害を補償する制度です。

この保険は任意加入で学外の研究機関に実習へ行く際には、学生支援センター（学生厚生担当）で手続きを行ってください。また申し込みは学生教育研究災害傷害保険（学研災）の加入が義務付けられております。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険 概要		活動内容
		正課、学校行事およびその往復
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

（注）学外での実習先決定後、学生支援センター（学生厚生担当）で加入の手続きを行ってください。
（＊詳細は学研災付帯賠償責任保険のしおり（加入時に配付）を参照のこと）

◎保険料・保険期間

保険料（1 年間）	340 円

（注）保険期間は 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日（1 年間）

③インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（インターン賠）

学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等での就業体験（インターンシップ）中や教育実習期間中、ボランティア活動中およびその往復で、他人へケガを負わせたり、財物を損壊により被る法律上の損害を補償する制度です。

任意加入制でインターンシップは、学生支援センター（キャリア支援・就職担当）、教育実習は工学部・未来科学部事務部（教務担当）で手続きをしてください。また申し込みは学生教育研究災害傷害保険（学研災）の加入が義務付けられております。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険の概要		活動内容
		インターンシップ、教育実習、ボランティア活動およびその往復
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

（注）インターンシップ受入企業決定後、学生支援センター（キャリア支援・就職担当）で加入の手続きを行ってください。
（＊詳細は「学研災付帯賠償責任保険のしおり」（加入時に配布）を参照のこと）

◎保険料・保険期間

保険料（1 年間）	210 円

（注）保険期間は 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日（1 年間）

10　奨学金制度

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、日本学生支援機構をはじめ各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は学生支援センター（学生厚生担当）で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の連絡はすべて UNIPA で主におこないますので、見落とすことのないよう十分注意してください。なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する者は、随時、相談してください。

主な奨学金制度には次のものがあります。

（1）特別奨学金（本学独自）

故桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付金および学校法人東京電機大学からの積立金を基金として設立された奨学金です。学業成績・人物ともに優秀な本学学生で、経済的理由により修学困難な者に対して給付されます。

資　　格	本学部の 2 ～ 4 年に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者 私立大学等経常費補助金の補助適用とした家計基準があります。
給 付 額	学費の一部または全額（平成 25 年度：28 万円）
給付期間	1 年
募集時期	5 ～ 6 月
採用者数	工学部 6 名、未来科学部 5 名、工学部第二部 2 名、理工学部 9 名、 情報環境学部 3 名（平成 25 年度）

（2）東京電機大学学生救済奨学金（本学独自）

保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難となり、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。

在籍期間中１回に限り貸与されます。

資　　格	大学院・学部に在籍する学生
貸 与 額	学費の１／２相当額
募集時期	４月と９月の年２回
採用者数	29 名（平成 25 年度）
返　　還	無利子・卒業後５年間

（3）東京電機大学学生支援奨学金（本学独自）

本学主催の海外英語短期研修への参加および高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。在学期間中１回に限り貸与されます。

資　　格	大学院・学部に在学する学生
貸 与 額	30 万円以内にて査定
募集時期	主として４月と９月の年２回
採用者数	７名（平成 25 年度）
返　　還	無利子・最長卒業後５年間

（4）東京電機大学学生応急奨学金（本学独自）

本学への特定の寄付金をもって設置された奨学金です。本学の学生で人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して給付されます。

資　　格	学部に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者
給 付 額	50 万円の範囲内で決定
募集時期	定期的な募集は行っておりません。１年以内に家計急変があり学費支弁が困難な者で、他奨学金の貸与状況・家計急変状況・学費延納状況等から総合的に判断し、応急奨学金の趣旨に相応しい人物を採用します。
採用者数	応募者なし（平成 25 年度実績）

（5）東京電機大学校友会・新電気奨学金（本学独自）

東京電機大学校友会が昭和 59 年度より設立した奨学金で、家庭の経済的事情の急変により学業継続が困難な学生に対して在籍期間中１回に限り奨学金が貸与されます。

資　　格	本学学生
貸 与 額	１回に納入する学費等の相当額。卒業後５年間で返還（無利子）
募集時期	随時。但し、学費に充当するため、学費納入期限以前に応募することが望ましい。
採用者数	２名（平成 25 年度）

(6) 日本学生支援機構による奨学金

優秀な学生で経済的理由のため修学困難な者に対して貸与される奨学金で、「第一種奨学金（無利子）」と「第二種奨学金（有利子）」とがあります。

【第一種奨学金】（無利子）

成績基準	1 年次生については、高等学校での評定平均値が 3.5 以上であること。 2 年次生以上については、クラスの上位 1 ／ 3 以内の成績であること。
貸 与 額	自宅　：　30,000 円　または　54,000 円 自宅外：　30,000 円　または　64,000 円　　（平成 25 年度）
貸与期間	最短修業年限（4 年）の終期まで。 ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取消される場合があります。
募集時期	原則として 4 月上旬の 1 回限り

【第二種】（有利子）

成績基準	本人が奨学金借用にあたって適確な意識をもっていること
貸 与 額	3 万円・5 万円・8 万円・10 万円・12 万円の中から選択（平成 25 年度）
貸与期間	最短修業年限（4 年）の終期まで。 ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取消される場合があります。
募集時期	原則として 4 月上旬の 1 回限り

＊併用貸与……第一種奨学金の貸与のみでは学業継続が困難な者に対しては、第二種奨学金をあわせて貸与することがあります。

平成 25 年度　本学　日本学生支援機構奨学生数

	第一種	第二種	計
工学部・工学部第一部	328	768	1,096
未来科学部	175	446	621
工学部第二部	79	198	277
理工学部	314	871	1,185
情報環境学部	118	341	459
計	1,014	2,624	3,638

(7) 各種団体による奨学金

地方公共団体、その他民間育英団体の奨学金が各種あります。詳しい内容は、募集の依頼があり次第掲示でお知らせします。ほとんどの奨学金が 4 月～ 5 月上旬に募集を行いますので、掲示を見逃さないように注意してください。このほかに大学を通さないで募集される場合もありますので、直接地方公共団体等に問い合わせることも必要です。

大学に前年度募集依頼のあった地方公共団体・民間育英団体（抜粋）

平成 25 年度（単位：円）

名　　称	貸給	月　　額	出　願　資　格
福　島　県	貸与	40,000	県内に居住する者の子女
茨　城　県	貸与	自宅外　40,000 自　宅　36,000	県内に居住する者の子女
石　川　県	貸与	44,000	県内に居住する者の子女
新　潟　県	貸与	51,000	県内に居住する子弟
山　口　県	貸与	52,000	県内に居住する者の子女
宮　崎　県	貸与	自　宅　53,000 自宅外　63,000	県内に居住する者の子女
足　立　区	貸与	45,000	足立区内に 6 ケ月以上居住している者
㈶前澤育英財団	給付	30,000	新 1 年次生で東京都民の子女または東京都に居住している者
池田育英会トラスト	給付	17,000	愛媛県内の高校を卒業している 2 年生以上の者
㈶交通遺児育英会	貸与	40,000 ～ 60,000	交通遺児、保護者に重度の後遺障害がある者
あしなが育英会	貸与	40,000	保護者が病気又は災害により死亡したり、重度の後遺障害がある者
㈶中村積善会	給付	40,000	他の奨学金を受けていない者
㈶日揮・実吉奨学金	給付	300,000（年額）	人物・学力共に優秀な者
㈶関育英奨学会	貸与	30,000	2 年次生で学業・人物ともに優秀な者
㈶守谷育英会	給付	100,000	学力優秀・心身共に健全な者
㈶中部奨学金	貸与	35,000	人物・学業共に優秀な者
㈶オーディオテクニカ奨学金	給付	20,000	東京都内に在住し、2 年次以上で年に 1 回奨学生の集いに出席できる者
㈶フジシール教育振興財団	給付	50,000	応用化学・機械工学・電気電子工学を学ぶ者、パッケージに興味のある者
㈶信濃育英会	給付	300,000（年額）	ボランティア等あらゆる分野の活動を通じて明るい社会を築くために貢献している者
三菱商事復興支援財団	給付	100,000	東日本大震災による火災・水害等で被災した者
㈶起業家支援財団	給付	30,000	起業家を目指す学生
㈶川本奨学財団	給付	25,000	学業優秀・品行方正な者
㈶種とまと財団	給付	50,000	理工系大学の 3 年生、学業優秀、健康、品行方正な者

11　短期貸付金制度

短期貸付金制度は、みなさんが緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度で、学生支援センター（学生厚生担当）で取り扱っています。

この貸付制度は、同窓会の先輩の皆さんが設けた東京電機大学同窓会助け合い基金をもって運用されています。

【短期貸付金の取扱い】

取扱時間	月曜日～金曜日　9：00 ～ 19：50
	土　曜　日　　9：00 ～ 18：50
貸付金額	10,000 円（一律）
貸付期間	１ヶ月以内（返済期日厳守）

授業期間外の取扱時間は、窓口時間に合わせて短縮または変更する場合があります。

一日に貸付できる人数には限りがあります。また、返済期限を過ぎた場合は、今後の貸付が禁止となります。金銭の借用については返済の見通しを立ててから行動し、助け合い基金の趣旨に反した安易な借用は認めませんので注意してください。

12　下宿・貸間の紹介

東京千住キャンパスでは直接斡旋はしておりませんが、大学生協等で取扱業者の案内をしております。

13　課外活動

大学の課外活動の目的は、団体の活動に参加することによって、自主性を養い、協調精神を身につけ秩序を知り、自己の人間形成に役立てることにあります。しかし、課外活動に必要以上のエネルギーを費やし学生の本分である勉学がおろそかになるようであってはなりません。みなさんは、課外活動のこの趣旨目的を十分に把握した上で各自の個性に合った団体を選び意義ある学生生活を過してください。

課外活動をおこなう上での諸手続遵守事項の大要は次の通りですが、詳しくは「学生生活についての規定」を参照してください。

（1）学外活動をおこなう場合

学生の団体が学外で活動する場合は、「学外活動要領」に基づき学生支援センター（学生厚生担当）備えつけの「学外活動願」に記入の上、活動開始の２週間前までに学生支援センター

（学生厚生担当）に届け出なければなりません。学外活動終了後はすみやかに「学外活動報告書」を提出してください。

（2）学内集会をおこなう場合

学生の団体が学内で集会をおこなう場合は、「学内集会要領」に基づき学生支援センター（学生厚生担当）に備えつけの「学内集会願」に記入の上、東京千住キャンパスで集会をおこなう場合は学生支援センター（学生厚生担当）に、千葉ニュータウンキャンパスで集会をおこなう場合は原則として情報環境学部事務部に届け出なければなりません。ただし、学生支援センター（学生厚生担当）の窓口でも千葉ニュータウンキャンパスでの集会を申し込むことができます。

14　アルバイト

本学ではアルバイトを希望する学生にその紹介をおこなっております。しかし学生の本分である学業が疎かになってはなりません。教育的配慮と事故防止の観点から時期と職種を制限しています。

（1）取扱窓口 及び 大学宛求人票公開

2 号館 3 階学生支援センター（キャリア支援・就職担当）

（2）時期の制限

通常授業が行われている期間は紹介しません（家庭教師・塾講師のみ随時紹介）。ただし長期休業中（夏季・冬季・春季）は紹介いたします。

学業に支障がないことが原則です。

（3）職種の制限

制限職種一覧表を参照してください。

（4）申込方法

掲示されている求人票に連絡先が記載されているので、直接求人先に応募してください。なお、採否結果は必ず学生支援センター（キャリア支援・就職担当）に申し出てください。

（5）勤務上の注意

①労働内容、条件などが求人票に記載されている内容と著しく異なる場合には、学生支援センター（キャリア支援・就職担当）に申し出てください。

②病気、急用、その他突発的な理由で遅刻・欠勤などする場合には、必ず勤務先へ連絡してください。安易な行動は勤務先へ多大な迷惑をかけるばかりでなく、自分の信用を落とすことになりますので特に注意してください。

(6) 学生アルバイト情報ネットワークの利用について

WEB 上で「学生アルバイト情報ネットワーク」を利用し、アルバイト求人情報を取得できます。下記の HP より、ログイン ID とパスワードを取得して利用してください。

尚、当システムは、学外のシステムとなります。当システムを利用し、紹介を受ける場合、職種の制限や、問い合わせ先が異なりますので、ご注意ください。詳しくは、下記ＵＲＬを参照してください。

【学生アルバイト情報ネットワーク】https://www.aines.net/dendai

〔制限職種一覧表〕

	具　体　例	理 由 及 び 参 考 事 項
危険を伴うもの	●プレス、ボール盤、旋盤、裁断機など自動機械の操作	危険事故が伴う。 （例外…理工系でその専攻に役立つもの）
	●高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い（助手も含む）	免許を必要とし、高度の危険度がある。
	●自動車、単車の運転、自転車による重量物（30kg 以上）の配達	最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ刑事責任まで負うことになる。
	●線路内や交通頻繁な路上での作業（測量、白線引き、交通整理）	
	●土木・水道工事現場作業	
	●建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業	落下物・転落等の危険度が大きい（内装工事は除く）。
	●２階以上の高所での屋外作業（硝子ふき、器具取りつけ等）	
	●ヘルメット着用が必要とされる作業	
	●警備員	会場整理、誘導、受付は除く。
害なもの人体に有	●農薬、劇薬など有害な薬物の扱い（メッキ作業、白蟻駆除等）	健康上、人体に有害と考えられる。
	●特に高温度・低温度の作業	
	●塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	
法令に違反するもの	●労働争議に介入するおそれのあるもの	職業安定法 20 条参照
	●営利職業斡旋業者への仲介あっ旋	職業安定法の趣旨（雇用関係の成立の斡旋）に反する。
	●マルチ・ネズミ講商法に関するもの	無限連鎖講の防止に関する法律参照
	●出来高払（一定額の賃金の保証のないもの）	労働基準法 27 条参照
	●募集・採用の対象を男性のみ又は女性のみとするもの	男女雇用機会均等法参照
	●募集・採用の人数を男女別に設定するもの	
	●募集・採用に当たり、性別により異なる条件を付すもの	

	具　体　例	理 由 及 び 参 考 事 項
教育的に好ましくないもの	●街頭でのチラシ配り、ポスター貼り	内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	●不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	相手側の了解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	●訪問販売、勧誘、専門におこなう集金	
	●競馬、競輪場等、ギャンブル場内の現場作業	
	●バー、キャバレー、マージャン、パチンコなどの風俗営業の現場作業、長期継続の深夜作業	
	●夜間作業	
	●選挙の応援に関する一切の業務	大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
	●スパイ行為、興信所業務に類する調査	
望ましくない求人	●人命にかかわることが予想される業務	水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	●労働条件が不明確なもの	賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの。登録制によるもの。
	●人員の限定を条件とするもの	例えば 10 人中 1 人でもかけると他の 9 人を不採用とするようなもの。
	●学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしばくり返されるもの	
	●各大学の判断により好ましくないもの	

15 校 友 会

みなさんが学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を耳にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

1 校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方も多いと思いますが、本学園と連携し、在学生のみなさんへの支援も行っております。学園祭等の全体行事援助、奨学金貸与、クラブ活動への補助など、積極的な支援活動を展開しています。

2 校友会組織と活動

現在、校友会には各校（大学、中学校・高等学校）の同窓会、各県支部（みなさんの出身地にもあります）や公認団体として、職域電機会（企業内同窓会）があります。将来、これら支部組織が就職活動等でみなさんの力になることと思います。

また、卒業生情報の管理や会誌「工学情報」の編集・発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しております。

3 東京電機大学校友会新電気奨学金

この制度は一般の奨学金のように期間を設けて募集するのではなく、学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた時、申請により校友会が立て替えるものです。

希望者は下記の要件を確認した上で、学生アドバイザーあるいは学生支援センター（学生厚生担当）に相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の 1/2 相当額

返　還：卒業後半年据え置いた後、5 年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済
（一括返済可・無利息）

4 大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、卒業後のクラス会の開催はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大で約 11 万名に達しております。

大学同窓会では学園と協力して“就職セミナー”を開催しており、産業界で活躍している先輩による就職進路相談は就活生に好評です。また年に 1 度、卒業生と在学生との交流行事“OB 交歓会”を各キャンパスで開催し、優秀な学生団体に丹羽賞、同窓会奨励賞を授与しております。

①丹羽賞

初代学長の故丹羽保次郎先生が、生前同窓会に寄せられた基金を基に創設されたもの

で、在学会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去 1 年間に優秀な課外活動成果をあげた学生団体に与えられます。

②同窓会奨励賞

昭和 60 年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道に着実な活動を続けている団体を応援する目的で贈られます。

5　校友会を訪ねてください

校友会は、東京千住キャンパス 1 号館 2 階にあります。在学中に先輩のこと、出身地の校友会支部のこと等、知りたいことがありましたらお気軽にご相談ください。

（案内図は P.319 参照）

一般社団法人　東京電機大学校友会
〒120-8551　東京都足立区千住旭町 5 番　東京電機大学東京千住キャンパス 1 号館 2 階
TEL：03-5284-5140　E-mail：kouyukai@jim.dendai.ac.jp
FAX：03-5284-5187　URL：http://www.tduaa.or.jp/koyu/
業務時間 9:00 ～ 17:00

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。

そのためには、学生等が教育・研究などの諸活動を相互信頼のもとに進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において相手を対等な関係と見ることなく、差別したり、性的な対象として心理的、身体的に傷つけたりすることはあってはならないことです。

しかし不測の事態に備え、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じてハラスメント対策委員会委員長が、適切なハラスメント相談員を紹介あるいはハラスメント調査委員会を組織して事実関係を調査するなど、ハラスメントの防止に取組むことを宣言します。

平成16年4月1日宣言



TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

東京千住キャンパス
ハラスメント対策委員会

ハラスメント相談受付窓口

ハラスメントに少しでも悩んでいたら、一人で悩まず、ハラスメント相談受付窓口を利用してください。
詳細は専用パンフレットで確認してください。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。
教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。



セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の２つに分けられます。

対価型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環境型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ヌードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪･肩･背中･腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子･女の子」、「おじさん･おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの？」、「子供はまだなの？」と聞く。



アカデミック・ハラスメントとは

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。
拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら

- 勇気をもって、「NO」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に居合わせたなら

周りの人にもできることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

加害者にならないために



私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

第６章
各種施設について

1　東京千住キャンパス　開館時間

東京千住キャンパスの開館時間は以下の通りです。

	平日（土曜日も含む）	祝休日
1 号館	7：30 ～ 22：30	**終日閉扉**
2 号館		
3 号館		
4 号館		
東京千住アネックス	7：30 ～ 21：00	

※　休業期間中および各種行事日等においては、別に指示します。

2　厚生施設・運動施設

(1) テニスコート

体育の授業以外の下記時間帯に利用できます。利用申請は、利用日前日または当日の窓口時間内に受付けます。学生支援センター（学生厚生担当）窓口でテニスコート利用願を提出し、許可を受けてください。

●利用条件

テニス道具一式（ラケット・ボール・シューズ等）を各自で持参してください。

●利用可能時間

月～土曜日（祝祭日除く） 9:00 ～ 18:00　※１グループ一日あたり最長２時間まで

(2) トレーニングルーム（3 号館 2 階）

体育の授業以外の下記時間帯に利用できます。利用申請は、別途 UNIPA にて連絡します。

●利用可能時間　月～土曜日（祝祭日除く） 9:00 ～ 21:00

(3) ランニングコース（1 周 100 m、2 号館屋上）

●利用可能時間　月～土曜日（祝祭日除く） 9:00 ～ 17:00

※体育館及び千住アネックステニスコート、千住東グラウンドは、現在のところ、一般学生には開放していません。

3　学生食堂と売店について

(1) 学生食堂

3 号館 2 階とM 2 階に学生食堂があります。
2 階では定食類、M 2 階では麺・丼ものを中心に販売しています。

【営業時間】　月～金　2 階　　8：00 ～ 20：00
　　M 2 階　11：00 ～ 14：00
　　土曜　　2 階　11：00 ～ 15：00
※夏季・冬季休業期間中等、授業期間外は別途定めます。

(2) 売店

3 号館 3 階に売店があります。
菓子類やドリンク、書籍、文具等の販売を行なっています。
また、貸しロッカーの年間貸出も行なっています。

【営業時間】　月～金　　8：30 ～ 19：50
　　土曜　　11：30 ～ 18：30
※夏季・冬季休業期間中等、授業期間外は別途定めます。

(3) その他飲食物の販売

・各号館各所にドリンクの自動販売機を設置しています。
・3 号館 1 階ではパン屋の出店も行なわれています。

4　総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、学園全体にさまざまなサービスを提供しています。総合メディアセンターのサービスは、東京千住キャンパスはもとより、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）、千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも1つのＩＤとパスワードで利用することができます。

学生証

図書資料の貸出、コンピュータの利用（印刷）、入退室管理、総合メディアセンターのサービスを利用するときに必要です。学内では必ず学生証を首から下げるようにしてください。

パスワード

パスワードは、総合メディアセンターの各種サービスとポータルサイト（DENDAI-UNIPA）を利用するために必要です。他人に乱用されるなどの悪用を防ぐよう責任をもって管理してください。個人データとシステムを守るために初期パスワードは必ず変更してください。推測されやすいパスワードは危険ですので、他人に判らず、自分が忘れないものにしましょう。また、パスワードを定期的に変更し、セキュリティ確保に努めるようにしてください。

サービス時間

授業期間中は下記時間帯に利用できます。

場所	施設	開館時間
2 号館 1、2 階 （入口は 1 階のみ）	図書館	月～土（休講日除く） 8:45 ～ 21:45 （一部施設は 21:30 まで）
2 号館 4 階	PC 教室	月～土（休講日除く） 9:00 ～ 21:30

都合により変更になる場合がございます。また、休業期間中にも開館している日がございますので、詳細は総合メディアセンターの Web ページもしくは掲示をご確認ください。

総合メディアセンターの Web ページ
http://www.mrcl.dendai.ac.jp/
各サービスのメニューが表示されます。
見たいサービスやカテゴリをクリックしてご覧ください。

利用上の注意

■環境保持のため、施設内に飲食物を持ち込むこと・喫煙は堅くお断りします。
※ただし、図書館内では、蓋のできる密閉容器に入った飲み物に限り、持込みを認めています。
■総合メディアセンター施設内には、濡れたままの傘を持ち込むことを禁じております。濡れた傘は、備え付けの傘袋に入れて持ち込んでください。
■他の利用者の迷惑とならないようマナーを守って利用してください。
■携帯電話の通話は禁止します。どうしても使用したいときは、総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
■総合メディアセンター内ではスタッフの指示に従ってください。指示に従わない場合は退出していただきます。
■総合メディアセンターの施設および資源は、教育・研究を目的としたものです。目的以外に利用した場合、その他、不正行為を行った者は、学則に則って処分します。

図書サービス

(1) 図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。また、自動貸出機を利用して貸出手続きをすることもできます。

■貸出冊数と貸出期間

対象	貸出冊数	貸出期間
学部 1 ～ 3 年生	5 冊	2 週間
卒業年次生（学部4年生）	10 冊	1 ヶ月
大学院生	10 冊	1 ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出機の利用や、図書 Web ページからＩＤとパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

注意！

図書を延滞すると、遅れた日数分貸出停止となりますのでご注意ください。
なお、借用中の図書資料を紛失した場合には、弁償していただきます。

■館内利用の資料

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌
3	修士論文および学位論文（複写も不可）
4	視聴覚資料（ビデオ、ＤＶＤなど）
5	貴重書

※上記 1 ～ 4 の他キャンパス資料は取り寄せが可能です。
カウンターで手続きをしてください。

■コピーについて

図書資料の複写は図書館内の複合機を利用してください。
著作権に関しましては、利用者が全責任を負うものとします。
※著作権に関する注意（著作権法第 31 条より抜粋）
図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。
図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

(2) 図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。返却はどのキャンパスでも可能です。返却期限日は、図書 Web ページから簡単に確認することができます。退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間にかかわらず即時返却してください。

休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各キャンパスの総合メディアセンター正面出入口に設置されています。

東京千住キャンパスでは、2 号館 1 階に設置しています。

注意！

図書を延滞すると、遅れた日数分貸出停止となりますのでご注意ください。

なお、借用中の図書資料を紛失した場合には、弁償していただきます。

(3) 図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書 Web ページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

(4) 図書資料の予約

図書資料は、図書 Web ページから予約することができます。図書が到着したらメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへお越しください。

	所属キャンパスの資料	他キャンパスの資料
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7 日間	

※図書が各キャンパスに届くまでの日数

東京千住　⇔　埼玉鳩山・千葉ＮＴ　　1 ～ 2 日

埼玉鳩山　⇔　千葉ＮＴ　　2 ～ 3 日

※状況によって日数が変更になる場合があります。

(5) 各種サービス

レファレンス サービス	図書資料および利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用 サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写･図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索 サービス	本学で所蔵している図書資料は、図書館内のパソコンで自由に検索できます。また、総合メディアセンターの図書 Web ページを利用して検索することも可能です。
当日貸出 サービス	グループスタディ（予約制）の利用や、プロジェクター・ノート PC などの各種機器、USB 扇風機・ひざかけなどの貸出を行っています。

Web によるお知らせとサービス（http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/）

図書 Web ページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

・資料検索
・図書資料予約
・返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
・借用図書の貸出期間の更新
・文献複写・図書資料貸借依頼〈有料〉
・図書購入依頼（購入希望図書の申込）
・新着図書情報
・ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
・オンラインジャーナル（IELOnline、ACMPortal、他多数）
・各種データベース
・電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。

以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

・予約図書資料到着のお知らせ
・貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
・返却期限日のお知らせ（返却期限日の 1 日前に連絡）
・延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
・文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
・購入希望図書到着・却下のお知らせ

(6) 各種設備

メディア ゾーン	開架書架・集密書架エリアには、図書がＮＤＣ（日本十進分類法）により主題別に分類されています。また、集密書架エリアには学術雑誌（バックナンバー一部含む）も配架されています。受験書や就職本､旅行･レジャー･地図などの図書のコーナーも設置しています。読みたい本を自由に探して閲覧することができます。 静粛閲覧エリアもあります。
ラーニング ゾーン	グループスタディエリアは、ディスカッションしながらの学習や、プレゼンテーションの練習等､グループで使用することができます。ラーニングコモンズエリアは、相談しながら学習が可能なエリアです。可動式のホワイトボードを設置しています。
リーディング ゾーン	閲覧エリアとブラウジングエリアがあります。ブラウジングエリアは、くつろいで新聞や雑誌を読みたいときに利用してください。また、日替わりで本学の所蔵しているＤＶＤを放映しています。

図書サービスに関するお問い合わせは下記まで

2 号館 1 階または 2 階のカウンター

メール：k-library@mrcl.dendai.ac.jp

コンピュータサービス

総合メディアセンターでは、コンピュータ関連のシステムを数多く整備しています。ここでは、みなさんが直接利用するシステム、サービスを紹介します。活用してください。

(1) ユーザ端末システム

総合メディアセンターが管理運用している PC です。１つの ID（学籍番号）とパスワードで、全キャンパスのユーザ端末システムが利用できます。

授業が実施されていない PC 教室は自習利用として開放しております。また、ご自分の PC からユーザ端末システムと同等な環境を利用できるリモートサービスも備えております。授業･研究で利用するための多種多様なソフトウェアがインストールされていますのでご活用ください。

ただし、システム保護のため、ソフトウェアのインストールや各種設定の変更等はできませんのでご了承ください。

(2) プリントシステム

ユーザ端末をはじめ、学内ネットワークに接続された PC から利用できるオンデマンド方式の印刷環境です。プリント・コピー・スキャンができる複合機やモノクロ・カラー大判プリンタがあります。ただし、教育・研究目的以外の利用は禁止しております。

プリントシステムは印刷ポイントによる出力管理を行っております。毎年度初めに各ユーザ

に初期ポイントとして 1000 ポイントを付与し、利用の度に利用種別に応じたポイントが消費されます。ポイントの追加には、申請書が必要です。必要ポイント数の証明書発行願を購入し、2 号館 4 階 PC カウンターへ提出して下さい。ただし、年度をまたぐポイントの持ち越しは出来ないのでご注意ください。

参考）ユーザ端末、プリンタ設置台数

場所	室名	ユーザ端末	複合機	モノクロ大判	カラー大判
1 号館 6 階	学生ラウンジ		1 台		1 台
2 号館 1 階	閲覧エリア 1		1 台		1 台
2 号館 2 階	閲覧エリア 4	4 台	2 台		
	静粛閲覧エリア		1 台		
2 号館 4 階	PC 教室 1	84 台	1 台		
	PC 教室 2	42 台	1 台		
	PC 教室 3	68 台	1 台		
	PC 教室 4	56 台	1 台		
	PC 教室 5	80 台	3 台	2 台	
	PC 教室 6	50 台	2 台	1 台	1 台
	PC 教室 7		1 台		1 台
	プリントルーム	2 台	1 台	1 台	1 台

※閲覧エリア 4 に設置している複合機の 1 つは現金利用複合機です
※設置場所や設置台数は変更する場合がございます。最新の情報は、Web ページでご確認ください。

(3) メールシステム

学生には入学と同時にメールアドレスが付与されます。

メールアドレスは、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。

ブラウザを利用した Web メールシステムも提供しています。自宅、外出先から、Internet Explorer などのブラウザが使える環境があればメールの送受信が可能です。また、メールを他のメールアドレスや携帯電話に転送するよう設定ができますのでご活用ください。

大学からのお知らせが個人宛に送られてきますので、日々確認してください。

マナーを守り、コミュニケーションツールとして利用してください。

(4) ネットワーク

■無線 LAN

東京千住キャンパス内では、ほぼ全域で無線 LAN の利用が出来ます。

■情報コンセント

東京千住キャンパスでは、以下の場所に情報コンセントを備えております。

場所	施設名称
1 号館 2 階	丹羽ホール
2 号館 1 階	図書館
2 号館 2 階	図書館
2 号館 4 階	PC 教室 5（一部）、PC 教室 6（一部）、PC 教室 7
2 号館 9 階	2901、2903 教室
2 号館 10 階	21001、21003、21004、21005 教室

利用に際しては認証が必要になります。利用方法につきましては Web ページをご覧ください。

＊＊

インターネットの利用について

・インターネットを経由して学外のコンピュータへ接続することは、学外の他機関の通信用コンピュータや専用回線などを利用することになります。快適な利用をするために、無駄な接続やデータ転送をしないよう心がけて利用してください。
・総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、ネットワークの利用状況を常時モニタリングしています。
・メールアドレスを間違えたり、むやみに大量データの送受信をしたりしないでください。
・インターネット上の情報（文章・画像・音声等）の取り扱いは、著作権を侵害しないよう細心の注意を払ってください。また、「学内ネットワークを利用した営利行為」「迷惑メールの発信」「個人・特定団体への誹謗・中傷」「著作権侵害行為」などの悪質な行為は、学則に則って処分します。
・コメントの書き込みや記事の投稿が可能なソーシャルメディアを利用する場合には、不用意な言動が、あなた自身や家族に深刻な状況をもたらすことがあり得ます。
投稿内容は様々な地域や立場の人たちが目にします。それぞれ様々な文化的背景や価値観を持っている人達です。ある人には問題のない言動であっても、別の人に対しては攻撃的であったり、配慮に欠けた言動と捉えられる場合があります。
投稿する話題の選び方、言葉遣いと表現には注意しましょう。

＊＊

(5) ソフトウェアライセンス

学生所有の PC においても大学で契約しているライセンス形態に応じて、利用できるソフトウェアがあります。

例）Microsoft 製品 ,AutoCAD,Mathematica,Matlab 等

ソフトウェアによりサービス内容が異なりますので、詳しくは Web ページをご覧ください。

(6) PC 周辺機器貸出サービス

2 号館 4 階 PC カウンターでは、以下の PC 周辺機器を貸し出しております。必要な場合には窓口までお越しください。

・外付け DVD ドライブ
・ヘッドセット（授業利用優先）
・LAN ケーブル（1m）
・カードリーダ（SD カード、MS、CF 等対応）

貸出日当日にご返却ください。

(7) サイネージ（電子掲示板）・KIOSK 端末

千住キャンパスのラウンジやロビーの各所にはサイネージ・KIOSK 端末が設置されております。

サイネージには休講補講情報や大学からのお知らせ等が表示されますのでご覧ください。また、KIOSK 端末に学生証をかざすと、ポータルサイト（DENDAI-UNIPA）や図書館の Web ページ、またサイネージの掲示を確認することが出来ますのでご活用ください。

(8) 相談、申請

■パソコン操作やプログラム作成時のエラーなどで困ったとき

本学の大学院生が白衣を着用し利用相談員として勤務しております。

期　間：授業期間中
場　所：2 号館 4 階 PC 教室
　　※原則、自習開放している教室に勤務しております。
メール：pg-soudan@ms.dendai.ac.jp
　　※メールでの質問は授業期間中ならば随時受け付けています。

■各種申請手続き

総合メディアセンターへの申請手続きは、2 号館 4 階 PC カウンターにお越しください。

・プリントポイント追加申請
　申請書の他に証明書自動発行機で「総合メディア印刷ポイント」の購入が必要です。
・パスワード初期化申請
　パスワード初期化には 2 運営日かかります。初期化が必要とならないよう注意しましょう。

場　所：2 号館 4 階 PC カウンター
メール：k-computer@mrcl.dendai.ac.jp

第７章

就職・進学について

1　キャリア支援・就職

はじめに

経済や技術進歩の動きは日本の中だけで解決できる問題ではなく、世界を相手にする時代になっています。実感がないかもしれませんが、今は社会に出てグローバルに活躍する時です。大学生活の中で何を学び、何を経験していくかは、将来にとって非常に大切な事です。学生支援センター（キャリア支援・就職担当）は、卒業までを側面から支援します。みなさんには、「生きがいのある将来」を目指し、充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

大学の環境・施設をフルに活用し、疑問・質問が生じた場合は遠慮なく、先生方や学生支援センター（キャリア支援・就職担当）に相談してください。

目標のある大学生活

大学生活を始めるにあたって、大学に進学した理由や学部、学科を選択したきっかけをもう一度自分なりに振り返ってみましょう。大学入学という目標を達成し気が抜けてしまった人もいるかもしれませんが、ここで次の目標をたててみましょう。目標にチャレンジする・何か趣味に熱中する・友人と沢山遊ぶ…今しかできないことを楽しんで経験することは、就職という「通過点」だけではなく「人生」という大きな流れにおいても非常に大切な事です。

キャリアを考える

キャリア career とは「経歴」「職業」の意で「人生」をもさす言葉です。キャリアは社会へ出たあと、会社で異動があるとき、自分で事業を始めるときなどに深く考える事になります。

将来自分は「どんな人になっていたいか」を思い描き、それに近づくための方法を考えてみましょう。目標に向けて今をどう過ごし、何をしておくべきかをしっかりと考えることが大切です。みなさんの今後のステップとして、まず 1・2 年のうちから今後の「人生」を考え、3・4 年で専門性を身につけていくことが挙げられます。

また、キャリアアドバイザー、ジョブサポーターからのアドバイスを適宜受けることができます。（要予約）

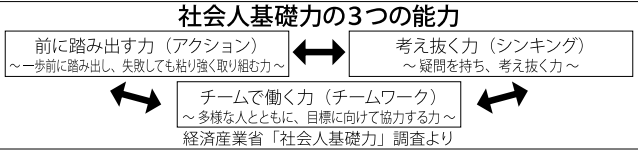
大学生活のヒント

ここで少し就職について考えてみましょう。企業は「採用したい人物像」として下記を挙げています。これらは大学でやっておくべきことのヒントとなります。

採用したい人物像　キーワード

・コミュニケーション能力があり、自分の考えを主張できる人（対人能力、思考力）
・学生時代に目的を持って行動し、成果を出した人（積極性）
・基礎学力をしっかりと身に付けている人（基礎学力、専門知識）
・ストレスに強く、環境変化に柔軟に対応できる人（適応力）

社会人基礎力の3つの能力



経済産業省「社会人基礎力」調査より

身につけよう！

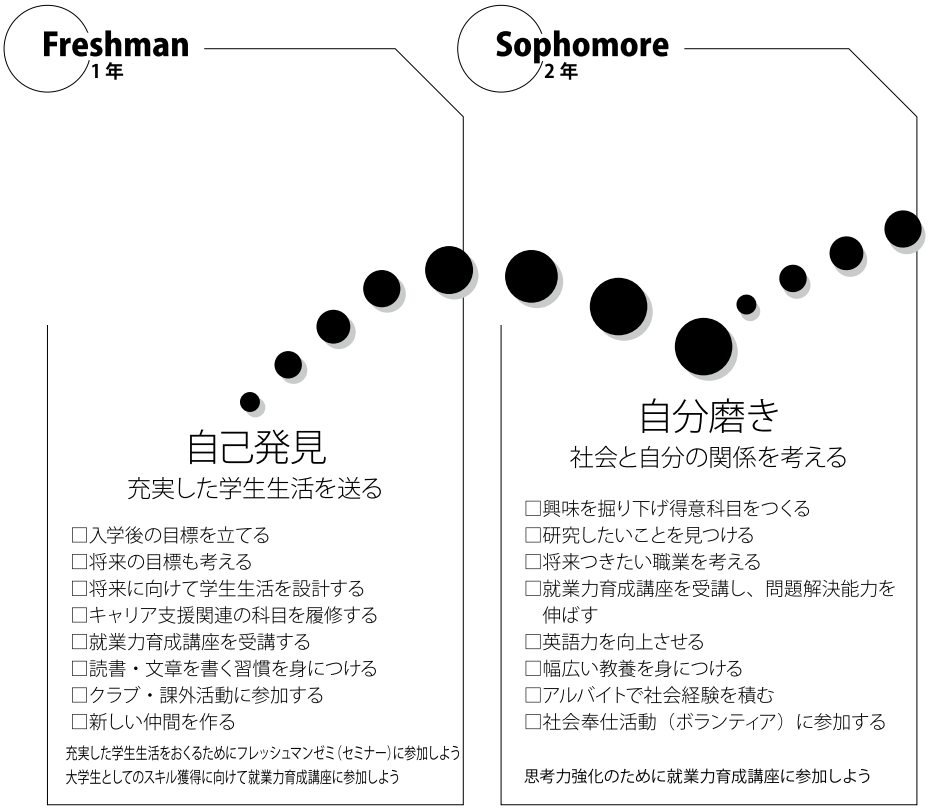
今後の人生で直面する問題に**「一つの決まった答え」**というものはありません。

社会では、**「自分で考え、行動する能力」**が求められています。

この限られた４年間を通して、卒業後の進路やその後の長い人生のために「大切なもの」を探し、身につけて行きましょう。

セルフチェックシート

それぞれの年次の目標とガイドを掲げます。
できた項目の□にチェックを入れよう。



	1年	2年
キャリア支援行事	・キャリアガイダンス（新入生オリエンテーション） 「キャリアガイドブック」を使って、大学生活を充実させるための方法を学びます。 ・フレッシュマンゼミ 先輩や社会人の話を聞き、4年間の学生生活について考えます。 ・コミュニケーションミニ講座 同世代の友達だけでなく、先輩や先生、社会人ともコミュニケーションできるスキルを学びます。	・キャリアガイダンス 就職活動を始める前に、将来の目標の立て方やこれからの学生生活について考えます。
	・就業力育成講座 社会で活躍する理系人材育成のために全学年対象のキャリア講座を実施し、ロジカルシンキングやコミュニケーション能力向上を目指します。 ・著名人による講演会 産業界で活躍している経営者や著名人による講演会を実施し、視野を広げて、自らの将来について考えます。	
配布物	・キャリアガイドブック 大学生活を充実させるためのヒントが満載	

取っておくと役立つ資格、目標としたい検定試験例

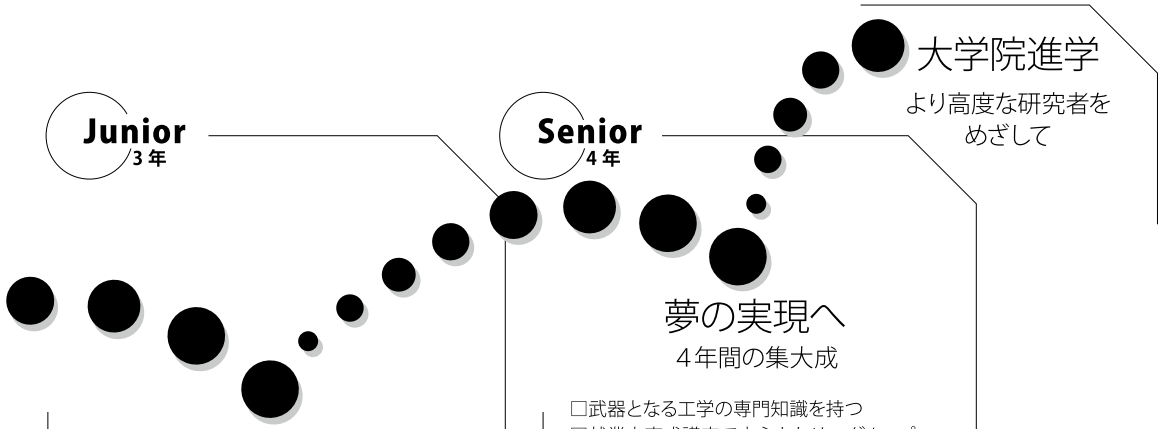
電気・通信

電気工事士／電気主任技術者／電気通信主任技術者／電気工事施工管理技士／工事担当者／家電製品エンジニア／無線従事者（陸上特殊無線技士・海上特殊無線技士など）／ラジオ・音響技能検定

情　報

パーソナルコンピュータ利用技術認定／情報処理技術者／データベース検索技術者／システム監査技術者／ITパスポート試験／プロジェクトマネージャー／アプリケーションエンジニア／テクニカルエンジニア（ネットワーク・データベース・システム管理・エンベデットシステム）／ORACLE MASTER／MCP／MOT／CCNA／Java／CompTIA／CIW／ITストラテジスト／ネットワークスペシャリスト

4年間の設計図を描いていこう！



社会への跳躍
コミュニケーション能力をつける

□就職支援行事に積極的に参加する
□就業力育成講座でコミュニケーション能力や論理思考力、プレゼンテーション能力を磨く
□インターンシップに参加する
□卒業研究について考える
□将来の目標となる社会人像を定める
□特技や得意分野をさらに広める
□主体的に計画や実験に関わり成果を出す
□新聞を読む習慣をつける
□文章による表現能力を磨く

就職活動が本格化。3年の前期から就職ガイダンスに参加しよう
社会で役立つ力を身につける就業力育成講座に参加しよう

夢の実現へ
4年間の集大成

□武器となる工学の専門知識を持つ
□就業力育成講座で中心となり、グループワークを進める
□具体的なキャリアプランを立てる
□誰にも負けないスキルを持つ
□次世代技術についての知識を深める
□プレゼンテーションスキルを向上させる
□研究で成果をあげる（積極的に学会等での発表をしよう）
□社会人としての知識やマナーを身につける

進路が決まった。
さぁ、卒業まで最後の追い込みだ！

進路決定。ビジネスマナーやスキルを身につけ社会に出るための準備をしよう

3年	4年
・就職支援行事 就職活動を円滑に行い、内定の獲得に向けてスキルや考え方を学びます。	・内定者向け行事 「Starting Book」を使って、社会人生活を円滑にスタートさせるための知識を身につけます。
・就職手帳 就職活動の進め方、スケジュール管理はこれ一冊で	・Starting Book 社会で活躍するために必要な知識や知恵が満載

機械・デザイン

自動車整備士／航空整備士／機械設計技術者／ガス溶接作業主任者／画像処理検定／消防整備士／冷凍空調技士／CAD利用技術者／CADトレース技能審査／DTPエキスパート／マルチメディア検定／CG検定

建築・土木

建築士／土木施工管理技術士／管工事施工管理技術士／測量士（補）／設備士／インテリアコーディネーター／インテリアプランナー／福祉住環境コーディネーター検定／宅地建物取引主任者／土地家屋調査士

その他

技術士（補）／FE／EIT／PE／危険物取扱者／ボイラー技士／公害防止管理者／エックス線作業主任者／エネルギー管理士／TOEIC／TOEFL／工業英語検定

2　キャリア支援の主なスケジュール

種類		行事名称	開催時期	対象学年			
				1年	2年	3年	4年
就職支援行事	就職ガイダンス	準備ガイダンス（就職手帳を配布）	6月			●	
		実践ガイダンス	9月			●	
	業種・職種研究	仕事研究セミナー 業種職種研究セミナー	10～12月	●	●	●	
		TDU 企業セミナー（各学部）	1～3月			●	
		卒業生による就職セミナー	2月			●	
	各種講習会および模試	自己分析	9月・10月			●	
		論作文・エントリーシート対策	11月			●	
		面接試験対策	12月			●	
		筆記試験対策	数回			●	
	就職希望調査	就職登録	1月			●	
各種プログラム	全学年対象	就業力育成講座	通年	●	●	●	●
	女子学生対象	女子学生セミナー	秋	○	○	●	
	Uターン希望者対象	Uターンガイダンス	秋	○	○	●	
	公務員希望者対象	公務員ガイダンス	数回	●	●	●	●
	資格支援	2級建築士講座	半期				●
	基礎力アップ	学内 TOEIC 試験	年6回	●	●	●	●
	社会参加	インターンシップ	不定期		●	●	●

注　◆支援行事には有料のものや事前申込が必要なものもあります。詳しい開催案内は掲示やホームページで確認してください。
◆支援行事は追加したり変更となる場合があります。又、開催時期は目安としてください。
◆○印は主たる対象学年ではありませんが、希望者は参加できます。

【理工系なのに英語って必要？】

TOEIC スコアを社員採用時に参考にしている企業は 7 割以上、技術系の社員に期待するスコアは平均で 500 ～ 700 点という調査があります。企業では理工系の大学出身でも『英語力』を期待しています。在学中にできるだけ身につけておくことが大切です。そのためには定期的なレベルチェックが欠かせません。学内の TOEIC 試験は公開テストの半額以下で受験が可能です。定期的に試験を受けて、卒業までに 550 点を目標に学習計画を立てて取り組む必要があります。

《キャリア支援・就職支援担当部署のご案内》

東京千住キャンパス：学生支援センター（キャリア支援・就職担当）（2 号館 3 階）
就職・キャリア支援情報ホームページ　http://web.dendai.ac.jp/career

※本学では、就職担当部署の他に各学科に、就職担当教員がおり、就職に関する面談、相談ができます。

3　大学院への進学

近年、高度な専門知識や自発的に課題を探求・設定し、検証・解決する能力に長けた大学院生の社会的需要が高まってきています。国際社会において能力を発揮できる人材を育成するため、海外の研究者と交流し、世界の最新動向を肌で感じてもらえるよう海外の学会や国際会議にも積極的に大学院生を派遣しています。本学大学院は次代の科学技術をリードできる高度の専門技術者・研究者の養成をめざします。

なお、東京千住キャンパスには、下表に示す修士課程を設置しています。修士課程修了後は、先端科学技術研究科博士課程（後期）への選択肢も用意しています。

研究科名	専攻名
工学研究科	電気電子工学専攻
	物質工学専攻
	機械工学専攻
	情報通信工学専攻
未来科学研究科	建築学専攻
	情報メディア学専攻
	ロボット・メカトロニクス学専攻

（平成 26 年度時点における構成）

修士課程の入学試験には、学内推薦入試・一般入試・社会人入試・他大学推薦入試などがあります。

また、奨学金制度などによって、経済的な側面からも研究活動を支援しています。

大学院での研究などの詳細については、各学科や工学部・未来科学部事務部が主催するガイダンスにてご案内します。ガイダンスの詳細は、掲示にて周知しますので確認のうえご参加ください。

4　科目等履修生

卒業してから、特定分野につきさらに勉強したい、教育職員免許状を取得したい、あるいは職務上の必要から単位が必要なときなどは、本学部の科目等履修生として履修することができます。(学則第 53 条第 1 項)。

履修手続き、履修可能科目、履修許可の時期、履修期間、試験、単位履修料など詳しいことは、別項の「科目等履修生規程」を参照してください。

第８章

学則および諸規程

1　東京電機大学学則

第 1 章　　総　　則

（目的・使命）

第 1 条　本大学は、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道徳的能力を展開させ、もって優秀な人材を養成することを目的とする。

2　本大学は、第 3 条第 1 項に定める学部及び学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部の学部規則に定める。

（自己評価等）

第 2 条　本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2　前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3　本大学は、第 1 項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第 2 章　　組　　織

（学部・学科の組織）

第 3 条　本大学に、次の学部及び学科を置く。

工学部
　電気電子工学科
　環境化学科
　機械工学科
　情報通信工学科
工学部第二部
　電気電子工学科
　機械工学科
　情報通信工学科
理工学部
　理工学科
情報環境学部
　情報環境学科

未来科学部
建築学科
情報メディア学科
ロボット・メカトロニクス学科

2　前項の各学科の入学定員、編入学定員および収容定員は、別表第 1 とする。
3　第 1 項に定める各学部に学部規則を定める。
4　前項の学部規則に、次の事項を定める。
① 学部・学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
② 学年・学期に関する事項
③ 教育課程及び単位に関する事項
④ 成績及び卒業に関する事項
⑤ その他、大学則施行上の必要事項

（大学院）
第 4 条　本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

（総合メディアセンター・研究推進社会連携センター等）
第 5 条　本大学に、総合メディアセンターを置く。
2　本大学に、研究推進社会連携センターを置く。
① 研究推進社会連携センターに、総合研究所を置く。
3　本大学に、国際センターを置く。
4　前 2 項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第 3 章　　運営の機関及び教職員

（学長・学部長等）
第 6 条　本大学に、学長を置く。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出に関する規則は、別に定める。
2　各学部に、学部長を置く。学部長は当該学部に関する学務をつかさどる。
3　前 2 項のほか、教育・研究の運営上必要な職を置く。

（職　員）
第 7 条　教育職員として、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。
2　事務職員、技術職員及び必要な職員を置く。

（学部教授会）
第 8 条　各学部に、教授会を置く。
2　教授会は、その学部の教授をもって組織する。ただし、必要があるときは、その学部の准教授及び専任の講師を、教授会構成員とすることができる。

3　教授会は、学部長が招集する。

（連合・合同教授会）
第 9 条　工学部及び工学部第二部については、その連合教授会をひらくことができる。
2　学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。

（審議事項）
第 10 条　教授会は、その学部に関する次の事項を審議する。
① 学生の入学・進級・卒業・休学・退学等に関する事項
② 学位授与に関する事項
③ 教育課程及び授業に関する事項
④ 履修・試験・成績等に関する事項
⑤ 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
⑥ 大学則及び学部規則の改正に関する事項
⑦ 学部長の推挙に関する事項
⑧ 学科長及び系列主任の選定に関する事項
⑨ 教授、准教授、講師、助教及び助手の人事に関する事項
⑩ 学部長が諮問した事項
⑪ その他教育・研究に関する事項
2　教授会は、大学全般にわたるもしくは各学部に共通する次の事項を審議する。
ただし、必要があるときは、合同教授会においてこれを審議する。
① 学長の推挙に関する事項
② 学長室長、学長補佐、教育改善推進室長、入試センター長、学生支援センター長、国際センター長、研究推進社会連携センター長及び総合メディアセンター長の選定に関する事項
③ 学長が諮問した事項
④ その他の重要な事項

第 4 章　　修学期間及び授業

（修業年限）
第 11 条　修業年限は、4 年とする。

（最長在学年限）
第 12 条　最長在学年限は、8 年とする。ただし、編入学、転入学及び再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の２倍に相当する年数とする。

（学年・学期・授業期間）
第 13 条　学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。
2　学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各学部において定める。

3　1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。
4　各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（休業日）
第 14 条　休業日は、次の通りとする。
日 曜 日
国民の祝日に関する法律に規定する休日
創立記念日　9 月 11 日
夏季休業
冬季休業
春季休業
2　夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各学部においてその都度定める。
3　必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。
4　休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

（授業の時）
第 15 条　工学部、理工学部、情報環境学部及び未来科学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第 5 章　　教育課程及び単位

（教育課程の編成方針）
第 16 条　本大学においては、学部及び学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。
2　教育課程の編成に当たっては、当該学部及び学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。
3　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
4　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに 1 年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

（授業科目）
第 17 条　授業科目については、各学部規則において定める。
2　各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。
3　共通教育科目として、特定の主題について２以上の科学の分野にわたる内容を総合した科目を設けることができる。

（履修の要件）
第 18 条　履修の要件については、各学部規則において定める。
2　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1 年間または 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部において定めるものとする。
3　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、各学部において定めるものとする。

（他学部等の科目履修）
第 19 条　本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2　前項により修得したものとみなすことのできる科目及び単位数等は、各学部において定めるものとする。

（教員の免許状授与の所要の資格の取得）
第 20 条　教育職員の免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。
2　本大学において取得できる免許状の種類は別表第 2 とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は各学部規則において定める。

（単位の算定基準）
第 21 条　各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。
2　授業科目の単位数の算定に当たっては、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位数を計算するものとする。
①　講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。
②　実験、実習、製図及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。
3　前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第 6 章　　試験、成績、進級、卒業及び学位授与

（履修届）
第 22 条　学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

（試　験）
第 23 条　授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。ただし、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

（試験の方法・時期）
第 24 条　試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。
2　試験の時期は、学期末とする。ただし、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

（受験資格）
第 25 条　学生は、本学則及びこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

（成績評価・単位認定）
第 26 条　授業科目の成績評価は、S、A、B、C及びDとし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。
2　試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。
3　本学は、第 1 項に係る成績評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行なうものとする。

（他の大学等における授業科目の履修等）
第 27 条　本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2　前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合及び外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）
第 28 条　本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
2　前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本大学において修得したものとしてみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）
第 29 条　本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち、教授会が

教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前 2 項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第 1 項及び第 2 項並びに前条第 1 項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（進　級）

第 30 条　本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

2　前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

（卒　業）

第 31 条　本大学は、4 年以上在学し、学生が所属する学部における履修要件を満たした者を卒業と認定する。

2　本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として 3 年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。）で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

（学位の授与）

第 32 条　本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

2　前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工学部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	環境化学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
工学部第二部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
理工学部	理工学科	学士（理学）（東京電機大学）
		学士（工学）（東京電機大学）
		学士（情報学）（東京電機大学）
情報環境学部	情報環境学科	学士（情報環境学）（東京電機大学）
未来科学部	建築学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報メディア学科	学士（工学）（東京電機大学）
	ﾛﾎﾞｯﾄ・ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ学科	学士（工学）（東京電機大学）

第 7 章　　入学、学籍の異動及び賞罰

（入学の時期）

第 33 条　入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

（入学資格）

第 34 条　本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

① 高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者

② 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

④ 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑤ 文部科学大臣の指定した者

⑥ 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

⑦ その他、本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学志願手続）

第 35 条　入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければならない。

（入学者の選考）

第 36 条　本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

2　入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

（入学手続）

第 37 条　入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必要な書類に、別表第 3 に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（保証人）

第 38 条　学生は、在学中、保証人がなければならない。

2　保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。

3　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

（変更の届）

第 39 条　学生は、氏名、本籍、住所及び保証人もしくはその住所に変更があったときは、す

みやかに届出なければならない。

（編入学・転入学）

第 40 条　次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、情報環境学部においては、編入学定員の範囲内において選考のうえ、許可する。

① 大学を卒業した者
② 短期大学を卒業した者
③ 高等専門学校を卒業した者
④ 他の大学で 1 年以上を修了した者
⑤ その他法令により編入学を認められた者

2　他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

3　前 2 項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。

4　本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。

（転学部・転学科）

第 41 条　本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

2　転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

（休　学）

第 42 条　傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き 3 ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

（休学期間）

第 43 条　休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。ただし、特別の事情があると認めたときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

2　休学期間は、通算して 3 年をこえることができない。

3　休学期間は在学年数に算入しない。

4　工学部、理工学部、情報環境学部及び未来科学部においては、休学者は学期ごとに 60,000 円の在籍料を納入する。工学部第二部においては、休学者は学期ごとに 30,000 円の在籍料を納入する。

（復　学）

第 44 条　休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出て、

学部長の許可を受けて、復学することができる。
2　復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

（退　学）
第 45 条　傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

（除　籍）
第 46 条　次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。
①　最長在学年数をこえた者
②　工学部、工学部第二部及び未来科学部においては、同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級できない者。また、理工学部においては、同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級・卒業できない者
③　学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者
④　第 43 条第 2 項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者
⑤　正当な理由がなく、無届で、ひき続き 3 ヶ月以上欠席した者
⑥　工学部、理工学部、工学部第二部及び未来科学部において、前期分学費を 7 月末日までに、後期分学費を 1 月末日までに納入しない者。情報環境学部においては、前期分学費を 7 月 15 日までに、後期分学費を 12 月 15 日までに納入しない者

（再入学）
第 47 条　本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は、許可しない。

（留　学）
第 48 条　本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。
2　留学期間は 1 年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、1 年未満であっても特別に留学を認めることができる。
3　前項により認められた留学期間については、1 年を限度として第 11 条に定める修業年数に算入することができる。
4　留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

（表　彰）
第 49 条　学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

（懲　戒）
第 50 条　本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、

教授会の議を経て、学長が懲戒する。
2　懲戒の種類は、その情状により、退学、停学及び訓告とする。
3　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行なう。
①　性行不良で改善の見込みがない者
②　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分にいちじるしく反した者

第 8 章　学費及びその他の費用

（学費及びその他の費用）
第 51 条　入学検定料、学費及び科目等履修費は、別表第３とする。
2　学費とは、入学金、授業料、実験実習料、教育充実費をいう。
3　学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。
4　すでに納入した学費及びその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。
5　入学金を除く学費は分納することができる。

第 9 章　研究生、研究員、科目等履修生及び外国人留学生

（研究生・研究員）
第 52 条　本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。
2　本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。

（科目等履修生）
第 53 条　本大学の学生以外の者で、本大学で開設している 1 または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。
2　科目等履修生については、別に定める。

（外国人留学生）
第 54 条　外国人で第 34 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。
2　外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。
3　外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。

（社会人特別学生）

第 55 条　社会人で第 34 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。

2　社会人特別学生は、企業依託学生及び工学部第二部社会人コース学生とする。

3　社会人特別学生についての事項は、別に定める。

（準　用）

第 56 条　前 3 条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生及び社会人特別学生に準用する。

第 10 章　　改正及び雑則

（改　正）

第 57 条　本学則の改正は、各学部教授会の議を経なければならない。

（施行細則その他）

第 58 条　本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

附則（省略）

2　東京電機大学工学部規則

第１章　　総　　則

（趣　旨）

第１条　この規則は、東京電機大学学則（以下「大学則」という。）第３条第３項に基づき、工学部（以下「本学部」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、教育課程及び単位、学年及び学期、成績及び卒業その他大学則施行上必要な事項を定める。

（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）

第２条　本学部は、現代社会の基幹を成す科学技術分野において、過去から現代に至る「知」を継承し、さらに次世代に必要とされる新たな「知」と「技術」を創成し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる幅広い能力を培うことを目的とする。

　すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる科学技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者を養成する。

２　本学部の各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

（１）電気電子工学科は、電気工学と電子工学及びその統合分野と関連分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

　すなわち、現代社会の基盤を構成し将来に亘って必要とされる電気電子工学分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

（２）環境化学科は、化学と生物学を基盤とする技術分野に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、安全で快適な持続可能な社会の構築に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

　すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる環境化学分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

（３）機械工学科は、機械技術及び機械システムとその周辺分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

　すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる機械技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

（４）情報通信工学科は、情報・コンピュータ技術と通信・ネットワーク技術の両分野に関する基礎から応用までの知識と技術を広く総合的に有し、安全で快適な社会の発展に貢献することのできる思考力と創造力豊かで応用力を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる情報通信技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者養成のための教育研究を行う。

第２章　組　織

（コース制）

第３条　本学部は、電気電子工学科及び機械工学科に、次のコースを置く。

（1）電気電子工学科

電気電子システムコース

電子光情報コース

（2）機械工学科

機械工学コース

先端機械コース

第３章　学年及び学期

（学年・学期）

第４条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終る。

2　学年を次の２つの学期に分ける。

前学期　４月１日から９月10日まで

後学期　９月11日から翌年３月31日まで

第４章　教育課程及び単位

（授業科目）

第５条　授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目及び教職課程に関する科目とし、別表第１のとおり開講する。

（履修の要件）

第６条　本学部における履修の要件については、別表第２のとおりとする。

（履修単位の制限）

第７条　本学部では、各学期に履修できる単位数を24単位までとする。ただし、自由科目及び集中講義科目は、履修できる単位数の上限に含まない。

2　所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、前項に定める上限を超えて、単位を履修することができる。

（教員の免許状授与の所要の資格の取得）
第 8 条　本学部において取得できる免許状の種類は大学則別表第 2 とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は別表第 3 とする。

第 5 章　成績及び卒業

（成績評価・単位認定）
第 9 条　本学部は大学則第 26 条に基づき、科目の成績評価を行う。
2　本学部における、成績評価及び GPA（Grade Point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPA ポイント
90 ～ 100	S	4
80 ～ 89	A	3
70 ～ 79	B	2
60 ～ 69	C	1
0 ～ 59	D	0
放棄	―	0

（卒　業）
第 10 条　本学部は、4 年以上在学し、第 5 条別表第 2 に規定する履修の要件に従い、合計 124 単位以上を修得した者を卒業と認定する。
2　本学部は、大学則第 31 条第 2 項に定める卒業の基準を別に定める。

第 6 章　改　　正

（改　正）
第 11 条　この規則の改正は、本学部教授会の議を経なければならない。

附則（省略）

別表第 1（省略）

別表第 2　工学部の履修要件

工学部においては、次により 124 単位以上を履修し、修得しなければならない。

区分		単位数	
		電気電子工学科（電気電子システムコース）	電気電子工学科（電子光情報コース） 環境化学科 機械工学科 情報通信工学科
共通教育科目	人間科学科目 スキル・キャリア コミュニケーション スポーツ・健康 人間理解 社会理解 異文化理解 技術者教養	16 単位（科目区分「技術者教養」に含まれる科目 2 単位を含む）	16 単位（科目区分「技術者教養」に含まれる科目 2 単位を含む）
	英語科目	6 単位	6 単位
専門教育科目	基礎共通科目 専門科目	102 単位	90 単位
任意に選択し修得した科目		−	12 単位
合計		124 単位	124 単位

備考　専門教育科目については、各学科・コースにおいて定めている必修科目の単位の全部を履修し、修得しなければならない。

別表第 3（省略）

3　東京電機大学工学部第二部規則

第１章　　総　　則

（趣旨）

第１条　この規則は、東京電機大学学則（以下「大学則」という。）第３条第３項に基づき、工学部第二部（以下「本学部」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程及び単位、成績及び卒業その他大学則施行上必要な事項を定める。

（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）

第２条　本学部は、科学技術分野における「知」の継承と現代社会に必要とされる「技術」を展開することにより、現代社会が直面する問題を解決し、さらに進んで社会の発展に寄与することのできる確かな能力を培うこととしている。

すなわち、現代社会において必要とされる科学技術とその進展に貢献するための実践的技術者を養成する。

併せて、夜間学部として、社会人教育を推進する。

２　本学部の各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

（1）電気電子工学科は、電気工学と電子工学及びその統合分野と関連分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、現代社会が直面する問題を解決し、進んで社会の発展に寄与することのできる人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会において必要とされる電気電子工学技術とその進展に貢献することのできる実践的技術者養成のための教育研究を行う。

（2）機械工学科は、機械技術及び機械システムとその周辺分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術を有し、現代社会が直面する問題を解決し、進んで社会の発展に寄与することのできる人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会において必要とされる機械技術とその進展に貢献できる実践的技術者養成のための教育研究を行う。

（3）情報通信工学科は、情報・コンピュータ技術と通信・ネットワーク技術の両分野に関する基礎から応用までの知識と技術を広く総合的に有し、現代社会が直面する問題を解決し、進んで社会の発展に寄与することのできる人材を養成することを目的とする。

すなわち、現代社会において必要とされる情報通信技術とその進展に貢献できる実践的技術者養成のための教育研究を行う。

第２章　学年及び学期

（学年・学期）

第３条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終る。

２　学年を次の２つの学期に分ける。

前学期　４月１日から９月10日まで

後学期　９月11日から翌年３月31日まで

第３章　教育課程及び単位

（授業科目）

第４条　授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目及び教職課程に関する科目とし、別表第１のとおり開講する。

（履修の要件）

第５条　本学部における履修の要件については、別表第２のとおりとする。

（履修単位の制限）

第６条　本学部では、各学期に履修できる単位数を24単位までとする。ただし、自由科目及び集中講義科目は、履修できる単位数の上限に含まない。

（教員の免許状授与の所要の資格の取得）

第７条　本学部において取得できる免許状の種類は大学則別表第２とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は別表第３とする。

第４章　成績及び卒業

（成績評価・単位認定）

第８条　本学部は大学則第26条に基づき、科目の成績評価を行う。

２　本学部における、成績評価及びGPA（Grade Point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPAポイント
90～100	S	4
80～89	A	3
70～79	B	2
60～69	C	1
0～59	D	0
放棄	−	0

（卒　業）

第 9 条　本学部は、4 年以上在学し、第 5 条別表第 2 に規定する履修の要件に従い、合計 124 単位以上を修得した者を卒業と認定する。

2　本学部は、大学則第 31 条第 2 項に定める卒業の基準を別に定める。

第 5 章　改　　正

（改　正）

第 10 条　この規則の改正は、本学部教授会の議を経なければならない。

附則（省略）

別表第 1（省略）

別表第 2　工学部第二部の履修要件

工学部第二部においては、次により 124 単位以上を履修し、修得しなければならない。

区分		単位数 電気電子工学科 機械工学科 情報通信工学科
共通教育科目	人間科学科目	8 単位
	英語科目	5 単位
専門教育科目	専門基礎科目 専門科目	86 単位 (61 単位)
任意に選択し、修得した科目		25 単位 (50 単位)
合計		124 単位

備考 1　専門教育科目については、各学科において定めている必修科目の単位の全部を履修し、修得しなければならない。

2　（　）内は社会人コース学生の修得する単位を表す。

別表第 3（省略）

4　東京電機大学工学部第二部社会人コース学生規程

（準拠）

第１条　東京電機大学学則（以下「大学学則」という。）第 55 条による「社会人特別学生」のうち、工学部第二部社会人コース学生（以下「社会人コース学生」という。）についての取扱いは、この規程の定めるところによる。

（定義）

第２条　この規程において、社会人コース学生とは、企業又は公益法人等（以下「企業」という。）に勤務する者のために、東京電機大学工学部第二部（以下「本学」という。）の各学科に設けられた社会人コースへ入学が認められた者をいう。

（入学志願資格）

第３条　大学学則第 34 条に定める入学資格を満たし、かつ次の各号に掲げる条件の何れかを満たしている者は、社会人コース学生として入学を志願することができる。

（1）入学時において、企業等での勤務経験が３年以上の者

（2）入学時において、企業等での勤務経験が３年未満の者で、入学後も引き続き企業等に勤務する予定である者

（3）入学後に企業等に勤務することが内定している高校等卒業予定者

（入学志願手続）

第４条　入学志願者は、指定の期間内に入学検定料を添えて次の各号の書類を提出しなければならない。

（1）入学願書

（2）調査書又はこれに替わるもの

（3）健康診断書

（4）企業に勤務している者は、その在職証明書

（5）その他本学が必要と認める書類

（入学試験）

第５条　社会人コース学生として本学に入学するには、社会人コース学生入学試験（以下「入学試験」という。）に合格しなければならない。

2　入学試験は、学力検査、小論文、面接等の方法により行う。

（入学手続）

第６条　入学試験に合格した者は、保証人連署の誓約書、及びその他必要な書類に大学学則第 51 条別表第３に定める入学金及び学費を添えて、指定の期日までに入学の手続をしなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（履修方法等における特別措置）
第 7 条　入学を許可された者について、教育の必要に応じ、教授会の議を経て、履修方法等について特別の措置をとることができる。

（身分の変更）
第 8 条　次に掲げる者は、社会人コース学生としての身分を失う。
（1）第 3 条第 1 項第 2 項及び第 3 項に定める資格にて入学後、勤務経験を３年未満で企業等を退職し、引き続き他の企業等に勤務する意思のない者
（2）その他教授会が社会人コース学生として不適当であると認めた者
2　前項により、社会人コース学生でなくなった者には、第 7 条による特別措置は、原則として適用しない。
3　在学中に、新たに企業等に勤務することになった者は、本人の申し出により、工学部第二部社会人コース運営委員会の議を経て、社会人コース学生への変更を認めることができる。

（規程の改廃）
第 9 条　本規程の改廃は、教授会の議を経なければならない。

（細　則）
第 10 条　本規程施行についての必要事項は別に定めることができる。

（その他）
第 11 条　本規程に定められていない事項については、大学学則その他諸規程が適用される。

付則（略）

5　試験に関する細則

（目的）
第 1 条　本細則は、大学及び大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

（試験の種類）
第 2 条　試験は学期末試験、中間試験、追試験とする。
2　学期末試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末又は学年末に履修終了の認定のために行う試験をいう。
3　中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。
4　追試験は急病等真にやむを得ない事情により、学期末試験又は中間試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。
5　第 1 項に定めるほか再試験を加えることができる。

（再試験）
第 3 条　再試験は前条第 2 項に定める試験の成績不良のため履修終了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもって履修終了の認定にあてることができる。

（受験資格）
第 4 条　学期末試験又は中間試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修登録を行い、かつ、その授業に常時出席していなければならない。
2　第 2 条第 1 項に定める試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。
3　追試験は学期末試験の受験資格をみたし、かつ、学部事務部が指定する期間内に所定の手続きをした学生につき考慮するものとする。なお、中間試験における追試験については科目担当者の指示によるものとする。

（追・再試験の手続き）
第 5 条　追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて追試験願を学部事務部に提出し、受験票の交付を原則受けなければならない。
2　特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続きをしなければならない。

（学生証、受験票の提示）
第 6 条　学期末試験の受験者は定刻までに試験室に入り、つねに学生証を机の上に置かなければならない。
2　追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければならない。

（遅刻及び退室）
第 7 条　受験者の遅刻は、試験開始後 30 分以内は認める。ただし、試験時間は延長しない。
2　受験者の退出は、試験開始後 40 分を経過してから許可する。
3　前 2 項については、当該学部教授会または研究科委員会の議を経て、取扱いを変更することができる。

（試験監督者）
第 8 条　試験監督者は、当該試験実施について一切の権限を有する。
2　試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。
3　試験監督者については、前 2 項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

（不正行為）
第 9 条　試験監督者は、試験中に不正行為を行った学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。
2　試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときは、その答案を取上げた上退室を命ずることができる。
3　前 2 項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

（不正行為に対する処置）
第 10 条　前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。
(1)　当該試験の属する学期末試験の一部又は全部を無効とする。
(2)　当該試験を無効とする。

付　則（抜粋）
　本細則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。なお、本細則第 8 条第 2 項、第 9 条第 3 項及び第 10 条の学部長は、大学院研究科において研究科委員長と読み替えるものとする。

6　学生生活についての規程

（目的）

第１条　この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

（学生に対する通知・連絡）

第２条　学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて１週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

（学生証）

第３条　学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年４月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

２　学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。

３　学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。

４　学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

（保証人）

第４条　学生は、入学手続き時に父母又はこれに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。

保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

（現住所及び連絡先）

第５条　学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

（学生による掲示）

第６条　学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。

ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

２　学内における学生の掲示場所は所定の学生掲示板とする。

３　掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。

4　新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特に工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。
5　期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

（学生による印刷物の発行・配布）
第 7 条　学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

（学生の学内集会）
第 8 条　学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出すること。
　ア　団体名
　イ　団体の責任者の氏名
　ウ　集会の目的
　エ　集会の場所
　オ　集会の日時
　カ　参加者の人数
　キ　学外者参加団体名及び人数
　ク　その他
提出期限は原則として、開催日の 1 週間前とする。
2　集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。
3　集会は、東京千住キャンパスにおいては 22 時 20 分、埼玉鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスにおいては 21 時までとする。
ただし、東京千住キャンパスにおいては学生支援センター長、他のキャンパスにおいては各学部事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。
4　学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。
又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。
　ア　団体名及び宿泊責任者の氏名
　イ　宿泊場所
　ウ　宿泊の目的
　エ　宿泊人数

オ　宿泊する学生の氏名及び連絡先
カ　宿泊する学生の保証人の連絡先

5　本条で認められている事項は、第 10 条で定める手続きを行っている団体に適用される。なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

（学生の学外における正課外活動）

第 9 条　学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の 1 週間前までに、所定の学外活動願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

（団体の結成）

第 10 条　学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに願い出ること。

2　団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

3　学生の団体の継続については、毎年５月末日現在における所属学生の名簿を、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体については、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長が、他の学部においては、各学部事務部長が解散したものとみなす。

付則（省略）

7　学生アドバイザーに関する規程

（目的）
第１条　この規程は、東京電機大学（以下「本学」という）の学生（学部）が有意義な大学生活を送るため、本学教員が、学生の在学期間中において、修学、就職指導、課外活動その他学生生活全般に関して、指導又は助言等を行う学生アドバイザーについて必要な事項を定める。

（責務）
第２条　学生アドバイザーは、学生に対し、次に関する事項について指導又は助言等を行う。
（1）　修学に関する事項
（2）　キャリア教育、進路、就職に関する事項
（3）　学生生活に関する事項
（4）　奨学金に関する事項
（5）　学生の諸手続きに関する事項
（6）　その他学生生活全般に関する事項
2　学生アドバイザーは、第１項に定める指導または助言等を円滑に行うため、週１時間のオフィスアワーを設け、自ら選定した場所に在室するものとする。
3　前項のオフィスアワー及び在室場所については、予め当該学部の学生に周知するものとする。

（委嘱）
第３条　学部長は、原則として、任期付教員及び特別専任教授を除く専任教員のうち、学科、学系から推薦された教員を学生アドバイザーとして委嘱する。
2　学部長は、委嘱した学生アドバイザーを当該学部教授会に報告する。

（任期）
第４条　学生アドバイザーの任期は、各学部において決定する。

第５条　略

（報告）
第６条　学生アドバイザーは、担当する学生と面談した結果、相談された事案に対処できないと判断した場合、学生が所属する学科長又は学系長にその内容を報告するものとする。
2　第１項の報告を受けた学科長又は学系長は適切な対応を図るとともに、必要に応じて当該学部長並びに学生支援センター長に報告するものとする。
3　学部長並びに学生支援センター長は、第２項において報告を受けた事項について、必要な措置を講ずるものとする。

4　本条に関係する者は、知り得た情報をみだりに他に漏らしてはならない。

（その他）

第７条　この規程に定めるもののほか、学生アドバイザーに関し必要な事項は、各学部、学生支援センターおよび関係部署と協議のうえ決定する。

（規程の改廃）

第８条　この規程の改廃は、学生支援センター運営委員会及び学部長会の議を経て、各学部教授会の承認を経なければならない。

付則（省略）

8　部室使用に関する内規

（目的）

第１条　この内規は、東京電機大学がその教育方針に基づき、課外活動の健全な育成、発展をはかるために学生団体に貸与する専用部室の使用に関し、必要な事項を定める。

（使用者）

第２条　部室を使用できる者は、学生生活についての規程が定める学生団体及びそれに所属する学生とする。また、部外者が、みだりに立ち入ることを禁止する。

（施設等管理者及び指導）

第３条　部室の施設等管理者は、学生支援センター長、管財部長、総合メディアセンター長、部顧問とし、部室の管理運営上の指導を行う。

２　前項に加え、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部長、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部長も施設管理者となる。

３　施設・設備の管理上及び防災上等で必要な場合に、施設等管理者及び施設等管理者の命を受けた者が部室に立ち入ることがある。

（遵守事項）

第４条　部室を使用する者は、次の事項を遵守し、施設等管理者の指示に従わなければならない。

（1）本来の目的のみに使用し、通常の課外活動に必要としない物品は持込まないこと。
（2）施設設備の改装等を行わないこと。
（3）整理整頓に心掛け、特に火災・盗難の予防ならびに衛生に留意すること。
（4）建物内では、下駄、スパイク等を使用しないこと。
（5）活動上不必要な掲示を行わないこと。
（6）部室内で飲酒・喫煙を行わないこと。
（7）暖房・電灯・水道及び電話等の使用について節約に努めること。
（8）使用時間内といえども、教育研究に支障をきたすような活動を行わないこと。
（9）使用が終わったときは、火気・戸締り等を点検の上、異常のないことを確認すること。
（10）その他学生としての良識に従って使用すること。

（使用期間）

第５条　部室を使用できる期間は１年間とし、学生生活についての規定が定める学生団体の継続手続をもって更新手続とする。新規使用については、部室の空室状況に応じて検討する。

（使用時間）

第６条　部室を使用できる時間は、東京千住キャンパスの部室においては学生支援センター、

埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部において別に定める。

（使用責任）

第 7 条　部室を使用する者は、この内規の定めるところに従って日常これを使用し、一切の使用上の責任を負うものとする。

（破損の修理）

第 8 条　施設、備品等を破損、汚損等した場合は、次に掲げる施設等管理者に速やかに届け出なければならない。

（1）東京千住キャンパスの施設、備品等学生支援センター長

（2）埼玉鳩山キャンパスの施設、備品等理工学部事務部長

（3）千葉ニュータウンキャンパスの施設、備品等情報環境学部事務部長

2　正規の使用中で正当な行為による場合の他は、その学生団体又は個人がこれを修復又は弁償する。

（使用の禁止等）

第 9 条　部室を使用する者が、この内規に違反し、または施設等管理者の指示に従わないときは、部室の使用を禁止することができる。

（内規の改廃）

第 10 条　本内規の改廃は、学生支援センター運営委員会の議を経て、学生支援センター長が決定する。

付則（省略）

9　特別奨学生規程

第１条（目的）　この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ、学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第２条（基金）　この奨学金の基金は次の各号の基金をもって構成する。
（1）桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金
（2）その他の基金

第３条（奨学金）　奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。
2　奨学金の各校への配分は、当該年度の予算に計上して行う。

第４条（給付額）　奨学金の給付額は、各学校の学則に定める当該年度の学費の一部若しくは全額とする。
2　給付金は、学費に充当しなければならない。

第５条（奨学生の選考、決定、採用等）　奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。
2　前項により奨学生を採用したときは、学校の長は遅滞なく理事長あて（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第６条（奨学生の資格の喪失）　奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。
（1）学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。
（2）成績不良若しくは素行不良のとき。
（3）学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。
2　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

第７条（事務）　奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。
2　前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部（総務担当）において行う。

第８条（実施）　この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付則（省略）

10　東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

（目的）

第１条　この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

（救済奨学資金）

第２条　この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

（救済奨学生の選考・決定等）

第３条　救済奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在籍する学生であって、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

（1）失業又は事業の倒産
（2）被災
（3）長期療養
（4）死亡
（5）その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

2　救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

（救済奨学金の貸与額）

第４条　東京電機大学大学院、東京電機大学工学部、工学部第一部、工学部第二部（平成 17 年度以前入学者）、理工学部、未来科学部における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

2　東京電機大学工学部第二部（平成 18 年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

3　救済奨学金は学費に充当しなければならない。

（採用）

第５条　救済奨学生の採用は、原則として毎年４月又は 10 月とし、各校における在籍期間中１回とする。

（救済奨学生の資格停止）

第６条　救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した救済奨学金を返還させることができる。

（救済奨学生の資格取消）
第 7 条　救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。
（1）退学したとき、又は除籍されたとき。
（2）学則に違反して処分を受けたとき。
（3）救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。
2　前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

（救済奨学金の返還）
第 8 条　救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。
2　救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。
3　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し５年間とする。ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

（利子）
第 9 条　貸与した救済奨学金は無利子とする。

（褒賞金の給付・返還の免除）
第 10 条　次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。
（1）卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。
（2）卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。
2　救済奨学生が死亡又は不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

（事務）
第 11 条　救済奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

（実施）
第 12 条　この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付則（省略）

11　東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

第 1 条（目的）　この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し（以下貸与された者を「支援奨学生」という。）、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

第 2 条（支援奨学資金）　この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第 3 条（支援奨学生の推薦・決定等）　支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在学する学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

（1）本学主催の海外英語短期研修に参加する者
（2）自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者
（3）その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

2　支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

（1）休学中の者
（2）留学中の者
（3）所定修業年限を超えて在学している者

3　支援奨学生の採用は、学生支援センター長が推薦し、学長がこれを決定する。

第 4 条（支援奨学金の貸与額）　支援奨学金の貸与額は、30 万円の範囲内で学生支援センター長が査定する。

2　支援奨学金は前条第 1 項の各号に定める使途に充当しなければならない。

第 5 条（採用）　支援奨学生の採用は、各校における在学期間中 1 回とする。

第 6 条（支援奨学生の資格停止）　支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

第 7 条（支援奨学生の資格取消）　支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

（1）退学したとき、又は除籍されたとき。
（2）学則に違反して処分を受けたとき。
（3）支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2　前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

第 8 条（支援奨学金の返還）　支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2　支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。
3　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し５年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

第９条（利子）　貸与した支援奨学金は無利子とする。

第 10 条（事務）　支援奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第 11 条（実施）　この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付則（省略）

12　東京電機大学科目等履修生規程

第 1 条（準拠）　この規程は、東京電機大学学則第 53 条に拠り、本大学科目等履修生に関する事項を定める。

第 2 条（科目等履修生）　本大学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を履修することを希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考の上、授業科目の履修を許可することができる。

第 3 条（出願資格）　科目等履修生として出願できる者は、本大学学則第 34 条に該当する者とする。

第 4 条（出願手続）　科目等履修生として履修を希望する者は、学則に定める資格審査料（別表）を添えて、次の書類を提出しなければならない。
（1）履修願書（別紙様式）
（2）履歴書（別紙様式）
（3）最終出身学校の卒業証明書若しくは卒業見込証明書
（4）最終出身学校の成績証明書
（5）健康診断書
（6）その他必要と認める書類
2　科目等履修生として登録した者が５年以内に再び科目等履修生として出願をするときは、次のように取り扱う。
（1）資格審査料を免除する。
（2）前項に定める書類のうち一部については、前回提出の書類をもって充てることができる。
3　出願の手続は所定の期日までに完了しなければならない。

第 5 条（履修手続）　科目等履修生として履修を許可された者は、指定の期日までに別表に掲げる履修料を納入しなければならない。
2　履修料を納入した者には、科目等履修証を交付する。
3　すでに納入した科目等履修費は返還しない。

第 6 条（履修許可の時期）　科目等履修生の履修許可の時期は、原則として学年又は学期の始めとする。

第 7 条（履修期間）　科目等履修生の履修許可期間は、当該年度限りとする。又、さらに引き続き履修を希望する者は、あらためて願い出なければならない。

第 8 条（履修科目）　科目等履修生が履修できる科目は、正規課程の学生の教育研究に支障が

生じない科目に限る。

第 9 条（試験） 科目等履修生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。

第 10 条（単位） 科目等履修生として試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

第 11 条（単位取得証明） 科目等履修生として取得した単位については、本人の請求により、単位取得証明書を交付することができる。

第 12 条（特別科目等履修生） 本学との単位互換の協定に基づいて、本学学部で開設している一又は複数の授業科目の履修を許可された者を特別科目等履修生という。

2 前項に規定する特別科目等履修生については、学則及びこの規程に抵触しない限り、本学と締結した単位互換協定における取決めに従うものとする。

第 13 条（改正） この規程の改正は、各学部の教授会の議を経なければならない。

付則（略）

別表 資格審査料および履修料

学 部 名	資格審査料	履修料（1 単位につき）	
		講義・演習科目	実験・実習科目
工 学 部	10,000 円	11,000 円	17,000 円
工学部第一部		11,000 円	17,000 円
工学部第二部		11,000 円	17,000 円
理 工 学 部		11,000 円	17,000 円
情報環境学部		16,000 円	16,000 円
未 来 科 学 部		11,000 円	17,000 円

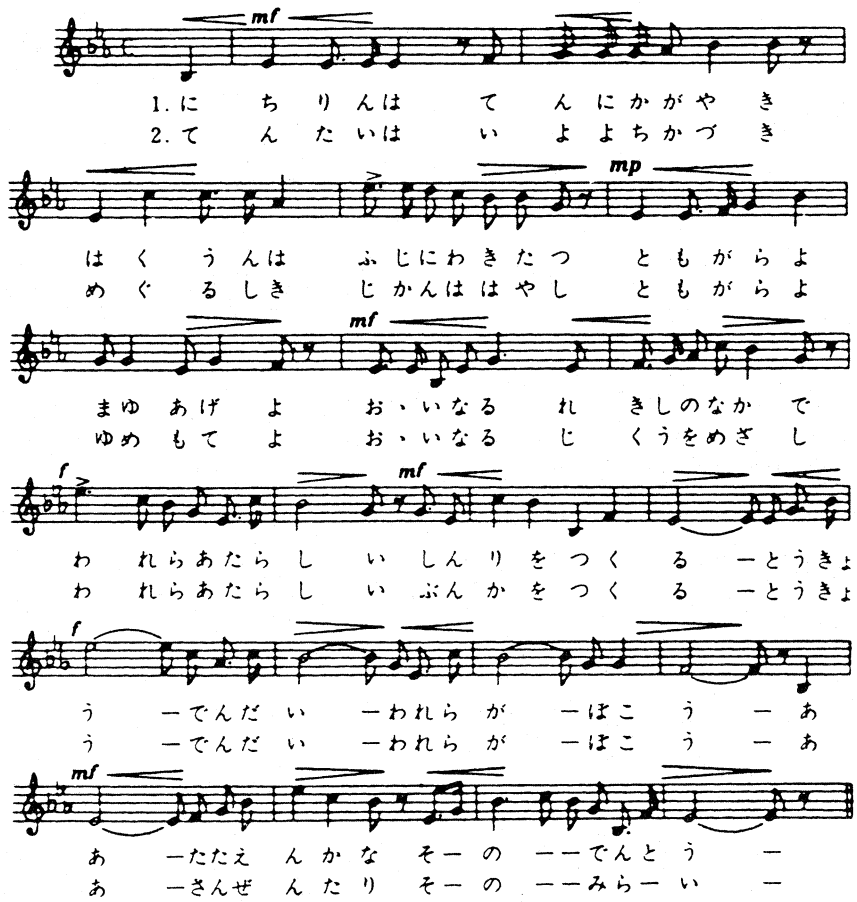
別紙様式略

第９章
そ　の　他

1　東京電機大学校歌

歯切れよく　雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



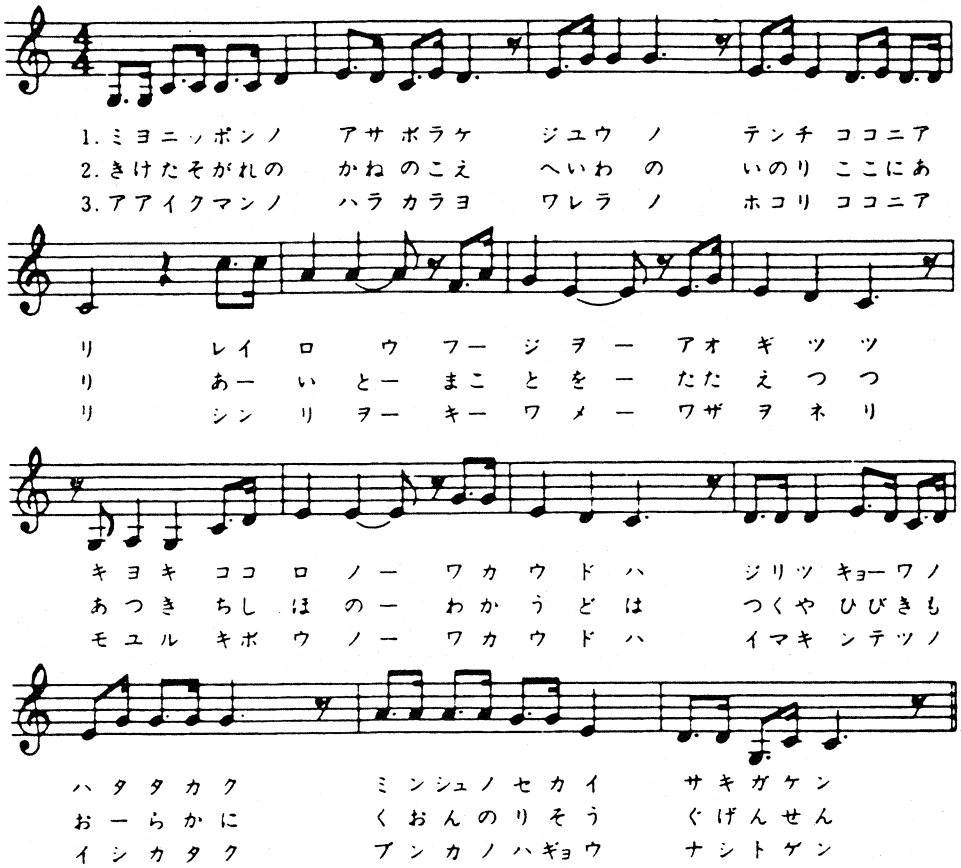
東京電機大学校歌

一、
日輪(にちりん)は　天にかがやき
白雲(はくうん)は　富士に沸(わ)きたつ
朋(とも)がらよ　眉(まゆ)あげよ
大いなる　歴史のなかで
われら新しい　真理を創(つく)る
東京電大　われらが母校
あゝ讃(たた)えん哉(かな)
その伝統

二、
天体は　いよよ近づき
めぐる四季　時間は早し
朋(とも)がらよ　夢もてよ
大いなる　時空(じくう)をめざし
われら新しい　文化を創(つく)る
東京電大　われらが母校
あゝ燦然(さんぜん)たり
その未来

2　東京電機大学学生歌

望月直文作詞
田辺尚雄作曲



東京電機大学学生歌

一、
見よ日本のあさぼらけ
自由の天地ここにあり
玲瓏富士を仰ぎつつ
高潔き心の若人は
自律協和の旆高く
民主の世界先駆けん

二、
聞け黄昏の鐘の音
平和の祈願ここにあり
信愛と誠実をたたえつつ
熱き血潮の若人は
撞くや響もおほらかに
久遠の理想具現せん

三、
ああ幾万の同胞よ
我等の誇りここにあり
真理を究め技術を練り
燃ゆる希望の若人は
今金鉄の意志かたく
文化の覇業なしとげん

3 沿　革

1907（明治 40 年）9 ・東京・神田に電機学校創立（9 月 11 日）
1949（昭和 24 年）4 ・東京電機大学開設＜工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置＞
1950（昭和 25 年）4 ・東京電機大学短期大学部開設＜電気科第二部設置＞
1952（昭和 27 年）4 ・工学部第二部開設＜工学部第二部電気工学科設置＞
1956（昭和 31 年）2 ・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
1958（昭和 33 年）4 ・東京電機大学大学院（夜間）開設＜工学研究科電気工学専攻（修士課程）設置＞
1960（昭和 35 年）4 ・工学部第一部電子工学科設置
1961（昭和 36 年）4 ・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
・工学部第二部電気通信工学科設置
1962（昭和 37 年）4 ・大学院工学研究科博士課程開設＜電気工学専攻（博士課程）設置＞
・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
1965（昭和 40 年）4 ・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
1975（昭和 50 年）4 ・工学研究科電気工学専攻（修士課程）（昼間）設置
1977（昭和 52 年）4 ・鳩山キャンパス開設、理工学部開設＜数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置＞
1981（昭和 56 年）4 ・理工学研究科開設＜数理学専攻（修士課程）・システム工学専攻（修士課程）・建設工学専攻（修士課程）・機械工学専攻（修士課程）設置＞
・総合研究所開設
1983（昭和 58 年）4 ・理工学研究科博士課程開設＜応用システム工学専攻（博士課程）設置＞
1984（昭和 59 年）4 ・理工学研究科数理学専攻（博士課程）設置
1986（昭和 61 年）4 ・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
1990（平成　2 年）4 ・千葉ニュータウンキャンパス開設
・工学研究科情報通信工学専攻（修士課程）・電子工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科情報科学専攻（修士課程）・応用電子工学専攻（修士課程）設置
1991（平成　3 年）4 ・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程）・物質工学専攻（修士課程）設置
1992（平成　4 年）4 ・工学研究科情報通信工学専攻（博士課程）・電子工学専攻（博士課程）、建築学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理学専攻（博士課程）を数理科学専攻（博士課程）に名称変更

1993（平成 5年）4 ・工学研究科機械システム工学専攻（博士課程）、物質工学専攻（博士課程）設置
・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
1995（平成 7年）4 ・工学研究科建築学専攻（博士課程）設置
1997（平成 9年）4 ・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
・産官学交流センター設立
1997（平成 9年）6 ・ハイテク・リサーチ・センター設立
1999（平成 11年）4 ・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
・フロンティア共同研究センター設立
2000（平成 12年）4 ・理工学部生命工学科、情報社会学科設置
2001（平成 13年）4 ・情報環境学部開設＜情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置＞
・大学院工学研究科機械工学専攻（修士課程・博士課程）、精密システム工学専攻（修士課程・博士課程）設置
2002（平成 14年）4 ・工学部第一部情報メディア学科設置
・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
・理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理・情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を知能機械工学専攻（修士課程）に名称変更
2003（平成 15年）4 ・理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報専攻（修士課程）に名称変更
2004（平成 16年）4 ・情報環境学研究科（修士課程）開設＜情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置＞
・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置
・理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置
・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
2005（平成 17年）7 ・東京電機大学短期大学廃止
・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止
2006（平成 18年）4 ・先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設＜数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置＞（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止）

・理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更
・情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）

2007（平成 19 年）4 ・学園創立 100 周年（9 月 11 日）
・未来科学部開設＜建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置＞
・工学部開設＜電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置＞（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止）
・理工学部理工学科設置＜４学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系＞（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）

2008（平成 20 年）4 ・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）

2009（平成 21 年）4 ・未来科学研究科（修士課程）開設＜建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置＞
・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学部理工学科学系再編＜５学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編＞

2010（平成 22 年）4 ・工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、

情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）知能機械工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）情報社会学専攻（修士課程）の廃止

2010（平成 22 年）9 ・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程）の廃止

2011（平成 23 年）3 ・建設技術研究所の廃止

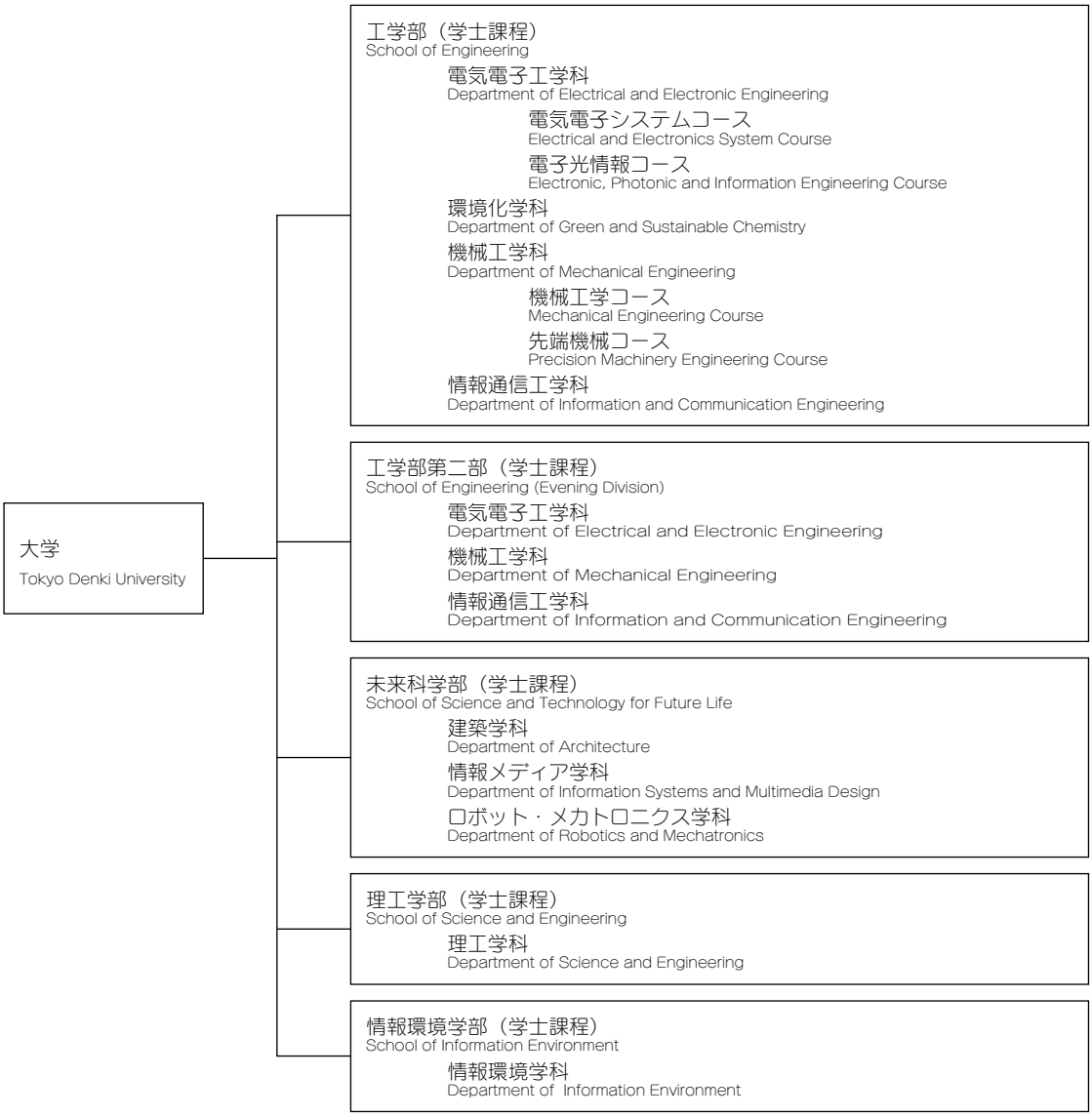
2011（平成 23 年）4 ・工学研究科精密システム工学専攻（修士課程）、理工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻（修士課程）の廃止
・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止

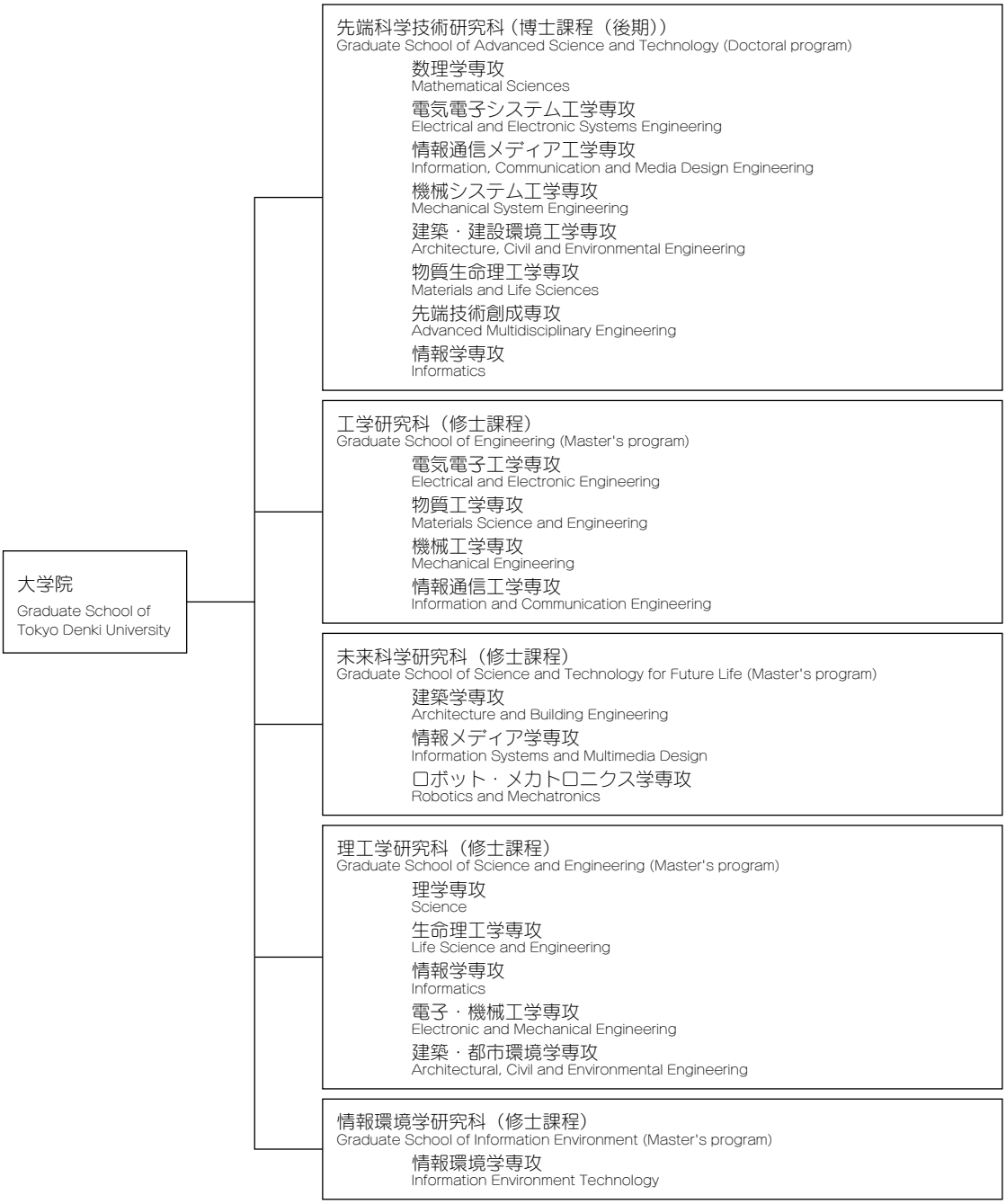
2012（平成 24 年）4 ・東京千住キャンパス（100 周年記念キャンパス）開設（先端科学技術研究科（東京神田キャンパス所属）、工学研究科（修士課程）、未来科学研究科（修士課程）、工学部、工学部第二部、未来科学部が東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転）
・情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止

2012（平成 24 年）10 ・研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立

2013（平成 25 年）4 ・理工学研究科電子・機械工学専攻（修士課程）、建築・都市環境学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・工学研究科建築学専攻（修士課程）の廃止
・工学部第一部機械情報工学科、情報通信工学科の廃止
・理工学部数理科学科、建設環境工学科、知能機械工学科の廃止

4　組織図


大学
Tokyo Denki University
工学部（学士課程）
School of Engineering
電気電子工学科
Department of Electrical and Electronic Engineering
電気電子システムコース
Electrical and Electronics System Course
電子光情報コース
Electronic, Photonic and Information Engineering Course
環境化学科
Department of Green and Sustainable Chemistry
機械工学科
Department of Mechanical Engineering
機械工学コース
Mechanical Engineering Course
先端機械コース
Precision Machinery Engineering Course
情報通信工学科
Department of Information and Communication Engineering
工学部第二部（学士課程）
School of Engineering (Evening Division)
電気電子工学科
Department of Electrical and Electronic Engineering
機械工学科
Department of Mechanical Engineering
情報通信工学科
Department of Information and Communication Engineering
未来科学部（学士課程）
School of Science and Technology for Future Life
建築学科
Department of Architecture
情報メディア学科
Department of Information Systems and Multimedia Design
ロボット・メカトロニクス学科
Department of Robotics and Mechatronics
理工学部（学士課程）
School of Science and Engineering
理工学科
Department of Science and Engineering
情報環境学部（学士課程）
School of Information Environment
情報環境学科
Department of Information Environment



※　大学院修士課程の全専攻において、昼夜開講制を実施。

5　教員一覧

電気電子工学科（EE）/ 電気電子工学科　電気電子システムコース (EJ)

職名	氏　名	号館	階	室番号	室　名	メールアドレス
教　授	アダチ　マサハル 安　達　雅　春	1号館	13	11312B	教　員　室	adachi@mail.dendai.ac.jp
			13	11309B	研　究　室	
〃	ウエノ　アキノリ 植　野　彰　規	1号館	13	11304B	教　員　室	ueno@eee.dendai.ac.jp
			13	11308	研　究　室	
〃	カトウ　マサカズ 加　藤　政　一	1号館	13	11302B	教　員　室	kato@eee.dendai.ac.jp
			13	11303	研　究　室	
〃	コシヅカ　タダシ 腰　塚　　正	4号館	6	40614B	教　員　室	tadashi.koshizuka@mail.dendai.ac.jp
			1	40111	研　究　室	
〃	スヤマ　ケンジ 陶　山　健　仁	1号館	13	11304A	教　員　室	suyama@eee.dendai.ac.jp
			13	11301	研　究　室	
〃	タカイ　ヒロシ 高　井　裕　司	4号館	7	40710E	教　員　室	takai@cck.dendai.ac.jp
			7	40709A	研　究　室	
〃	ニシカタ　ショウジ 西　方　正　司	1号館	13	11315B	教　員　室	west@eee.dendai.ac.jp
		4号館	5	40514	研　究　室	
〃	ハラ　カズヒロ 原　　和　裕	4号館	7	40710D	教　員　室	hara@eee.dendai.ac.jp
				40710C	研　究　室	
〃	ヒダカ　コウイチ 日　高　浩　一	1号館	13	11305A	教　員　室	hidaka@eee.dendai.ac.jp
			13	11309A	研　究　室	
〃	ヒラクリ　ケンジ 平　栗　健　二	1号館	13	11315A	教　員　室	hirakuri@mail.dendai.ac.jp
		4号館	8	40809A·C	研　究　室	
〃	ホリオ　ヨシヒコ 堀　尾　喜　彦	1号館	13	11312A	教　員　室	horio@eee.dendai.ac.jp
				11312B	学科長・コース長室	
				11311	研　究　室	
〃	マスカワ　シゲオ 枡　川　重　男	4号館	8	40815A	教　員　室	masukawa@cck.dendai.ac.jp
			1	40110	研　究　室	
〃	ミヤシタ　オサム 宮　下　　收	4号館	8	40804A	教　員　室	miyashita@eee.dendai.ac.jp
			8	40803	研　究　室	
〃	ヨシダ　トシヤ 吉　田　俊　哉	4号館	8	40815B	教　員　室	tyoshida@eee.dendai.ac.jp
			8	40816	研　究　室	
特任教授	スズキ　カツミ 鈴　木　克　巳	1号館	13	11313A	教　員　室	k-suzuki9146@mail.dendai.ac.jp
		4号館	1	40110	研　究　室	
講　師	イシヤマ　ヒトシ 石　山　　仁	4号館	5	40502	電子電気工学実験室	h.ishiyama@mail.dendai.ac.jp
助　教	サトウ　ケイスケ 佐　藤　慶　介	1号館	13	11313A	教　員　室	satok@mail.dendai.ac.jp
		4号館	8	40809A·C	研　究　室	
〃	ミヤタ　トウマ 宮　田　統　馬	1号館	13	11313A	教　員　室	miyata@mail.dendai.ac.jp
			13	11301	研　究　室	

電気電子工学科（EE）/ 電気電子工学科・電子光情報コース（EH）

職名	氏名	館	階	室番号	室名	メールアドレス
教授	オオウチ ミキオ 大内 幹夫	4号館	8	40806A	教員室	ohuchi@mail.dendai.ac.jp
				40805	研究室	
〃	カナスギ アキノリ 金杉 昭徳	4号館	7	40714A	教員室	kanasugi@mail.dendai.ac.jp
				40713	研究室	
〃	タドコロ タカシ 田所 貴志	4号館	8	40811B	教員室	ttadokoro@mail.dendai.ac.jp
				40812	研究室	
〃	ニシカワ タダシ 西川 正	4号館	8	40811A	教員室	t.nishikawa@mail.dendai.ac.jp
				40810	研究室	
〃	ムツクラ ノブキ 六倉 信喜	1号館	13	11316A	教員室	mutsu@mail.dendai.ac.jp
		4号館	8	40808A·B·C	研究室	
〃	ヤマモト オウ 山本 欧	1号館	13	11313B	教員室	ou@mail.dendai.ac.jp
				11314	研究室	
〃	ワダ シゲオ 和田 成夫	4号館	8	40801B	コース長室	wada@cck.dendai.ac.jp
		1号館	13	11305B	教員室	
				11306	研究室	
准教授	イガラシ ヒロシ 五十嵐 洋	4号館	8	40814A	教員室	h.igarashi@mail.dendai.ac.jp
			5	40516	研究室	
〃	コマツ サトシ 小松 聡	4号館	7	40711	教員室	komatsu@mail.dendai.ac.jp
				40712	研究室	
〃	シノダ ヒロユキ 篠田 宏之	4号館	8	40806B	教員室	shinoda@mail.dendai.ac.jp
				40807A·B	研究室	
講師	タナカ ユウタロウ 田中 裕太郎	4号館	4	40402	電子光情報工学実験室 C（管理室）	ytanaka@mail.dendai.ac.jp
助教	アンドウ キ 安藤 毅	4号館	8	40804B	教員室	kiando@mail.dendai.ac.jp
			7	40713	研究室	
〃	サトウ シュウイチ 佐藤 修一	4号館	8	40804B	教員室	s.sato@mail.dendai.ac.jp
				40805	研究室	

環境化学科（ES）

職名	氏　名	館	階	室番号	室　名	メールアドレス
教　授	イシマル　シンイチ 石　丸　臣　一	4号館	6	40611C·D	演習室・教員室	ishimaru@cck.dendai.ac.jp
				40612	研　究　室	
〃	カワサキ　ヒサシ 川　崎　　寿	4号館	6	40614A·B	教　員　室	kawasaki@cck.dendai.ac.jp
				40613A·B	研　究　室	
〃	シノザキ　ヒラク 篠　崎　　開	4号館	6	40609B	教　員　室	hiraku@cck.dendai.ac.jp
				40609A	研　究　室	
〃	スズキ　タカユキ 鈴　木　隆　之	4号館	6	40602	学　科　長　室	suzutaka@cck.dendai.ac.jp
				40611A·B	教　員　室	
				40610	研　究　室	
〃	フジモト　アキラ 藤　本　　明	4号館	6	40606A·B	教　員　室	fujimoto@cck.dendai.ac.jp
				40605	研　究　室	
〃	ホクラ　アキコ 保　倉　明　子	4号館	6	40607B	教　員　室	hokura@mail.dendai.ac.jp
				40607A	研　究　室	
				40606C·D	研　究　室	
准教授	ナツメ　リョウ 夏　目　　亮	4号館	6	40616A	教　員　室	natsume@mail.dendai.ac.jp
				40616B	研　究　室	
〃	ミヤサカ　マコト 宮　坂　　誠	4号館	6	40608A	教　員　室	miyasaka@mail.dendai.ac.jp
				40608B	研　究　室	
〃	ヤブウチ　ナオアキ 藪　内　直　明	4号館	6	40603C·D	教　員　室	yabuuchi@mail.dendai.ac.jp
				40604	研　究　室	
講　師	イワサキ　ナオヤ 岩　崎　直　也	4号館	3	40306	第２実験管理室	naoya@cck.dendai.ac.jp
〃	サトウ　シンイチ 佐　藤　真　一	4号館	2	40212	化学実験準備室	sato@chiba.dendai.ac.jp
助　教	タナカ　サトミ 田　中　里　美	4号館	3	40312	第１実験準備室	s-tanaka@cck.dendai.ac.jp
〃	ハシモト　ケンイチ 橋　本　賢　一	4号館	6	40613B	研　究　室	k-hashimoto@cck.dendai.ac.jp

機械工学科（EM）/ 機械工学科　機械工学コース（EK）

職名	氏名	館	階	室番号	室名	メールアドレス
教授	イトウ アキトシ 伊東 明俊	1号館	9	10911B	教員室	aitoh@cck.dendai.ac.jp
		4号館	7	40717	研究室	
〃	イワツ レイマ 岩津 玲磨	1号館	9	10918A	学科長室・コース長室	iwatsu@cck.dendai.ac.jp
			9	10904B	教員室	
			3	10324	研究室	
		4号館	1	40106	実験室	
〃	クリス マサミツ 栗栖 正充	1号館	9	10913B	教員室	kurisu@cck.dendai.ac.jp
			9	10908	研究室	
〃	ゴミ ケンジ 五味 健二	1号館	9	10912B	教員室	kenji@cck.dendai.ac.jp
			9	10910C	研究室	
			3	10323	実験室	
			1	10119	実験室	
		4号館	7	40704A	研究室	
〃	コヤマ ヒデハル 児山 秀晴	1号館	9	10905A	教員室	hskoyama@cck.dendai.ac.jp
		4号館	1	40107	研究室・実験室	
			1	40106	実験室	
〃	サイトウ ヒロユキ 斎藤 博之	1号館	9	10915A	教員室	h.saito3110@mail.dendai.ac.jp
			9	10910A	研究室	
			3	10323	実験室	
			1	10119	実験室	
		4号館	7	40716A	研究室	
〃	タナカ イチロウ 田中 一郎	1号館	9	10906	教員室	tanaka@cck.dendai.ac.jp
			9	10907	研究室	
〃	ツジ ヒロカズ 辻 裕一	1号館	9	10913A	教員室	tsuji@cck.dendai.ac.jp
			9	10910B	研究室	
			3	10323	実験室	
			1	10119	実験室	
		4号館	7	40704B	研究室	
〃	フジタ サトシ 藤田 聡	1号館	9	10904A	教員室	sfujita@cck.dendai.ac.jp
			9	10901A	研究室	
		4号館	1	40103	実験室	
〃	マツムラ タカシ 松村 隆	1号館	9	10914B	教員室	tmatsumu@cck.dendai.ac.jp
			9	10901B	研究室	
			1	10119	実験室	
〃	ミズハラ カズユキ 水原 和行	1号館	9	10914A	教員室	mizuhara@cck.dendai.ac.jp
			1	10116	研究室	
			1	10117	研究室	
〃	ヨシダ アキラ 吉田 亮	1号館	9	10912A	教員室	yoshida@cck.dendai.ac.jp
		4号館	7	40703A	研究室	
			1	40104	実験室	
特任教授	アライ マサタカ 新井 雅隆	1号館	8	10801B	教員室	
			9	10915B	研究室	
		4号館	7	40701	研究室	
准教授	コバヤシ ヨシヒロ 小林 佳弘	1号館	9	10905B	教員室	ykoba@mail.dendai.ac.jp
		4号館	7	40702	研究室	
			1	40104	実験室	
〃	タカハシ ナオヤ 髙橋 直也	1号館	9	10903	教員室	n.takahashi@mail.dendai.ac.jp
			9	10902	研究室	
		4号館	1	40106	実験室	
講師	イマイズミ テツオ 今泉 哲夫	1号館	9	10918B	教員室	timaizumi@mail.dendai.ac.jp
〃	オミ トシオ 小見 俊夫	1号館	9	10918B	教員室	omi@cck.dendai.ac.jp
〃	サカイ ノリオ 酒井 則男	1号館	3	10325	実験管理室	

機械工学科（EM）/ 機械工学科　先端機械コース（EF）

職名	氏　名	館	階	室番号	室　名	メールアドレス
教　授	イトウ　ヒロシ 伊　藤　　裕	1号館	8	10813	教　員　室	itoh@cck.dendai.ac.jp
				10808	メカトロ機械設計研究室	
〃	オオサワ　モトアキ 大　澤　基　明	1号館	8	10814B	教　員　室	osawa@cck.dendai.ac.jp
			1	10128	材料工学研究室	
〃	サトウ　タイチ 佐　藤　太　一	1号館	8	10815	コース長室	taichi@mail.dendai.ac.jp
				10814A	教　員　室	
				10810A	振動・音響工学研究室	
		4号館	1	40113	振動・音響第1実験室	
				40114A	振動・音響第2実験室	
〃	ドヒ　タケヨシ 土　肥　健　純	1号館	8	10806	教　員　室	take14-dohi82@mail.dendai.ac.jp
				10811	先端医療福祉工学研究室	
〃	フジタ　トシノリ 藤　田　壽　憲	1号館	8	10803B	教　員　室	tfujita@cck.dendai.ac.jp
			1	10115	流体制御研究室	
〃	フルタニ　リョウシュウ 古　谷　涼　秋	1号館	8	10804A	教　員　室	ryo@cck.dendai.ac.jp
				10807	計測工学研究室	
		4号館	1	40112B	精密測定室（恒温室）	
〃	ホリウチ　トシユキ 堀　内　敏　行	1号館	8	10804B	教　員　室	horiuchi@cck.dendai.ac.jp
				10812	光応用機械工学研究室	
		4号館	1	40112A	クリーンルーム	
〃	ミツイ　カズユキ 三　井　和　幸	1号館	8	10805A	教　員　室	mitsui@cck.dendai.ac.jp
				10809	医用精密工学研究室	
准教授	ヤナギダ　アキラ 柳　田　　明	1号館	8	10805B	教　員　室	yanagida@mail.dendai.ac.jp
			1	10114	塑性加工研究室	
助　教	クワナ　ケンタ 桑　名　健　太	1号館	8	10802	教　員　室	k_kuwana@mail.dendai.ac.jp
				10810B	研　究　室	
〃	オザキ　ミユウ 小　崎　美　勇	1号館	8	10802	教　員　室	ozaki@mail.dendai.ac.jp
				10810B	研　究　室	

情報通信工学科（EC）

職名	氏名	館	階	室番号	室名	メールアドレス
教授	イノウエ ウシオ 井上 潮	1号館	12	11209A	教員室	inoue@c.dendai.ac.jp
				11209B	研究室	
〃	カネダ ユタカ 金田 豊	1号館	12	11218A	教員室	kaneda@c.dendai.ac.jp
				11217	研究室	
〃	コバヤシ タケヒコ 小林 岳彦	1号館	12	11216B	教員室	koba@c.dendai.ac.jp
				11203	研究室	
〃	サイトウ タイイチ 齊藤 泰一	1号館	12	11204	教員室	taishi@c.dendai.ac.jp
				11205A	研究室	
〃	スズキ ツヨシ 鈴木 剛	1号館	14	11409A	教員室	suzuki@c.dendai.ac.jp
				11409B	研究室	
〃	ツキモト ヒロシ 月本 洋	1号館	12	11208B	教員室	tsukimoto@c.dendai.ac.jp
				11208A	研究室	
〃	マツモト タカオ 松本 隆男	1号館	12	11213B	教員室	matsumoto@c.dendai.ac.jp
				11214	研究室	
〃	ミタニ マサアキ 三谷 政昭	1号館	12	11211B	教員室	mitani@c.dendai.ac.jp
				11211A	研究室	
〃	モトハシ ミツヤ 本橋 光也	4号館	7	40706B	教員室	mmitsuya@cck.dendai.ac.jp
					学科長	
				40705	研究室	
〃	ワキ ヒデヨ 脇 英世	1号館	12	11216A	教員室	waki@mail.dendai.ac.jp
				11215	研究室	
准教授	サカモト ナオシ 坂本 直志	1号館	14	11408B	教員室	sakamoto@c.dendai.ac.jp
				11408A	研究室	
〃	ハセガワ マコト 長谷川 誠	1号館	12	11213A	教員室	hasegawa@c.dendai.ac.jp
				11212	研究室	
〃	ヨシノ タカユキ 吉野 隆幸	1号館	12	11205B	教員室	yoshino@c.dendai.ac.jp
				11206B	研究室	
講師	コウヤ サトシ 幸谷 智	1号館	12	11203	研究室	kouya@c.dendai.ac.jp
〃	サダマツ ノブヨシ 定松 宣義	1号館	5	10525A	講師室	sada@c.dendai.ac.jp

建築学科（FA）

職名	氏　名	館	階	室番号	室　名	メールアドレス
教　授	アサヤマ　シュウイチ 朝　山　秀　一	1号館	7	10716B	教　員　室	asayama@cck.dendai.ac.jp
				10716A	研　究　室	
〃	イバモト　タダヒコ 射場本　忠　彦	1号館	7	10715B	教　員　室	ibamoto@cck.dendai.ac.jp
				10715A	研　究　室	
〃	イマガワ　ノリヒデ 今　川　憲　英	1号館	7	10712B	教　員　室	nori@cck.dendai.ac.jp
				10712A	研　究　室	
〃	タチバナ　マサヒコ 立　花　正　彦	1号館	7	10713B	教　員　室	tatibana@cck.dendai.ac.jp
				10713A	研　究　室	
〃	ツチダ　ヒロシ 土　田　　覓	1号館	7	10704B	教　員　室	tsuchida@mail.dendai.ac.jp
				10704A	研　究　室	
〃	ツミタ　ヒロシ 積　田　　洋	1号館	7	10701B	教　員　室	tsumita@cck.dendai.ac.jp
				10701A	研　究　室	
〃	ヤマモト　ケイスケ 山　本　圭　介	1号館	7	10708B	教　員　室	yamamoto@cck.dendai.ac.jp
				10708A	研　究　室	
特任教授	エンドウ　カオル 遠　藤　　薫	1号館	14	11413A	教　員　室	k-endo@mail.dendai.ac.jp
					研　究　室	
〃	ヤナギハラ　リュウジ 柳　原　隆　司	1号館	6	10603A	教　員　室	ryanagi@mail.dendai.ac.jp
					研　究　室	
准教授	アキタ　タケシ 秋　田　　剛	1号館	7	10703B	教　員　室	akita@cck.dendai.ac.jp
				10703A	研　究　室	
〃	ヤマカワ　マコト 山　川　　誠	1号館	7	10711B	教　員　室	myamakawa@mail.dendai.ac.jp
				10711A	研　究　室	
〃	ヤマダ　アスカ 山　田　あすか	1号館	7	10705B	教　員　室	asuka-y@mail.dendai.ac.jp
				10705A	研　究　室	
〃	ヨコテ　ヨシヒロ 横　手　義　洋	1号館	7	10707B	教　員　室	yokote@mail.dendai.ac.jp
				10707A	研　究　室	
〃	マツシタ　キワ 松　下　希　和	1号館	6	10603B	教　員　室	mkiwa@mail.dendai.ac.jp
					研　究　室	
〃	モモタ　マサシ 百　田　真　史	1号館	6	10604A	教　員　室	momota@cck.dendai.ac.jp
					研　究　室	
〃	ワタナベ　アキコ 渡　邊　朗　子	1号館	6	10604B	教　員　室	akiko826@cck.dendai.ac.jp
					研　究　室	
講　師	ヤギ　アツシ 八　木　敦　司	1号館	6	10605B	講　師　室	a-yagi-a@cck.dendai.ac.jp
〃	ヤナギ　ヒデオ 柳　　秀　夫	千住 アネックス	2	204	講　師　室	hideo@cck.dendai.ac.jp
					TDU建築設計事務所	
〃	ニヘイ　ミツキ 二　瓶　光　希	千住 アネックス	2	204	講　師　室	nihei@mail.dendai.ac.jp
					TDU建築設計事務所	
助　手	カマダ　ミツトシ 鎌　田　光　明	1号館	6	10605A	設計準備室	kamada@mail.dendai.ac.jp

※客員教授　登坂　宣好
※　〃　　山内　泰之

情報メディア学科（FI）

職名	氏名	館	階	室番号	室名	メールアドレス
教授	オサカ ナオトシ 小坂 直敏	1号館	11	11103A	教員室	osaka@im.dendai.ac.jp
				11113	研究室	
〃	カワスミ マサシ 川澄 正史	1号館	11	11103B	教員室	kawasumi@im.dendai.ac.jp
				11115	研究室	
〃	キヌカワ ヒロシ 絹川 博之	1号館	11	11102A	教員室	kinukawa@im.dendai.ac.jp
				11117	研究室	
〃	コヤマ ヒロノリ 小山 裕徳	1号館	11	11105B	教員室	koyama@im.dendai.ac.jp
				11109B	研究室	
〃	サイトウ ツヨシ 齊藤 剛	1号館	11	11102B	教員室	saitoh@im.dendai.ac.jp
				11108	研究室	
〃	ササキ リョウイチ 佐々木 良一	1号館	11	11106A	教員室	sasaki@im.dendai.ac.jp
				11111	研究室	
〃	タカハシ トキイチロウ 高橋 時市郎	1号館	14	11404B	教員室	toki@im.dendai.ac.jp
				11401	研究室	
〃	テツタニ ノブジ 鉄谷 信二	1号館	14	11405A	教員室	tetsutani@im.dendai.ac.jp
				11402	研究室	
〃	ナカジマ カツト 中島 克人	1号館	11	11104B	教員室	nakajima@im.dendai.ac.jp
				11116	研究室	
〃	マスダ ヒデタカ 増田 英孝	1号館	11	11104A	教員室	masuda@im.dendai.ac.jp
				11109A	研究室	
〃	ヤジマ ヒロシ 矢島 敬士	1号館	11	11105A	教員室	yajima@im.dendai.ac.jp
				11114	研究室	
〃	ヤスダ ヒロシ 安田 浩	1号館	14	11404A	教員室	yasuda@im.dendai.ac.jp
				11403	研究室	
特任教授	ホシノ ヤスシ 星野 垣之	1号館	11	11106B	教員室	hoshino@im.dendai.ac.jp
准教授	イワイ マサユキ 岩井 将行	1号館	11	11107A	教員室	iwai@im.dendai.ac.jp
				11107B	研究室	
講師	タツタ フジオ 竜田 藤男	1号館	5	10515B	講師室	tatsuta@im.dendai.ac.jp
〃	モリモト ユウキ 森本 有紀	1号館	11	11118C	講師室	morimoto@im.dendai.ac.jp
〃	ヤマダ コウイチ 山田 剛一	1号館	11	11118D	講師室	yamada@im.dendai.ac.jp
助教	モリヤ トモアキ 森谷 友昭	1号館	4	10423B	講師室	tomoriya@im.dendai.ac.jp
〃	カキザキ ヨシオ 柿崎 淑郎	1号館	4	10423C	講師室	kakizaki@im.dendai.ac.jp

ロボット・メカトロニクス学科（FR）

職名	氏　名	館	階	室番号	室　名	メールアドレス
教　授	イシカワ　ジュン 石　川　　潤	1号館	10	11014B	教　員　室	ishikawa@fr.dendai.ac.jp
〃	クニヨシ　ヒカル 国　吉　　光	1号館	10	11017A	教　員　室	kuni@fr.dendai.ac.jp
〃	シオツキ　テツオ 汐　月　哲　夫	1号館	10	11016A	教員室・学科長室	shiotsuki@fr.dendai.ac.jp
〃	ハタケヤマ　ショウシロウ 畠　山　省四朗	1号館	10	11016B	教　員　室	sho@fr.dendai.ac.jp
〃	ハナサキ　イズミ 花　崎　　泉	1号館	10	11015B	教　員　室	hana@fr.dendai.ac.jp
〃	ヒガキ　ヒロアキ 桧　垣　博　章	1号館	10	11014A	教　員　室	hig@fr.dendai.ac.jp
〃	ヨコヤマ　トモノリ 横　山　智　紀	1号館	10	11015A	教　員　室	yoko@fr.dendai.ac.jp
特任教授	ミヤタケ　ノブハル 宮　武　信　春	1号館	14	11414	教　員　室	miyatake@fr.dendai.ac.jp
准教授	イワセ　マサヨシ 岩　瀬　将　美	1号館	10	11002A	教　員　室	iwase@fr.dendai.ac.jp
〃	カマミチ　ノリヒロ 釜　道　紀　浩	1号館	10	11001B	教　員　室	nkama@fr.dendai.ac.jp
〃	スズキ　サトシ 鈴　木　　聡	1号館	10	11013B	教　員　室	シラバスに掲載のメールアドレスを参照してください
〃	ナカムラ　アキオ 中　村　明　生	1号館	10	11013A	教　員　室	nakamura@fr.dendai.ac.jp
講　師	フカザワ　カツヤ 深　澤　克　也	1号館	10	10317	教　員　室	k-fuka@fr.dendai.ac.jp
助　教	イヅツ　マサヨシ 井　筒　正　義	1号館	10	11001A	教　員　室	izutsu@fr.dendai.ac.jp
〃	イノウエ　ジュン 井　上　　淳	1号館	10	11001A	教　員　室	inoue.jun@fr.dendai.ac.jp
〃	フジカワ　タロウ 藤　川　太　郎	1号館	10	11001A	教　員　室	fujikawa@fr.dendai.ac.jp

人間科学系列（g）

職名	氏名	館	階	室番号	室名	メールアドレス
教授	アベ カズトモ 阿部一知	4号館	9	40912A	教員室	kabe@cck.dendai.ac.jp
〃	オオエ マサヒコ 大江正比古	4号館	9	40915B	教員室	oe@cck.dendai.ac.jp
〃	カトウ トモキ 加藤知己	4号館	9	40910A	教員室	katotmk@chiba.dendai.ac.jp
〃	スズキ クニオ 鈴木邦夫	4号館	9	40910B	教員室（系列主任）	ciao@cck.dendai.ac.jp
〃	セラ コウイチ 世良耕一	4号館	9	40913B	教員室	sera@cck.dendai.ac.jp
〃	タクミヤ キヨシ 内匠屋潔	4号館	9	40909C	教員室	takumiya@cck.dendai.ac.jp
〃	タナカ ヒロアキ 田中浩朗	4号館	9	40913A	教員室	tanakahi@cck.dendai.ac.jp
〃	ヒロイシ ヒデキ 広石英記	4号館	9	40912B	教員室	hiroishi@cck.dendai.ac.jp
〃	ホンゴウ ヒトシ 本郷均	4号館	9	40911B	教員室	hhongo@cck.dendai.ac.jp
〃	ワタナベ ヨシカズ 渡邉善和	4号館	9	40911A	教員室	nabesan@cck.dendai.ac.jp
准教授	カネツキ トモミ 金築智美	4号館	9	40915A	教員室	tkanetsuki@cck.dendai.ac.jp
〃	キムラ ケン 木村憲	4号館 (※)4号館	9 1	40909B 101A	教員室	kimura@cck.dendai.ac.jp
〃	クロサワ マナブ 黒沢学	4号館	9	40914B	教員室	kurosawa@cck.dendai.ac.jp
〃	ヨリマツ タマオ 頼松瑞生	4号館	9	40914A	教員室	yorimatu@cck.dendai.ac.jp
講師	コガ ハジメ 古賀初	4号館	9	40909B	教員室	haji@chiba.dendai.ac.jp
助教	ジュラク コウタ 寿楽浩太	4号館	9	40909B	教員室	juraku@mail.dendai.ac.jp

（※）千葉ニュータウンキャンパス

英語系列（ℓ）

職名	氏　名	館	階	室番号	室　名	メールアドレス
教　授	アイザワ　カズミ 相　澤　一　美	4号館	10	41006A	教員室（系列主任）	aizawa@cck.dendai.ac.jp
〃	ニシグチ　マサヒロ 西　口　昌　宏	4号館	10	41007B	教　員　室	m_nishi@cck.dendai.ac.jp
准教授	イソ　タツオ 磯　　達　夫	4号館	10	41009B	教　員　室	tiso@mail.dendai.ac.jp
〃	ミヤゾエ　テルミ 宮　添　輝　美	4号館	10	41008A	教　員　室	t.miyazoe@mail.dendai.ac.jp
講　師	オオバ　ヒサエ 大　場　久　恵	4号館	10	41008B	教　員　室	obah@mail.dendai.ac.jp
〃	オオモリ　ユカ 大　森　夕　夏	4号館	10	41006B	教　員　室	yomori@mail.dendai.ac.jp
〃	オオヤマ　ケンイチ 大　山　健　一	4号館	10	41011B	教　員　室	k-ohyama@mail.dendai.ac.jp
〃	サクライ　タクヤ 櫻　井　拓　也	4号館	10	41007A	教　員　室	tsakurai@cck.dendai.ac.jp
〃	タカハシ　ミチコ 高　橋　実知子	4号館	10	41010A	教　員　室	michikot@cck.dendai.ac.jp
〃	タケダ　ララ 竹　田　ら　ら	4号館	10	41006B	教　員　室	lutakeda@mail.dendai.ac.jp
〃	タニグチ　マリ 谷　口　真　理	4号館	10	41008B	教　員　室	taniguci@cck.dendai.ac.jp
〃	ハラダ　ヨリコ 原　田　依　子	4号館	10	41010A	教　員　室	yharada@mail.dendai.ac.jp
〃	クリス　ホイットニー	4号館	10	41007A	教　員　室	whitney@mail.dendai.ac.jp
〃	コルム　スミス	4号館	10	41011B	教　員　室	colmsmyth@mail.dendai.ac.jp
〃	ポール　ナダスディ	4号館	10	41011B	教　員　室	nadasdy@cck.dendai.ac.jp

数学系列（f）

職名	氏名	館	階	室番号	室名	メールアドレス
教授	イガワ アキラ 井川 明	4号館	9	40905B	教員室	igawa@cck.dendai.ac.jp
〃	イトウ マサヒコ 伊藤 雅彦	4号館	9	40906B	教員室	mito@cck.dendai.ac.jp
〃	オオタ タクヤ 太田 琢也	4号館	9	40907B	教員室	ohta@cck.dendai.ac.jp
〃	コクブ マサトシ 國分 雅敏	4号館	9	40906A	教員室	kokubu@cck.dendai.ac.jp
〃	サトウ イナホ 佐藤 穂	4号館	9	40904A	教員室	satou@cck.dendai.ac.jp
〃	ナカジマ ユキヨシ 中島 幸喜	4号館	9	40908A	教員室	別途指示する
〃	フジサワ タロウ 藤澤 太郎	4号館	9	40904B	教員室（系列主任）	別途指示する
〃	ミヤザキ カツラ 宮崎 桂	4号館	9	40903B	教員室	miyazaki@cck.dendai.ac.jp
准教授	イケダ アツシ 池田 京司	4号館	9	40905A	教員室	atsushi@mail.dendai.ac.jp
〃	イリエ ヒロシ 入江 博	4号館	9	40907A	教員室	hirie@im.dendai.ac.jp
助教	アライ ケイスケ 新井 啓介	4号館	9	40901B	教員室	araik@mail.dendai.ac.jp
〃	キクタ シン 菊田 伸	4号館	9	40903A	教員室	別途指示する
〃	ハラ タカシ 原 隆	4号館	9	40903A	教員室	別途指示する
〃	ミナベ サトシ 三鍋 聡司	4号館	9	40901B	教員室	minabe@mail.dendai.ac.jp

物理系列（b）

職名	氏名	館	階	室番号	室名	メールアドレス
教授	タマキ アキラ 田巻 明	4号館	10	41001A	研究室	tama@ap.s.dendai.ac.jp
			10	41001B	教員室	
〃	ナガサワ ミツハル 長澤 光晴	4号館	10	41002A	研究室	nagasawa@chiba.dendai.ac.jp
			10	41002B	教員室	
〃	マツダ ナミオ 松田 七美男	4号館	10	41005A	研究室・教員室（系列主任）	matuda@film.s.dendai.ac.jp
			10	41005B	研究準備室	
准教授	ナカニシ タケシ 中西 剛司	4号館	8	40817A	研究室	t-nakanishi@mail.dendai.ac.jp
			8	40817B	教員室	
〃	モリタ ケンゴ 森田 憲吾	4号館	10	41003A	研究室	kmorita@mail.dendai.ac.jp
			10	41003B	教員室	
講師	ニワ マサアキ 丹羽 雅昭	4号館	2	40208A	実験準備室	niwa@cck.dendai.ac.jp
〃	ソエ クミ 曽江 久美	4号館	2	40208B	実験準備室	soe@chiba.dendai.ac.jp
助手	イシイ マサミ 石井 正美	4号館	2	40208C	実験準備室	ishii@physpo.kf.dendai.ac.jp

6　事務取扱事項と取扱時間

<table>
<tr><th colspan="2">部署名</th><th>取扱時間</th><th>主な事務取扱事項</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="2">工学部・未来科学部事務部</td><td>2号館3階
（教務担当）</td><td rowspan="4">月～金
8:50～13:10
14:10～21:30
土
8:50～13:10
14:10～19:40</td><td>・授業、試験、成績等に関すること
・履修登録の手続き
・教職課程の履修手続き
・成績証明書、卒業証明書等の発行
・レポート・欠席届の受付など</td><td rowspan="3">千住キャンパス
工学部
工学部第二部
証明書の申込み等は21:30まで受付けます。
※但し、土曜日は19:40までです。
なお授業のない日の窓口は19:00まで入学試験やオープンキャンパスなど学内業務により窓口の停止や時間短縮となります。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学生支援センター</td><td>2号館3階
（学生厚生担当）</td><td>・休学・退学・復学等の学籍手続き
・課外活動の手続き
・各種奨学金
・学生証、学割証の発行
・在学証明書等の発行
・学生教育研究災害傷害保険の取扱い
・学生相談、遺失物・拾得物の取扱い
・学生の学外活動補助等の受付</td></tr>
<tr><td>健康相談室
（2号館3階）</td><td>8:50～13:10
14:10～21:00</td><td>・定期健康診断
・平常の健康相談
・傷病応用処置
・健康診断証明書の発行</td><td>土曜日の取扱時間については健康相談室の入口の掲示板で確認してください。</td></tr>
<tr><td>学生相談室
（2号館3階）</td><td>学生相談室の入口の掲示板にて知らせます。</td><td>・学業上、生活上などの個人的な相談
・専門家によるカウンセリング</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">2号館3階
（キャリア支援・就職担当）</td><td>月～金
8:50～13:10
14:10～20:00
土
8:50～13:10
14:10～17:00</td><td>・キャリア支援、低学年指導
・就職の斡旋
・就職支援と相談
・インターンシップ情報
・アルバイトの紹介など</td><td>学内業務により窓口の停止や、時間短縮となることがあります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">入試センター
（1号館4階）</td><td>月～土
9:30～17:00</td><td>・大学院試験に関する相談・受付
・転学部試験（工学部第二部から昼間学部）に関する相談・受付</td><td></td></tr>
</table>

部署名		取扱時間	主な事務取扱事項	備考
国際センター	（2 号館 3 階）	9:00 ～ 17:00	・海外語学研修を含む外国留学に関すること ・外国人留学生の受入れに関すること	
	国際センター 千住ラウンジ （1 号館 4 階）	月～金曜日 10:00 ～ 17:00	・海外語学研修を含む外国留学に関すること ・外国人留学生の受入れに関すること ・日本人学生と留学生の交流に関すること	
経理部 （会計担当） （1 号館 5 階）		月～土曜日 9:00 ～ 17:00	・学費の取扱い ・学費振込用紙の再交付 ・手数料等の収納	

取扱停止、時間変更等がある場合は各部署毎に、その都度掲示によりお知らせします。
長期休業期間は、窓口取扱時間及び証明書自動発行機の稼動時間が通常と変更になりますので、事前に掲示をご確認ください。

千葉ニュータウンキャンパスにおける工学部・工学部第二部・未来科学部学生のための事務取扱いについては、次の事項について、情報環境学部事務部で受け付けます。

部署名		取扱時間	主な事務取扱事項
情報環境学部事務部	（教育棟 1 階）	授業期間（含予備日）の平日 9:20 ～ 16:50 土曜日・授業期間以外の平日 10:00 ～ 16:00	〔教務事項に関すること〕 ・授業に関すること ・レポートの受付など 〔学生生活に関すること〕 ・課外活動の手続き ・遺失物・拾得物の取扱い
	健康相談室 （教育棟 1 階）		・傷病の応急処置 ・平常の健康相談
	学生相談室 （教育棟 1 階）	掲示板にて知らせます。	・学業上、生活上などの個人的な相談 ・専門家によるカウンセリング

取扱停止、時間変更等がある場合は各部署毎に、その都度掲示によりお知らせします。

7　主な書類の提出先と証明書の申込先

願・届・証明書の取扱部署は次の通りです。
なお、証明書の発行は日数を要しますので、それぞれ取扱部署で確認して申し込んでください。

7-1　願出・届出

願・届出の名称		取扱部署	手続き・必要添付書類等
変更届	保証人	学生支援センター 2 号館 3 階 （学生厚生担当）	学生証（学生） ※新旧保証人の署名・捺印を要する
	改姓（学生・保証人）		変更が分かる書類（戸籍抄本など）·学生証（学生）
	連絡先（学生·保証人）		学生証（学生）
	住所（学生・保証人）		学生証（学生）
	勤務先（学生）		学生証（学生）
学内集会願			2 週間前、学外参加者がいる場合はその名簿
学外活動願			2 週間前、参加者名簿
休学願			願い用紙、（診断書等）、在籍料振込用紙、本人控のコピー
復学願			願い用紙、（診断書等）
退学願			願い用紙、（診断書等）
学費延納願			所定の用紙を学費納入期限日までに提出
転学部・転学科願			願い用紙
履修届		工学部・ 未来科学部 事務部 2号館 3 階 （教務担当）	所定の期日（別途掲示） 【注】履修に関する他の願出・届出は「履修案内」を参照してください。
欠席届			医師の診断書または理由書 （1 週間以上欠席の場合）
追試験願			医師の診断書または理由書 （1 日のみ欠席の場合も必ず添付のこと）
科目等履修生願			願書、卒業証明書、成績証明書、健康診断書、資格審査料
大学院試験願書		入試センター 1 号館 4 階	志願票等出願書類
転学部試験願書 （工学部第二部から昼間学部）			志願票、入学検定料払込受付証明書等
学費振込用紙再発行願		経理部（会計担当） 1 号館 5 階	電子メールによる申請可【P.200 参照】

7-2　証明書

各証明書は、学生証を使って、2 号館 3 階自動発行機から発行してください。備考欄に※印の付いているものついては、直接証明書が自動発行機から交付されます。それ以外は申請書を発行し、担当窓口に提出してください。（紛失時や卒業後は、画面表示に従って操作してください）

証明書の名称		手数料(円)	取扱部署	備考
在学証明書	日本語	200	学生支援センター 2号館3階 （学生厚生担当）	※
	英語	700		5 日後発行（土日祝除く）
	休学中	200		2 日後発行（土日祝除く）
元在学証明書		500		2日後発行（土日祝除く）
通学証明書		無料		
学生証再発行		2,000		翌日発行（土日祝除く）
学生旅客運賃割引証(学割証)		無料		※
健康診断証明書		200	健康相談室	※
成績証明書	日本語	300	工学部・ 未来科学部 事務部 2 号館 3 階 （教務担当）	※
	外国語	1,500		
卒業見込証明書	日本語	200		※
	外国語	1,200		
卒業証明書	日本語	500		
	外国語	1,200		
卒業成績証明書	日本語	500		
	外国語	2,000		
人物に関する証明書		500		在学生用
大学院進学用証明書		500		
教職免許状取得見込証明書		500		
科目等履修生単位取得証明書		1,000		
単位取得証明書		500		
電気主任技術者用証明書		2,000		
電気工事士用証明書		2,000		
JABEE コース修了証明書		500		工学部第一部電気工学科工学部電気電子工学科の JABEE コースまたは JABEE プログラム修了者のみ

東京千住キャンパス案内

1. 東京千住キャンパス案内について
2. 東京千住キャンパス配置図
3. 東京千住キャンパスフロア配置図
4. 教室配置図　　1号館　1、2階
   2号館　1－10階
   4号館　2、3階

東京千住キャンパス案内について

東京千住キャンパスは、4つの建物と別館（東京千住アネックス）で構成されています。
ここでは主に、4つの建物の「教室部分」についてのみ、ご紹介いたします。

部屋番号の表現について

教室には「部屋名称」と「部屋番号」が与えられています。
建物ごとの特質に合わせて二つの値が使い分けられています。

名称	説明、構造について
部屋名称	例：1204 セミナー室　/　2504 教室 部屋毎の名称です。 「●●研究室」、「教員室●●」、「カフェラウンジ」、「体育館等」、「1204 セミナー室」等の名称がこれに相当します。 DENDAI-UNIPA 上で表示されるのはこちらの名称です。
部屋番号	例：10204　/　20504 部屋に通しで振られている 5 桁の番号です。 東京千住キャンパスでは 2 号館を除き、部屋の入口やフロア配置図などに表示しています。1 桁目＝建物番号、2 桁目・3 桁目＝階数、4 桁目・5 桁目＝同一フロア内の連番（その後に A、B 等の枝番がある場合もあります）。 「10107」は 1 号館 1 階の 7 番目の部屋、 「11017B」は 1 号館 10 階 17 番目の部屋のうち、B の部屋という意味です。

注意：部屋番号ではなく、部屋名称が表示されている場合があります。
「2301 教室」などの「教室」は 4 桁で表記されています。
この場合、左から 1 桁目＝建物番号、2 桁目＝階、3 桁目・4 桁目＝同一フロア内の連番

実験室、実習室、ゼミ室、研究室、教員室や千葉ニュータウンキャンパスの教室等について

各号館·各フロアの壁面にあるフロア別案内図や事務部のホームページにてご確認ください。

【工学部・未来科学部ホームページ】→【学生要覧】→【建物別フロア案内】の項にある各フロアのページをご確認ください。

http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/index.html

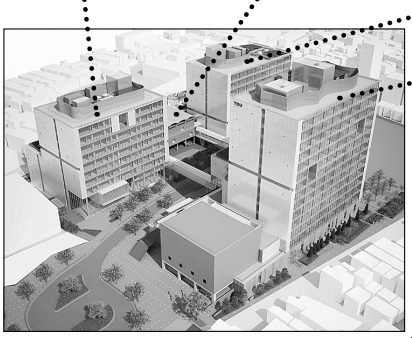
東京千住キャンパス配置図

【2 号館】（教育棟）
- 10F
- ｜ 教室・学生ラウンジ
- 9F
- 8F
- ｜ 教室
- 6F
- 5F 教室
  ルーフガーデン 2
- 4F ＰＣ教室
- 3F 教室
  講師室
  工学部・
  未来科学部事務部
  学生支援センター
  国際センター
  健康・学生相談室
  学生ラウンジ
- 2F 総合メディアセンター
- ｜ 図書館
- 1F 受付
- B1F 駐輪場

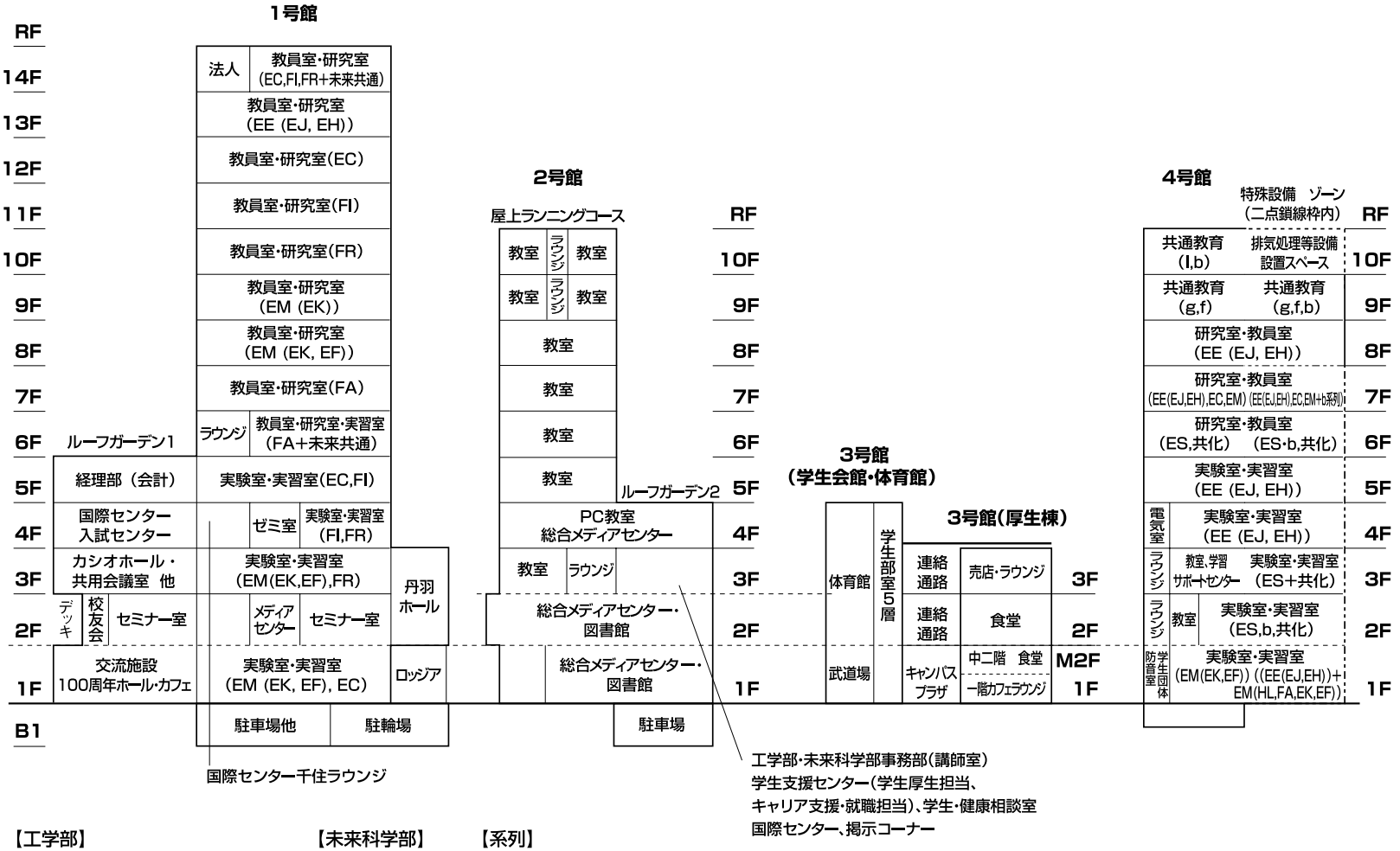
【3 号館】
（厚生棟・学生会館・体育館）
- 4F 学生部室
- 3F 学生部室
  売店
  学生ラウンジ
- 2F 体育館
  トレーニング室
  食堂
- M2F 学生部室
  食堂
- B1F 武道場
  学生部室
  カフェ

【4 号館】（研究棟）
- 10F 教員室・研究室
- 9F
- ｜ 教員室
- 8F
- ｜ 教員室・研究室
- 6F
- ｜
- 5F
- ｜ 実験室・実習室
- 4F
- 3F 学習サポートセンター
  教室
  実験室・実習室
  学生ラウンジ
- 2F 教室
  実験室・実習室
  学生ラウンジ
- 1F 実験室・実習室
  受付

【1 号館】（複合棟）
- 14F 教員室・研究室
  セミナー室
- 13F
- ｜ 教員室・研究室
- 7F
- 6F 実験室・実習室
  学生ラウンジ
  ルーフガーデン
- 5F 実験室・実習室
  法人本部
- 4F 実験室・実習室
  セミナー室
  入試センター
  大学本部
- 3F 実験室・実習室
  ワークショップ教室
  カシオホール
- 2F 丹羽ホール
  セミナー室
  校友会
- 1F 実験室・実習室
  カフェ
  100 周年ホール
  電大ギャラリー
  ロッジア
  防災センター
  総合受付
- B1F 駐車場・駐輪場



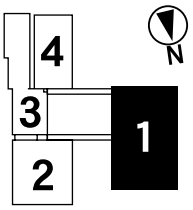
東京千住キャンパス　フロア配置図



【工学部】
EE科（EJコース/EHコース）
ES科
EM科（EKコース/EFコース）
EC科

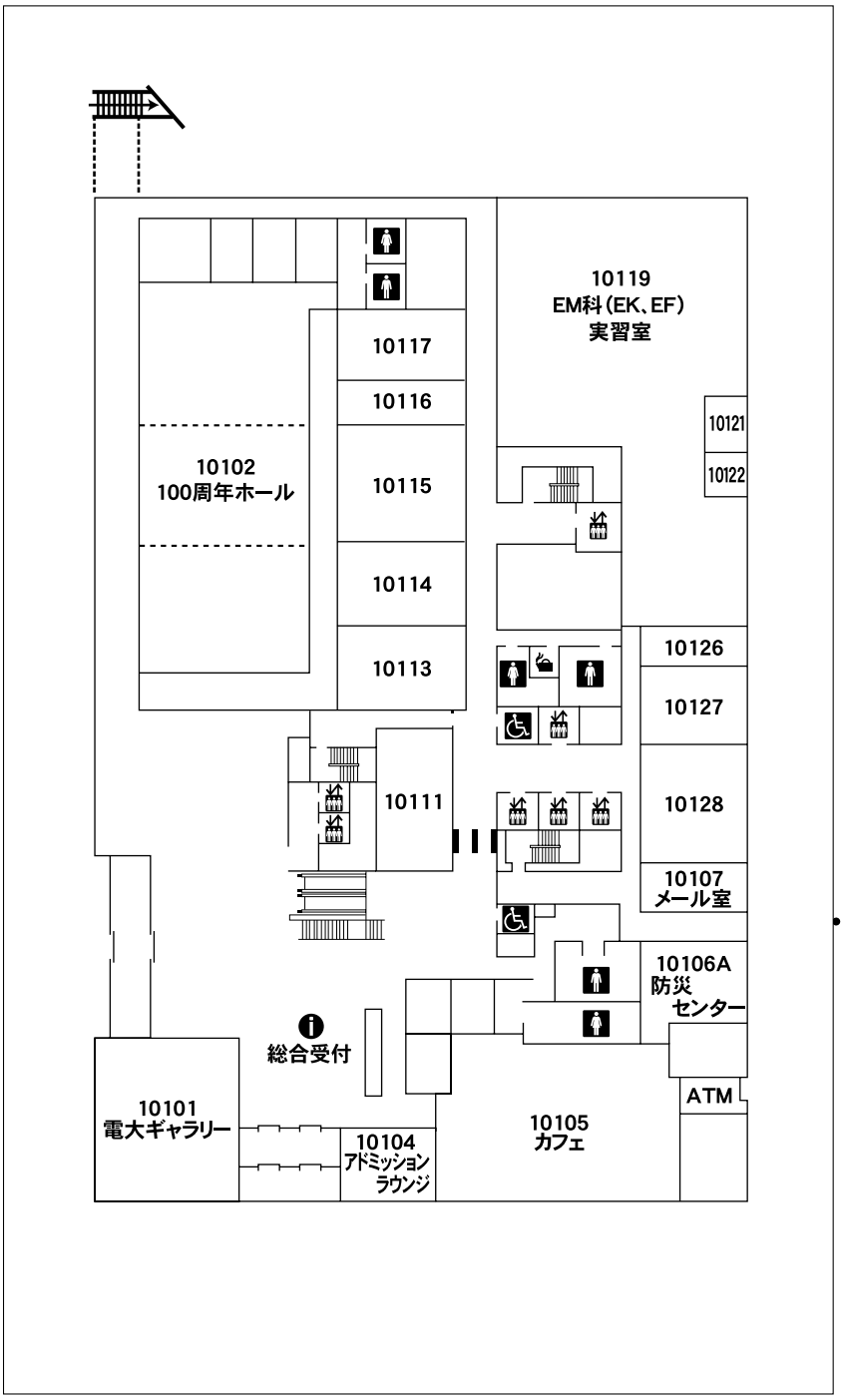
【未来科学部】
FA科
FI科
FR科

【系列】
g系列……人間科学系列
I系列……英語系列
f系列……数学系列
b系列……物理系列



1号館　フロア案内

1階



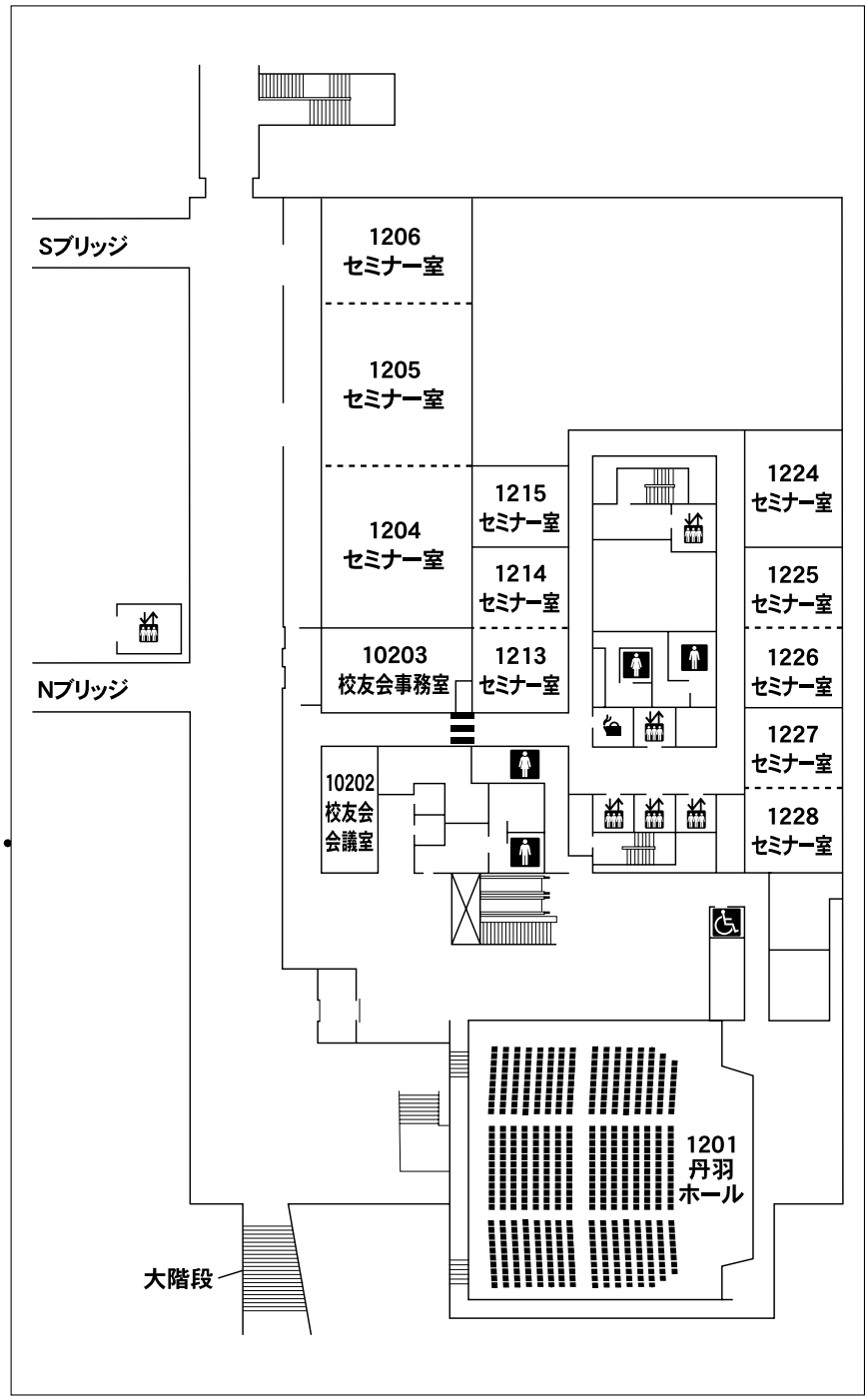
RF
14F
13F
12F
11F
10F
9F
8F
7F
6F　ルーフガーデン1
5F　経理部（会計）
4F　国際センター 入試センター
3F　カシオホール・共用会議室　他
2F　デッキ　校友会　セミナー室
1F　交流施設 100周年ホール・カフェ
B1

1号館

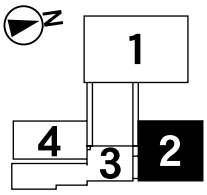
法人	教員室・研究室（EC,FI,FR+未来共通）	
教員室・研究室（EE（EJ, EH））		
教員室・研究室（EC）		
教員室・研究室（FI）		
教員室・研究室（FR）		
教員室・研究室（EM（EK））		
教員室・研究室（EM（EK, EF））		
教員室・研究室（FA）		
ラウンジ	教員室・研究室・実習室（FA+未来共通）	
実験室・実習室（EC,FI）		
	ゼミ室	実験室・実習室（FI,FR）
実験室・実習室（EM(EK,EF),FR）		丹羽ホール
	メディアセンター	セミナー室
実験室・実習室（EM（EK, EF）, EC）		ロッジア
駐車場他		駐輪場

国際センター千住ラウンジ

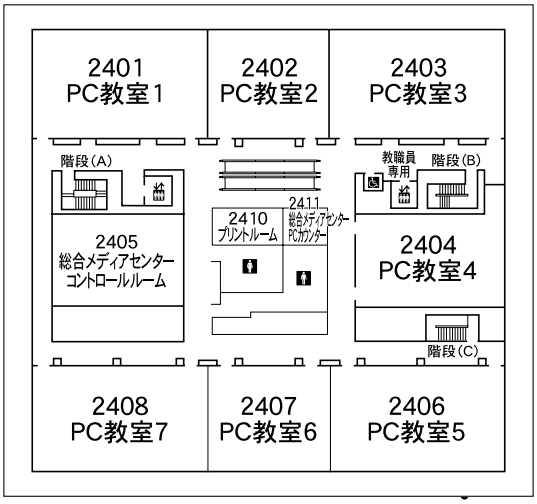
2階



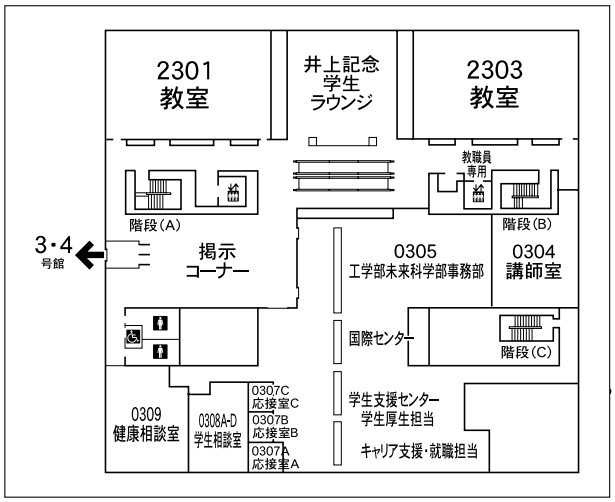
2号館　フロア案内



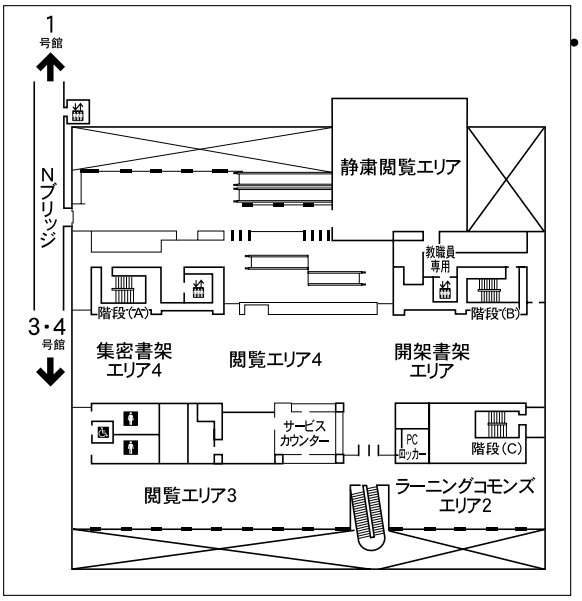
4階



3階



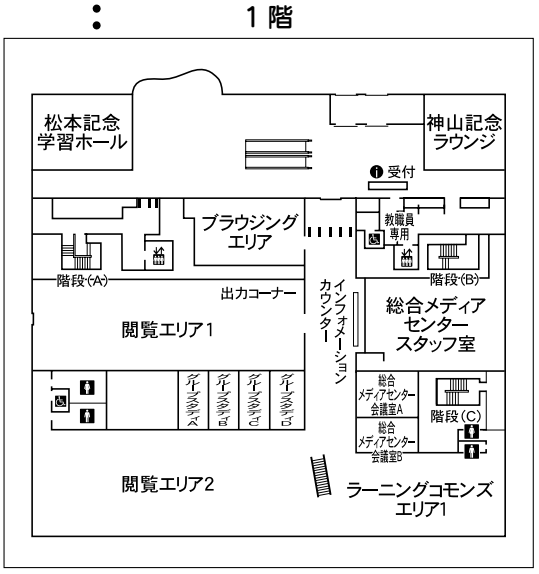
2階

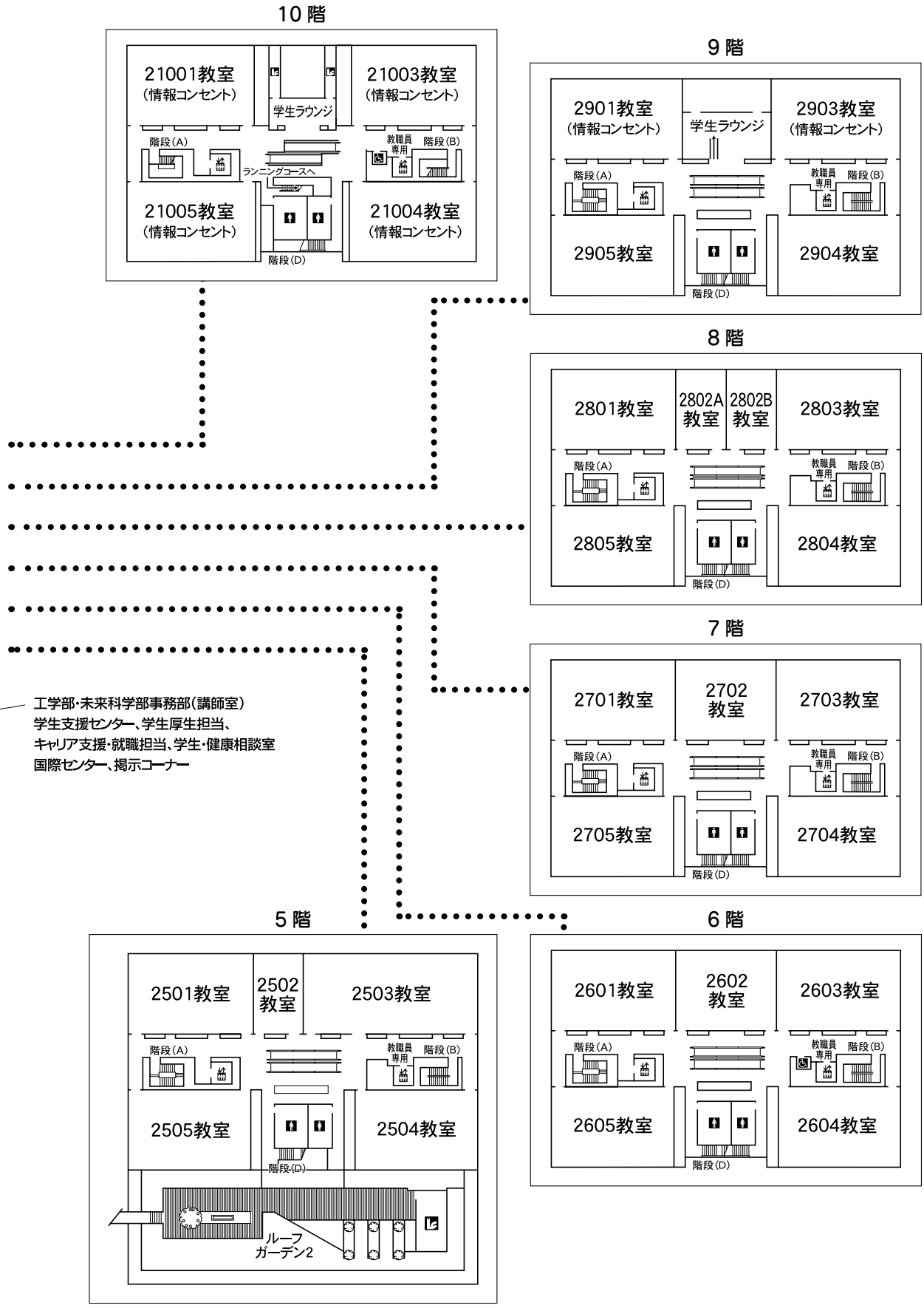


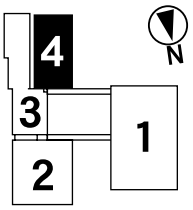
2号館



1階

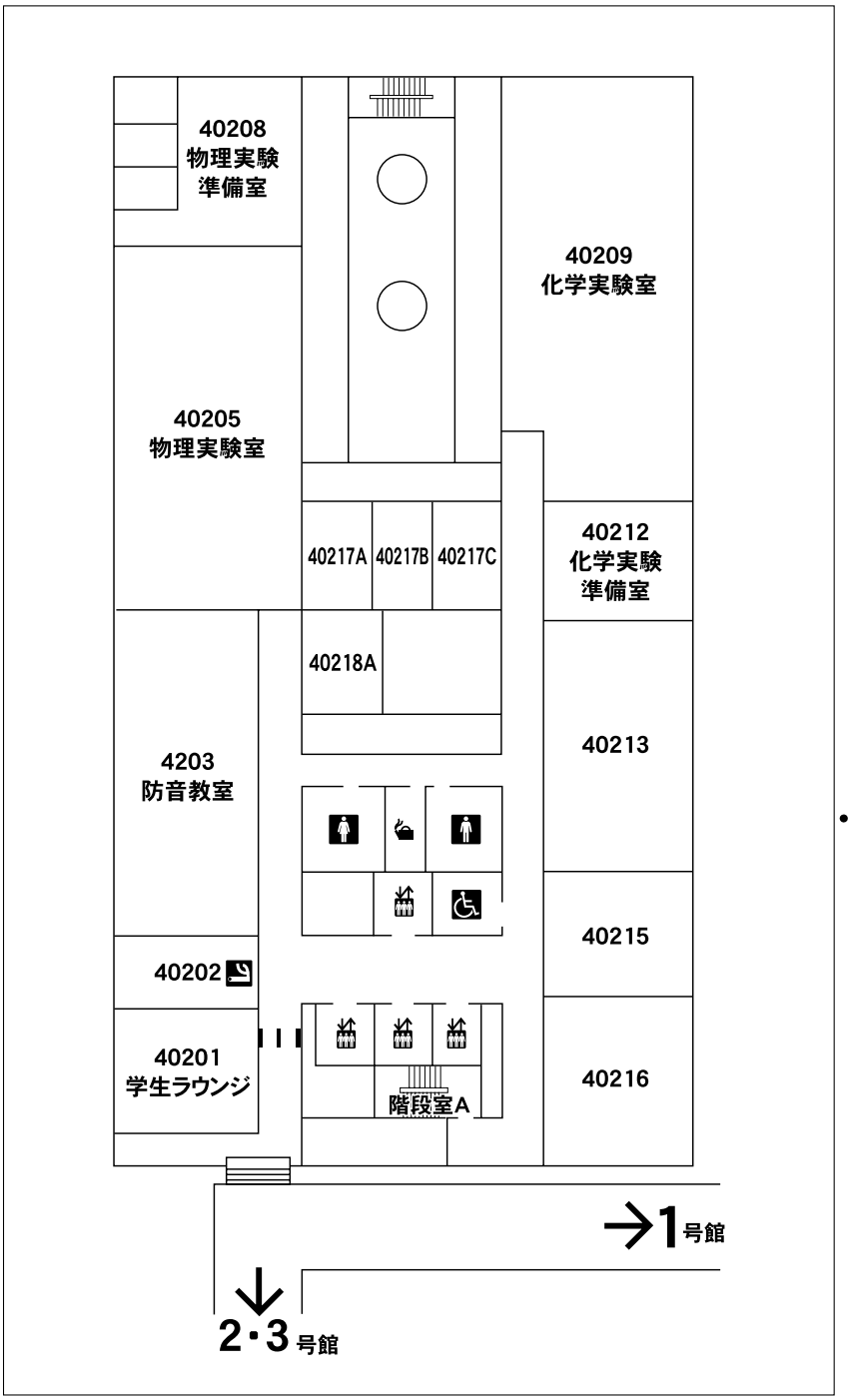



10階
21001教室
(情報コンセント)
学生ラウンジ
21003教室
(情報コンセント)
階段(A)
教職員専用
階段(B)
ランニングコースへ
21005教室
(情報コンセント)
21004教室
(情報コンセント)
階段(D)
9階
2901教室
(情報コンセント)
学生ラウンジ
2903教室
(情報コンセント)
階段(A)
教職員専用
階段(B)
2905教室
2904教室
階段(D)
8階
2801教室
2802A教室
2802B教室
2803教室
階段(A)
教職員専用
階段(B)
2805教室
2804教室
階段(D)
7階
2701教室
2702教室
2703教室
階段(A)
教職員専用
階段(B)
2705教室
2704教室
階段(D)
工学部・未来科学部事務部(講師室)
学生支援センター、学生厚生担当、
キャリア支援・就職担当、学生・健康相談室
国際センター、掲示コーナー
5階
2501教室
2502教室
2503教室
階段(A)
教職員専用
階段(B)
2505教室
2504教室
階段(D)
ルーフガーデン2
6階
2601教室
2602教室
2603教室
階段(A)
教職員専用
階段(B)
2605教室
2604教室
階段(D)



4号館　フロア案内

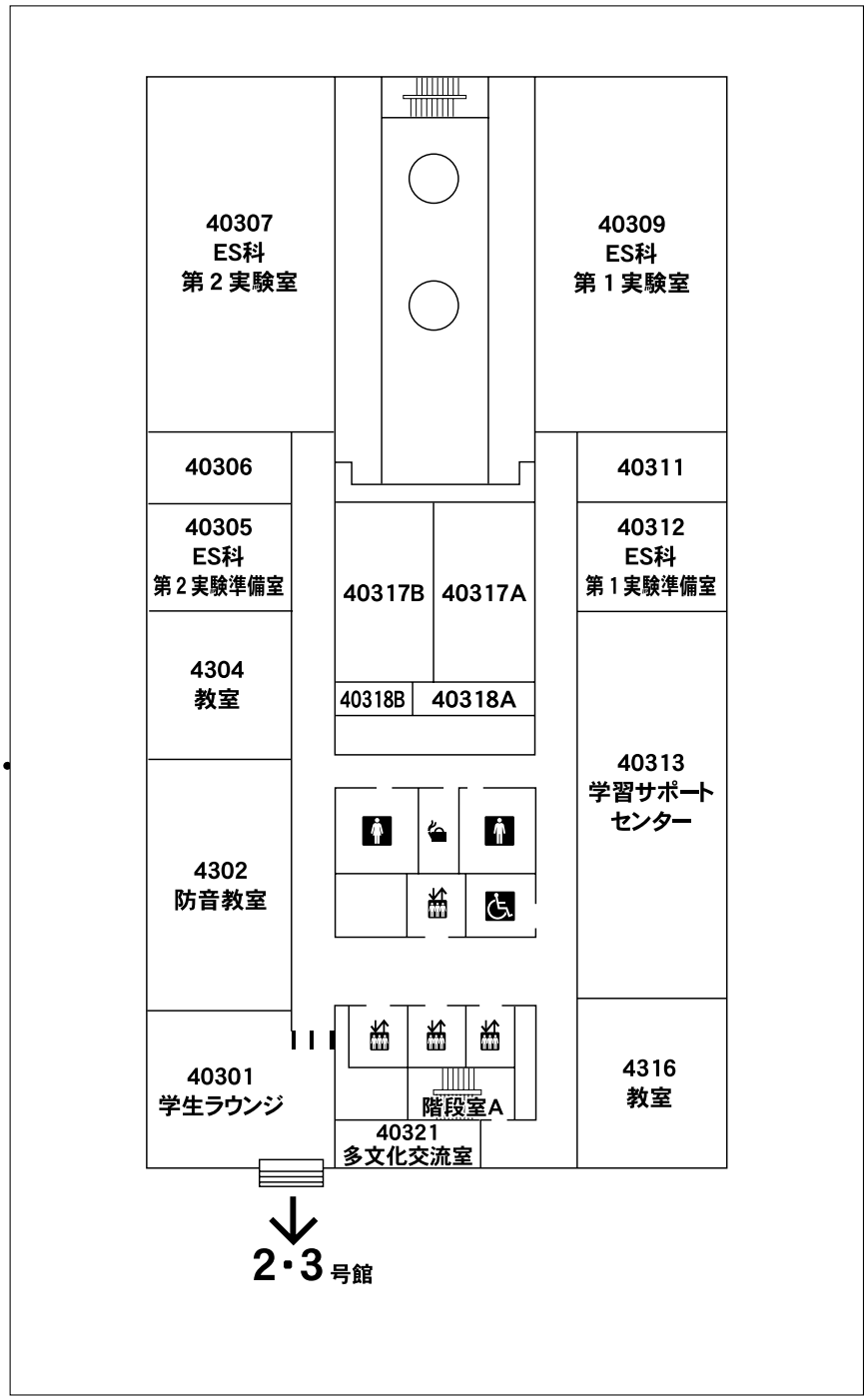
2階



4号館

	特殊設備　ゾーン（二点鎖線枠内）	RF
	共通教育（I,b）　排気処理等設備設置スペース	10F
	共通教育（g,f）　共通教育（g,f,b）	9F
	研究室・教員室（EE（EJ, EH））	8F
	研究室・教員室（EE(EJ,EH),EC,EM）（EE(EJ,EH),EC,EM+b系列）	7F
	研究室・教員室（ES,共化）　（ES・b,共化）	6F
	実験室・実習室（EE（EJ, EH））	5F
電気室	実験室・実習室（EE（EJ, EH））	4F
ラウンジ	教室,学習サポートセンター　実験室・実習室（ES+共化）	3F
ラウンジ	教室　実験室・実習室（ES,b,共化）	2F
防音室	学生団体　実験室・実習室（EM(EK,EF)）（(EE(EJ,EH))+EM(HL,FA,EK,EF)）	1F

3階


40307
ES科
第2実験室
40309
ES科
第1実験室
40306
40311
40305
ES科
第2実験準備室
40317B
40317A
40312
ES科
第1実験準備室
4304
教室
40318B
40318A
40313
学習サポート
センター
4302
防音教室
40301
学生ラウンジ
階段室A
40321
多文化交流室
4316
教室
2・3号館

本冊子は新入生のみに配布されます。
卒業するまで大切に取り扱ってください。

TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY